

小都市地域福祉計画  
分野別課題調査  
結果報告書

平成 26 年 3 月

小都市



# 目 次

<b>I 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の目的.....	2
2. 調査概要.....	2
<b>II 調査結果の概要</b> .....	3
1. 高齢者福祉・介護分野.....	4
2. 児童福祉・子育て支援分野.....	27
3. 障害福祉分野.....	41
4. ボランティア分野.....	60
<b>III 調査結果</b> .....	67
1. 高齢者福祉・介護分野関係.....	68
2. 児童福祉・子育て支援分野関係.....	101
3. 障害福祉分野関係.....	149
4. 民生委員・児童委員.....	189
5. ボランティア団体.....	224
6. 高齢者福祉・介護分野：本人.....	242
7. 高齢者福祉・介護分野：家族介護者.....	244
8. 児童福祉・子育て支援分野：家族.....	247
9. 障害福祉分野：本人.....	251
10. 障害福祉分野：家族介護者.....	255



# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

---

本調査は、「小郡市地域福祉計画」の策定にあたり、高齢者福祉・介護や児童福祉・子育て支援、障害福祉、地域福祉活動などの分野毎に、本人や家族、地域社会が抱える生活課題や福祉問題についての実態を把握するとともに、それぞれの分野の第一線で活躍する人々、ならびに当事者や当事者家族の皆様のご意見やご提言を広くお聞きし、同計画に反映していくことを目的に実施しました。

## 2. 調査概要

---

- 調査対象 : 介護保険事業所、地域包括支援センター、在宅介護支援センター、子育て支援センター、つどいの広場、障害福祉サービス事業所の専門職、障害者相談員、保育所・幼稚園・小中学校の保育士もしくは教諭、民生委員・児童委員、主任児童委員、ボランティア団体の代表者等、高齢者要介護者ならびにその家族、子育て家族、障害のある本人ならびにその家族、社会福祉協議会の職員、および市役所関係課係
- 調査期間 : 平成 25 年 10 月～12 月
- 調査方法 : 自由記述の調査票の配布・回収

## II 調査結果の概要

# 1. 高齢者福祉・介護分野

---

---

## 【高齢者やその家族の様子をみていて感じる課題】(斜文字:民生委員・児童委員。以下同様)

### ◆地域とのかかわりが少なく、孤立している人も・・・

- ・ とにかく、地域や同居家族や周りの人たちに遠慮して生きておられることを感じる。年をとっても人としての尊厳を一番大切にしてほしい。そのためには年配の人たちと若い人やつぎの年配者と、異年齢間の交流が大切と思う。
- ・ 高齢者で自分は身体が悪いと思い、地域への取り組み等に関係しないので、それが問題と思う。
- ・ 住宅街は子ども家族のところに他方から移住してきている人たちが多く、隣近所に同年代の人が住んでいるのか、分からない様子。さびしい人たちも多いようである。地域交流を積極的に行う（小区ごと）。
- ・ 核家族化が進んだことにより、世代間の交流がなくなってきている。そのことにより、地域での孤立化がみられ、地域社会からはずれてきている。
- ・ 同居家族がいる場合でも長時間日中独居状態で、近隣住民とのかかわりもほとんどなく、孤独に過ごしている高齢者が多い。
- ・ 人と接する機会が減り、孤立している人が多いので、施設（デイサービス）などを利用したり、地域の行事に参加してもらうことで、人と接する機会をつくることで解決できないかと思う。
- ・ さまざまなこと（趣味等）をしている人もいれば、他者との交流も少なく、地域で孤立している人もいる。高齢になってからは地域のなかに入れないと思うので、40代や50代から地域行事に参加していけばいいのだが。
- ・ 家庭のなかだけでなく、社会においても高齢者は孤立しがち、閉じこもりがちである。高齢者が気軽に話ができるような近所との関係づくりや高齢者の居場所づくりが必要と思われる。団塊の世代や元気な高齢者については、地域で活躍の場が少なく。これまで培われた知識や経験があまり活かされていない。高齢者が活躍できる場、趣味活動や社会活動で貢献できる場をつくっていく必要があると思われる。
- ・ 地域とのかかわりを持たずに、自宅で昼間過ごしている人たちがいる。もっと地域でいきいきと高齢者が活動できるサークル（老人クラブ以外で）や読み聞かせ、手芸、音楽、ボランティア等。昔のお茶のみ仲間が自由に集える場所の提供。各地域に散歩コースや休憩場所等の整備を行い、いつでも地域に出て、気軽に仲間づくりや体力づくりができるように、孤独な状況をつくらないように。
- ・ 転居をきっかけに小郡に移り住んできた人は、閉じこもりがちになりやすい傾向が強いように感じる。地域が協力し、転居等で移り住んだ人にも声かけ等を行い、現状の把握を行い、経過を見ていく必要があると思われる。
- ・ 一部ではあるが、家族のなかで高齢者が孤立しているようにみえる。家族で何か行動する

場合でも、ひとり残されているという高齢者のことをよく聞く。また、高齢を理由に家庭内のことを何もさせない家庭も多いのではないだろうか。高齢者自身にも理由はあると思うが、孤立させないためにも、家庭内で何か役割を持たせるなどの方策が必要ではないだろうか。小さなことでも自分が行うべき役割があることで、家庭内での孤立もなくなり、高齢者自身の生きがいにもつながるのではと思う。

- ・ 農村地域では、子どもが都会に住居を設け、故郷に住むことがなくなり、高齢者ばかりで、老老介護となっている。住み慣れた自宅を離れて、子どもの住む初めての都会へ行っている人もいる。そのなかには、生活に慣れることができず、週に何回か帰ってくる人もいる（知らない土地で知らない近所の人とのコミュニティができず、ストレスとなっている）。
- ・ 高齢者世帯（ひとり暮らし）はさびしい。何かしようとしてもなかなか出席できない。参加させることが難しい。
- ・ 子どもたちと同居することはよいことと思うが、子どものところへの引っ越しは、なかなか難しいと思われる。また、子どもも遠くに居住の場合、なかなか来られず、本人が近所とのつきあいがうまくできないと大変な様子だ。
- ・ 日中がひとりになることが多い。できるだけ外出するように、地域の行事に参加できるように、働きかけ（家族のみならず、組長、区の役員、その他の人たちも）をした方がよいのでは。
- ・ ひとり暮らしの人で、いろいろな行事や催しに出て来られなくて、家にいることが多い人のことがちょっと心配だ。引きこもりではないが、他とのかかわりをあまりこの好まれないので、声かけを度々していくしかないかなと思っている。

◆同居家族がいても、家庭のなかではひとりぼっち・・・

- ・ 家のなかでも高齢者と若家族の交わりがないのでは（高齢者も若者に頼らないでいるようだ（頑固者）また、若者も高齢者を労う気持ちがない（思いやりの気持ち）。洗濯物も別、食事も別々にして生活している家族が多い）。
- ・ 家族と同居である高齢者も、日中は独居と同じ立場の人が多く（家族は学校や仕事で不在のため）。自立している人で自由に動き回れる人はよいが、全般的に人との交流が少なくなり、外に出る機会が少なくなっている。デイサービスなどの利用の促しや、地域での交流会に誘い出すことも必要。
- ・ 介護が必要な場合、血族同士ではなかなか介護力として期待できないケースも多い。自分の親に対して客観的な判断ができない、したくないことも支援が困難になる一因となっている。
- ・ 同居していても、かかわりが少ない印象がある。日中仕事で、夜は介護と、家族の疲労、負担は大きい。逆に同居していても、介護には関わらないと決めている家族もいる。介護保険について知らない人が多い。認知症の介護。介護に一生懸命になり、頑張りすぎてバーンアウト。
- ・ 家族が就労している場合、日中はひとりで過ごし、かかわってくれる人がいない。家族が忙しいと、ゆっくりとした会話交流もない。認知症などが進行すると家族のストレスが増大する。

- ・ 仕事をしている人が多く、介護保険サービスの送迎時間では高齢者のみで過ごす時間が長いので、もう少し長く利用できるサービス（預かり所）がもっと増えるとよいと思う。
- ・ 振興住宅地で高齢者以外の家族が仕事を持ち、高齢者の問題に気づいていても後回しになっていることが多いように感じる。民生委員や地域包括支援センター等が同居家族へアプローチするような体制を構築する必要があるのではないかと思われる。
- ・ 物忘れが多くなり、判断能力が低下することによって、日常生活に支障が出たりする。また、物忘れが多くなったりすることなどで、不安になり、悩んだりすることが問題だと思う。家族が早く気づくことが一番であるが、同居していない場合、気づくのが遅れてしまうことが問題だと思う。
- ・ 高齢者と若い家族は意見の食い違い。どうしても高齢者をそっちのけ。若者ばかりの意見が強くなる。高齢者の意見を聞く耳があってもよい。高齢者の意見も大切。増改築等に対して税金を無料とする。
- ・ 高齢者と家族が同居している家族では、共働きで、孫は学校に行っている昼間はひとり暮らし、高齢者夫婦のみで暮らしている人と同じ状態であるところが多い。できるだけ地域の行事や老人クラブなどに参加してもらいたいと思う。
- ・ 同居の高齢者が多いが、家族の人たちは朝から夕方ないし夜まで不在という状況で、ほとんどの時間がひとりという人が多い。地域内のサークル等に積極的に参加を呼びかけているが、自宅に引きこもりがちの人が多く。週末等は、家族と過ごしているのでさびしくないとは思いますが。また、デイサービス等、行政サービスを受けている人も多く、地域への参加はない。親しく話せる人を増やすための行事を、さらに考えるしかないのでは。
- ・ (問題や課題) 高齢者と若い世代のライフスタイルが異なるため、どうしても高齢者のライフスタイルが乱される場合が多く、ストレスがたまりやすい。(解決策) 高齢者だけの趣味グループやイベントを地域が主導となって実施し、できるだけ家の外での活動を多くする。

◆家族介護者の負担が大きく、疲れ切ってしまうことも・・・

- ・ 家族のなかでも介護者が限られて負担が大きい場合があるが、介護保険での利用に制限があり、家族の負担が増加している。
- ・ 仕事をしながら認知症高齢者を介護する家族の介護負担や精神的ストレスが大きい。介護サービスで補えない点も多い。
- ・ 介護が必要な高齢者が家庭にいる場合、家族のひとりに介護負担が偏ってしまい、介護する側の自由が制限されたり、介護の悩みを介護者がひとりで抱え込み、高齢者だけでなく介護者も社会から孤立しがちであるように感じる。介護者が近所の人に気軽に話ができるような、また、近所の人が高齢者に対しても「最近、姿を見ないけど・・・」や「介護が大変でしょう」などといった声かけができるような関係づくりを行っていく必要がある。相談窓口体制の整備も必要である。家族と高齢者の思いや考えが異なるため、たとえば、介護サービスの利用に関してもなかなか話が進まない場合がある。家族、高齢者それぞれが気軽に愚痴を言える場、相談できる場が必要であると思われる。
- ・ 家族介護による心身の負担、労働力の損失、将来への不安等が感じられる。家族介護者支

援、在宅介護を支える介護サービスの充実が今後も必要だと考える。

- 仕事をしている家族が多く、日中高齢者のみの家庭が多い。家族は食事の準備や身のまわりの世話、休日もゆっくりする時間がなくストレスを感じている。
- 高齢者の人が体調を悪くせず元気に過ごしてほしいと思うことから（認知症などの疾病にかからないように）気分転換を含み、家族の自由時間を割いて高齢者と一緒に行動する（ドライブ、買い物など）ことが多い。ゆえに高齢者のいない家族に比べると、大変負担が多いことから、ストレスになっているように感じる。高齢者は人に頼らず、自分自身の生活を楽しみ、家族はあまり手をださないようにすることが大切と思う。
- 健康（心と体）のバランスが取れなくなった時、本人や家族は毎日のことなので大変。できるだけ多くの人の協力が必要だと思う。

◆同居家族がいると、見守り活動など対象から外れてしまっていて心配・・・

- 子どもが働いていて、昼間高齢者がひとりになるところが増加しているが、ふれあいネットワークの対象外でもあり、安全面や精神面でも不安定である。
- 家族と同居している高齢者は、見守り対象外になっているが、家族が仕事に出かけた後はひとりになるので、公民館活動等に参加したいとのこと。サロン等は予算内で活動している関係で、なかなかうまくいかない。
- 独居の人や夫婦2人で住んでいる人は、声かけしやすいのだが、息子や娘と一緒に暮らしている人（昼間は独居に等しい）への声かけがしにくい。ふれあいネットワークでも線引きがされており、対応が難しい。
- 家族の事情により、昼間、高齢者がひとりになる家庭があり、その対応が難しい（なかなかそのような家族は把握が難しく、訪問等の活動がしにくい）。まずは把握および家族構成の名簿が必要。

◆交通手段が不便で、買い物をするのも不便・・・

- 家族のいない高齢者宅は買い物や病院に行きたくても交通手段がないため、自由に行くことができない。
- ひとり暮らしや夫婦2人暮らしが増えているように感じる。小規模なスーパー等が次々に閉店してしまうため、近隣にお店がなくなり、買い物に行くにも苦勞している。
- 自分の自由意思で、買い物、病院、用事・・・と足が元気なうちは動きたいだろうが、交通手段がないので、人に頼んだり、タクシーとなる。市バスもあるが、網羅していないので、各地区に自治会バスができると理想。自分で買い物ができるというのは、本当に心が豊かになると思う。自尊感情も保つことができると思う（ある人が「自治会バスのおかげで、不自由になった体だったが、寝たきりにならなくて済んだ。心から感謝している」と言われた）。
- 小郡市は交通の便が悪い。町内バスについては、走ればよいとの思いだけで、本当に困っている人のことを考えているか疑問である。

◆介護や福祉のサービスやその利用方法について知らない人も多い・・・

- 行政としてさまざまな制度やサービスの構築はされていると思うが、それを活用する方法

を知らない人も多い。情報が伝わり、理解するための支援を行うための活動が必要なのではないか。

- ・ 今から介護が必要な人や今必要な人は、介護保険を利用するためには、どうすればよいのか理解していない人が多い。
- ・ どのようなサービスがあり、どのように利用できるのか分からないこと。何が問題になっているのか、体調の変化を自分で把握できていないこと。
- ・ 高齢者の状態にもよるが、介護の方法や知識、利用できる介護保険のサービスや高齢者福祉サービスなどについて、家族は十分に理解されていないことが多く、高齢者が必要なサービス、制度を利用することができていない状況が見受けられる。ケアマネジャーや在介の職員、またはサービス事業者が、必要な情報を家族や高齢者に伝えて、サービス利用等につなげていくことが必要だと思われる。

◆何かあった時、どこに相談したらいいのか分からない人も多い・・・

- ・ どこに相談したらいいのか知らない人が多い。地域の民生委員に知られたくない、相談したくないと思われた場合、そこで途切れてしまう可能性がある。気軽に相談できるところを紹介。
- ・ 何か困ったことや悩みが発生した時にどうしたらいいのか分からず、状況が悪化してから発見されることがある。もっと相談窓口等があることを周知されるようにしてほしい。
- ・ 就労と高齢者をみるということの両立が難しいようで、気軽に相談できる場所や機関があればと思う。
- ・ 第三者からみれば、問題があると判断できても、家族はこれぐらい大丈夫だろうと事実を客観的に考えていない場合がある。
- ・ 家族が、どのようなサービスがあり、どのように利用できるのか分からないこと。何が問題になっているのか、体調の変化を家族が把握できていないこと。利用者本人がサービスの導入を拒否する。介護する人が認知症に対する理解がない。または介護疲れや仕事があったりして、高齢者に合わせた対応ができない。家族が行っている介護が本当にあっているのか、現状のままでいいのか、不安に感じている。
- ・ 家のなかで問題が起きた時に、家のなかで解決ができない。たとえば、転倒した時、動けなくなった時の緊急時や、認知症がひどくなっているのに、家族が問題に感じていない、感じててもどうしたらいいのか分からない。
- ・ 介護した人でないと、その大変さは分からないと聞く。気軽に相談する窓口が必要かと思う。

◆加齢のことや認知症のことなどを知る機会、学ぶ機会が必要・・・

- ・ 「老い」「介護」に対しての認識の低さがあると思う。「できていたことができなくなった」「物忘れがはじまってきた」など、初期からの対応や介護方法を学ぶことも必要かと思える。市民講座や今からはじめる介護教室等の定期開催。
- ・ 認知症に関しての知識が薄いため、それに伴う症状に対して介護者が受容、共感できずストレスをためていたり、感情的になったりして、状況が悪化することもある。認知症とは

どういふものなのか、若いうちからでも強制的に学べる環境ができたらと思う。

- ・ 家族の高齢者に対しての理解(身体面、病気など)が少なく、支援方法も分かっていない。介護者の勉強の場を増やす。
- ・ 親の認知症の判断ができておらず、年相応と勘違いしているケースが多い(家族のかかわりがうすく、本人任せになっている)。認知症の症状等を伝える場を多くもつ。
- ・ 介護保険制度や福祉サービスについて、よく理解できていない人もいる。今は元気でも5年後、10年後を考えて学習してほしい。説明会や講座をやっても、参加する人が少ない。
- ・ 認知症になった時の対策を、その時になって考え始めることになるので、家族に起こりうることとして、事前に知識を得る必要がある。

### 【ひとり暮らしの高齢者の様子を見て感じる課題】

◆頼れる人がそばになくて心配で不安を感じている・・・

- ・ 生活面はもちろん、病気などの身体面。身近に相談する相手がおらず、不安な気持ちをもっている。
- ・ 家のなかで倒れた時、誰も来てくれない不安や恐怖感。バランスのとれた食事ができていない。
- ・ 急に体調が悪くなった時、どうしようと不安に思われている。
- ・ 誰に頼っていいのかが分からない。その情報を得ることも難しい。
- ・ さびしさもみられ、いつまでこの生活を続けるのか不安が大きい。
- ・ 家族が遠くにいと、日常的な相談ができにくい。
- ・ 今の生活がこれからもできるのか、先の不安。疾患を持っている人など、突然何かあった時に誰も気づいてくれないのではないかという孤独感。家にひとりだけでいて、話す相手もおらず、悪いことばかりを考え、閉じこもりがちになってしまう(下肢筋力の低下にもよる)。
- ・ ひとり暮らしの人で、家族等が遠方の方は、転倒や病気等で急に生活ができなくなった際、どうしたらいいか悩んでいる人も多い。また、入院の際の手続きや荷物の準備等も困っていることが多い。
- ・ ひとりであることの不安感が強い。誰もいない時に転んだり、体調不良になった時、心配している。
- ・ 何よりもさびしさがつらいと思う。食事、買い物、掃除等は、誰かの手助けがないと大変だと思う。
- ・ 体調が悪くなった時、何か問題が起きた時の対応。買い物、食事の準備(栄養バランス)、掃除など、家事全般またはその一部。相談する人がいない、相談する場所が分からない、頼む人がいない。近所の人だけでなく、家族(子)に対しても遠慮して、頼みごとができない。話し相手がない。
- ・ 自分の判断に自信がもてず、不安が大きい。子どもや親類に負担をかけないように相談もしない。
- ・ 話し相手がほしい。訪問すると20~30分は話をする。足腰が弱っている人は、自分自身では外出しない。ふれあいネットワーク食事会やバスハイクにも参加しない。「周りに迷

惑をかける」と遠慮している。老人クラブには入りたいが、活動のなかで、たとえば草取り作業など、奉仕活動が（足腰が悪くて）できないから、入れない。楽しいことだけ参加するのが申し訳ないと話している。

- ・ 新興住宅地のため、なかなか近所との交流がないことに不安を持たれているように思う。
- ・ 一部の人に家に閉じこもって、近所や地域の人たちとの交流がない人がある。
- ・ 地域のいろいろな活動に積極的に参加される人たちについては、仲間の人たちの声かけがあるが、働きかけをしても、家から出て来られない人もいる。近くに家族がいる人については、問題は少ないと思うが、訪問して声かけするくらいしかできない。
- ・ 他人に迷惑をかけないように心がけている様子。「助けて！！」と言ってくださいと常に声かけをしているが。
- ・ 独居の人は、常に不安感と緊張感があると思われる（身体的、精神的）。身近に親しい人がいればいいのだが、日常生活において暮らしを守るのは本人だ。暮らしのなかで困ったり、悩んだことがあった時に、気軽に相談できる人がいればと思う。

◆災害が発生した時、ひとりでは対応できそうになく心配・・・

- ・ 台風や大雨の情報が入っても、それに対する備えが急にはできないこと。ヘルパーの業務でもできないため、お金、人を使わないと古くなった家に対する備えが難しい。ひとりでは避難場所にも行けない。
- ・ 災害が発生した場合や台風が近づいている場合などにどうすればいいのか不安に感じている。
- ・ 台風や大雨などの時、家族や知人が近くにおらず、不安な気持ちになる。
- ・ 台風や地震時の避難がひとりでは不安。

◆家のなかのちょっとしたことでも十分にできなくて・・・

- ・ 日常的には細かなことでも自分でできないことが多い。たとえば、電球や電池が切れた時、交換できない。季節に応じてエアコンや暖房器具等の取り扱いが難しい（視力低下で文字が見えず、リモコンでの温度調整等ができないなど）。
- ・ 本当に困った時に、すぐに相談できる人が近くにいない。また、逆にちょっとした修理や、行政・銀行等への届出書類が分からないのでそのままにしてしまう。
- ・ 身体レベルの低下や物忘れから、自分でできないことが増えている。食料品、日用品の買い物に行くことができない、調理や掃除などの家事ができなくなってきた・・・など。
- ・ 家のちょっとしたこと（高いところの作業。重い物の移動、庭のお手入れ等）がしたくてもできなくて困っている。ちょっとした話を聞いてくれる人がいなくて困っている。
- ・ 多くのひとり暮らしの高齢者は、急に具合が悪くなった時にどうすればよいか心配している。その他、体力の低下から高所の植木の剪定や草取り、重い物を運ぶこと、遠方への買い物、食事の準備など。また、クーラーなどの家電製品の取り扱いが分からなくて適切に使えていないというケースも、ひとり暮らしの高齢者の世帯も多いようだ。

◆外出手段がなくて、買い物などが十分にできない・・・

- ・ 買い物や病院等への外出手段に不便を感じているようだ（家族が車をもっていても、親（高

齢者) を乗せない)。

- ・ ひとりで外出できない。買い物に行けても荷物が持てない。家事、特に食事の準備が大変であるが、配食サービスは高額になる。
- ・ 買い物に出かけたいが、移動手段、交通手段がないこと。困った時にどこに相談したらよいか分からない。
- ・ 歩行困難や思考力低下になり、買い物、調理が難しい人が多い。まわりに店などがなく、ヘルパーに頼んでも思うものが手に入らず、言いたくても言えない人がいる(自分で見て、買い物したい人が多い)。配食サービスもあるが、同じようなメニューだったり、冷たかったりしているようだ。地域で月に一回くらい公民館などで、心のこもった食事会などは楽しみのようだ。
- ・ 外出手段が不足しているため、買い物が思うようにできない。
- ・ 買い物など行きたくても重いものが持てない。交通手段がないなどで買い物に行けず困っている。
- ・ 緊急時の対処(誰に連絡するか、連絡が取れない時にどうするのか)。通院、買い物時、交通手段がない(バス停が遠い、タクシーは料金が高い)、転倒、体調の不安があり、外出がままならない。話し相手がおらず、さびしく生活している。地域の行事があっても送迎までしてもらわないとなかなか参加できない。体調管理、食事管理、服薬管理など。
- ・ 話し相手がいない。洗剤など重たい日用品や食材を購入するための交通手段がない。石油ストーブの灯油入れや購入。体調を崩したり、転倒したりした時の病院受診を判断ができない人がいる。このような意見を聞く。
- ・ 独居でも子ども、親戚等との連携があるところはよし。子ども等から同居の話題はあっても行きたくない。体調が悪い時や台風等の時が心配。車免許を返上し、買い物や外出作業ができない。見守り訪問、話し相手がほしい。
- ・ 元気で自家用車の運転ができる人は、自分で買い物や病院に行くが、車の運転ができない人は困っている。コミュニティバスも1日2回しか来ない。近くに買い物できる店がない。JAみいの食材配達を利用している。調理は自分でしている。
- ・ 買い物、遊び、話し相手(さびしい)。交通手段がないことが多いので、市のバス等を利用してほしいのだが、なかなか外に出る勇気がないのでは?他人様に迷惑をかけないようにと、いつも思っているのでは?
- ・ 買い物時、足腰が悪い人が多いので、福祉タクシーみたいな安価で利用できるものがあると思う。

### 【夫婦のみで暮らす高齢者の様子を見て感じる課題】

#### ◆地域の交流が乏しい夫婦、新興住宅地では特に・・・

- ・ 新しい住宅地では、孤立している家族もいるように思う。
- ・ 身近に話ができる人がおらず、夫婦間の悩みごとなどを話す人がいない。
- ・ 新興住宅地のため、なかなか近所との交流がないことに不安を持たれているように思う。
- ・ 一部の人に家に閉じこもって、近所や地域の人たちとの交流がない人がいる。

- ・ 近所づきあいが意外と少ない、友だちが少なくなっていく、心細い。

◆将来、どちらが介護状態等になった時のことを考えると不安・・・

- ・ 元気な時は心配ないと思うが、どちらかが病気になったり、介護問題が起きた時、どうし  
らいいのか不安。どこに相談したらいいのか分からない。
- ・ 介護をしなければ、自分が支えなければという強迫観念を持たれている人も多い。
- ・ 夫婦ともに元気なうちはよいが、一方が介護を必要になった際の負担が大きいことも多く、  
介護する側が介護できない状態になった際の不安を多く聞く。
- ・ 介護疲れなどで介護する側が倒れた時にどうしたらいいだろうかと不安に感じている。
- ・ 夫婦のうち、どちらかが介護が必要な状態になった場合にどのように介護をして、どこに  
相談して、どのようなサービスや制度を利用すればよいかという点が心配であったり、近  
くに協力できる子どもや親類がない場合、介護者が介護できない状況が発生した場合が  
困るのではないかと思う。
- ・ 高齢であればあるほど、お互いの体の調子が悪くなったらどうしようかと考えていると思  
う。いざという時について、どうしたらよいかという思いを抱えて生活しているのでは  
ないだろうか。
- ・ 夫婦のどちらか一方が病気になったり、倒れたりした時、どうすればよいか対応が分か  
らない。
- ・ 病気がでたらどうする、介護をどうするで悩んでいる。子どもがどこにいるのか、世話を  
するか、で違うと思う。どちらかが亡くなり、ひとりでの生活をどうするか心配している  
人が多い。

◆どちらかの体調が悪くなった時、対応がよく分からず、混乱し戸惑っている・・・

- ・ 身体面に不安があり、生活していく上で不便なこともある。同居家族がいると生活援助も  
受けられない。どちらかが入院になると一時的に生活援助を利用し、在宅になると利用で  
きなくなる。そのために混乱される人もいる。
- ・ 夫婦のどちらかが病気や介護状態になったら、在宅生活が難しくなること。新しい情報や  
理解が難しくなっていて、選択する方法が限られてくる。
- ・ 実際にどちらかが介護を行っている高齢者夫婦のみの世帯では、サービス利用のない場合、  
四六時中介護にかかりきりで、自分自身の時間をつくれなくて困ると思われる。
- ・ どちらか一方に介護が必要な人がいる場合は、介護負担が大きくストレスを感じている。
- ・ どちらかひとりが病気になったり、体調不良の時のお世話が、自分ひとり以上に困るの  
では。
- ・ 介護をしている人も腰、膝、体調が悪く、介護を必要としている人の変化を受容する力も  
落ちることもあり。体力的精神的に疲れている人が多い。
- ・ 高齢者夫婦の場合は、どちらかが病気やけがをして、家でのお世話が大変であっても、周り  
の人には何も話さないで、ひとりで頑張り過ぎる人もいる。
- ・ 老老介護の家庭では、女性の負担が大きい。逆に男性の負担が大きい場合もある。どちら  
かが病気やけがで介護をせざるを得ない家庭が大変だ。デイサービスなどがもっと気軽に

受けられたら思う。

- ・ 妻が元気なところは介護しているが、逆に妻が病気持ちのところは、家事、掃除などができない。男性で介護している人は、大変苦勞している。

◆夫婦関係が良好ならばいいけれど・・・

- ・ ひとりになることを考え、ひとりになった時の生活を想像できずに困っているケースや、夫は自宅で生活したいと思っているが妻は入所することを望んでいる等の意向の相違が問題となり、大抵の場合、夫の意向に従い、お互いの負担が大きくなるケースも多いように感じる。
- ・ お互いに思い合っている夫婦は、コミュニケーションが取れていてよいのだが、別居状態の人たちは個別に対応が必要なようだ。高齢になると移動などが難しく、できないことが多くなり、あきらめ、うつ状態になっていることが多くある。
- ・ 奥さんやご主人の介護をする人の側が、負担があっても相手に言えなかったり、人に頼むことを遠慮して、ひとりで背負うため、困っている。施設に入ってほしいが、入れるところがない。本人が反対、子どもが反対などで入れないで困っている。
- ・ 近所の人だけでなく、家族（子）にも遠慮して、なかなか頼みごとができない。老老介護や認認介護が増加しており、思うような介護ができない、十分な介護ができない。一方が公的サービスを利用したいと思っても、一方が拒むといった夫婦間での意見の相違が生じ、思うようなサービスの利用につながらない場合がある。
- ・ 妻は、家事全般が自分の務めと考え、できない自分に対して、申し訳ない思いを抱いている。夫は、介護や家事ができない妻に対して理解できない。
- ・ 依存が強い夫のお世話をしている妻が頑張っている。
- ・ 介護を受ける側が、サービスの導入を拒否する。または逆の場合もある。

◆交通手段がない、なくなってしまうと困ってしまう・・・

- ・ 交通の不便を悩んでいる。足腰も悪いので歩行ができない夫婦。
- ・ 車の運転等ができたり、近くに家族がいる人は良いが、日常的な買い物や病院に行ったりする交通手段がない。
- ・ 車の運転をいつやめるか、問題。車をやめたら、買い物に不自由する、出かけるのに不自由する。
- ・ 片方は病気になったり、介護が必要になったりした時は、買い物、外出に困る。隣近所の人に頼めば気を遣うので、急な時に頼めるボランティア等があれば助かると思う。

**【高齢者やその家族を支援する行政サービスについての課題】**

◆同居家族がいる場合のサービス利用の緩和が必要かも・・・

- ・ 生活援助サービスの規制緩和。高齢者夫婦世帯だけではなく、若い世代の同居家族がいても、ほとんどが仕事をしている場合が多い。特に食事の面では家族で対応できない場合がある。配食サービスも利用するが、すぐにやめる人も多い（口に合わない等の理由）。
- ・ 生活援助サービスの緩和。特に食事の面で同居家族がいる場合、支援できないことが多く、

配食サービスを利用するが、喜んで食べられている利用者は少ない。シルバー人材サービスの定期利用は、金銭的に厳しい場合が多い。手作りの家庭料理を食べてもらいたい。

- ・ 配食弁当など家族がいると提供していただけない。家族がいても日中独居で支援が必要なのところもある。利用対象者の枠を広げることも大切だと思う。
- ・ 家族の同居ということで利用できないサービスもある。働き盛りの介護者が仕事と介護が両立できるよう、見守り、介助が必要だが、介護度が低く、必要なサービスが受けられず困っている人もいる。自立や要支援状態の人の臨機応変のサービスを検討してはどうかと思う。

◆社会参加のためにも、外出支援は大切・・・

- ・ バス停までも移動することが困難な高齢者も多く、市のバスを利用できない現状がある。玄関までの送り迎えが必要であり、個別送迎サービスが自立支援のひとつになるのでは？
- ・ 昼間家族が仕事等で高齢者のみになる場合の受診の送迎サービス(自費での提供を含め)。さらに、昼間だけ憩いの場所(あすてらす等)まで利用できる格安送迎車など。巡回バスは自宅前まで来てもらえないので、バス停まで行くのが大変で不便だという声を聞く。
- ・ 多くの高齢者は、常にどこかに出向きたい、何かをしたいと思っていると感じる。
- ・ ベレッサ号のおかげで、大分、買い物や病院へのアクセスはできた様子であるが、便数の少なさや、まだ働く世代が多く、ボランティアも大変かと思う。行政の支援がさらに増えてほしい。
- ・ 高齢者が抱えている大きな問題のひとつは、交通手段の確保であり、特にひとり暮らしの高齢者にとっては死活問題である。コミュニティバスの本数増、自治会バスの普及などの高齢者が容易に利用できるバスを提供。

◆相談窓口の周知や充実。相談方法にも工夫が必要・・・

- ・ 相談したい時に、どこに行けばよいのか迷われていたり、説明を受けてもよく分からない人が多い。校区単位で相談員を置き、顔見知りの関係づくりを行い、各家庭へ訪問してほしい。
- ・ 行政サービスではできないことも多く、対応できていない部分もある。相談窓口を知らない人も多くいるので、まず地域でサービス等の知識を持った人に協力してもらい、身近で対応できるようにする。
- ・ 介護保険がよく分かっていない人が多くいる。行政に問い合わせると、そのことだけに答えが返り、それに付随すること(先のこと)は教えてもらえないことが多いと聞いている。
- ・ その部分だけでなく(なぜ、そういうことを聞いているのか)、トータル的に問題解決が必要ではないかと思う。
- ・ 地域包括支援センターや居宅支援等は、相談の電話があってから相談を受けている。行政からの情報発信をもっと強める必要があると思う。市広報紙だけでは見ない人が多い。小冊子を作成するなどが必要では。直接地域に対し、相談窓口としての情報発信は行っていない。
- ・ 土日の対応ができず、サービス事業所やケアマネジャー、在宅介護支援センター、施設等

に任せきりになる。土日も電話だけでも対応できるようにしてほしい。

- ・ 親の様子がおかしいと気づいても、まずどこに相談すればいいのかわからずに悩んだ。行政の相談窓口を誰でも分かるように、もっと PR してほしい。高齢者 2 人またはひとり暮らしの家に、月に一度くらい定期的に訪問していくと生活の様子がある程度分かるし、高齢者の人も安心すると思う。
- ・ 地域で問題があれば、区長等、家族と相談しながら、市役所、地域包括支援センターなどに行き、今まで一応解決してきた。今は以前に比べ、福祉もさまざまな対策があるので助かる。このサービスを個々人に合った解決策をうまく見つけながら、手助けしていきたいと思っている。
- ・ いろんな要望・相談で訪問するが、内容によっては、市(福祉)の担当者も同行するなど、現場をもっと知ってもらいたい。何でも申請、申請主義というが、その書類さえ届けることができない人がいる。市の方から出向くことはできないのか。
- ・ 地域包括支援センターは、土曜日、日曜日は休みで、どこに助けを求めればいいのか、悩んだ。地域で住民と接していると。いつ何時、助けを求められるかわからない。その時、救急車で片付くならいいけれども、相談したい時に土曜日、日曜日でも相談できる部署がほしい。

◆介護や福祉のサービス内容を分かりやすく伝えることが必要・・・

- ・ 高齢者に分かりやすいパンフレットの配布。
- ・ 介護認定や介護サービスのことなど、介護保険に対する内容を分かっている人は少ないと思う。
- ・ 知ってもらう機会、伝える機会を公の場にたくさんつくとよい。
- ・ 利用する側の意向もあるので、どのサービスがいいのかわからないが、行政が情報を発信しているが、思いのほか、伝わっていない、知らないことが多いようだ。
- ・ 申請主義であるため、利用者が申請できないなどの理由がある場合、利用が難しい。サービスの周知をどのようにするのか。
- ・ 高齢者福祉サービスや介護保険のことを知らない人、家族にもっと知ってもらい、介護負担を軽減してもらおう。
- ・ どのようなサービスがあるのかわからない。認定結果が要支援になっても、どのようにサービスを利用したらいいのか分からない。
- ・ 介護サービスの種類や内容が複雑で分かりにくく、どのサービスを使ったらいいのか分からないとの声がある。市広報誌への掲載や施設見学ツアー等の実施。
- ・ 高齢者や家族を支援している行政サービスの活動内容や情報の提供。また、小郡市で自費等でもサービス利用できる事項(囲碁、お花、パソコン、習字など)などを幅広く分かりやすく広報。
- ・ 行政サービスを高齢者や家族が理解していない。介護予防に対し、もっと積極的に行政は啓発活動をすべき。
- ・ 行政のサービスを知らない人が多いと思う。区単位で広報活動するように形にするとよいと思う。民生委員だけではやりづらい。

- ・ 高齢者に対する支援サービスについて、その内容を知らない高齢者が多いように思われる。年齢とか費用のことなど、もっと知らせる機会が必要ではないかと思う（公民館で説明するなど）。
  - ・ 行政の支援サービスは準備されていても、内容、利用方法についての的確な指導、伝達できていない。
  - ・ 行政サービスの周知がまだまだで、利用できる人や家族が知らないでいる。
- ◆介護や福祉のサービスも受けず、地域から孤立しがちな人たちへの対応が必要・・・
- ・ 介護保険や生活保護などの必要な行政サービスを受けず、また、家族や地域社会との接触もほとんどない場合の社会的孤立の存在が挙げられると思う。また、認知症などにより、サービスを拒否する高齢者への継続的な取り組みや支援がなされているかも問題だと考える。行政の体制整備と民生委員、ボランティア、民間事業者との連携による地域づくりの推進が重要だと思う。
  - ・ 高齢者やその家族が何かに対して声をあげれば対応できているが、声なき声に対してどの程度対応できているだろうか。また、行政サービスにおいても横の連携が機能しているのだろうか。家族が追いつめられる前に手を差し伸べられる体制を確立することが必要と思う。
  - ・ 地域の人について、もっと声かけなどしてつながる工夫。ボランティアの呼びかけなど。行政としては、そのための費用（予算）も組んでほしい。
  - ・ とにかく訪問して、話を聴き、話をしてやるのが喜ばれる。
  - ・ 現在民生委員によるサロン活動を行政区公民館で実施しているが、少々負担に感じている。行政サービスとして専門職員を派遣、対応してもらえないだろうか。

### 【高齢者やその家族を取り巻く地域社会での取り組みについての課題】

- ◆地域でのかかわりを深め、交流の機会を増やしていくことが大切・・・
- ・ 日頃から、近所の人たちとの交流がある世帯は、ちょっとしたこと（雨戸がずっと閉じているなど）でも気にとめて、訪問や電話をしてくれる。地域のなかで孤立させないこと。
  - ・ 地域のかかわりが少なくなっている。若い世代の協力を得る。
  - ・ 同世代同士でしかつきあいがいがないことにより、近所の人と会ってもどこの誰か分からないような状態。そのことにより、いろいろなうわさがまわってしまうこともある。
  - ・ 近隣とのかかわりが少ない。日頃、地域の交流の機会を増やすことが解決策になると思う。
  - ・ 家庭のなかだけでなく、社会においても高齢者は孤立しがち、閉じこもりがちであるため、高齢者が気軽に話ができるようなご近所との関係づくりや高齢者の居場所づくりが必要と思われる。また、高齢者だけの交流の場だけでなく、世代間交流の機会を設けることが必要であると思う。世代間交流のなかで、高齢者がそれまで培ってきた知識や技能を發揮することができ、それがやりがいや生きがいにつながるのではないだろうか。
  - ・ 近隣との交流がうすい地域がある。振興住宅地に住む高齢者など・・・。
  - ・ 高齢者や子どもたちが触れ合う場が少ないように思う。お互いが敬う気持ちが持てるよう

な教育の場を地域の行事に取り入れていく。

- ・ 高齢者が集まれる場所を地域につくり、交流を深め、いきいきとした生活が送れるようになれば、介護保険でのデイサービス利用者も減るのではないだろうか。
- ・ 地域との交流がない高齢者の把握が難しい。
- ・ 地域のなかで孤立している高齢者が多いと思うので、地域の人と接する機会・場所をもつてつくることができればよいと思う。
- ・ 高齢者と子どもが互いに、学校やサロンなどに参加していく場をつくるとよい。
- ・ 孤立化させない。声かけ、あいさつ。日頃の隣近所との関係が大切。必要な支援を行政につなぐ役割の一端が民生委員にもあるのでは、と思っている。
- ・ 高齢者のサークルやイベントへの参加者はごく限られた高齢者のみで、多くの高齢者は地域活動が少ない。イベントをできるだけ多くの高齢者が参加しやすいような内容にし、できるだけ参加してもらうように本人のみならず、家族からも参加を勧めてもらう。
- ・ 昼間ひとり暮らしの人を対象（70歳以上）に、家に閉じこもりがちな人を少しでも減らせればと、地域でサロン（集い）に取り組んでいるが、まだまだ参加が少ない。月の2～3回でも子どもとふれあえるような場所（空き教室等）の確保。
- ・ 地域で温かく見守りができる環境づくりが必要。向こう三軒両隣の見守り合いのできる環境づくり。

◆地域から孤立しがちな支援が必要な人たちとどう向き合うか・・

- ・ 地域の様子をみると、要介護者および認知症高齢者に対する理解が不足しているケースがあるので、要介護者を抱える世帯が近隣住民と疎遠になり、地域から孤立している。地域で要介護者を支えていくことが、これからの在宅介護では必要になってくると思われるので、もっと認知症や介護についての理解を求める啓発活動を進めていくべきだと思う。
- ・ 近所とのつきあいが少なく、家族のみの支援が多い。近所の人に見守ってもらったり、ごみ出しや買い物などの手伝いをしていただけるような関係づくりができるとよいと思う。
- ・ どうしても外との交流が少なくなるので、地域の人も家の様子やその人のことがあまりよく分かっていないこともある。地域の行事に誘ったり、定期訪問をすることにより、信頼関係を築いていきながら、その人の悩みや相談を聴いてあげられるようになれば理想的だ。
- ・ 若い世代の家族は地域との交流が希薄となりつつあるので、高齢者の介護は、やや抱え込む形となってしまっているのではないか。
- ・ 高齢者は、困ったことがあっても家族や地域に相談できない。いつも申し訳ないとの思いを抱えている。
- ・ 老人クラブなどの行事に参加しない、引きこもりになっている高齢者への支援が困難。安否確認の「旗」を玄関前に出したりできるとよいと思う。民生委員だけでは大変だと感じる。
- ・ 訪問してもドアを開けてくれない高齢者がいる。家族が介護放棄だったり、連絡が取れない。必要なサービスを拒否する。見守りの体制が整っていない。
- ・ 民生委員や福祉職などが気軽に話せるような機会があれば、多方面から問題を見守ることができる。民生委員が個人情報の面で、どこまで介入していいのか分からないと聞いたこ

とがある。市で目安をつくれればいいのでは。

- ・ 民生委員が把握できる範囲には限界があり、見落とされている人への対応が問題（区行政と協力し把握に努める）。認知症を発症しても家族が知られたくないと思っている場合もある（認知症の正しい知識を伝える）。

◆同居家族がいる世帯へも目配りが大切・・・

- ・ 老老介護に目が行きがちだが、幼い子どもの世話、同居以外の親の世話等でなかなか介護に手が届かない人もいる。また、老老介護と違い、若い同居者がいることで、地域も援助に対して消極的な状況を感じる。長期で過度の介護は、どこか弱いところにしわ寄せがくる不安もあり、高齢者のみではなく育成の必要な子どもたちにも目を配っていくのがよいと思う。
- ・ 地域によって、高齢者の見守り体制ができているところと、できていないところがあるように感じる。独居の高齢者だけでなく、同居家族のいる高齢者に対しても民生委員等が訪問し、生活状況を把握することで事故を未然に防ぐことにつながるのではないかと思う。
- ・ 高齢者に家族が居ると、それだけで安心と思ひ込み、地域の支援対象から外されている。家族がいても、状況によっては高齢者のみになってしまうので、日頃からのコミュニケーションを取っておくことが大切。
- ・ 同居家族がいると、民生委員が家に入らないという考えを改め、家族同居でも地域住民が互いに助け合えるようにする必要があると思う。

◆地域福祉活動のことをもっと知らせていくことも大切・・・

- ・ 福祉担当者がどのくらい手を差し伸べてやっているのか分かっていない。
- ・ 自分が住んでいるところの民生委員やボランティアの人の名前（家）を知らない人が多いようだ。そして社協の活動もまだ浸透していない。まずは地域で解決できることはしていきたいと思う。

**【災害時、高齢者に対する支援活動を実施するための地域社会での取り組みについての課題】**

◆普段からのかかわりを深める取り組みが、災害発生時には生きてくる・・・

- ・ ふれあいネットワーク等を活用し、見守りを強化していく。災害時の対策を地域のサロン等を通して、日頃から知ってもらう。
- ・ 防災組織、規約などの作成は、当然必要とされることであるが、それより大切なことは、日頃の地域活動（サロンなど）、住民の絆を大切にすることが一番と考える。突然の災害時でも見知らぬ人のお世話になるには気が引けると思う。
- ・ 区内での各組長や、向こう三軒両隣の関係で、また、つながりで、声かけ見守りながら「いざ」という時は、避難の場所への誘導などすることだと思ふ。普段はあいさつ程度でも、何か起これば人情味を出して、お互いに助け合おうと思ふ。
- ・ 市町村の避難誘導は大切だが、日頃から気軽に声かけや助け合いのできる関係をつくることが大事だと思ふ。
- ・ 日常のかかわりが、災害時にも役立つと思ふ。隣近所の日頃のつきあいを密にするために、

地域のイベントやレクを計画する。

◆要援護者を把握しておくことが必要・・・

- ・ 高齢者の把握（性別、年齢、身体状況（歩行状態等））を調査してリストアップする。独居の人の緊急連絡先等も地域で把握しておく。
- ・ どの家に高齢者が住んでいるのか、どの家庭に高齢者がいるのか知らない人も多いと思うので、地域の人たちがもっと触れ合う場所・機会をつくり、地域の人たちのつながりをつくれれば、災害時に気にかけることができると思う。
- ・ 高齢者の実態把握が必要だと思う。訓練等の実施。
- ・ 高齢者世帯や支援を必要とする世帯の把握が必要。支援が必要な世帯は、さらに登録性などを検討することや、地域のネットワーク強化が大切ではないか。
- ・ 誰が支援を必要としているのか、誰に支援が必要かといった状況の把握が必要。その上で、連絡網の整備や誰が誰の避難支援を行うかといった支援体制づくりが必要である。地域の支援を拒んでいる人、地域から孤立している人の支援を、どのように行うかについても検討が必要と思われる。
- ・ 日頃から高齢者がどこに住み、どんな状況（家族の様子など）なのか、地域の人たちが知っておく必要があると思う。
- ・ 区で高齢者や障害のある人などを調べておく必要がある。
- ・ 高齢者や障害のある人といっても、その人の住所、名前を知っているのは限られた人と思う。個人情報云々があるが、支援する人がどの範囲まで知ることができるかによって、取り組みが違ふと思う（支援する体制）。
- ・ 隣組であらかじめ支援活動の話し合いを持ち、手助けのいる人たちを把握しておく。

◆関係者間での情報共有が必要・・・

- ・ 民生委員・老人クラブや地域と行政・消防関係との話し合いの場が必要。またこれら機関の情報共有も必要では。
- ・ 行政から区長、住民だけでなく、事業所への呼びかけや対応方法について日頃より連携する。
- ・ 各区の区長や民生委員からの声かけだけでなく、介護保険事業所とも連携して、災害時の対応方法についての話し合いが必要。
- ・ 区でも区長以下、連絡リストなどが作られている。福祉委員にも一応説明などはしている。地区の消防団の人は、地区内に高齢者がどこにいるのか、知らされていないとのことだったが、ある程度は知っておく必要があるのではないかと思う。
- ・ 連携をスムーズにできるように日頃からのネットワーク等の認識強化が必要（各行政区において）。現在の社会情勢を認識してほしい。
- ・ 災害時を想定し、支援がスムーズに運ぶためには、予測される災害のシミュレーションを実施して、必要な高齢者、障害のある人の個人情報を行政とともに地域でも共有することが必要だと思う（特に移送、移動支援）。
- ・ 地域ごとに定期的な集会を開き、情報を共有し、避難場所、支援活動の要領等について説

明する。

◆支援にあたっての役割分担を決めておくことが大切・・・

- ・ 同じ班であっても顔見知りではない。班ごとに役割分担を決める話し合いが必要かもしれない。トップや一部の人たちだけが動くのではなく、全員参加が望ましいと思う。意識の高まりにかなうものはない。災害に、これまで縁がない地域でも、どんなことに備えなければならないか、アンケート等から、はじめておいた方がよい。災害でなくても、いろんな場面で、そのチームが活躍できそう（異年齢間で）。
- ・ 町区の班単位でのネットワークづくりが大切であると思われる。緊急時に誰がどのように声かけし、支援するかを班で決めておくことが大事だと思う。
- ・ 高齢者マップ、ひとり暮らしマップを用意し、いざという時、誰がどこに行き、救助するかを決めておく。
- ・ 区長を中心にして、各地区で声かけをして一緒に避難をする担当者を決めておくなど、具体的な対応の仕方を決めておく必要があるのではないかとと思う。
- ・ 平日の昼間が、特に高齢者が心配なので、担当を決めることが大切かと思う。
- ・ 災害避難要支援者をしっかりと把握するとともに、具体的に誰が誰を支援するかを明確にしておく。
- ・ 避難経路の事前通知や、お世話をする人の確認をしておく。
- ・ 高齢者、障害のある人を誰がどこに避難させるのか決める。
- ・ どのような災害が起こることがあるか考え、それぞれの場合において、当事者が何の支援を望むのかを事前に把握し、そのためには、誰が何をするのかの役割分担を明らかにしておくことが必要だと思う。

◆避難訓練を実施することが必要・・・

- ・ 地域ごとの避難訓練を大々的に行う。
- ・ 個人情報保護法のため、なかなか情報が分かりづらくなっているため、高齢者も含めた避難訓練を行っては、と思う。
- ・ 避難場所の周知を図るため、地域をあげて避難訓練を実施する。
- ・ 必要な避難体制や連絡網をつくって、定期的に避難訓練を行う。
- ・ 普段から定期的に避難訓練を行い、スムーズに動けるように避難場所の確認等を行っておく。
- ・ 高齢者一人ひとり、避難方法が違うため、地域での訓練を何回も行う必要がある。
- ・ 地域で避難訓練の実施。
- ・ 該当者だけの訓練の場を設ける必要があると思う。
- ・ 災害のマニュアルを作って、避難の訓練などを行うこと。
- ・ 特にひとり暮らしの高齢者、障害のある人については、地域のなかで区長や公民館長および民生委員等を含む防災体制の取り組みや訓練が必要。
- ・ 避難訓練の実施を定期的に行う。区、班等の連携を大切にする。
- ・ 形式的な訓練ではなく、可能な限り実際に近い状況を設定し、訓練を行うようにすればよ

と思うのだが？市→地域→隣組に下して、しっかり把握すること、そのためには隣組に  
お願いする方法がうまくいくのでは？（近所で一番皆さんのことを知っているのだ）。

### 【認知症高齢者の行方不明事故を防止するための地域社会での取り組みについての課題】

#### ◆認知症のことについて、もっと知る機会を・・・

- ・ 認知症サポーター養成講座の活用（まだ知らない人も多い）、また拡大するためのキャラバンメイトの養成を定期的実施する（学校や会社、病院等への出張講座の実施）。
- ・ 認知症サポーターを利用し、より多くの人（子どもから高齢者まで）に認知症を知ってもらい、近隣で見守ることが大切だと思う。
- ・ 地域の人たちが認知症の理解を深めること。そうしないと地域での取り組みはできない。
- ・ 地域の人々が認知症について学習する機会をつくる。模擬認知症高齢者が地域を回り、その対応策を学び、常日頃からひとりで行動している高齢者に声かけを行ったり、お互いが助け合う。
- ・ 認知症に対する理解を深め、地域の人たちに家族が相談しやすい環境をつくる。
- ・ 小学生も授業のひとつに、認知症サポーター講習みたいなものを受けてもらう。
- ・ 認知症サポーター養成講座や徘徊高齢者模擬訓練等を通じて、多くの人々が認知症についての理解を深めていくことが必要である。
- ・ 認知症と思われる高齢者と察知できる地域社会である必要があると思う。そのためには、地域で生活する人々が認知症を正しく理解し、いつでも手を差し伸べることができることが重要と思う。
- ・ 認知症の病気のことを地域全体で理解することも大事（認知症についての幅広い周知徹底する）。
- ・ 社会の多くの人々が認知症に対する知識や理解を深める。様子がおかしい人には注意して、見守りや声かけが自然に行えるようにしていく。
- ・ 以前、中学生を対象に認知症サポーター養成講座を行った。地域内の皆さんを対象に、年に一回でも講習会等をもって、認識することからかと思う。まちづくり協議会でできたらと思う。
- ・ 認知症の学習会（ふれあいネットワークで）。ふれあいネットワークだより（広報紙）で知らせる。
- ・ 認知症や障害への理解を深め、認知症等の高齢者や障害のある人なども地域の一員であると認め合うこと、つまり関心をもつこと、言葉をかけ合うことが大切だと思う。
- ・ 障害のある人は、認知症の人より分かりやすいが、認知症の人はその症状を理解していなければ、対応が難しいと思う。やはり研修等が必要。

#### ◆認知症の人の存在を確認し、見守っていくことが大切・・・

- ・ 個人情報といわれるかもしれないが、民生委員を中心に認知症の人を認識し、声かけを行う（顔を知っておく）。
- ・ 行政区ごとに認知症の高齢者の把握を行い、近隣者や民生委員にも協力を求める。

- ・ 地域で徘徊している人のことを理解し合い、声かけ、異常があれば、民生委員と家族が連携できる取り組みが必要。
- ・ 認知症に関する理解と、日頃からの顔がみえるつきあい。
- ・ 日頃から高齢者がどこに住み、どんな状況（家族の様子など）なのか、地域の人たちが知っておく必要があると思う。
- ・ 地域（区）、民生委員はもちろん、区長や区の役員、福祉委員はお互いに情報を共有し、交代で見守ることが必要。その人に名札をつけてもらったり（電話番号を記入したもの）して、誰もが声をかけられるように、その家族とよく話し合うこと。ふれあいネットワークの取り組みはとても有効だと思う。
- ・ 個人情報等の問題があるかもしれないが、周辺住民への周知（自分の周りにどのような人がいるのか）があると事件の減少につながると思う。
- ・ 個人情報等の問題もあるが、情報の共有化を図り、区民全員で見守ることが大切。
- ・ 不自然なひとり歩きの高齢者がいたら声をかけるとか、110番するとか、気をつけていたらいいと思う。

◆家族が認知症の人のことを話せる雰囲気づくりが大切・・・

- ・ 自己開示（我が家に〇〇がいます）できるように、認知症の知識や対策をどんどん広めていくことが大切だと思う（自己開示しても、恥ずかしいことではなく、地域の力でお互いに守り合うのだという意識がほしい）。
- ・ プライバシーがあるかもしれないけれど、認知症者は、隣近所の人には教えてもよいのではないか（了解を得て）。知らないと気にかげずにいてしまう。
- ・ 動かれる認知症の人は、地域の役員の人に知らせておくなど、早めの対応が必要。
- ・ 認知症の高齢者を地域の人が把握する。認知症家族が地域の人たちに向けて情報を発信する。
- ・ 地域の行事に認知症の人も積極的に参加できる環境をつくり、隣近所の人とも普段から話ができるような関係をつくっていると外に出た時に気づいてもらいやすくなるのではないかな。
- ・ 地域の人と、認知症の人との交流が必要である。ある程度の情報を、家族の理解が得られれば共有する。
- ・ その家族も抱え込まないで、近所の人たちに知ってもらうことが必要。
- ・ 家族が認知症であることを隠さなければならないような地域社会とならない取り組みが必要と考える。
- ・ 認知症の介護をしている家族は抱え込まず、近隣に理解や協力を発信しておくことが大切。
- ・ 家族だけでは認知症の徘徊を防止することは難しい。認知症の人が外出しているのを見かけたら声かけ等の対応で未然に防止することが必要であるが、そのためには近所同士で顔馴染みの関係、認知症であることを近所に話すことができるような関係の構築、開かれた地域づくりが必要である。
- ・ 家族の人より、病気の症状を聞く（事故防止に賛同を受けた場合）。専門家の地域包括支援センター、在宅介護支援センターの職員と地域の皆さんとの話し合い、患者を知ること

から始めることが必要（定期的な会合が要）と思う。家族が対応するには無理なことが増えてきている。

- ・ 地域の関係者などに対象者の様子や状況などを知らせることで、日常的に声かけなど気配りをお願いする。
- ・ 何年前か、認知症の人の件で、電話があつたりしたが、電話も近所の人をしたり、また、家に連れて帰ったりで、知らないふりをする人はほとんどいないようだ。家族とも相談して解決した。
- ・ 個人の状況を隠さずに周りに知ってもらい、地域で温かく見守っていく。
- ・ お互いの家庭のことを言える関係をつくり、声かけなどの日常の活動を大切にする。
- ・ 家族だけの問題にしない。近所の人にも相談するようにする。
- ・ 個人情報により、認知症、障害のある人の家族は案外隠したがる人が多い。防止するためには、行政の担当者が地域の皆さん（近隣、区長、役員、民生委員）などと連結し、その家族に行政の人たちがまず説明をし、その家族の理解を得ることが一番必要と思う。その家族が理解した後、区の役員、近隣、民生委員などの人たちをお願いする（無知の言葉で会話すると誤解を招くことが多い）。
- ・ 日頃から家族中心に近所の協力を頼むことが最初だと思う。

◆地域において事故防止のためのネットワークを構築することが必要・・・

- ・ 行政、警察、消防といった協力機関の連携を図り、徘徊が起きた時にすぐに動ける体制強化を図る。
- ・ 見守りが必要な人を事前に特定し、市・校区・隣組等の組織で具体的な活動を決めておくべきである。
- ・ 地域の人の見守り（民生委員・老人クラブ・在宅介護支援センターなど）、また、家族と接する機会が多い地元商店、薬局、郵便局、新聞配達員等の協力が必要。
- ・ 未然に防止が必要だが、起きてしまった時のマニュアルづくりも必要と思われる。
- ・ 地域でのつながり、ネットワークが必要と思う。地域の人たちが見かけた時に通報できれば、早急に発見でき、事故防止ができる。
- ・ 徘徊する高齢者を地域が見守る体制をつくる。徘徊する高齢者をもつ家族へのアドバイスができる手立てを考える。
- ・ 警察やタクシー会社などに協力体制を依頼しておく。
- ・ 行方不明者が出た際に、一本の連絡で行方不明者に関する情報が、福祉施設やタクシー会社、警察、消防、区長等に迅速にいきわたるようなシステムができればいいと思う。
- ・ 地域の取り組みだけでなく、行政としては、認知症高齢者の見守りネットワーク構築も必要であると思われる。
- ・ 地域のなかでの連絡先（窓口）を設けること。家族：高齢者が行方不明になった時、地域の人たち：大丈夫かなあ？という人を見かけた時。
- ・ まずは区民が消防団の人たちに知らせ、同時に警察の人にも。認知症や障害があるからと遠慮しないで、早目の手配が必要かと思う。
- ・ 行方不明者が出た時の家族から警察、市、そして地域への情報の伝達システムの構築がま

ず必要と思う。

◆連絡先を身につけておくとか、GPSなどの機器も活用したらいいかも・・・

- ・ 認知症で徘徊の既往がある人は、GPS を無償で貸出を行い、家族や地域で見守る体制づくりをする。
- ・ 失礼だが、認知症の人、障害のある人で、外に出まわるのが好きな人は、名札を下げしておくとか、名札を縫い付けておくといいのかなあと思う。常識の範囲内で何だか行動が変と思ったら、すぐ区長とか、民生委員へ連絡をしてもらうこと。
- ・ 障害のある人や高齢者の個別情報が分かるようなものを常に携帯してもらうとともに、地域が対象者を確実に把握しておく。
- ・ 所在を知らせる用具を携行するような予算と広報の整備。
- ・ 知っている人については、声かけができるが、知らない人については、声かけはしにくい。少し変かな？と思っても、誤解されないとも限らない時代でもあり、難しい。迷子札でもあれば、家族に電話したり、警察や役所にも電話できる。地域のなかでは誰が認知症なのか分からない。
- ・ 小郡市の福祉サービスで行っている徘徊高齢者位置情報検索サービスがあることを知ってもらう。
- ・ 名札（氏名、住所、電話番号）を常時身につけさせておく。
- ・ 市で名札（住所、氏名、電話番号）を用意したらどうだろうか。強制はできないと思うけど、必要と思える家族の人は名札をつけるようにしたら連絡もつきやすいと思う。

【高齢者虐待を防止していくための地域社会での取り組みについての課題】

◆通報先も含めた相談窓口の充実と周知を図っていくことが重要・・・

- ・ 相談窓口を増やしたり、広報等でもっと周知する。
- ・ 虐待と思われる事例をためらうことなく相談すること。
- ・ 隣近所とかかわりをもつ機会を増やす。相談できる場、人を配置し、気軽に相談できる工夫をする。
- ・ 通報（ちょっとしたこと、気にかかること）を確実にしてもらうため、どこに相談していいのかの窓口をはっきり提示する（知らせる）。
- ・ 通報しやすいような窓口にするため、担当部署を地域の人に分かるようにする。
- ・ 虐待をしているのかなと思ったら、関係機関にすぐ連絡をしてもらうようにする。
- ・ 疑わしい時は、市に連絡するだけで、いいということを知らせる。間違ってもいいから、通報するということができるように広く知ってもらう。
- ・ 介護している家族の悩みを相談できる窓口をつくり、PR する。
- ・ 気兼ねなく相談できる窓口（地域包括支援センター）を設置していることを広報等で広く知らせる。
- ・ パトロール等を充実させ、目配り声かけ気配りを行うことで、異常を感じた時は、それぞれ関係する行政機関に連絡をし、早急な対応をお願いする。

- ・ 虐待の疑いがある時は、関係機関へ連絡をするという意識が大切だと思う。
- ・ 防止のチラシ配布等を多く出す。
- ・ 虐待があるか否かということは、地域住民にはほとんど分からない。分かったとしても直接的な対応はできない。福祉事務所に連絡することくらいはできるかもしれないが。
- ・ 虐待防止については、近くの者で気づいた人が連絡できるようにし、それはもし違っていても、受け入れてくれるようにしてほしい。

◆虐待問題について、もっと知る機会を・・・

- ・ 地域住民が高齢者虐待の知識や重大さを理解するための勉強会や事例等の報告会を行う。
- ・ 高齢者虐待防止の理解を深める必要がある。地域社会の小規模単位で、啓発活動が重要だと思う。
- ・ なぜ虐待が起こるのか？を、まず理解する勉強会の開催。
- ・ 認知症に関しての知識が薄いため、それに伴う症状に対して介護者が受容、共感できずストレスをためていたり、感情的になったりして、状況が悪化することもある。認知症とはどういうものなのか、若いうちからでも強制的に学べる環境ができたらと思う。
- ・ 虐待＝身体的虐待と捉えがちで、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待等についてはあまり理解されていない。研修会等の実施により、多くの人が虐待について、早期発見・早期対応の重要性について理解を深める必要がある。
- ・ 虐待について周知を行っていくこと。
- ・ 地域の皆さんが虐待防止に関心を持つこと（各行政区公民館等で講演等が必要）。講演実施の時は役員のみでは区民全員に伝わりにくいので、一般区民にも呼びかける。

◆普段からのかかわりを深めておくことが大切・・・

- ・ 高齢者が助けを求められるような環境づくり（隣近所と日ごろから信頼関係を築く）。
- ・ 普段からの近所づきあい。顔が分かる環境・関係づくり。そうすると、小さな気づきでもできるのかと思う。
- ・ 虐待を起ささないためにも地域の交流を密にし、する側、される側も虐待が起きにくい環境づくり。
- ・ 地域（この場合、小さいエリアを示す）で相談できる人や場所づくり。たとえば、地域で行われているサロンや健康づくり、介護予防等のつどいの場で悩みを聞けるような体制づくり。
- ・ 虐待をしないような人づくり、虐待が起こらないような環境づくり、地域でのいろいろな行事のなかでの人とのふれあい、仲間づくりができる環境づくり、公民館活動。
- ・ もっと近所づきあいをすることだと思う。自分たちの住んでいるまちづくりに関心を持つことが一番大事だろう。
- ・ 虐待行為は、人の眼につかないところで行われることが多いため、事前に防止することは難しいが、周りの人々が関心を持ち、気にかけることが抑止力になるのでは。
- ・ それぞれの家庭が孤立しないように、声をかけ合い、話をしていくことが大切だと思う。
- ・ 家のなかの実態は外から分かりにくいので、こもらないように外に出るきっかけがある時

(たとえば、行事や冠婚葬祭の時)を利用して、実態をつかみ対応する。

- ・ 日常的に声かけすることで、早期発見につながる。地域住民が情報を共有する。

◆定期的な訪問活動が大切・・・

- ・ 「虐待」と認識していないケースがあるため、「在宅介護」の人への定期的なアプローチを行う。
- ・ 地域での見守りや声かけを充実させる。日頃から、高齢者のいる世帯の生活状況が確認できるように定期的な訪問を行っていく。
- ・ 民生委員は独居または高齢世帯のみが対象なので、誰かが家族と同居の高齢者と月1回くらい会う。
- ・ 定期的な自宅訪問。地域内の交流を増やす。参加しないことが続く人に対しては地域の人たちが訪問する。
- ・ まずは隣組の範囲での目配り気配り心配りが大切と思う。せめて自分の組ぐらひは、どこに高齢者が住んでいて、どこに障害のある人がいるのかぐらひは把握してもらい、何か変とか、気になることがあったらすぐ区長、民生委員に連絡してもらおうということになればいいなあと思っている。隣組の班長が福祉委員という形で。

◆家族介護者に対する支援も大切なこと・・・

- ・ 介護に絡む虐待については、介護者に虐待に認識がなかったり、介護に対する義務感が強かったりするので、家族がひとりで抱え込まずに周りに相談できるような関係づくり、体制づくりが必要である。
- ・ 虐待をしている人のフォローも大切なので(特にそれを分からずにしている人)、担当のケアマネ、地域、近所の人の見守りが大切。気づいたら早めの機関への連絡が必要。
- ・ 家族・介護者の介護疲れから虐待につながると思うので、介護者のストレス・負担の軽減ができる取り組みがあれば虐待を防止できると思う。介護者の話を聞いたり、介護者がゆっくりできる時間をつくるために、高齢者・要介護者に施設(デイサービス・ショートなど)を利用してもらい、介護者がゆっくりできる時間をつくるのが大切だと思う。
- ・ 地域社会で要介護者のいる世帯を支援していくことで、介護者の孤立を防ぎ、負担を軽減することが虐待防止につながるのではないかと思う。また、介護者側からは認知症に対する正しい理解や知識を習得できる機会を増すとともに、介護者がストレスを抱え込まないように、悩みや苦勞を相談できる窓口の増加も必要であると思う。
- ・ 家族ががんばっていればいるほど、虐待の可能性は大きくなる。いろいろな課題はあると思うが、家族を支えていける取り組みが大切と思う。家族が「助けて」といえる地域社会の構築が必要ではないだろうか。
- ・ 介護をひとりで抱え込まない、相談できる場が必要。
- ・ 介護をしている家族への声かけ等(孤立しないように)。
- ・ 何でもひとりで抱え込まないように声かけを大事にする。
- ・ 介護する人への対応が必要ではないかと思う(情報を知らない。行政の取り組みを知らない等)。

## 2. 児童福祉・子育て支援分野

---

### 【子どもやその家族の様子をみていて感じる課題】(斜文字:民生委員・児童委員。以下同様)

#### ◆地域で子ども同士が一緒になって楽しむ機会が減っている・・・

- ・ 塾やスポーツクラブに通う時間以外はテレビやゲームに依存しすぎて、地域の友だちとの交流がなくなり、遊ぶ時間もなくなって、協調性が失われているような気がする。いろんな地域でのイベントに参加して、体験し、友だちの輪を広げていく。
- ・ きょうだいが多く、異学年同士の遊び集団をつくるのが少ない。不登校や不登校気味の児童生徒が減らない。地域や学校での仲間意識を育てる。異学年の遊びのなかでいろいろなことを学ぶことができる。
- ・ 学校から帰ってからひとりで部屋にこもり、テレビやゲームをするなど、メディア漬けの子どもが多い。そのため、友だちとうまく遊べない、コミュニケーションがうまくできない。学校の施設(空教室)や、公民館等の施設を放課後や土日曜日に開放し、子どもたちの遊び場を提供する。
- ・ 子ども同士のかかわりが薄い。異年齢とのかかわり(特にひとりっ子には大切)。子育て支援センターのように、自分の好きな遊びをじっくりと遊べる環境のなかでかかわりが育つよう援助していく。
- ・ ほとんどの子どもが同年齢との交流しかしていないため、社会性を身につけていない。地域の行事に積極的に参加させる。
- ・ 子どもたち全般という視点からみれば、やはり持っている個性ゆえに、子ども同士のかかわりのなかで育つという経験が少ないことは、課題として挙げられると思う。地域の子育てサロンなどに、障害のある子どもも来て、楽しむことができるような配慮のある集まりなどを実施し、小さいうちから、子ども同士の経験が積めるような取り組みが効果を奏すると思われる。
- ・ 小さい頃からあまりよその子とかかわることがなく、幼稚園や保育園、小学校に通うようになる子が多いように思える。そこで問題が発生して通園できなくなったり、障害が発覚したりして戸惑うこともあるようなことも。幼稚園などの集団に入る前に、つどいの広場のような子どもの集まる場所で、いろんな経験をさせてあげることが必要ではないだろうか。
- ・ 自然体験、外での遊び、集団・異年齢の子たちとのコミュニケーションが足りないように思う。今は遊ぶ場所も少なく、子どもの人数も少ないため、保護者も容易に外に出せないのかも。学校や幼稚園、保育園、市で行っているのびのび教室?のなかでの取り組みを増やす。
- ・ 親が干渉するケースが多い(汚れるから、遊ばせないなど)。子どもの成長・発達の過程で、子どもたちにどんな経験が必要かを親が理解できていないので、きちんと伝え、子どもたちにはさまざまな経験をする場を提供する。

- ・ 核家族化しており、親も仕事等で家にいない。子どものみで留守番をしている。公民館等を活用し、子どもが来られるよう、工夫しているところも多いが、まだまだできていないように思われる。
- ・ いろいろな情報が飛び交う現代で、子どもの機嫌をとる大人が増えていて、間違いを教わらない、注意されない子どもが多いと感じる。また、親に対しても、それを教えてくれる存在が身近にいない。お互いに顔色をうかがっているように感じる。もっと外に目を向けやすい、地域、近所とのかかわりをもちやすい場所の提供などが必要だと思う。
- ・ 子どもたちは塾やサークル活動等に励んでいることはよいことと考えるが、子どもの成長段階では、学校、地域、家庭のなかの地域が忘れられているように思う。なるべく地域の行事には積極的に参加するようにしてもらいたい。また、地域住民を含め、子どもと一緒にできる催し事を考え、つくりあげていくことも必要だと思う。
- ・ 行政、その他の機関のサービス、行事等があるが、活用されていないのでは？また、反対にスポーツ等に熱心で地域とのかかわりを持たなくなっているのでは？市、地域の行事に出やすい魅力的な行事があったとしても乗る気ではない。自己中心的な風潮になっているので（行政の人がアイデアを）。
- ・ 子どもがだんだん少なくなって、いろいろ体験することが少ないので、行事等で外に出て体験するとよい。

◆子育てに母親が孤軍奮闘中で、孤立しがち・・・

- ・ 子育てに関しての相談者が少ないように思う。母親などで、近くに友達や家族がいなくて、昼間はずっと家に子どもと閉じこもっているという人もたまにいる。サロンなどの充実。相談窓口について、もっと広く周知する。
- ・ 地域コミュニティが希薄で孤立し、不安を抱え込んでいる人が多いように感じる。10代の妊娠も増加しており、未熟なまま親になっている。共助ともいえる協働のまちづくりを全市的に展開し、地域コミュニティをつくっていくこと。相談窓口の充実。命の大切さについての教育。
- ・ 小さな子どもを連れて遊びに行く場所が少なく、親も子どもも社会との接点をもちにくい。近くに協力者がおらず、母親だけが負担を強いられる。
- ・ 核家族で、周囲とのつきあいが少なく孤立していて、子育てが未熟な家庭がある。子どもの基本的な生活習慣・生活リズムがつくれていない家庭がある。
- ・ インターネットの普及によって、便利なことも増えたが、振り回されることも多いようである。身近に相談する相手がいればよいのだが、転勤で実家が県外に人などは、特に難しいようである。親子で交流できる場所がもっともっと充実すればよいと思う。
- ・ 親と子だけのつながりしかない。外との交流の場が少ない。
- ・ 昼間、母親と2人で過ごしている子どもも少数であるが（子育てサロン等への参加。母親たちの情報交換の場、ホッとする場をつくる）。

◆子育てや子どもの成長、子育て支援サービスについて学ぶ機会の充実を・・・

- ・ 保護者が利用できる福祉サービスを知らない場合が多い。健診や子育て中の保護者への情

報提供。

- ・ 保護者の仕事が忙しく、ゆっくり子どもとかかわる時間が持てないためか、落ち着かずスムーズな友だちとのかかわりができないことがある。乳幼児の親子の過ごし方がその後の子どもの考え方や行動に大きく影響があることを知らせる講演会などを繰り返し行い、保護者に知らせていく。
- ・ 実家が遠い等、近くに子育てに協力してくれる人がいない。配偶者の仕事の帰りが遅い、子どもとのかかわり方が分からない等でストレスを抱えている保護者が多いと思う。子育てについて気軽に相談できる仲間づくり。育児サポートシステム。子どもの成長、発達、かかわり方についての情報提供。
- ・ 核家族のため、どのように育てたらよいか分かっていない。素朴に子どもを育てること、どのようにかかわったらよいか、あやし方を含め、食事、トイレトレーニング、基本的な生活の仕方が分かっていないと思われることが多々ある。
- ・ 行政からのサービス等を知らない親もいると思われるので、広報や学校等で教えることも大切と思う。

◆子どもについて相談できるところの充実が必要・・・

- ・ 療育が必要なことに親が気がつかない、また、その受け皿がない。障害に対する周囲の理解が得られず、親だけで抱え込んでいる。
- ・ 保護者は子育て等に不安があるが、どこに相談してよいか分からない場合がある。乳幼児健診等での相談、保護者への情報提供、市の療育事業等。
- ・ 子育てに悩む保護者も増えており、その子育て相談や支援等が急務と考える。
- ・ 園に来ている保護者は、皆仕事を持っているので、毎日仕事と子育てに追われ、時間に余裕がないように思う。解決策としては、子育てを負担に感じないように、話を聞いたり、リフレッシュの時間を持つたりするための協力が必要だと思う。
- ・ 子育てに悩んでいる保護者が多くなったことを感じる。また、入学前に「しつけ」等が十分でないことを感じる。対策としては、子育て相談等の充実や就学前における保護者の支援が必要と思う（実態把握と具体的な対策）。
- ・ 核家族化が進み、地域や身近に育児に関する相談等ができる環境がない。
- ・ 子育て中の親たちは、一生懸命手探りで頑張っている様子がみられる。しかしメディアやネットで惑わされ、時にはどうしてよいか分からなくなるようだ。子育て家族が集えて、何でも話して「私のやり方、これでいいんだ」と思えるような場があれば、子育て中の親が自信を持って子育てができると思う。
- ・ 保護者（母親）が人とかかわり（接すること）が苦手な人が増えている。甘やかしとしつけの見極めが難しく、自己中心的な考えの人がいる。地域で子育て家族を見守る。あいさつ、声かけで話すきっかけを増やしては。

## 【両親と子どもだけの家族の様子をみていて感じる課題】

### ◆急な用事などの時、子どものことを頼めるところ、預けるところがない・・・

- ・ 両親が仕事や用事の際に子どもを預けることができない。
- ・ 両親が急に用事ができた時などに預ける場所がない。
- ・ 親が体調を崩した時など、すこしの間、子どもを預かってくれる場所が少ない。
- ・ 核家族世帯は、いざという時に子どもを預けることができず、困っているという声を聞く。
- ・ 子どもが病気になった時、感染症で幾日も会社を休まなければならない時、困っている。
- ・ 子どもが病気になった際、みてもらえるところがない（両親共働きしている家庭）。
- ・ 保育園や子育て支援センター等で、一時預かりはしているが、事前予約も必要。そのようなことから、急なことでもすぐに預かってくれる場所があれば。
- ・ 急な病気の時、休みが取れず、みる人もいない。
- ・ 共働き家庭が多いので、子どもの病気時の対応が大変のようだ。
- ・ 子どもが病気の時に、会社を早退したり、休んだりしなければならない場合。「なかなか休むことができない」という声を聞く。また、熱さまし（座薬）で、一時的に熱を下げ、「もう下がったから・・・」とあって、登園させたところ、再び熱が上がるケースがよくある。子どもに無理をさせているように感じる時がある。
- ・ 子どもが病気になった時、共働きの家庭では仕事を休まなければならないが、病児保育をしてくれる保育所や病院などの施設がないところで、どうしたらよいかという悩みがある。
- ・ 両親とも働いている人が多く、子どもが突然病気したり、けがしたりした時、すぐ預けることができる施設がない。

### ◆長期休暇中の子どもたちの居場所がない・・・

- ・ 地域における子どもたちの居場所が失われつつある。
- ・ 学校では夏休みなど長期休暇での子どもたちの昼間の様子を見てくれる人いない（学童保育に入っていない子など）。
- ・ ほとんどの家庭は共働きが多いなか、長期休暇（夏休み、冬休み等）や放課後、子どもの居場所を考えなければならない。低学年の間は絶対的である。

### ◆身近に相談できる人、頼れる人がいない・・・

- ・ 身近に相談相手がいない。どうしても他人とかかわる機会が少なく、閉じこもりがちになってしまう。
- ・ 子育てに悩んだ時や、子どもの急な病気の時など、身近に頼れる人がいないと困ると思う。
- ・ 子どもと一対一での生活で、育児に不安やストレスを感じた時など、話を聞いてくれたり、相談する相手がなくて、孤独を感じることもあると思う。
- ・ 育児のストレス、家庭内でのストレス、子育ての不安や悩みなどを気軽に話し、相談できる場を求めている人も多いのではないかと思う。
- ・ 子育てに関する不安や悩みを相談する相手もなく、また、突然のことに対してもすぐに頼れる存在があれば、自分たちで動きがとれ、問題を早く解決できる場合もあるが、時間や人手、情報（子育ての先輩の意見）の不足になりがちで困っていると思う。

- ・ 特に共稼ぎの場合、子どもが行き渋りや病気になった時、仕事の方も気かけながら子どもとかかわらないといけないので、精神的に疲れると思う。仕事に追われている家庭では、宿題をみてあげたり、子どもの話を余裕をもってじっくり聴いてあげられず、子どものサインを見逃す可能性もある。BBクラブのような放課後、子どもの勉強をみたり、友だちと遊んだりする場があるのはとてもいいと思う。親との連携が少しでも取れるとなおいいと思う。時間を持て余している高齢者と子どもがふれあう場もあるといいと思う。
- ・ 両親のどちらかの就業時間が長いと、子どもと長い時間を過ごす親は、ひとりで子育てをしているような気になり、自分の時間がほしいと思っていると思う。
- ・ 近くにサポートする、どちらかの親が住んでいて、困った時手を差し伸べてくれる場合はゆとりがあるが、そうでない場合、両親だけでは、ぎりぎりの生活のように見受けられる。
- ・ 父親が忙しく母親の話を聞いてくれず、ストレスがたまったり、うつになりかけている家庭がある。子育ての悩みを真剣に聞いてくれる人がいない。
- ・ 両親が協力し合って子育てをするのが理想だが、毎日父親は仕事をしているため、母親の負担が体力的にも、精神的にも大きいように感じる。特に子どもが0歳～3歳くらいまでは、子どもから目が離せず、ストレスを感じている人が多い。分からないことを聞いてもらおう相手がいらない。ひとりの時間が持てない（後追いをする時期はトイレにもゆっくり行けない。母親が病気をした時が大変。
- ・ 核家族で周りとのつながりが薄い家庭は、相談したり、話したりすることが少なく、不安を抱えているところもある。地域のコミュニティに参加できるような場の工夫を行う。子育てを支援する地域の人材の確保。
- ・ 父親が仕事の忙しい年代が多く、母親と子どもだけでほとんど一日中過ごしており、母親は相談相手がなく、不安や心配を強く感じていることが多いように思う。
- ・ 悩みがあっても、親（特に母親）が、信頼して相談できるところがあるのか？と。学校の先生に話しても理解してもらえなかったと話す母親の意見が聞こえてくる。主に、友だち関係のトラブルの対処法である。
- ・ 共稼ぎが多く、子どもの相手、世話ができない。若い母親父親で子育て経験がなく、戸惑っている。婆ちゃん役の子育ての相談相手がほしい。
- ・ 他の家族との交流の場が少ない。
- ・ 昼間の時間、子どもと若い母親のみの時、話したり、相談したりする人がいない。
- ・ 親子関係が悩みではないだろうか？子どもの成長に応じての親の接し方が課題では？と思う。核家族化でいろいろ困ったり悩んだりしても、誰にも相談できない親子がいるのでは？と思う。
- ・ 子育ての悩み等を相談する経験者がいないこと。
- ・ 育児に悩んでも相談する相手がいらない。

◆子育てや子どもの成長について学ぶ機会や相談できることが大切・・・

- ・ 子どもとのかかわり方が分からない。保護者がストレス解消する時がない。祖父母からの学びを受けにくい。
- ・ 子どもとのかかわり方がよく分からない親も多い。

- ・ 普段の生活のなかで「なぜこうなるのか?」「どうしたら解決するのか?」教えてくれる人、相談に乗ってくれる人がいないことと、助けてくれる人がいないこと。
- ・ 第一子の場合、子育てや子どもとのかかわり方が分からない場合がみられる。子どもが集まる場の提供、健診での子どもの把握や子育て相談の充実。
- ・ 子育ての仕方についての知識を十分に得られない。頼るところがなく、相談する人がいない。

### 【ひとり親家庭の様子をみていて感じる課題】

#### ◆ひとりで抱え込んでしまって疲れ切っている・・・

- ・ 低所得の家庭が多く、経済的に子どもに十分な教育環境をつくることができない。母子家庭や父子家庭では、ひとりの親に子育ての負担がかかり、親が疲れ切っている。
- ・ 働きながらひとりで子育てをしている家庭は、子育てに余裕がなく、ひとりで抱え込んでいる。子どもの進路に関し、経済的な不安があるのではないか。
- ・ ひとりで「仕事」「育児」を両立していかなければいけないのという精神的負担が大きいと思う。特に、核家族化が進むなか、仕事をしなければ生活できない環境では、子どもを長時間託せる場所もなく、地域から孤立することも多い。
- ・ 親の体調が悪くなったり、子どもの体調が悪くなった時に助けてくれる夫や妻がいないために、ストレスも人一倍かかっているのではないか。何かあった時に子どもを預かってくれるシステムがもっと充実できたら気持ちも軽くなり、子育てがやりやすくなるのではないだろうか。
- ・ 行事や役員等、子どものためにやらなくては、と思うが、実際は出席するのが大変なことがあるとの話を聞いたことがある。離婚している場合は、そういう時に自分を責めてしまう、とのこと。
- ・ 経済的な生活が心配。サロン、行事などへの参加もできない。
- ・ 大人ひとりと子どもの関係では、家庭内で大人が子どもを叱った時に、子どもの逃げ場、拠りどころが確保しづらいのではないか(家庭外でも信頼できる子どもの居場所づくりが必要)。

#### ◆話しができる人、相談できる人が身近にいない・・・

- ・ 子育てについて相談する人がいない。
- ・ ひとりだけで仕事と子育ての両立は大変だと思う。何かあったり、落ち込んだりした時に話ができる人や相談できる人がいればと思う。
- ・ 我が子のこの時期に、どうかかわっていけばよいか、子育ての悩み、不安を相談する人がいない。
- ・ 親がひとりで仕事をしながら、父親役、母親役をしなくてはいけないので、大変だと思う。子どもが小さい時は、保育園の送迎や、学校の行事などいろいろあるし、相談したいことがあっても、自分で考え、決断しなければならないので、精神的にも大きな負担があると思う。

- ・ 母、父だけではできない子どもたちの悩み相談の場所。

## 【子どもやその家族を支援する行政サービスについての課題】

### ◆子育て支援に関する丁寧な情報提供を・・・

- ・ いろんな課や場所で、たくさんの取り組みが行われているが、すべての子育て家庭に届いていない部分も多く、必要に応じて園からも情報伝達しているが、子育て支援ガイドなどの全園児配布などもあってよいと思う。
- ・ サービスの内容等の情報提供が不十分。地域や就学前教育機関と連携し、必要な家庭に必要なサービスが届くようなシステムづくりをする。
- ・ 経済的に厳しい家庭への支援。分かりやすい情報提供。
- ・ 大人になりきれしていない親が子どもを育てている(子どもが子どもを育てている状態等)。育児時期に保健師等が頻繁に講習会(内容の見直し等)や家庭訪問等を行うことで、親を育成していく。
- ・ 結局、もっともほしい情報は、課が違うから、という理由で、提供できないことも多い。たとえば、子育て支援センターなどに遊びに来る親子は保育園ではなく、幼稚園を考えている人が多いが、情報提供できない。
- ・ さまざまな行政サービスがあるが、まったく知らずに過ごしている人も多いと感じる。子育て世帯だけでなく、もっと広く市民にPRすると、子育てで困っている人に情報が伝わりやすくなるのではないだろうか。
- ・ 行政サービスには、どんなサービスがあり、どこに行けば情報が得られるのか、分かっている人が少ないと思う。
- ・ 乳幼児期の子育て支援が一部にしか行き渡っていない。現在も市主催での子育て講座が開催されているが、参加者をもっと増やし家庭での子育てのあり方を学ぶ機会を増やす。校区公民館や、保育園、幼稚園で定期的な保護者学習会を開催するための支援を行う。
- ・ 小郡市のホームページをみると、行政もたくさんの取り組みをやっているように思うが、必要な人にちゃんと伝わっているのだろうか？たぶん、こちらが聞いたら答えてくれるだろうが、行政の方からのアプローチが弱い気がする。子育てに関することはここに行けば、すぐ分かるという窓口を決めてほしい。子育て支援に関するすべてのことに対して、情報提供できるような人を育成してほしい(いると思うが、ゆっくりその人のためのサービスが何かを一緒に考えてくれるといいと思う)。

### ◆子育ての悩みを気軽に話せ、相談できる場所があれば・・・

- ・ 少子化世代の親をサポートするために大切なことは、子どもの育ちを認めるだけでなく、親の不安を解消できる場を保障していくことが必要。歩いて行ける地域の公民館等で、相談や遊びの場があると利用しやすいと思う。
- ・ 組織化によって、子育てや子どもの生活を支えていくところが必要。育児に戸惑いや悩みを抱える親に対する心配事や不安を聴くところ。
- ・ 保育所等に入所後や学童期の子どもの相談する場が少ない。保育所や学校には直接相談し

づらいこと、発達のことなどを気軽に相談できる行政サービスがあるといい。

- ・ 小郡市子育て支援センターでは、いろいろな情報提供、相談事業、親子の仲間づくり、交流の場の提供などを行っている。しかし、車がなく、遠くに行けないという声も聞かれる。また、本当に支援が必要な親子にはサービスが行き届いていないという問題もある。地域の公民館など歩いて行ける場での相談、遊びの場がもっと増えると利用者は便利だと思う。
- ・ ひとり親家庭の保護者の集まり等、開催されているだろうか。同じ悩みをもつ親の会の場や交流があってもいい。
- ・ 市役所に保護者が来られてからの相談だけではなく、行政からいろんなところ（子育て支援センター、公民館等）へ出向き、行政サイドの子育ての相談等を行っていくと、より相談しやすく、身近になる。
- ・ 核家族や転勤族などで近くに相談できたり助けてくれる肉親がいない人が多いので、相談しやすい場所を提供してあげることが必要だと思うし、また、それがあつことを分かりやすくする必要があるのではないか。小郡には子育て支援センターが3つ、つどいの広場が1つあるので、そこに行けば、解決策の手助けがあるのではないかと思ってもらえるように、子育て家族の人たちに浸透できるとよい。
- ・ 子育ての相談の場所（各校区に）。時間の拡大。電話相談設置。
- ・ 経験のある年配の人から保護者と同年代、子どもに年齢の近い若者まで相談員として育て、気軽に相談できるようにすること。

#### ◆相談や受付窓口等は土日休日も・・・

- ・ 相談場所として、行政が間口を開けていると相談しやすいと思う。土日祝日の窓口開口など（親、保護者が休みの時に）。
- ・ 日中は、親も就業しており、行政サービスを平日昼間に受けられることは少ないと思う。「仕事を休んでまで、受りたいサービス」を行うか、夕方～夜間帯、土日祝日などにも対応したサービスができればよいと思う。
- ・ 行政サービスでは昼間の時間帯中心の受付・対応が多く、「いつでも」が難しいので、子育て家族が本当に必要な時に対応できるシステムがあればと思う。
- ・ 行政であるならば、家庭や保護者、子どもの実態に沿う形でのサービスでなければならないだろう。難しいこととは思うが、17時までの行政の勤務時間のなかで、保護者等が窓口に来てくれることには無理があると思う。

#### ◆放課後等の子どもたちの居場所づくり・・・

- ・ 祖父母のいない夫婦共働きの家庭では、子どもが家に帰っても、誰もいないでひとりぼっちでさびしい思いをしている。ひとりぼっちですることは、テレビを観るかゲームをしているか、これでは子どもの社会に適応できる健全な成長は期待できない。学校が終わっても、子ども同士が交流できる場の確保と、見守ることができる体制の整備が必要と思う。学校の放課後の解放、公共施設を子どもが軽易に利用しやすいような工夫等が考えられる。子どもは監視されることなく、自由に遊べる、あるいは好きなことをできる場所が必要である。特に、公共施設の利用は大人、高齢者中心にものごとが決められている感じがする。

意見をいえない子どもの施設は、どのようなものが必要か、真剣に考えるべきである。

- ・ 学童や BB クラブのような子どもが保護者の帰宅まで安心して過ごせる取り組みや場所があり、さらに充実させること。中学生の学び場支援事業が学校外で平日、遅い時間までできる（学びの場）ように拡大するなど。
- ・ 放課後の子どもの生活を支える。たとえば学童保育の内容の見直し。

◆保護者のリフレッシュのための支援も必要かも・・・

- ・ お泊り保育ができる施設が各小学校区に一つ以上あったら。
- ・ 子育て支援では、子どもより母親のリフレッシュの場を提供すること。
- ・ 核家族の産後の不安やうつ等を防止するための、祖父母や周りに頼れない母親の孤立や不安を抱えている母親に対しての一時宿泊施設を整備し、看護師や助産師、先輩母親等で支援できるようにする。

◆子育て支援のなかに高齢者の知恵を取り込む工夫も大切かも・・・

- ・ 子育ては家族だけでやるのではなく、地域の皆さんみんなで育てていく必要があると思う。そのためには、お年寄りの知恵や知識を利用することが必要だ。老人ホームと保育所を一緒にすることや、さまざまな場所で流行させることが大切ではないだろうか。

### 【子どもやその家族を取り巻く地域社会での取り組みについての課題】

◆子育て家庭が地域において交流できる機会を・・・

- ・ 近所づきあいがないので、近くに相談できる人がいない。近隣ママさんネットワークの構築。
- ・ 隣近所との交流の場がなく、誰が住んでいるのか分からない(特に最近引っ越してきた人)。育児協力が得られにくい。
- ・ 地域とのかかわりの希薄さは、日々感じている。本当に必要な時に「頼り」「頼られる」関係づくりのために、話し合える機会となる場の提供が必要だと思う。
- ・ ママ友など、自分の気の合う人との交流はあっても、近所の方など、地域の方とのかかわりはあまりないように感じる。解決策としては、地域の行事に参加したりして、交流を持ったりし、皆で見守り合える関係ができたらと思う。
- ・ 核家族化や共働き家庭が多くなり、親の育児の負担が増え、地域とのかかわりの希薄さが目立つ。地域のなかで子育てネットワークづくりを通して、地域で子どもを育てていこうという取り組みが大切だと思う。
- ・ 昔は三世代同居の家庭が多く、地域とのかかわりのなかで人と人とのふれあいがたくさんあったが、少子化にともない、核家族が増え、両親が共働きだったりすると、家族間の会話さえも薄れていっている状況と思われる。塾やスポーツクラブに行かせることで安心し、地域とのかかわりには無関心になっているような気がする。子育てを終えた人も地域皆で話し合いの場を設け、子どもたちを見守っていくことだと思う。
- ・ 地域の人たちと交流することは、ほぼないように感じる。地域の公民館を解放し、親子が集い、情報交換ができたりする場をボランティアで行うなど、地域の人とふれあう場があ

るとよいのでは。

- ・ 各家庭でアパート住まいの場合、地域とどのようにかかわってよいか分からない様子がみられる。解決策として、保育園が「橋渡し」となる。まずは、保護者同士のかかわり、交流ができるようにする。そのために、行事に参加してもらうよう促すことで、孤立させないように配慮する。
- ・ 同じ地域にいながら、交流がないため、周りに住んでいる人の様子や環境が分からない。かかわりが面倒になり、ますます孤立してしまう。
- ・ 核家族で地域から孤立してしまいがちな家庭がある。プライバシーに配慮すると家庭のなかに立ち入りにくい。段階の世代を中心としたお節介ボランティアを組織し、地域で多様な活動をしていく。
- ・ 校区公民館や区の公民館などに子どもや大人が気軽に集える場をつくる。退職した人など、地域の元気な人を、子育て支援の人材として活用する。
- ・ 地域によっては登下校の見守りや声かけなど、密なところがあるが、新興住宅地などは小中の保護者 PTA 関係・地区委員などのつながりはあっても、子どもがいない世帯へのつながりが薄いように感じる。
- ・ 昔は人間のつながりができていた。現在は日曜日でも親同士が会ったり、話したりすることがない。人間がつながらなくなった。学校行事や地域の行事に参加してもらえよう、地域のみんなが協力する必要がある。
- ・ 地域での催しや祭りなどで、子育て家族が参加できることがあり、顔見知りになり、子どもを通して話ができるようになる。こんな時はどうすれば？ということも聞ける仲になってほしい。地域の公民館などで子育て家族の集まる場をもっと作ってほしい。
- ・ 若い世代が地域から離れ、地域行事等にも参加できず（参加しようとしな）地域への愛情さえ希薄になっているような気がする。若い人たちの地域行事等の参加が増えると地域にも活気が出る。そのことによって、子どもや子育て家族が安心して生活でき、会話しやすい環境になると思う。年配の人たちの声かけや活動も必要だが、若い人たちの動きがもっと必要だと思う。

◆多くの子どもたちが地域での活動や行事、交流の場に参加できることも大切・・・

- ・ 地域の人と子どもたちの交流が少ない。大人だけでなく、子どもたちも地域で活動する姿がみられるようになってほしいと思う。
- ・ 習いごとが多く、地域の行事への参加が難しくなっている。地域の行事よりも家庭の行事が優先し、地域での行事に参加させない。家族や地域のつながりの希薄化を抱えている。
- ・ 地域の行事などに、他の地区の子どもたちも参加できるような情報の発信をしていくこと。
- ・ 小学生は高学年になるとクラブや習いごとが増え、地域の行事への参加が難しくなっている。自分の家庭の行事を優先するなか、地域の行事に参加してくれない。年間2～3の行事を決めて地区の子どもたち全員が集える地域行事を行う。地域での子どもたちの行事を増やし、年間3回以上は参加すべきというような取り組みを行う。
- ・ 地域行事の復活。子ども会の活性化。
- ・ 地域の夏祭りやスポーツ行事に参加している子どもが少なく、地域社会がかかわっての子

育てが希薄になっている（昔は地域におせっかいおばさんや怖いおじさんがいた）。

- ・ 子ども会や隣組に入らない家庭がある。登校班の編成に困るし、区の行事に参加しないのでつながりが希薄になる。
- ・ 核家族が増えているなか、地域とのかかわりが減っている。また、かかわろうとしない人も増えている。親が忙しく地域行事に参加しにくい。地域の人たちから、行事があるたび誘ってもらえると行きやすくなると思う。

◆地域において子育ての悩みを相談できる場を・・・

- ・ 現在、「あすてらす」で行われているような、子育てや悩みについて話を聞いてもらったり、アドバイスをしてもらえそうな場所が身近にあり、日時・時間も十分に準備されていると利用しやすく安心。
- ・ 地域の教育力の低下。「向かう三軒両隣」の言葉のような地域のつながりの低下により、お隣が子育てで悩んでいる家庭なのか把握できていなかったり、あるいは、子育ての悩みを隣に相談できるような関係が築けなかったりするのではないか。
- ・ 問題を抱える家族は、孤立しがちである。相談体制を充実させ、孤立化を防ぐ必要がある。

◆孤立しがちな子育て家庭を見守っていく取り組みが必要・・・

- ・ 地域の子どもは地域の大人みんなでみていこうという意識が薄れてきている。逆に、自分の子どもは地域の人たちみんなにお世話になっている、ということを理解していない親もいる。子どもを通して、親・大人のつながりをつくる取り組みを広げていく。
- ・ 孤立している子育て家族の掘り起し。民生委員等との連携。
- ・ 生まれてから集団生活（幼稚園や保育園）に入るまでは、地域との交流の場がないので、新生児訪問か、地域で助けてくれる人の紹介、サービスの情報提供、何でも手伝いますという（民生委員とか、女性がいいが）姿勢でのぞんでほしい。
- ・ 地域で子どもを育てる、という動きがあるが、これがうまくいけば、親の負担が少し軽くなるような気がする。
- ・ 地域の子育ての先輩に聞くことができない。地域で育てるなどが少なくなっている。
- ・ 子どもを育てるのは家庭が基本であるが、その家庭が機能していないところがあるので、地域で子どもを育てる必要がある。近所の大人や地域の人々がたくさん声をかけ、子どもを温かく見守ることが大切だと思う。

**【児童虐待を防止していくための地域社会での取り組みについての課題】**

◆児童虐待の問題について学ぶ機会が必要・・・

- ・ 虐待を地域みんなで防止しようという意識をもつことが大切だと思う。子育て世代だけでなく、子ども～高齢者までの虐待防止についての勉強会などの機会があればと思う。
- ・ 親に対して児童虐待とは何か(事例)、なぜいけないのかを十分にPRする(市広報誌等)。乳幼児健診、保育園、幼稚園の保護者会、小学校の保護者会を通し、児童虐待防止を呼びかける。地域の防犯体制を応用し、地域での児童虐待を見逃さない取り組みを進める。
- ・ 自治区の集まりで、住民みんなで地域の宝を育てるために虐待防止についての講習会(子

育てについて) 開催。

- ・ 地域で発見、気づいたら「ここに通報して」というお知らせを市広報などに載せ、虐待防止の意識を高めるようにするとよいのでは。
- ・ 虐待の疑いがあれば、通告することが義務であることを広報すること。
- ・ 地域の皆さんが虐待防止に関心を持つこと(各行政区公民館等で講演等が必要)。講演実施の時は役員のみでは区民全員に伝わりにくいので、一般区民にも呼びかける。
- ・ 防止のチラシ配布等を多く出す。

◆地域のつながりで見守っていくことが大切・・・

- ・ 周囲に気配り目配りすること。気になったら、声をかけること。知らないふりをしないこと。
- ・ 子どもや親の様子で気になることがあれば、地域のなかで連携を図り、その家族を見守っていくことが大切だと思う。
- ・ 「遠い親戚より近くの他人」というように、隣近所のつきあいや、地域活動を通して声かけ、あいさつなど、小さなことからしていき、仲良くしていく。周りがよく見えるように。
- ・ まずは、地域での人のつながり、大人のつながりをつくっていき、多くの目で子どもたちを見守るようにすること。
- ・ 地域と子育て家庭をつなぐ取り組みを、行政の関わりを大切にしながら、地域全体で取り組めるよう啓発したり、システムを構築していく。
- ・ 近所づきあいが深くなること。お互いの様子が分かり合うと、虐待の防止にもつながると思う。子ども会、地域行事等の充実。自治会の充実(隣組等も含めて)。
- ・ 「よその家庭だから・・・」ではなく、「子どもの命に関わることだから」の意識で、虐待する保護者をなくすこと。「かかわり」の取り組みを行うことである。プライバシーとかかわり方との兼ね合いが難しいのだが、やはり「かかわること、かかわっていくこと」しかないと思う。
- ・ 近所に住んでいる隣人が大声を出して子どもを叱っていたり、いつも泣いていたりにしているのを見かけたら、声かけをして、手を差し伸べてあげる気持ちを持って接してあげる。
- ・ 子どもが発信する **SOS** をいかに確実にキャッチできるかが最大の課題であり、そのためには、地域の目配り、子どもが発信する **SOS** をキャッチするアンテナなどを推進する。たとえば、子どもたちの生の声を聞くことができるような、第三者と子どもの個別面談など、親には言えないことも話せる場をつくる。
- ・ もっと近所づきあいをする事だと思う。自分たちの住んでいるまちづくりに関心を持つことが一番大事だろう。
- ・ 何でもひとりで抱え込まないように声かけを大事にする。
- ・ 虐待行為は、人の眼につかないところで行われることが多いため、事前に防止することは難しいが、周りの人々が関心を持ち、気にかけることが抑止力になるのでは。
- ・ それぞれの家庭が孤立しないように、声をかけ合い、話をしていくことが大切だと思う。
- ・ 家のなかの実態は外から分かりにくいので、こもらないように外に出るきっかけがある時(たとえば、行事や冠婚葬祭の時)を利用して、実態をつかみ対応する。

- ・ 日常的に声かけすることで、早期発見につながる。地域住民が情報を共有する。

◆児童虐待についての相談や通報が大切・・・

- ・ 虐待と思われる際、どこに通報すればよいかの具体的な連絡、相談先を皆に周知していくことからはじめたらと思う。
- ・ 専門的知識をもつ相談員に気軽に情報提供できる機関を設けて、早期発見・対策できるようにする。
- ・ すこしでもその兆候に気がつけば、早く公的機関に相談する。
- ・ 近所で気になる家庭や子どもがいたら、気をつけて見守り、おかしいと思ったら相談機関に通報する。
- ・ 子どもの泣き声、大人の怒鳴り声など、近所で見守る。泣き声があまりにひどい時は、主任児童委員、民生委員・児童委員、警察署へ通報するようにする。
- ・ 通報する勇気も必要ではないか。
- ・ 虐待が疑われる場合、地域の民生委員や警察に相談（通報）する。
- ・ パトロール等を充実させ、目配り声かけ気配りを行うことで、異常を感じた時は、それぞれ関係する行政機関に連絡をし、早急な対応をお願いする。
- ・ 虐待の疑いがある時は、関係機関へ連絡をするという意識が大切だと思う。
- ・ 虐待があるか否かということは、地域住民にはほとんど分からない。分かったとしても直接的な対応はできない。福祉事務所に連絡することくらいはできるかもしれないが。
- ・ 虐待防止については、近くの者で気づいた人が連絡できるようにし、それはもし違っていても、受け入れてくれるようにしてほしい。

◆地域での見守りのためのネットワークを強化していくことが必要・・・

- ・ 孤立しやすい家庭の存在を含めて、地域にある情報が集約しやすいシステムの構築。家庭地域相談員のような存在が、地域のなかに行政のネットワークとして存在し、そのことが広く市民に周知されていること。行政として、教育機関、児童相談所、警察等との相互のネットワークができていること。
- ・ 虐待としつけの見分けが難しい。子どもたちの身近にいて、子どもの変化に注意を払うことができる保育園、幼稚園、学校関係と地域が連携し、早期発見に努める。
- ・ 各家庭だけで解決するのではなく、周りのさまざまな人々のかかわりが大切であると思われる。その中心として、福祉課地域福祉係からのさまざまな情報も必要である。一方通行にならないよう、状況を吸い上げ、適切な形で担当への情報がもたらされることも重要である。個人情報として守ることは前提として。
- ・ 市、地域、専門機関との連携。
- ・ 早期発見が大切だと思う。関連機関の情報交換、相談内容等を共有する会議など行い、専門的な知識を持った担当者や、いくつもの事案を解決、経験した人の話を、関係者が聞く会などを行うことも大切だと思う。
- ・ 専門機関との連携を密に行うこと。

◆孤立しがちな子育て家庭を見守っていくことで虐待防止を・・

- ・ 子育て家族が孤立しないように、地域とつなぐ取り組みをつくる。大きなイベントのものより、小さな地域のなかでつながりをつくれるような場の提供
- ・ 新生児訪問や〇か月健診等で気になる家庭や子どもの情報を地域の民生委員や主任児童委員にも知らせ、見守りをする。
- ・ 育児ストレスの緩和のため、子育てをしている母親同士の集まる場をつくったり、時には訪問したりする。
- ・ 子育て支援やサークルなどに出向こうとする家族は、悩みも解決できるのだろうが、出向くことを躊躇している家庭は、孤立してしまわないか心配。

### 3. 障害福祉分野

---

---

【障害のある人や障害のある子どもの様子をみていて感じる課題】(斜文字:民生委員・児童委員。以下同様)

- ◆地域の人たちとの日常的なかかわりの機会が乏しい・・・
- ・ 地域に理解者と居場所が少ないと思う。障害のある人たちをサポートする方法も、知らない人がほとんどだと思う。各事業所だけでは限界があると思うので、行政で居場所づくりや預かり事業、それに伴う職員の配置に積極的に取り組んでもらいたい。
- ・ 地域の行事などの出席が少ない。地区での行事イベントで、ほとんど見かけない。家庭と所属している施設以外に、気楽に安心して出かけられる場所が、もっと複数あるのが理想だと思う。
- ・ 外出の困難、コミュニケーションの困難さもあり、地域の人たちとの交流、外出等にも影響が出ている。解決策としては、周囲の障害に対する理解が第一であり、居住環境や生活地域内での環境の整備が進むと、より生活がしやすくなると思われる。
- ・ 当事業所と家庭の往復だけで、他人とかかわる機会が少ないように思うので、もっと多くの人とかかわる機会が増えるよう、地域のなかに憩いの場的な場所がもっと増え、気軽に利用できるようになるとよいと思う。
- ・ 養育について保護者や家族のみがかかわることが多く、療育機関以外の人とかかわりが少ない。解決策として、地域への行事等の参加、子育て支援等の遊び場の経験。同年齢の子どもとかかわる場が少なく、遊びの経験が少ない。解決策として、一緒に遊べるような場所の提供と保護者への情報の伝達。
- ・ 家庭内だけでの対応でずっと過ごしていたことが、子どもにとって自立を妨げることにもつながっていたりする。ほどよく、地域の支援を活用したり、家族だけが抱え込まなくてもよい環境づくりも必要。
- ・ 学校卒業後の自宅以外の生活の場所の確保が必要。体が大きくなると、外出等が家族だけでは難しくなるので、余暇の充実のため、まわりの協力が必要。
- ・ どうしてもどの障害の人たちも外に出かけること、仕事をするもののハードルが高いので、引きこもりがちになることが多くなると感じる。居場所になるところをつくること、話す相手がいること(本当は話したい人がたくさんいる)。そういう場所で何らかの役割が少しずつできること(掃除、片付け、お茶入れ、コップ洗いだったりと小さなことから)。まずは他者と交流できる場があることが大切だ。
- ・ 地域のなかで障害のある人や子どもが、どこにいるのか情報がなかなか入ってこない。知っていても会う機会がほとんどないという状況だ。
- ・ ひとりで抱え込んでいる様子がある。地区のかかわりがないと分からないのが実情だ。
- ・ どの人が障害を持っているのか不明のため、問題も課題もみえない。
- ・ 障害のある人を接見させないようにしており、当方もプライバシーのこともあり、かかわ

らない。

- ・ 社会全体でやさしく見守り、手助けできることは、積極的にしてあげたい。障害のある人や家族も遠慮せずってほしい。身近にいる人にできることもあると思う。

◆偏見がまだまだ根強く、学びの機会が必要・・

- ・ 障害のある人たちは、現状の環境のなかで精一杯生きていると思うが、実際社会に出て、地域で暮らすことは非常に困難ではないかと感じている。地域の人々が障害に対する知識を身につけることで、障害のある人に対する理解が変わるのではないかと思う。たとえば、学校教育の場で、障害に対する理解を深める場を設定するなど・・。とにかく、地域や社会が彼らを受け入れようとするれば、障害のある人たちも、少しは生きやすさを感じるのではないか？
- ・ 障害のある人たちの偏見と障害に対する理解が市民の人たちの大いに不足している。障害のある人たちの理解を求める広報や研修会の開催、当事者や家族の人の話を聞く講座の開催。
- ・ 知的障害や精神障害のある人の理解不足のため、公の場で一般の人から嫌な目でみられたり、嫌なことを言われたりして苦労している。
- ・ 障害種別ごとに理解が得られていない。障害のある人の理解の啓発活動、個別性を大切にする支援が必要。私たち相談員が当事者の思いを代弁できるようになっていきたい。
- ・ 障害の特性がまだ周知されていないこと。本人の障害特性を受け入れる活動場所が、学校と施設に限られてしまう。さまざまな場面での地道な啓発活動が必要かと思う。地域や学校などへの指導・助言が不可欠だと思う。
- ・ 知的な遅れのない発達障害の子どもたちの支援、受け入れ先が十分でない。地域社会のなかでの居場所や理解も不十分に思う。発達障害に精通したスペシャリストによる啓発活動や居場所の整備が必要。強度行動障害のある子のかかわりについても難しく、受け入れ先も不十分である。こちらも発達障害と同じ解決策であると思う。
- ・ かかわっている子やクラスは、意識が高まるが、関係のない子どもたちへは、なかなか・・。全体としての教育も必要だし、地域も心がけたいと思う。運動会の時、大きな拍手で応援している。いつもそうありがたい。
- ・ 障害のある人に対する物的な支援もさることながら、障害のある人が抱えやすい精神的な問題への支援が少ないように思われる。まず、障害のある人が抱えやすい精神的な問題が何であるのか。専門家の講演等で地域が理解することからはじめ、その対策を地域と行政が一体となって推進していく。
- ・ 市のサービス等を積極的に使うよう、勧めたいが、失礼にあたるのではとも思う。アンケートなしでは状態がつかめない。
- ・ 「障害は個性である」という認識が地域のなかで不足していると思う。そのためには啓発活動で、私たちの物と心の両面のバリアをなくしていくことが重要であり、健常者と同等に権利、身分保障につながるように権利擁護の運動など、重要ではないかと思う。

## 【障害のある人や障害のある子の家族の様子をみていて感じる課題】

- ◆相談支援につながっていない、もしくはつながることが困難な場合がみられる・・・
  - ・ 行政サービスに詳しくなかったり、相談窓口につながっていないケースもある。
  - ・ 保護者は子育て・子どもの状況等に不安があるが、どこに相談してよいか分からない場合がある。乳幼児健診等での相談、保護者への情報提供、市の療育事業等が必要。近くに療育施設、障害の特性や行動を理解されづらい。障害についての認知、情報等を周囲の人に伝えていく必要性がみられる。
  - ・ 本人や家族の思いや悩みを話せる人や場所がない。相談員の育成と相談場所の確保が必要。
  - ・ 障害のために、人との交流が少なくなり、情報をタイムリーに入手できなくなる。家族や周囲の人の障害への理解が不足しているために当事者が相談できる相手は、主に施設の職員や相談支援事業所の職員となっている。そのため、地域で障害のある人や家族の見守り、相談が気軽にできること、障害のある人が社会参加しやすい地域づくりが望まれる。
  - ・ まだまだ、どこに相談してよいのか分からないといった声をよく聞く。悩んでいる家族こそ、相談する人や場所を知らない（出会えていない）と思われる。情報不足。
  - ・ 介護で家族が疲弊している。親やきょうだいにも障害があり、理解が難しい場合。誰にも相談できず家族で抱え込んでいる。
  - ・ 家族も体調不良や高齢、経済的問題を抱え、当事者を支える能力が低下している場合も多くみられる。そのため、家族に対して、相談窓口を周知したり、必要な情報を提供し、周囲が支援していくことが望まれる。
  - ・ 必要な助けを求められずに孤立している。
  - ・ サービスを利用できている家族はよいが、情報を得ることの難しい家庭もあり、家族自体にサポートが必要な場合もあり、生活困難の悪循環が続いているように感じる。
  - ・ 家族が家に引きこもる可能性がある。サポネットへの相談や障害の会等への案内や参加を勧める。
  - ・ 福祉機関とつながることが難しく、孤立している家庭があるのでは・・・？と思う。
  - ・ 相談先が分からない人もいると思う。班長や民生委員が声かけしたり、地域にどんな人がいるのか、知ってもらっておく。
  - ・ サービスの受け方が分からず、抱え込んでいる。任せられずにいることが多い。
- ◆家族介護者に大きな負担がかかっている・・・
  - ・ 家族は、介護、介助について、大抵多くの時間を費やしている。日常の買い物もままならない状況の場合もある。仕事もままならない状況になると、生活の困難を抱えてしまう場合もある。サービスを利用することで、いくらか軽減できるが「サービスのすき間」の補いに困っている。
  - ・ 家族の介護だけで頑張っているので、負担が大きい（重度障害者に多い）。家族だけで抱え込み、孤立化しているところもある。
  - ・ 子どもが自由に行ける場所が少ない。日中一時や放課後デイ、移動支援等で使える事業所が少ない。

- ・ 保育・療育・教育と節目で支援が途切れるので、ライフステージに合わせた切れ間のない支援が必要。発達障害や行動障害の子どもたちは早期発見できず、支援が遅れがちになって、後手になる。専門的な援助者も少なく、周囲の理解が得られにくい。
- ・ 本人の障害特性を受け入れる活動場所が、学校と施設に限られてしまう。問題行動において、相手に迷惑をかけたという思い。
- ・ 子どもが小さいうちは、手をしっかり握っていれば大丈夫だった。しかし大人になると、体も大きくなり、連れてまわるのも大変。ひとりですべてできるようにと努力しても、受け入れてくれるところが少なく、作業所など行き先が限られている。親が安心して働ける保育園や学童保育、病児保育を充実させてほしい。

◆家族介護者のレスパイトが必要・・・

- ・ 毎日のことなので、家族のリフレッシュがいるのでは。
- ・ レスパイトケアが必要。
- ・ レスパイト先が少ない。母親が不調の時、出産、きょうだい児の用事などの時。
- ・ 自分だけの自由な時間の確保が難しい。常に子どもの体調管理に気をつけている。
- ・ 保護者の不調時や出産、冠婚葬祭の時、預かってもらえるところが少ない。

◆将来への不安、親亡き後の心配・・・

- ・ 親が高齢化しているなか、親亡き後のことが心配。後見人探し。
- ・ どのような支援があるのか知らない。子どもの将来。親は先に亡くなるので、残された子どもをどうしようか。
- ・ ほとんどの保護者は、自分たちがいなくなった場合のことを考えると不安に感じているようだ。また、他人に迷惑をかけたくないという思いも強いようで、事業所等に対して、こうしてほしいというようなことが、なかなか言えないように感じる。
- ・ 将来の生活の場：両親がいなくなった際に、本人はどうやって生活していくのか（生きていくのか）。緊急時に預かってくれる施設がない。
- ・ 障害のある子を持つ家族は、養護する親が高齢になるにつれ、子どもの将来に不安を持っているのではないかと思う。

◆自分たちのような家族同士で語り合える場や、専門の人の話を聞ける場があれば・・・

- ・ 日常生活の細かいことから、さまざまな工夫を考えて、本人を支えているのか家族である。また、将来のことを考えて、不安なことから、本人のペースや思いをくむ余裕なく、進む道を決めてしまう場合も多いと思う。やはり話す場が必要だと思う。情報も必要だ。同じ悩みをもつ家族、少し先に行く（我が子より年上の子どもを持つ）家族と話すことでヒントを得たり、希望を感じたり、自分たちの考えを整理できたりする。困っていること、悩んでいることを発信できることがストレス軽減につながる。助けてくれる人と出会えたり、情報をもらったり、次のステップにつながることもあるかもしれない。
- ・ 家族の様子をみていると、本人たちができる社会参加の形はどれが適切であるのかということに悩んでいる人たちが多いと思う。本人たちの障害や特性を理解しているからこそ、どのような形で社会参加することが望ましいのかということに悩んでいる。また、どのよ

うな参加の形があるのか情報を知りたいという人も多くいる。親元を離れた際に行うことができるサービスや支援の情報を求める人たちが多くいる。

- 子どもの年齢によって、その悩みも変化していく。乳幼児～大人になってからも障害のある子どもをもつ親の子育てに終わりはないかもしれない。「自分が死んだら、この子はどう生きていくのか」、その思いはどの親ももっていることだ。特に大きく悩むのは、我が子に障害があるということを受容しなくてはならない時期だろう。この時期を早く乗り越えて動きだせるかどうかは、同じ悩みをもつ家族と話すことができる場があるかどうかではないかと感じる。話す場があることは、やはり重要だ。人に話すことは勇気のいることだし、同じ気持ちを理解できる、共有できる人でないと話した時に返ってきた言葉にひどく傷ついて落ち込むことになるので、必ず同じ状況の、もしくは状況であった家族と話せる場を持てるといいなと思う。
- 周りとうまくいかない。孤立、自尊心が低い。自分に自信が持てないなど、自助グループに参加し、同じような障害のある人とのかかわりで、孤立感は幾分和らぐのではと思うが、実生活のなかでは、厳しい現状があるのではないだろうか。

◆子育ての悩み、特にきょうだい児がいる場合の悩みは深い・・・

- 障害のある子の他にきょうだい児がいる時は、きょうだい児が我慢させられることが多々あるのではないかと思う。たとえば、ショッピングセンターや遊園地、映画館など、外出が制限されるのではないかと思う。また、きょうだい児にはきょうだい児の悩みがあるのではないかと思う。きょうだい児のネットワークづくりが必要だと思う。
- きょうだい児へのかかわり不足。長期休みの過ごし方。学校とのやり取りでうまくいかなかった時。かかわり方が分からない時に相談する人がいない。

**【障害のある人や障害のある子どもならびにその家族を支援する行政サービスについての課題】**

◆福祉サービスの情報をもっと丁寧にならせていくことが大切・・・

- 行政サービスについて、実際の利用の仕方も分かっていない家庭もあるかもしれないので、パンフレットなどをもっと地域に身近においてほしい。
- 行政サービスについてくわしく知らない人が多くいるように感じている。もっといろいろなサービスが受けられるようにするために事業所同士等の連携を増やし、お互いを紹介できるようにするとよいと思う。また、行政サービスについてのセミナー等があるとよいと思う。
- どんな行政サービスがあるのか、あまり知らないこともあると思う。きめ細かな対応ができるように情報をもっともっと知らせることと、行政側が知らないことも多いので、エキスパートの人で対応できるようにしてほしい。
- ひきこもりやすい状況にあり、支援や行政サービスの情報が行き渡らない。子どもやその家族を知る人を増やし、その人たちに行政と地域のパイプ役になってもらう。
- 受給者証の更新のお知らせやサービス手続きの変更があった場合などの知らせが保護者の人たちへ十分に伝わっていない場合が若干ある。本人の年齢が上がってきていることも

あり、保護者が高齢になっている人が多くいるのが現実である。郵送などでの通知では、内容を理解されていない場合もあるので、スムーズに手続きが進められるよう、フォローをしてもらえると、保護者の人たちも安心すると思う。

- さまざまな行政サービスについて家族や我々療育スタッフも十分に理解していないことが多い。まず利用できる行政サービスを家族が理解することが大事であるため、我々療育スタッフも制度も含めた行政サービスについて十分に学び、子どもに必要なサービスを必要な時期・タイミングで家族へ伝えていくことが大事だと思われる。行政もサービス内容について、家族に伝える場をきちんと設ける必要があると思われる。
- 障害者施策が自立支援法から障害者総合福祉法へと法律制度がめまぐるしく、数年おきに变化するため、福祉事務所や関係者でさえ、熟知するのが困難であるので、ポイントだけでも市民へ広報を行ってほしい。広報誌掲載のみならず、市内数か所で説明会を行うなど、周知を図ってほしい。
- いろいろな行政サービスがあるが、どれを利用したら一番良いのか分からない。パンフレット等を作成。行政の窓口での聞きやすい体制が必要。
- 必要な情報が必要な人たちに届いているかどうか、担当者がさまざまな情報をもっているか、人と人をちゃんとつないでいくことができているか、かかわっている人が障害についての理解がどれだけできているのか、障害のある子やある人の思い、その家族の思いを感じ取ることができるか、言葉かけで相手を傷つけていないか等、支援する側としてはいろいろ考えなくてはならないと思う。できれば希望や元気、安心を感じてもらえればと思う。してあげることばかりが行政の仕事ではないと思う。障害のある人、家族が自分たちで何かやっていく力、強さや知恵をつけてもらう支援のあり方も考えてほしい。家族や本人が話せる場をつくることや相談できる窓口の充実等も。
- 高齢者へのサービスのようには制度化されていないことも多いのではないか。そのため、相談窓口が分からない、サービスを受けづらい、ということも起こっていると思う。障害はさまざまなゆえに、問題も多岐に渡りすぎて、対処は難しいと思うが、具体的なサービスが明確に分かるようになっているのだろうか？そもそも行政は、地域に住む障害のある人を全員把握しているのだろうか？
- まずは家族が障害のある人、ある子のことをどこまで考えてくれているか、理解度からまったく違ってくると思う。なので、家庭訪問等をして、個々人から話を聞いてから、支援の方法を考えた方がいいと思う。家族によっては、協力度がまったく違う。
- 個別性を大切に支援していくためには、相談支援専門員の人数が足りない。是非、増員できるような体制を整備してほしい。

◆ライフステージや状況に応じた切れ目のない支援のための連携が必要・・・

- 乳幼児健診等で、児童発達支援センターと協力をして早期発見、早期療育につなぐ。センターと市の保健師との連携が必要。市役所内での横の連携をとってほしい。
- 障害がまだ確定していない時期からの支援体制を考えると、障害福祉だけでなく、子育て支援の視点からも支援体制が必要と思われるし、学校教育に上がった時点で、困難な状況が浮き彫りになってくるケースも多いことから、障害＝障害福祉の分野だけではフォロ

一できないと思う。子どもという視点で考え、もっと子育てと学校教育と障害福祉が共同で取り組む機会を増やすべき。健診と子育てと福祉の連携強化。相談窓口の一本化（総合相談窓口の設置など）。

- 本人を取り巻く環境が多岐に渡っており、さまざまな施設、機関がかかわっている。施設、機関の間での連携が難しく、情報共有が難しいように思う。成長とともに必要な支援をつなげていくコーディネーター的役割が重要と思われる。
- 障害をもつ子が、ぜんそく等で受診した際、診てもらえる小児科医がほとんどない。大学病院や聖マリアなどから、地域に帰るときにもっと個別性に合わせた引き継ぎや連携体制が取れるようになり、地域の小児科医が連携して診察してもらえる体制づくりを進めてほしいと思う。
- 行政や施設、病院、学校、地域、家庭等の連携がもっとスムーズになり、訪問看護、訪問リハ、訪問入浴、保健師の家庭訪問等、必要に応じた支援のコーディネートができるようになると思う。連携の輪を広げていく取り組みを続け、充実させていくことが必要と考える。
- 障害児の就園先(保育園・幼稚園)と児童発達支援センターとの連携が難しい場合がある。保育所等訪問支援事業の市内保育所、幼稚園、小学校等への周知徹底を市から。

◆家族の負担を少しでも減らしていくサービスが必要・・・

- 私自身、家族支援は、短期入所、レスパイト、放課後の一時預かりなど、家族の負担を軽減するサービスだと認識しているが、私の勤務する事業所の利用者と家族は、申請はしているが、サービス利用している人はごくわずかである。家族も人に任せるのが不安なようだが、必要な支援策だと思うので、もっと家族、事業所、行政が密に連携できる仕組みをつくる必要があると思う。
- 利用料の負担が大きく、困っている人が多いのでは。また、ボランティアで何とか支援してもらえないかとの相談を受ける。実際には希望どおりの時間や場所に、ボランティアの人の都合を合わせて派遣することが困難である。
- 日中一時等の単価を高くして、レスパイト先を増やし、充実した支援ができるようにしてほしい。
- レスパイト先が少ないので、レスパイト先を増やしてほしい。
- 共働きの家庭の学童の長期休暇のレスパイト先の不足があると思う。日中一時の単価を上げ、充実した支援体制を取れるよう行政が補助してもらいたいと思う。

◆療育を提供できる場所や機会が限られてしまっている・・・

- 近隣に療育機関が少ないので、保護者は不安を抱き続け、子どもには早期に療育が開始できない。療育機関が増える（児童発達支援、放課後等デイサービス）、市の療育事業の充実が必要。
- 障害のある子どもを抱えるなかで、保護者の養育負担軽減のために預ける場所が少ない。日中一時支援などを行う事業所が増えるといい。
- 障害児教育について、学校や先生により差が大きい。就園や就学について、柔軟な対応が

できない。療育が必要なお子さんがいるにも関わらず、きょうだいを預けられず、療育を受けることができない。

- ・ 鳥栖市で実施されている「超早期療育」や発達障害（情緒障害）専門の相談窓口、通所機関があるといいなあと思う。

## 【障害のある人や障害のある子ならびにその家族を取り巻く地域社会での取り組みについての課題】

### ◆障害や障害のある人や障害のある子についての理解を深める機会が必要・・・

- ・ 地域の人たちの理解や協力を得るためには、時間がかかるかもしれないが、講演会や体験型講座などをもっと開催する。
- ・ 地域社会の障害に対する理解不足。解決策として、イベントを催し、交流の場を増やし理解を深める。地域活動への障害のある人たちの参加が少ない。本人や家族だけでは参加が困難なので、サポートする人を増やしていく。
- ・ 障害に対する正しい理解の促進。障害に対する社会的な誤解や偏見は依然として存在している。障害のある人が地域において自立して生活できるよう、さまざまな障害に対する理解を促進し、障害の有無に関わらず、互いに人格と個性を尊重し合う共生社会を築いていくことが大切。
- ・ 地域的なこともあり、障害のある子に対する理解が低いところがみられる。そのため、その家族等だけで解決しようとする様子がみられる。
- ・ 障害のある人に対しての差別意識が根強くあると思うので、公民館をもっと利用して、さまざまな講演会を開いてほしい。
- ・ 地域の人に理解をしてもらい「協力」とまではいなくても、見守ってもらうだけでも、変わるのではないかと思う。

### ◆本人たちとかかわりが持てる機会があるといいのだが・・・

- ・ 地域や市の行事などに「行きにくい」と思わせないように、障害のある人やその家族に参加を呼びかけ、同時に、介助者を手配するなどの行政からの配慮があってもいいのではないか。
- ・ みんな自分ごとと思っていないし、遠巻きにみているだけなので、好奇の眼で見てしまうのだと思う。もっと普通に歩いて、もっとふれあいの場（特別な催しでなく）を幼い子どもたちの眼で見ると同時に、幼い頃から自然に集えたらいいと思う。
- ・ まだまだ、偏見が多いのではと考える。親は偏見があるから引きこもる、その子を外に出せない。
- ・ 家族のなかで障害がある我が子を囲い込む場合や周囲に話せない家族もあると思う。子どもが小さければ、地域に出ることも多いので、障害のあることを話す機会もあると思うが。周囲に何か迷惑がかかったりするようなトラブルが発生した時に上手に障害のことを伝えることができないこと、理解してもらえないことがあると思う。そういう時に、地域のなかでパイプ役になってくれる人、相談に乗ってくれる人、支援してくれる人がいるといいのでは。そういう力になってくれる人が、さらに別の人へとつないでいく関係性になっ

てくれて、地域のなかで理解が広がるといいと思う。けれどまず、障害のある人・子どもの家族が地域の活動に積極的に出ていく努力がいると考える。その勇気をつけるには、話せる場に出て行って、仲間をつくるのが第一歩かもしれない。

- ・ 特別なことではなく同じ市民であるという気持ちが薄い。公民館レベルでふれあいの場をつくる。
- ・ 障害をもった人とふれあったことのない人は、偏見な眼でみたり、何でこんなことができないの等、そういったところが見受けられる。仲間内だけの環境ではなく、もっとたくさんの人と接して、話して、障害のある人とふれあってほしいと思う。
- ・ 周りの人が、障害のある人に対してどうしていいのかわからないことが多いと思うので、普段からふれあう機会があればいいのかなと思う。
- ・ 地域とのかかわりが少ない。ふれあえる場など、もっと多く機会をつくってほしい。
- ・ 障害のある人と地域を分けてしまったことが課題。子どもの時であったら、地元の小中学校に普通に行けたらよい。何よりも、本人たち、その人自身を知ってもらうことが大事。気を遣わない地域。
- ・ 区の行事に参加することが少ない。区の行事を計画立案する時に、障害のある人が参加できるような内容とする。

◆実際にかかわるとなると、家族の思いや分からないことも多くて戸惑ってしまう・・・

- ・ 大変難しい設問に感じる。立ち入ったことをいったりしたりすれば「お節介」になりかねない。行政を通してのボランティア活動がよいと思う。
- ・ 自治会は、障害のある人のことを把握しているのだろうか？実際には、近所であっても、プライバシーには踏み込めないのが、精神障害のある人の場合など、家族が隠していれば、存在すら分かりかねるし、支援の申し出も家族が遠慮すればしづらい。困った時に頼めるような地域のボランティアがあればよいかもしれないが、自治会はただでさえ用事が多く、ボランティアをつくるのは難しいのでしょう。
- ・ 地域でも、どのような障害のある人がいるのか、分からないのが現状。地域の人たちに知ってもらうことが重要だと思うが、保護者の考えもあり、難しいことの方が多い。
- ・ 地域に住む障害のある人のことはよく知らない。誰かに聞いていいことかなとも思う。詮索するようではばかられる。
- ・ 障害のある人や障害のある子どもが地域にいないか分かっていないと思う。地域の人を知ることも大切だが、本人、家族は知られたくないと思っているかもしれない。慎重に行わないといけないと思われる。
- ・ なかには障害にあることを家族が恥ずかしいと思ひ込み、隠していたりして、非難を受けてしまったりする。解決策としては、学校や地域の人に公表して、理解してもらうようにするなど。
- ・ 障害のある人、その家族も障害をもっている事例も少なくない。そうなるとうち、地域とのかかわりがもてず孤立したり、地域に出ても人間関係がうまく築けないこともあると思う。民生委員など地域での見守りは現在もあると思うが、地域住民の人たちの理解、協力を深める取り組みがあればと思う。

- ・ 家族と同居している高齢者などで、障害をもっている人がいると思うが、民生委員活動のなかで把握できていない人がいるようだ。個人情報保護法に基づき、知ることができない件があり、災害時の対応に問題がある。
- ・ 身体的の場合は分かりやすいが、知的障害の人が分かりづらく、対処しづらいのが現状だ。個人情報の点で、なおのこと手を打てずにいる。
- ・ 外にあまり出ていないのかと思う。私たちも知らないことが多い。
- ・ 何か手助けしたくても、勇気なく過ぎてしまう人が多い。勇気をもって相手に接するようになりたい。
- ・ 精神的な障害のある人は、本人が地域から孤立し、身内も取り合わないケースが多く、対応が難しい（正しい精神障害の知識をもち、見守り支援をする）。
- ・ 情報があまりないと思う。
- ・ 精神的に不安定な人が少しずつ増加しているが、対応の仕方がよく分からない。
- ・ あまり深く話したり、聞いたりすると、反対に取られることがあった。障害のある人とのかかわりは非常に難しい。
- ・ 正直、どのような行政サービスがあるのか、ほとんど知らない状況である。

◆障害のある人本人たちが気軽に過ごせるところがあるといいのだけど・・・

- ・ 障害のある人、子どもたちの休日、放課後の過ごす場が少ない。公的なサービスを増やしてほしい。
- ・ いろんな人とかかわる機会が少ないように思うので、地域のなかに憩いの場的な場所がもっと増えるとよいと思う。
- ・ 地域に障害のある人たちが気軽に来られるような場所が必要だと思う。
- ・ サービスを利用する人は、地域以外で人のかかわりをもっているため問題は少ないが、何のサービスも使っていない人は・・・
- ・ まずは家から出ることを支援する場所。

**【災害時、障害のある人や障害のある子どもに対する支援活動を実施するため地域社会での取り組みについての課題】**

◆普段からの近所づきあいや地域とのかかわりが大切・・・

- ・ 日頃からの隣近所との関係づくりが大切だと思う。障害のある人の支援のボランティア団体の人たちは、ファックスやメールなどを活用した避難訓練などを時々自主的に実施しているが、いざという時のために、近所の理解と支援、話し合いの場があるといいと思う。
- ・ 互いに顔を知るには、たとえば地区の行事、イベントに（毎回）出席する。体力的に無理であれば、防災訓練の時、家族と一緒に顔をみせてほしい。
- ・ 家族が許せば、障害があることを伝え、避難する時、援助してくれる協力者を近所につくっておく。
- ・ 日頃からの近所づきあい。
- ・ まずは、家庭内から地域に向けて情報を発信してほしい。協力的な地域住民も数多くいる

と思うので、防災マップのような、SOSの声が届きやすい、眼に見えるものがほしい。

- ・ 市、町内での連携、どこにどんな人が住んでいて、いざ、どうしていいのか分からないのが本当だと思うので、普段から交流があれば、いいのかなあと思う。
- ・ 隣近所に日頃から災害時にどのような動きをしてほしいのか働きかけを行っておく。
- ・ ご近所サポート。いざという時、サポートできるのは身近にいる人なので、日頃から顔を合わせた関係をつくっておく。たとえば、毎月定期的にお隣さんにごあいさつ。
- ・ 防災組織、規約などの作成は、当然必要とされることであるが、それより大切なことは、日頃の地域活動（サロンなど）、住民の絆を大切にすることが一番と考える。突然の災害時でも見知らぬ人のお世話になるには気が引けると思う。
- ・ 地域住民の一人ひとりが高齢者、障害のある人に関心をもってもらおうことだ。身近な隣組の人たちから。
- ・ 区内での各組長や、向こう三軒両隣の関係で、また、つながりで、声かけ見守りながら「いざ」という時は、避難の場所への誘導などすることだと思う。普段はあいさつ程度でも、何か起これば人情味を出して、お互いに助け合おうと思う。
- ・ 市町村の避難誘導は大切だが、日頃から気軽に声かけや助け合いのできる関係をつくることが大事だと思う。ふれあいネットワークの枠を広げる。地域で安全な避難場所（最も近い）を知っておく。
- ・ 日常のかかわりが、災害時にも役立つと思う。隣近所の日頃のつきあいを密にするために、地域のイベントやレクを計画する。
- ・ 日頃からのコミュニケーションが大切だと思う。

#### ◆避難訓練を実施することが必要・・・

- ・ 事前に絵や文字での説明や、避難訓練などを定期的に行い、その行動に慣れてもらう。
- ・ 日頃から障害のある人や障害のある子どもたちだけで避難場所を設け、一緒に避難訓練を行う。
- ・ 定期的な地域での避難訓練を行い、防災意識や地域力を高める。平時に緊急時を予測し、役割分担を決めておく。地域住民、家族間での話し合い。
- ・ 日頃から訓練をするしかない。作業所や施設で計画し、身体障害者手帳をもとに誘い合う。
- ・ 障害のある子（人）のための防災ハンドブックの作成。障害の種別によって避難の仕方や避難場所の環境が異なると思う。そのために障害の種別ごとに明記されたものであること。そして、ハンドブックができれば、定期的な避難訓練が必要だと思う。
- ・ 実際、防災訓練に参加したことがあるが、個人情報保護で、障害のある人や障害のある子どものいる家が分からなかったため、まず、その情報が分かるような取り組みが必要。支援方法、車いすの使い方など、いろいろな方法を練習できるように、防災訓練などに取り組む。
- ・ 地域のなかで防災避難訓練があるとよいと思う。
- ・ 私は知的障害のある人以外はあまりかかわったことはないが、あらかじめ彼らに反復して避難ルートや避難場所をみせて、覚えてもらうとスムーズに行くかも知れない。方法として、地域全体での避難訓練を行うことができればと思う。これは、地域の人たちが彼らの

行動や特性を認識できる場となり、障害のある人たちは、避難経路を覚えることができる方法だと思う（事前の打ち合わせ、準備が大変だと思うが・・・）。

- ・ 地域において、障害のある子ども地域の人たちと一緒に避難訓練を行い、災害時での行動等の経験をすることにより、より円滑に対応できるかと思われる。障害のある子の家族だけではなく、なるべく周囲の人も障害の状況や特性を知っていることで、障害のある人への対応を知っていく（食事の形態の把握や介助方法を記入したもの等を準備しておく、介助方法や薬の服薬状況等をまとめておき、誰でも介助等できるようにしておくなど。大声が苦手なので、ヘッドホンを着用する、人の多さが苦手なので、なるべく人を避けて避難する等）。
- ・ 災害時を想定して普段から定期的な避難訓練を実施していく。保護者に対し、救急救命の訓練などを実施する。
- ・ 実践的な防災訓練。避難所を実際に開設し、何が不足しているか改善点を洗い出し、備える。
- ・ 最近、いろいろな災害が起きてもおかしくないため、1年に2回や3回、いろいろな災害を想定して、避難訓練を実施していく必要があると思う。
- ・ 日頃から障害があってもなくても訓練をしておくことは必要だ。もしもの時にどうするかは、家族のなかでも話して、問題点を出しておく。地域でもイベントで避難訓練をするとか、災害があった時のために話し合いの時間をもっておくなど、できることからやってみたらいいと思う。
- ・ *地域で避難訓練の実施。*
- ・ *該当者だけの訓練の場を設ける必要があると思う。*
- ・ *災害のマニュアルを作って、避難の訓練などを行うこと。*
- ・ *特にひとり暮らしの高齢者、障害のある人については、地域のなかで区長や公民館長および民生委員等を含む防災体制の取り組みや訓練が必要。*
- ・ *避難訓練の実施を定期的に行う。区、班等の連携を大切にする。*
- ・ *形式的な訓練ではなく、可能な限り実際に近い状況を設定し、訓練を行うようにすればよいと思うのだが？市→地域→隣組に下して、しっかり把握すること、そのためには隣組にお願いする方法がうまくいくのでは？（近所で一番皆さんのことを知っているのだ）。*

◆支援が必要な人たちを把握しておくことが大切・・・

- ・ 障害のある人が高齢である場合は、さらに高齢の親と住んでいる人もいるため、そのような家庭を地域で把握してほしい。
- ・ その地域の区長を中心に、その地区での情報をまとめておいて、特に災害時に気をつけなれないといけない家庭の把握と、日頃からの声かけなどが必要と思う。
- ・ 地域のマップづくりをして、現状を把握できるキーパーソンをたくさん育成する。
- ・ 事前に障害のある人が、どのような状態か把握し、そのための準備をしておくこと。
- ・ 日頃からの地域とのかかわりが薄い家庭こそ、災害時の避難には支援が必要になるので、日常的に、校区ごとでも地区ごとでもいいので、支援の必要性の実情を把握しておくような仕組みができないか？

- ・ どこにどんな人がいるのか知る。支援者が何人必要かは調べておく。支援者を決めずに、とりあえず空振りでもいいので、近くの人が支援に行く。素人でも分かるように必要な支援方法を書いた用紙を分かるところに貼る（ベッドにかかえ方や、もっていく医療器具など。2人でかかえる、ひとは医療器具をもつなど）。
  - ・ 地域の環境を確認するために「福祉・防災マップ」をつくる。認知症、生活に困っている人、困られる人、拒否される人、身体状況の裏マップが必要。よけいなお節介とは思わずに、日頃から行政・地域との関係づくりをしてもらいたい。避難場所までのシュミレーション、身体障害、視覚障害のある人は不安でたまらないようだ。
  - ・ 障害のある人・子どもがどこに住んでいるのか、その情報の共有をどこまでの人たちがやるのか、情報の伝え方にも工夫が必要だと思う。
  - ・ 特に身体、聴覚、視覚障害の人たちがスムーズに避難できるよう、地域のなかでそういう人たちを把握できているとよいと思う。
  - ・ 学校や地域で安心して生活できる環境をみんなで作っていくことだと思う。特に災害が起きた場合、障害のある人をどうやって避難させるか、どこに避難したらいいか、不安な人もいる。隣近所や各区で、どこに障害をもった人がいるのか把握する必要があると思う。特にひとり暮らしの高齢者や障害をもった人の対応を細かく把握する必要がある。
  - ・ 個人情報保護の趣旨は理解できるが、障害のある人などについては、本人の申し出がない限り分からない。地域の自主防災組織には、一定の条件のもとで、個人情報の開示がないと、対応できない場合が多いと思う。
  - ・ 避難する場所を前もってよく把握しておく、また、どこに高齢者や障害にある人がいるのか？地域ぐるみで助け合えるような環境づくりが大切だと思う。
  - ・ 区で高齢者や障害のある人などを調べておく必要がある。
  - ・ 高齢者や障害のある人といっても、その人の住所、名前を知っているのは限られた人と思う。個人情報云々があるが、支援する人がどの範囲まで知ることができるかによって、取り組みが違うと思う（支援する体制）。
  - ・ 災害時を想定し、支援がスムーズに運ぶためには、予測される災害のシミュレーションを実施して、必要な高齢者、障害のある人の個人情報を行政とともに地域でも共有することが必要だと思う（特に移送、移動支援）。また、要援護者の登録もして、避難所も福祉避難所の開設を。これも想定し、実施を。
  - ・ 隣組であらかじめ支援活動の話し合いを持ち、手助けのいる人たちを把握しておく。
- ◆支援にあたっての役割分担を決めておくことが大切・・・
- ・ 普段から対象者を確認しておいて、地域の役割担当者を決めておいて、行動するようしておいてはどうだろう。
  - ・ 区長を中心にして、各地区で声かけをして一緒に避難をする担当者を決めておくなど、具体的な対応の仕方を決めておく必要があるのではないかと思う。
  - ・ 避難経路の事前通知や、お世話をする人の確認をしておく。
  - ・ 高齢者、障害のある人を誰がどこに避難させるのか決める。学校、校区公民館は遠方で、さらに道路が整備されていない。

- ・ どのような災害が起こることがあるか考え、それぞれの場合において、当事者が何の支援を望むのかを事前に把握し、そのためには、誰が何をするのかの役割分担を明らかにしておくことが必要だと思う。

◆災害時の行動や支援について、理解を深める取り組みが大切・・・

- ・ 要援護者支援制度を各地域で根付かせる。そのためにも自主防災組織の大切さを当事者や家族、市民に知ってもらうこと、広報活動を行っていく必要がある。広報活動が効果的な時期を狙って行っていくことも必要。
- ・ 地域で、災害についての学習会をする。行政からの出前講座などを活用したり、話を聞くだけではなく、お互いに意見を出し合うような学習会がいいと思う。
- ・ 消防署への訪問を行い、災害時の話等、聞く機会をつくる。
- ・ 今現在、想定外の被害が他県で起きている。区長や区の役員、地域全体のまとまりが必要。そのためには地域全体の災害の時の知識を把握してもらうことだと思う。把握してもらうには、行政区が大変だと思うが、実際に被害を経験したまち（八女、うきは、朝倉など）の行政区の人たちを招いて、話をしてもらった方が地域全体につながると思う。
- ・ 地域ごとに定期的な集会を開き、情報を共有し、避難場所、支援活動の要領等について説明する。

◆福祉避難所の開設に向けた取り組みが必要・・・

- ・ 健常者と別で、避難場所を作っておいた方が良いと思う。
- ・ 障害のある人のための避難施設。
- ・ 避難先も障害の種類によっては難しいことがあると思うので、災害のある前に十分に考えておかないといけないだろう。

**【障害のある人や障害のある子どもの行方不明事故を防止するための地域社会での取り組みについての課題】**

◆普段からの地域とのかかわりで、顔見知りになっておくことが重要では・・・

- ・ 最近では、昔のような地域とのかかわりがなくなってきているので、近所に住んでいる人の顔も知らないことが少なくない。まず、顔をあわせる機会をたくさんつくることが大事だと思う。顔を知り、何となく状況を知り、言葉をかける関係性が大切。障害のある人だけでなく、子育てにも欠かせないことだと思う。地域のたくさんの人に顔を覚えてもらうことで、声をかけたり、注意しやすくなるので、少しでも防止につながるのではないかな。
- ・ 障害を持つ人や子どもの理解を十分に促すことが必要であると思われる。日頃から地域の人たちとかかわる機会を意図的につくり、行方不明になった時に、近隣の人にも協力してもらえる体制を整えておく。
- ・ 地域の人が障害のある子どもを知っておく。行事には障害のある子どもも必ず参加させる。
- ・ 地域で障害のある人や障害のある子どもを日頃から把握し、また、障害のない人たちも、ある人たちもともに、交流の盛んな地域をつくる取り組みが大切だと思う。
- ・ 小さい単位（回覧板回り）で、お互いに声をかけあったり、顔見知りになっておくこと。

- ・ 日頃から地域での声のかけ合いや住民が集える行事があるといいと思う。
- ・ 地域の皆が障害のある人たちまたは子どもたちに対して、常日頃から見知っておき、道であった時等、気軽に声かけ等を行えるような雰囲気づくり。
- ・ 日頃から地域活動などに参加して、顔を覚えてもらっておくのも大切だ。そしてサポートブックを障害のある人・子どももひとり1冊作っておくといいと思う。行方不明になった時に使える。さまざまな特徴がすぐに理解してもらえるので。地域を顔の見えるまちとして、多くの人に散歩してもらい声かけを互いにするようにしていくことで、防げることも多くあるのではと思う。家族は本人の行動範囲を知っておくことは大切だと思う。
- ・ お互いの家庭のことをいえる関係をつくり、声かけなどの日常の活動を大切にする。

◆本人や家族からの発信と見守り体制の構築が大切・・・

- ・ 何らかの連絡網があればいいのでは。
- ・ くり返す可能性がある人については、家族や本人の同意を得て、区長、商店街、駅、警察、民生委員、学校、施設等へ、情報を事前に提供し、日頃から見守りを行う体制があればよいと思う。
- ・ 地域が障害のある人のことを把握しているのかが分からない。把握していれば、対応の準備はできるでしょうが・・・。
- ・ まずは、配慮が必要な場合には、きちんと近所の人たちへ事前に知らせておくことが必要であると考え。本人のことを深く知っている人がきちんと把握しておくだけでは抜け落ちも多く、予防ということではできていないのではないかと考える。そのため、まずは障害をもっている人がどこにいて、どの機関に通っていて、どのような特性があるのか、そのための配慮点などを、事故が起きる前からきちんと伝えていく必要があると感じる。閉鎖的な環境ではなく、地域という大きな社会できちんと守っていくことが必要ではと感じる。
- ・ 地域の自治会に、通学時の子どもたちだけでなく、障害のある人や子どもに対しても、見守り支援をお願いする。
- ・ 家族が許せば、障害があることを伝え、避難する時、援助してくれる協力者を近所につくっておく。
- ・ 事前に警察署などにも連絡しておき、緊急時に対応しやすい状況をつくっておく。
- ・ 昔みたいなつながりが薄いので大変とは思。気になったら、警察やら役場やらに伝えたらと言うけど、二の足を踏みそう。
- ・ ひとりの姿を見たら、すぐに連絡を入れてもらえるようにするなど。
- ・ 地域の関係者などに対象者の様子や状況などを知らせることで、日常的に声かけなど気配りをお願いする。
- ・ 家族に了解をもらった上で、近所の人に知らせておく。緊急連絡先を民生委員・児童委員、区議員、区長は知っておく。
- ・ 個人情報等の問題があるかもしれないが、周辺住民への周知（自分の周りにどのような人がいるのか）があると事件の減少につながると思う。
- ・ 行方不明者が出た時の家族から警察、市、そして地域への情報の伝達システムの構築がまず必要と思う。

- ・ 個人の状況を隠さずに周りに知ってもらい、地域で温かく見守っていく。
- ・ 個人情報等の問題もあるが、情報の共有化を図り、区民全員で見守ることが大切。
- ・ 家族だけの問題にしない。近所の人にも相談するようにする。
- ・ 個人情報により、認知症、障害のある人の家族は案外隠したがる人が多い。防止するためには、行政の担当者が地域の皆さん（近隣、区長、役員、民生委員）などと連結し、その家族に行政の人たちがまず説明をし、その家族の理解を得ることが一番必要と思う。その家族が理解した後、区の役員、近隣、民生委員などの人たちにお願ひする（無知の言葉で会話すると誤解を招くことが多い）。
- ・ 日頃から家族中心に近所の協力を頼むことが最初だと思う。

◆事故発生に関わる理解を深めておくことが大切・・・

- ・ 地域の人たちの理解を広げることが必要と思う。
- ・ 定期的な啓発活動が必要だと思う。障害のある子（人）のみでなく、認知症の高齢者等、行方不明者が実際に起こっていることを地域の人々が認識することが大事だと思う。不安そうに歩いている人を見かけたら時の対処の仕方などを知らせていく。
- ・ 認知症や障害への理解を深め、認知症等の高齢者や障害のある人なども地域の一員であると認め合うこと、つまり関心をもつこと、言葉をかけ合うことが大切だと思う。

◆名札や GPS 機器の携帯も必要かも・・・

- ・ 可能であれば、GPS 発信器の常備など。
- ・ GPS 機能のついたものを持たせる。
- ・ GPS 機能のついた機器類の携帯も検討してもらおう。
- ・ 失礼だが、認知症の人、障害のある人で、外に出まわるのが好きな人は、名札を下げたおととか、名札を縫い付けておくといいのかなあと思う。常識の範囲内で何だか行動が変と思ったら、すぐ区長とか、民生委員へ連絡をしてもらうこと。
- ・ 地域（区）、民生委員はもちろん、区長や区の役員、福祉委員はお互いに情報を共有し、交代で見守ることが必要。その人に名札をつけてもらったり（電話番号を記入したもの）して、誰もが声をかけられるように、その家族とよく話し合うこと。ふれあいネットワークの取り組みはとても有効だと思う。
- ・ 障害のある人や高齢者の個別情報が分かるようなものを常に携帯してもらおうとともに、地域が対象者を確実に把握しておく。
- ・ 所在を知らせる用具を携行するような予算と広報の整備。
- ・ 近所の人々や、区の世話人、民生委員等に情報提供しておく。名札（氏名、住所、電話番号）を常時身につけさせておく。
- ・ 市で名札（住所、氏名、電話番号）を用意したらどうだろうか。強制はできないと思うけど、必要と思える家族の人は名札をつけるようにしたら連絡もつきやすいと思う。

## 【障害のある人や障害のある子の虐待を防止していくための地域社会での取り組みについての課題】

### ◆本人家族と地域とのかかわりを深めることができれば・・・

- ・ 障害のある人やその家族も、近所に住む人や周囲の人たちも、お互いの立場や家族をもっとオープンにすることが大切だと思う。どんな人かも分からない、顔も知らないなら虐待の事実が近くであっても気がつかずに見過ごしてしまう。なかなか難しい面も多々あるが、もっと地域の行事に行政からの支援を手厚くしてほしいと思う。
- ・ 障害のある人の家族などと地域との結びつきを強くすることがよいと思う。
- ・ 隣近所のあいさつや近所づきあいで顔見知りになっておく。虐待する心理状況を踏まえ、それに対応できる未然に防止できる方法を考えていく。
- ・ 障害のある人や障害のある子どもを抱える家族が、閉鎖的な環境にならないように、日頃から地域社会とつながりのある関係づくりが大切だと思う。
- ・ 障害があってもなくても地域に安心して出て来られる雰囲気づくりは大切だ。温かい声かけをしながら、外に出て来られることができれば。
- ・ 虐待をしないような人づくり、虐待が起こらないような環境づくり、地域でのいろいろな行事のなかでの人とのふれあい、仲間づくりができる環境づくり、公民館活動。
- ・ もっと近所づきあいをする事だと思う。自分たちの住んでいるまちづくりに関心を持つことが一番大事だろう。
- ・ 何でもひとりで抱え込まないように声かけを大事にする。
- ・ 虐待行為は、人の眼につかないところで行われることが多いため、事前に防止することは難しいが、周りの人々が関心を持ち、気にかけることが抑止力になるのでは。
- ・ それぞれの家庭が孤立しないように、声をかけ合い、話をしていくことが大切だと思う。
- ・ 家のなかの実態は外から分かりにくいので、こもらないように外に出るきっかけがある時（たとえば、行事や冠婚葬祭の時）を利用して、実態をつかみ対応する。
- ・ 日常的に声かけすることで、早期発見につながる。地域住民が情報を共有する。

### ◆本人同様、家族に対する支援も重要・・・

- ・ 保護者のケアをしてほしい。
- ・ 地道な啓発活動を行っていくしかない。相談窓口も含め、くり返し広報していく。ただ、くり返し行っていくことも大切であるが、タイミングも考え、時期を逃さないことも必要。
- ・ 未然に防ぐためには、家族が普段から地域のなかで孤立しないように、近隣の人たちとかかわる機会を持つことが必要であると思われる。
- ・ 障害者虐待の事例では、家族間の虐待が半数を占めていることなどから、閉鎖的な環境をつくるのではなく、関係機関や行政・地域などの多くの人たちが介入していくことが防止へとつながっていくと考えられる。
- ・ 子育て中の母親の相談に気軽に乗れる存在に保健師などがなれているか？困った時にどこに相談したらよいか顔の見える関係の人がいるのか？育てにくさを持ち合わせている子どもの発達に関する相談支援体制の充実（関係機関のなかでも、子どもの発達の課題の見極めや保護者へのコメントの心得やつなぎ先の機関の周知など、徹底していく必要を感じ

じる)。

- ・ 家族の負担を減らす。必要な家庭には、保健師が定期的に家庭訪問する。
- ・ 親の会や、家族の会などに出席して、心のストレスを減らす。周囲の人も「何か手伝えることはないかしら？」と声をかける。
- ・ 障害のある人や子どもにかかわる人や家族が、ストレスをためこまないようにするため、外部に相談できる場や、集まれる場があるといいかなあと思う。
- ・ 虐待の影には、さまざまな親の問題があるので、その解決を図ることができなければならぬと思うが、まずは子育てをしながら、出ていける場があり、そこで話を聴いてもらえたりすることで、次のステップにいけると考える。誰でも話を聴いてほしいのだ。しゃべり場づくりをしないか？
- ・ 介護する人への対応が必要ではないかと思う（情報を知らない。行政の取り組みを知らない等）。

◆何かあったら通報することが重要・・・

- ・ 周りの人たちが気づいたら場合、安心して相談ができる環境づくり。
- ・ いつもと違うと思ったら、目をつぶらないで、声をあげて、公的機関に連絡することが大事だと思う。
- ・ あれっと感じたら遠慮なく通報する。また、それを受け取る側も、敏速な対応をする。それが空振りであっても、それはそれでよしとする。また、どんな理由付けをして周りが本人に合わせようとしなくても、必ず本人と接見する。
- ・ 虐待の疑いがある時は、関係機関へ連絡をするという意識が大切だと思う。
- ・ まずは隣組の範囲での目配り気配り心配りが大切と思う。せめて自分の組ぐらひは、どこに高齢者が住んでいて、どこに障害のある人がいるのかぐらひは把握してもらい、何か変とか、気になることがあったらすぐ区長、民生委員に連絡してもらおうということになればいいなあと思っている。隣組の班長が福祉委員という形で。
- ・ 虐待があるか否かということは、地域住民にはほとんど分からない。分かったとしても直接的な対応はできない。福祉事務所に連絡することぐらひはできるかもしれないが。
- ・ 虐待防止については、近くの者で気づいた人が連絡できるようにし、それはもし違っていても、受け入れてくれるようにしてほしい。

◆虐待問題について、地域において学ぶ機会を持つことも大切・・・

- ・ 近隣の人が認識をもって行動し、協力をお願いできるよう、回覧板等に載せる。
- ・ 地域のなかで虐待防止法についてのセミナー等を開き、地域の人たちに意識を高めてもらうことが大切だと思う。
- ・ 地域社会においても、障害に対する知識が身につく、人間性を養える場、および機会を提供できる取り組みがあればいいと思う。
- ・ 虐待の講演会を行い、地域の人が虐待を敏感に感じるようになる。障害のある子どもの保護者を集め、虐待の勉強会を行う（知らないうちに虐待をしていることもある）。
- ・ 防止のチラシ配布等を多く出す。

- ・ 地域の皆さんが虐待防止に関心を持つこと（各行政区公民館等で講演等が必要）。講演実施の時は役員のみでは区民全員に伝わりにくいので、一般区民にも呼びかける。
- ◆施設内での虐待対策については、地域の人たちのかかわりも重要・・・
- ・ 障害のある人は、大体障害福祉サービスを利用していることが多いので、事業所としては、第三者が自由に入れるような透明性のある事業所づくりが必要だと思う。
  - ・ 施設に入所している障害のある子（人）の虐待に対しては、第三者の介入が必要であり、施設の社会化に取り組むこと。

## 4. ボランティア分野

---

---

### 【ボランティア活動を進めていく上での課題】

#### ◆会員が減っていく。高齢化・・・

- ・ 男性の入会を募ることと、若い人に関心を持ってもらうようにする必要がある。
- ・ 会員の継続、拡大。
- ・ 会員の平均年齢が 70 歳くらいで、会員の人数も 10 人も満たない（年々減少している）高齢化と会員数減で団体活動の活性化ができない（行政に視覚障害の人を紹介してほしいとお願いするが、プライバシーの問題で紹介できないとのこと。勧誘が困難）。
- ・ 会員数が増えない。会員の高齢化。
- ・ 聴覚障害のある人（ろうあ者以外）の存在がみえない。後継者の見込みなし。
- ・ 設立して 15 年になるので、会員の高齢化が進み、病等で退会者が年々増えている。最盛期は約 100 名いたが、現在 67 名に減少している。各人の「健康」に留意すること。
- ・ 参加者が増えない。

#### ◆活動を理解してもらえていない・・・

- ・ 行政の関心度が低いのではないかと感じる。
- ・ 広報関連のテープがあることを、必要としている人たちに知らせるには、と例会では度々話題になる。
- ・ 本来は福祉施設に入所している人だけでなく、健常者でも、人に言えない心の奥の思いを聴くこと（聴かせてもらう）を求めていると思う。傾聴というボランティアを理解してもらおうことがあまりにもないことが課題と思う。

#### ◆会員の定着、確保が難しい・・・

- ・ 会員の定着が難しい。
- ・ 例会（月 2 回）以外の日程での点訳、その他の依頼に参加できる会員の確保。
- ・ 学習に来る人は 65 歳～93 歳という高齢者で、スタッフが 40～50 代なので、教室を楽しくコミュニケーションが取れるスタッフの確保が、これからの課題だと思う。
- ・ 手話の獲得は難しく、ろうあ者の理解にもかなりの時間を必要とする。初心者とベテランで求めるものが違うこと、会の中心となる若い会員がなかなか育たない。
- ・ 後継者の育成。
- ・ 本来ならば毎日森の保全、再生作業をするマンパワー（人員力）がほしいのだが、会員数が少ないのと、また、平日働いたり、他のボランティア活動をしているため、現在は月 2 回～3 回が限度になっていること。
- ・ 当事者家族と支援者と一緒に活動しているため、子どもたちの保護者の負担が大きく、推進していく保護者が年々減っており、会員も減っている。

◆資金力が弱い、資金不足・・・

- ・ 「脳健康教室」を行う人たちの教材費などの負担と、ボランティア活動を担うスタッフの手当をきちんと出すことができないこと。
- ・ 内容を充実させるためには長期の見通しを持った計画が必要であるが、そのためには、財政面の安定が重要になる。毎年このことに頭を悩ませている。
- ・ 活動資金が年々積立金を取り崩しているため、減少傾向にある。活動を充実させるため、寄付金を受けやすいNPO法人化等が必要である。

【活動を充実させるために行政に求めたい支援】

◆もっと関心を持って・・・

- ・ 特段ないが、関心を持ってもらいたい。
- ・ 他自治体では、社会福祉協議会、地域包括支援センター、生涯学習課などに支援をしてもらっている。高齢者の話し相手から出発することからでもいいけど、行政の人たちの「傾聴」という活動の理解と後ろ盾がほしいと思う。孤独な人々の心の安定に、きっと手助けになると思う。力を貸してほしい。
- ・ 行政に携わる人たちにボランティア活動を理解してほしい。
- ・ 行政の各機関の仕事に深く関わって、むしろ、それを助ける働きをしている団体、ボランティアが多くあると思うので、その活動内容を充分に知ってもらいたい。見に来てもらいたい。

◆資金的なバックアップを・・・

- ・ 原則無償ボランティアなので、年間5万円～10万円くらいの補助金がほしい。
- ・ 現在使用している点字印刷機（2台）の1台が使えなくなり、買い替えが必要だが、高額のため支援してほしい。もう1台も時々故障する時があり不安。
- ・ 事務局機能のバックアップと財政面での補助。
- ・ 補助金を増やしてほしい。
- ・ 活動資金不足のため、補助金でバックアップしてほしい。

◆活動を求めている人の情報を・・・

- ・ ここ数年、盲人会への加入がなく、会員の高齢化が進んでいる。市内に、他にも若い人など、視覚障害のある人がいると思うが、情報が入ってこないなので、広報等の点訳物を送れない。情報がほしい。

◆研修や講座の充実・・・

- ・ 市民講座が2回で終了したことで、参加人員が少ないこと。継続的な講座があればよいと思う。修了者に対しての質の向上のための研修会を開いてほしい。

◆活動の広報・・・

- ・ 活動を広報してほしい。
- ・ 会員募集にあたって、月2回発行されている小郡市広報紙に掲載を依頼しても断られる。

他の市町村では協力的である（参考：67名の会員中、小郡在住は13名である）。

- ・ 市報等に開催告知を。広報に応援をお願いしたい。
- ・ まだ、活動期間が短く、認知度が低いため、広報等で告知してほしい。
- ・ 社会教育の場などがある時に、そのなかの活動のひとつに良い映画の鑑賞も無料でできることも紹介してもらえるとありがたい。

### 【活動を充実させるために地域の人たちに協力を求めたいこと】

#### ◆他の団体との連携・・・

- ・ 地域の業者（企業者等）との連携活動ができればと思う。
- ・ 他の活動とのコラボレーション。

#### ◆広報、周知・・・

- ・ 積極的にいろいろな会へ参加されるように、お互いに声をかけ合うこと。楽しい、自分が好きなことから始められるように。広報活動をする（会合等で）。
- ・ 「傾聴」というボランティアの存在を知ってもらうPRをすることが必要と思う。

#### ◆活動への参加、賛同・・・

- ・ 聴覚障害のある人の苦悩を知るためにも、手話講座の受講をすすめ、理解者をひとりでも増やしたい。
- ・ 市民がもっと積極的な森づくり活動に取り組んでもらいたい。そのためには、企業や団体、学校等による森づくり活動を通じて、市民や地域住民の一人ひとりが、植樹や保全活動に積極的に参加するなど、森林との関わりを持ち続けてもらいたい。
- ・ 地域で聞こえのサポーター1日体験講座を実施しているので、積極的に参加してほしい。

### 【地域の人たちのボランティア活動に対する意識】

#### ◆あまり関心がなく、否定的な態度・・・

- ・ 日常生活に密接なことでないため、あまり関心がないように見受けられる。
- ・ まだまだボランティアをすることは特別なことのようにみられている。「えらいね〜」「関心だね〜」等々。自分にできることを自然にする、そんなボランティア活動ができるといいと思う。胸を張って「ボランティアしています」といえるまちになるといいと思う。
- ・ お金と時間がある人だけができることだと思っているのではないだろうか。
- ・ ボランティアをしていると、得意そうにみえたのか、自己満足だといわれたことがある。ボランティア活動は、どんなことがあるのか、自分にできることがあるか、ずっと継続的でなければいけないのか、と聞かれたことがある。その時は個人ボランティアがあると答えた。
- ・ 時間とお金がある人がやっているという意識だと思う。また、善意ある人が何かをやっているのだろうという意識の人もいると思う。
- ・ 時間的、金銭的に余裕のある人たちがやっていると思われると思う。

- ・ ほとんどの人は関心を持っていないと思う（大災害が発生した時は感じているかも）。
- ・ お金があって、暇で、それでも暮らしていける人たちが、自己満足のためにやっていると思われる。
- ・ 自分の生活が精一杯、他人のことなど考える余裕はない。ボランティアはある程度金銭的にも余裕のある人がすること、と直接いう人が結構いる。

◆やりたい人はたくさんいるはず・・・

- ・ 自然災害のように身近に困った人がいる場合、地域の人たちが懸命に後片付けを手伝っている姿をみるにつけ、地域で困っている人に支援したいと思っている人は多いと思う。しかし、地域で困っている人がいても、個人情報の関係で誰がどのような支援を希望しているのか、皆目分からない。プライバシーをどう解決すのかが問題。
- ・ やりやすい活動があれば、多くの人に参加してくれると思う。

◆意識に差がある・・・

- ・ ボランティア意識は、高い人と低い人との差が大きいと思う。
- ・ 暇つぶしと思っている人もいるように思われる一方で、積極的に「私にできることで役に立てば」と思っている人もいる。

◆よく知らないため、ボランティア活動は大変なことと思っているかも・・・

- ・ よく言われるのは、「すごいねえ」「えらいねえ」。ボランティア活動を大変な活動とされているのかもしれない。
- ・ 私たちの活動だけではなく、現在、行われているボランティア活動が十分理解されていないのが、現状だと思う。
- ・ ボランティアの活動内容が分かっていないと思う（どんなボランティアがあるのか知らない人が多いと思う）。
- ・ 「ボランティアしている人はいる」と思うが、「どんな団体があり、どんな活動をしているのか」知らないと思う。

**【地域の人たちのボランティア活動に対する意識を高めるための取り組み】**

◆ボランティア活動のことを知らせる取り組み・・・

- ・ 行政と一体となったフェスタを開催できれば、より一層の理解を深められるかと思う。
- ・ ボランティア活動の体験談などを聞く機会をつくる。
- ・ ボランティア活動をしている人たちの紹介など、広報で載せるなど。
- ・ 社協のみでなく、市と共催で広報紙「たなばたの里 おごおり」にボランティア活動についてシリーズで詳しく活動内容、体験談等を載せ広報すること。
- ・ ボランティア活動を知ってもらうための啓発活動。
- ・ 福祉特集（広報）で、現在、市内で活動しているボランティア団体を取り上げて、特集をつくってもらいたいと思う。「あすてらす」のボランティアセンターなどで、案内はしてもらっているが、広く市民に知ってもらうためには、それぞれがどのような活動をしているのか、また、どうしたら、それに参加できるのか、案内してもらえれば、もっとボラン

ティア活動に対する意識も高まるのではないだろうか。

- ・ 各ボランティアの活動をアピールすること（市報などに活動状況など紹介すること）。
- ・ 行政が積極的に啓発、広報するべき。
- ・ ボランティア活動を身近なものと感じてもらおうこと。「福祉祭り」的な催し。
- ・ ボラ連の機関紙「ぼらネット」を各行政区の回覧板に年1回は回覧してもらえるよう頼み、ボランティア活動を知ってもらおう。
- ・ 行政がどのようなボランティアを必要としているかを知らしめることが必要。
- ・ ボランティアと一言でいっても、考え方もさまざまであり、何かをしたいと思っている人も多いので、ボランティア紹介のチラシを年度はじめに毎年出したらいいと思う。

#### ◆無理なく参加できる工夫・・・

- ・ 多くの人に参加できるには、その地域の近くの公民館など、集まりやすいところで、実施できることが大切ではないか。
- ・ 気軽に交流、見聞できる場をセッティングする。気持ちがあっても、出入りすることに勇気がある、という人もいるので、もっと気楽に話せる受付があればいいのではないかと思う。一生懸命声かけしている職員がいなくなってしまった。
- ・ 土日、夜、関係なくボランティア講座を行う。
- ・ 体験だろうか、体験がきっかけになれば。

#### 【小郡市で求められているボランティア活動】

- 老人の日常生活の支援ボランティア。買い物や掃除など。
- 高齢化とともに、高齢者に対するボランティア活動が必要なのでは。たとえば、買い物、掃除など。
- 小学生の登下校時の見守りと交通整理。高齢者、独居高齢者の安否確認。防犯、防災に関する活動。介護施設へ演芸、手芸、外美化作業の手伝い。障害者就労支援事業所の作業手伝い。人手その他の事情で近隣に迷惑をかけている家の草木の除去作業。福祉を必要としている人の個人情報の収集（プライバシーとの関係あり）。各種イベントの手伝い。
- 盲ろう者の支援。高齢ろうあ者、認知症に対する見守り活動。
- 介護保険費を節約できる効果的な予防活動。
- 公共施設、病院などで案内する人。どこに行けばいいのか分からない人たちが安心して要件をすませることができるように。
- 災害ボランティア。子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などができるよう、手助けするボランティア。社協、シルバーの福祉でできない部分の活動。

#### 【あなた自身のボランティア活動に対する思いについて】

##### ◆ボランティア活動をはじめたきっかけ、続けている理由・・・

- やはり自分自身、興味関心があったので、また、自分自身が楽しみたいと思った。自分の持っている技能が活かされるのも、喜びを感じられるから。
- レク健康隊ができる以前、民生委員の最後の年の平成20年に講座が始まり、受講したこ

と。

- 点字図書館で出会った障害のある人たちの明るい真剣な様子に触れ、今私にできることは、必要としているものを読んであげることだと思った。
- 好きなことを通じて、少しでも人の役に立てればとの思いで参加した。
- 子育てが一段落したので、何か役に立てればと思い参加した。
- 広報で点字講習会を知り受講。その後、点訳堂の会に入会した。また、子どもが小さく産まれたけど、元気に育ったことに感謝して。
- 2人の息子の遠視の治療で、眼科通いをしている時に、いろいろ考えさせられ、そんな時、知人が活動しているのを知り、私にもできることがあるのではと思い、参加した。
- 私の父が軽度の認知症になり、5年間の介護の末、亡くなった直後にお誘いを受け、認知症の予防ができるならば素晴らしいことだと思い、参加した。
- 私自身、介護職なので、よりたくさんの高齢の人たちや認知症予防に対するいろんな思いの人たちによりそえたらと思い、参加している。
- たまたま自分の趣味を受けた講座の流れで、今の仕事になった。少しでも地域社会に役立てられることができればと日々頑張っている。
- 手話で話しているのを見て、自分もおしゃべりをしたいと思ったから。
- 聞こえない人と話をしたいと思って参加した。
- 何かできることをやりたい。社会にかかわりたい。
- 現役リタイヤ後に、地域社会と関わりを持ち、孤立しないため。
- 障害を持った子どもがいる家庭が、経済的、精神的に追い詰められているのを見たから。障害のある子どもたちや人たちと地域で一緒に暮らしていくにあたり、自分のできること、やれることを一緒に学んだり、考えたりしたいと思った。
- 昔より障害のある人とのかかわりを持ちたい、何か役に立つこと、手伝いがあればと参加、活動中。
- 自分に何か役に立つことがないだろうか？と思い、どういう活動があるのかを知りたいと思い、講座を受講し、自分の知らない世界だったことに気がつき恥じ入った。

#### ◆ボランティア活動に参加してよかったなと思うこと・・・

- 小郡市内の多くの人と友だちになれた。今まで全然知らなかった。
- 世代がまったく違う人たちと一緒に楽しく活動できることだ。社会観、ファッション感覚等、おもしろく参考になる。
- 忙しくても、充実した活動ができること。声を出すことで、健康も維持されている。仲間ができたこと。
- ボランティアをしようとの思いを持った人の集まりだ。互いに助け合い、少しの無理を出し合いながら、気持ちよく活動できることだ。よい仲間ができたことをうれしく思っている。
- 点訳した本を読んで、喜んでもらったこと。盲人会の人たちと交流会（食事会）で楽しんでもらえたこと。同じ志の仲間と出会えたこと。
- 同じ志を持った人との活動が楽しく、また、人のために役に立つ喜びを感じること。

- 高齢者が自宅に閉じこもるのではなく、多くの人の中かで、その人の持っている知恵や経験を出し合い、生きがいを感じてもらえることが喜びだ。
- 人生の先輩の人たちとふれあえて、いろいろ教わることがいっぱいだ。皆さんの笑顔で、こちらも元気になる。
- 聴覚障害のある人について勉強できたこと。また他の障害や人権などについて深く考えることができた。
- 自分自身が助けられていることに気がついたこと。仲間ができたこと。
- 森林やそこで育っている生物（樹木、山野草、小鳥や小動物、昆虫やその他生物等）を何とか守りたいという人々、そして、この森を市民のシンボルとなるような、皆が楽しめる憩いの森にしたいと願っている人々が集まってくれたこと。
- 仲間やボランティアとの交流が楽しい。ひとりで家にじっとしていることが多く、外出の機会が少ないので、仲間と会って、日頃の悩みや不安を話すことで、安心感が得られる。
- 知識を得ることができた。現状を知ることができた。
- 1か月前から各人に出席に日程表を渡すので、参加する日時が事前に分かり、目標ができる。活動することによって、健康で会員相互の親睦も図れる。
- 障害をもった子がいる家族では、一家族ではなかなか外出やレクリエーションができにくい（社会や周囲の理解がない）ので、皆で一緒に行ったりすることで楽しめる。レクリエーション、バザー、学習会等を通して、直接、親や本人と話をしたり、遊ぶことで、親しくなり、「障害」と一言で言っても、それぞれ個性があるので交わっていくことで教わることばかりだ。
- 手伝いに行くことにより、自分自身、力、喜び、元気をもらっていること。心を豊かにしてくれること。何時でも、色々な変化、成長を見られること。

#### ◆ボランティア活動に参加して困ったなと思うこと・・

- たまに日曜日が活動で拘束されると、家庭との関係を後回しにしなくてはいけないこと。
- 継続的に活動をするためには、日にち、時間を優先的に確保しないとイケない。
- 忙しい。よく「ボランティア活動は自由意志でできる時に」といわれるが、自分だけの都合で動くのは他の仲間迷惑をかける。手話や聴覚障害の人を取り巻く問題は、幅広く、終わりが無い。
- ボランティアといっても経費（衣装、化粧、テープ等）、交通費などが各自自腹なので、思ったより経費はかかる。
- ほとんどが年金生活者のため、会費が高くなると負担になる。
- 年齢が60歳にもなってくると、自分の身体の故障が増えてきて、確実にこのボランティアをするという約束がしづらくなってきた（朝起きた時に急に腰がおかしくなったり、手が上がらなくなったりすることがある）。行動が伴わない。
- 人それぞれ考え、思いが違い、意見が合わなくなってギクシャクする時。目的が自分自身の欲望、願望を満たしたいと思う人が出てきて、チームワークが壊れる時。

### III 調査結果

# 1. 高齢者福祉・介護分野関係

---

高齢者の様子をみていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。

- ・ 独居で暮らしていること。環境整備。動線の確保。介護保険のしほり。
- ・ 在宅生活を希望される人が多いのが、現実には家族の負担が大きい。介護保険で対応できない場合などは、シルバー人材や自費サービス等の利用になるが、金銭的に難しい場合や、制限がある場合もある。行政や地域でのサービスが増えるとよい。
- ・ 利用者本人は自宅での生活を希望している場合が多いが、同居家族が仕事をしていて、現在の介護サービスでは対応できない場合がある。地域や行政全体のサービスや取り組みを見直した方がよい。
- ・ 老老介護であっても同居家族とみなされ、生活援助サービスが受けられないと不便な生活を強いられてしまうことが多くある。同居者がいても積極的に生活支援サービスが導入されると解決する。現在ではほとんど却下される。
- ・ とにかく、地域や同居家族や周りの人たちに遠慮して生きておられることを感じる。年をとっても人としての尊厳を一番大切にしてほしい。そのためには年配の人たちと若い人やつぎの年配者と、異年齢間の交流が大切と思う。地域の班で年齢別対抗ゲームやPTA競争などが以前はあり、ふれあう機会もあったが、今はなくなってしまった。今考えると、とても大切なことだった。
- ・ ひとり暮らし高齢者が多い→自宅の様子をうかがいに行く民生委員や老人クラブだけでなくボランティア（傾聴）で巡回する。将来の生活に不安を抱えている（病気になったら・子どもに頼りたくない・住むところ）→定期的に懇談できるような企画を立て、気長に呼びかけていく（茶飲み会）。認知症予備軍の増加→地域包括支援センターの活動。
- ・ 「予防」という意識が薄く、誰かの助けが必要になってから後悔する人が多いように感じられる。また、逆に「歳だから」といって諦めている場合もあり、病気と同じように「予防」することで、長く元気に過ごすことができるという意識づけが必要だと思われる。
- ・ 高齢者で自分は身体が悪いと思い、地域への取り組み等に関係しないので、それが問題と思う（日頃の交流がないので、高齢者のことが分からない。特に回覧板なども廻していないので、その人の情報が何も分からない）。
- ・ 通院や買い物などの移動手段がなく、タクシーなどを利用し、生活費が大変である。
- ・ 家族のいない高齢者宅は買い物や病院に行きたくても交通手段がないため、自由に行くことができない（経済的に余裕があるところはタクシー等、すぐに利用されますが）。個別に配達してくれる店のシステム化。低料金で利用できる交通手段の確立。
- ・ 体力の衰えから、外に出ることが億劫になる傾向がある。外に出ることで、いろいろな楽しみがあることを伝えていく。
- ・ 高齢化率の高い地域においては、外出する頻度が少ない。自動車が運転できればよいが、そうでない人も多いように思う。外出先や目的に合わせた交通手段がもう少しあればよい

かと思う。住まいの形態としては、持ち家が多いように思える。昔ながらの段差があり、移動しにくいつくりになっている。今後も暮らしたい場所でもあるだろうから、必要最小限の改善等を支援できればと思う。

- ・ 介護保険のサービスを使えない人たち、また、サービス利用日以外はすることがなく、暇なようである。住宅街は子ども家族のところに他方から移住してきている人たちが多く、隣近所に同年代の人が住んでいるのか、分からない様子。さびしい人たちも多いようである。地域交流を積極的に行う（小区ごと）。
- ・ 在宅生活を希望する人が多いにもかかわらず、介護が必要になった時に、その希望に応じて在宅生活を続けることが困難になる現状があると思う。解決策として、新しいサービス体系のあり方の検討でしょうが、具体的にうまく説明できない。
- ・ ひとり暮らしや夫婦2人暮らしが増えているように感じる。小規模なスーパー等が次々に閉店してしまうため、近隣にお店がなくなり、買い物に行くにも苦勞している。地域の活性化を図る。
- ・ 核家族化が進んだことにより、世代間の交流がなくなっている。そのことにより、地域での孤立化がみられ、地域社会からはずれてきている。行政としてさまざまな制度やサービスの構築はされていると思うが、それを活用する方法を知らない人も多い。情報が伝わり、理解するための支援を行うための活動が必要なのではないか。
- ・ 高齢者自身が自分の衰えに気がつかないこと。
- ・ 生きがい（生きる力）を見つけてほしいと思う（特に男性）。身体能力低下、知的レベル低下はあっても、プライドは残っている。現役時代に趣味などの時間を作ってほしい（定年前に2の人生を考える時間を作ってほしい）。セミナーや研究会などを公的機関で開催してほしいと思う。高齢者施設へ入所するには高額で本当に入所できる人は一部のようです。安価な施設（一般の人が入れる）を増やしてほしいと思う。
- ・ 介護支援が必要な高齢者が支援を受けていない現状がある。介護支援を必要とする高齢者は何をどこで相談していいのかわからないでいる。現状を理解した民生委員や老人クラブの意見を積極的に反映させる。校区別または公民館別の介護や支援の啓発活動を活性化させる。
- ・ 介護が必要で利用中の人は、介護保険は質、量で充実していると思われている。しかし、今から介護が必要な人や今必要な人は、介護保険を利用するためには、どうすればよいか理解していない人が多い。このためには、行政や（民生委員等）地域の人たちが地域の目線での思いやりや配慮が不可欠。
- ・ 病院や買い物に行けない。相談する相手がいない。高齢者2人暮らしで、今にも倒れそう。家事が困難なため、栄養バランスが悪い。外出困難なため、タクシーを利用せざるを得ないが、タクシー代が病院代より高く、困っている。災害時など、逃げ遅れないか心配。銀行の預け出しができなくなっている。
- ・ 老老介護になっている。介護者も疾病を抱えながら介護をしないではいけない状況になって、体が思うように（家事等も）動けなくなってくる。また、できなくなってくるのが問題。サービスの提供が必須ではあるが、サービス導入が難しいケースもある。

- ・ 「大丈夫」と思っている人の車の運転に不安がある。高齢者の判断ミスによる事故も増加しつつあり、本人の過信も気になる場所である。行政での見極めも必要かと思う。
- ・ 同居家族がいる場合でも長時間日中独居状態で、近隣住民とのかかわりもほとんどなく、孤独に過ごしている高齢者が多い。
- ・ 何が問題で、それがどんな支障になって困っているのかも、よく理解できないことも多い。
- ・ 病気になった時や、ひとりになった時に生活していく不安が大きい。気軽に相談できるシステムをつくる。その啓発が重要。どこに相談したらいいのかわからない人が多い。地域の民生委員に知られたくない、相談したくないと思われた場合、そこで途切れてしまう可能性がある。気軽に相談できる場所を紹介。
- ・ 認知症の疾患をもった高齢者が多くなっている。老老介護が増えてきている。介護者も家事が自分の身体の動作低下がみられて生活に支障をきたしている。
- ・ 介護面でのサポートはできても、精神面でのサポートが難しいと感じる。
- ・ 高齢者が増加していく一方で、それを支援していく人が増加していないことによる高齢者の孤独化。地域での連携、その連携には高齢者だけではなく、子どもからも連携を取り、高齢者に生きがいを与えるような体制。
- ・ 人と接する機会が減り、孤立している人が多いので、施設（デイサービス）などを利用したり、地域の行事に参加してもらうことで、人と接する機会をつくることで解決できないかと思う。
- ・ 年齢を重ねていくにつれて、体力の低下があり、多くの高齢者は若い頃に比べて行動範囲が狭まり、仕事からも離れるため、おのずと社会参加する機会も減少していく。そのようなことから自宅に閉じこもるようになっていき、そこから意欲の低下や認知症を発症するといった傾向が多くみられる。高齢者がそういうケースをたどらないように予防サービスまたはそれに準ずるサービスの充実を図り、高齢者が社会参加できる機会を増やしていくことが必要だと思う。
- ・ 気力、体力が弱くなっている高齢者の人たちは、高齢者の集まりがあってもなかなか参加できづらい人も多いと思う。
- ・ 身寄りのない高齢者の世帯に対しての見守り。認知症のため自分で判断ができない人に対する介入など。見守りは民生委員、地域包括支援センター、近隣住民などにより情報共有を行い、連携を図る。
- ・ 何か困ったことや悩みが発生した時にどうしたらいいのかわからず、状況が悪化してから発見されることがある。もっと相談窓口等があることを周知されるようにしてほしい。
- ・ 高齢者数の増加とともに、認知症になる65歳以上の高齢者が増えている。認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりも課題である。地域住民が集まっての勉強会、協力や連携ができるネットワークづくりが必要だと思う。
- ・ 年だから・・・とあきらめていることが多々あると思う。
- ・ 高齢者のなかには、私はまだ何でもできるといわれる人もいるが、実際にはできていないことも多い。高齢になるとどうやっていくのかなどの知る機会を設ける。
- ・ さまざまなこと（趣味等）をしている人もいれば、他者との交流も少なく、地域で孤立し

ている人もいる。高齢になってからでは地域のなかに入れたいと思うので、40代や50代から地域行事に参加していけばいいのだが。

- ・ お金がないと、サービスが利用できない。
- ・ 困っている高齢者がいても周りの住民が把握できていないため、問題としてあがってこない。行政、地域が高齢者を把握し、定期的な訪問を行って問題点をあげていく。
- ・ 体力的にはお元気で、社会的にも活躍できる能力を持っている人が多いにもかかわらず、それを活かせる世の中のしくみができていないこと。地域での異世代間での交流や活動ができる場や機会をつくってはどうか。
- ・ 物忘れが多くなり、判断能力が低下することによって、日常生活に支障が出たりする。また、物忘れが多くなったりすることなどで、不安になり、悩んだりすることが問題だと思う。家族が早く気づくことが一番であるが、同居していない場合、気づくのが遅れてしまうことが問題だと思う。
- ・ ひとり暮らし:ひとり暮らしができなくなった時に、どんな暮らしをするか決められない。経済的な理由により、生活の場所を選べない、入れない。周囲の人とのかかわりが少ないと、何が、どこからできなくなってしまったのか分からず、病気が重篤化していたりするケースもあり。2人暮らし:互いが年を重ね、介護者も思うように体が動かず、介護負担が大きい。家族(子どもたち)との暮らし:中途同居の人などは、生活スタイルの違いから、一緒には住んでいるが、互いに感情的な違いがあり。
- ・ 介護保険についての認知度が低い。どのようなサービスを受けられるのか、まったく知られていない。介護サービス以外の民生委員、ボランティアの介入を増やす。自宅の片付けができていないところもあり、火災や転倒のおそれがある。認知症の夫婦世帯、老老介護世帯の増加。金銭的管理。本当に必要な人にサービスが入っていない、逆に必要以上にサービスを受けていることもある。
- ・ 転倒しやすい(歩行が不安定である)。
- ・ 足腰が弱り、行動範囲が狭まる。外出や買い物に困難となり、社会交流が乏しく、閉じこもりとなる。
- ・ どのようなサービスがあり、どのように利用できるのか分からないこと。何が問題になっているのか、体調の変化を自分で把握できていないこと。
- ・ 家庭のなかだけでなく、社会においても高齢者は孤立しがち、閉じこもりがちである。高齢者が気軽に話ができるようなご近所との関係づくりや高齢者の居場所づくりが必要と思われる。団塊の世代や元気な高齢者については、地域で活躍の場が少なく。これまで培われた知識や経験があまり活かされていない。高齢者が活躍できる場、趣味活動や社会活動で貢献できる場をつくっていく必要があると思われる。
- ・ 自分の世界を大事にするあまり、周囲に対する関心が薄くなっているのではないか。子どもの独立、喪失体験等の重なりから、家にこもることが多くなると考えられる。年齢を問わず、相手の気持ちや立場を思いやれる生き方を考えることが(できるようになることが)必要ではないか。
- ・ 高齢者は住み慣れた自宅で暮らしたいと思っているが、いつまで生活できるのだろうか？

生きられるのだろうか？といつも不安を抱えている。

- ・ 必要以上のサービスを要望される。ケアマネとしてきちんとアセスメントを行い、できることはしてもらい、必要性や制度を説明していきたい。
- ・ 地域とのかかわりを持たずに、自宅で昼間過ごしている人たちがいる。もっと地域でいきいきと高齢者が活動できるサークル（老人クラブ以外で）や読み聞かせ、手芸、音楽、ボランティア等。昔のお茶のみ仲間が自由に集える場所の提供。各地域に散歩コースや休憩場所等の整備を行い、いつでも地域に出て、気軽に仲間づくりや体力づくりができるように、孤独な状況をつくらないように。
- ・ 自分の生き方や死に方を自己責任において決めておけるように子どもの頃からの教育が大切。特に男性は退職後に行き先がない。後期高齢者でも参加しやすいサークル等があるとよい。
- ・ 独居の人が増加している。介護保険を受けていない人で、生活困難になった時のサービス利用が受けられるとよいと思う。
- ・ 核家族が増えて（同居していても就労などで）、介護の担い手（見守り）がいない世帯が増えている。かといって、地域の協力体制もなく（他人の家には入りたがらない、入れない）。公の機関での見守り必要。しかし、高齢者が増えていて一人ひとりの把握が十分に行えない。子どもがいない人、結婚していない人の財産、葬式など、福岡市内の社協では家族に代行して行う業務について、テレビ番組が放送されていた。問題点としては、維持費がかかるということだったが・・・。
- ・ 健康問題：何らかの疾病により、日常生活の制限（家事、外出、余暇活動）と通院手段。（解決策）何らの支援と移動のサービス。経済問題：同居家族に障害のある人がいる、リストラ、閉じこもり等世帯収入が低い世帯。また、昭和 30 年 40 年に造成された住宅地で土地家はあるが、身内が遠方でわずかな年金で生活している単独世帯。（解決策）同居家族の複合的課題は、地域資源で方策を見出す。土地家があるのに、現状の小郡ではリバースモーゲージが利用できないので、何らかの方策が必要。日常生活・社会とのかかわり・地域貢献：買い物難民。従来の地域の既存組織、行事、老人クラブ等のかかわりに参画しているか？（解決策）外出の移動手段・御用聞き・移動販売など。介護：老老介護。（解決策）地域支援のあり方と積極的な社会資源の活用。

**高齢者がいる家族の様子をみていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。**

- ・ 家族との連携、コミュニケーション。
- ・ 家族のなかでも介護者が限られて負担が大きい場合があるが、介護保険での利用に制限があり、家族の負担が増加している。
- ・ 同居家族がいることで、生活支援が受けづらい。介護負担が大きい。
- ・ 同居家族も仕事をしていたり、高齢の介護者の場合が多い。ヘルパーやデイサービスなどの利用をしても、金銭的な問題や法的な問題で十分な支援ができない場合がある。法律を見直して金銭的なことや制約の緩和を図ってほしい。
- ・ 医療負担を軽減することが目的の介護保険なのに、使い方に制限がありすぎて家族の負担

軽減がなされないケースが多い。制限緩和が解決策。

- ・ 悩みを共感できる仲間がほしいと思う。傾聴ボランティアも有効か。
- ・ 家族（特に息子）が親の今後について無関心。家族がばらばらで、日ごろからコミュニケーションがとれていない。地域別に家族をテーマにした映画鑑賞会やファミリーコンサートなどを企画し、家族で参加できるよう働きかける（家族で参加すると無料または割引）。
- ・ 振興住宅地で高齢者以外の家族が仕事を持ち、高齢者の問題に気づいていても後回しになっていることが多いように感じる。民生委員や地域包括支援センター等が同居家族へアプローチするような体制を構築する必要があるのではないかと思われる。また、転居をきっかけに小郡に移り住んできた人は、閉じこもりがちになりやすい傾向が強いように感じる。地域が協力し、転居等で移り住んだ人にも声かけ等を行い、現状の把握を行い、経過を見ていく必要があると思われる。
- ・ 家のなかでも高齢者と若家族の交わりがないのでは（高齢者も若者に頼らないでいるようだ（頑固者）また、若者も高齢者を労う気持ちがない（思いやりの気持ち）。洗濯物も別、食事も別々にして生活している家族が多い）。
- ・ 仕事をしている家族が多く、日中高齢者のみの家庭が多い。家族は食事の準備や身のまわりの世話、休日もゆっくりする時間がなくストレスを感じている。
- ・ 家族と同居である高齢者も、日中は独居と同じ立場の人が多く（家族は学校や仕事で不在のため）。自立している人で自由に動き回れる人はよいが、全般的に人との交流が少なくなり、外に出る機会が少なくなっている。デイサービスなどの利用の促しや、地域での交流会に誘い出すことも必要。
- ・ 家族が仕事に就いている場合は家族の精神的、肉体的な負担が大きい。仕事を続けていくことができるよう、各サービスの紹介し検討を進める。
- ・ 「老い」「介護」に対しての認識の低さがあると思う。「できていたことができなくなった」「物忘れがはじまってきた」など、初期からの対応や介護方法を学ぶことも必要かと考える。市民講座や今からはじめる介護教室等の定期開催。
- ・ 仕事をしている人が多く、介護保険サービスの送迎時間では高齢者のみで過ごす時間が長いので、もう少し長く利用できるサービス（預かり所）がもっと増えるとよいと思う。
- ・ 在宅で生活を継続していくなかで、仕事を持っている家族が不在時の不安は、どこの家庭でも共通している。介護保険サービスだけでは補えない時もあります。
- ・ 仕事をしながら認知症高齢者を介護する家族の介護負担や精神的ストレスが大きい。介護サービスで補えない点も多い。
- ・ 介護が必要な場合、血族同士ではなかなか介護力として期待できないケースも多い。自分の親に対して客観的な判断ができない、したくないことも支援が困難になる一因となっている。病気や障害、介護等への正しい知識をもつことができるような支援が必要。
- ・ 認知症等の介護が必要となった時に、初期対応が課題である。たとえば、本人、家族が受け入れられないなど。
- ・ 就労と高齢者をみるということの両立が難しいようで、気軽に相談できる場所や機関があればと思う。

- ・ 高齢者のいる家族でも介護支援の知識が薄い。家族が他人事のように考えている。高齢者のお金や財産目当ての家族が増えてきた。高齢者をもつ家族を対象に介護制度等の説明会を校区別で行う。
- ・ 介護が必要で利用中の人は、介護保険は質、量で充実していると思われている。しかし、今から介護が必要な人や今必要な人は、介護保険を利用するためには、どうすればよいか理解していない人が多い。このためには、行政や（民生委員等）地域の人たちが地域の目線での思いやりや配慮が不可欠。
- ・ 高齢者だけを残して、仕事に行くのが不安。火の取り扱いなどが心配。家族が外出時の電話の対応や、接客などが不安（営業等の電話を受けたり、勝手に解約したりする）。
- ・ 仕事との両立ができず、やむを得ずやめてしまうケースもあり。家族の負担も大きい時がある。全体的に入りやすい施設がなく、金額が安い施設の設置が望まれる。
- ・ 高齢者の性格の変化や意味不明の行動が意地悪に見え、家族間でのトラブルに発展し、認知症と分かった時には収拾がつかなくなっている。高齢者の定期検査等に長谷川式などを検討してはどうか。
- ・ 家族が高齢者の生活に対してどのような考え方を持っているか、それ次第で高齢者の生活の質が大きく変わってくる。
- ・ 介護問題や経済的問題がある。経済的に問題がなければ、介護サービスも利用しやすいと思うが、そうでない場合、介護サービスも利用できず、介護負担も大きい。相談できる専門職がいる機関の紹介。具体的な事例に対応できる機関や窓口の紹介と対応。
- ・ 高齢者について、娘や特に息子（仕事なし、独身）のキーパーソンが増えている。経済的問題、虐待の可能性、介護力の不足等の問題がある。介護への意欲があっても仕事があるため、日中不在にしている場合、留守中、認知症状、転倒などの不安、危険、心配があるため、安心して仕事に行けていない精神的負担が大きい。
- ・ 一緒に年を取っていく介護者の負担。核家族化や、同居家族がいてもそれぞれの生活で手いっぱい。介護サービスの柔軟化が必要かと思う。
- ・ 家族がいても高齢者を孤独にしている場合がみられるので、家族がいても高齢者を孤独化させない。まずは家族の協力体制の強化。
- ・ 高齢者・要介護者にいる家庭では、介護者の負担が多く、高齢の人が介護している家庭が多いので、施設（デイサービス）などを利用することで、介護者の負担を軽くできるのでは、と思う。
- ・ 高齢者の状態にもよるが、介護の方法や知識、利用できる介護保険のサービスや高齢者福祉サービスなどについて、家族は十分に理解されていないことが多く、高齢者が必要なサービス、制度を利用することができていない状況が見受けられる。ケアマネジャーや在介の職員、またはサービス事業者が、必要な情報を家族や高齢者に伝えて、サービス利用等につなげていくことが必要だと思われる。
- ・ 常に一緒に生活されている場合は、体が丈夫なうちは問題なくても介護状態になった場合、負担が多くなるので、公的機関等を利用していくのがよいかと思う。
- ・ 家族の人に、介護サービスで知らないことや、小郡市の福祉サービスなどを知ってもらう

ようにする。

- ・ 入所施設やショートステイを利用できず（空きがなく）、介護疲れやストレス等で体調を壊す家族がいる。
- ・ 家族介護による心身の負担、労働力の損失、将来への不安等が感じられる。家族介護者支援、在宅介護を支える介護サービスの充実が今後も必要だと考える。
- ・ 第三者からみれば、問題があると判断できても、家族はこれぐらい大丈夫だろうと事実を客観的に考えていない場合がある。
- ・ 認知症への理解がなく、対応の仕方が分からない家族もいる。認知症への理解の取り組みを増やす。
- ・ ほとんどの家族は、問題ないと思われるが、無職の息子が同居し、キーパーソンに場合、年金搾取に可能性が高い。
- ・ 体力、金銭の負担が問題。また、介護について、精神的な負担や苦しさを訴える機会がない。語り合える場と、優秀な聴き手（専門家）を用意して家族に話す機会をつくり、精神的負担を軽くする。
- ・ 仕事や遠方に住んでいるため、介護が思うようにできない。
- ・ 仕事と介護の間で、気持ちに添う行動ができず、ジレンマを抱いている家族が多いように思う。
- ・ 家族だけにせず、相談窓口になってもらえる人をみつける。互いの時間ももてるように配慮する。
- ・ 同居していても、かかわりが少ない印象がある。日中仕事で、夜は介護と、家族の疲労、負担は大きい。逆に同居していても、介護には関わらないと決めている家族もいる。介護保険について知らない人が多い。認知症の介護。介護に一生懸命になり、頑張りすぎてバーンアウト。
- ・ 昼間、ひとりまたは老夫婦のみの生活となっている。
- ・ 家族が就労している場合、日中はひとりで過ごし、かかわってくれる人がいない。家族が忙しいと、ゆっくりとした会話交流もない。認知症などが進行すると家族のストレスが増大する。
- ・ 家族が、どのようなサービスがあり、どのように利用できるのか分からないこと。何が問題になっているのか、体調の変化を家族が把握できていないこと。利用者本人がサービスの導入を拒否する。介護する人が認知症に対する理解がない。または介護疲れや仕事があったりして、高齢者に合わせた対応ができない。家族が行っている介護が本当にあっているのか、現状のままでいいのか、不安に感じている。
- ・ 認知症に関しての知識が薄いため、それに伴う症状に対して介護者が受容、共感できずストレスをためていたり、感情的になったりして、状況が悪化することもある。認知症とはどういうものなのか、若いうちからでも強制的に学べる環境ができたらと思う。
- ・ 介護が必要な高齢者が家庭にいる場合、家族のひとりに介護負担が偏ってしまい、介護する側の自由が制限されたり、介護の悩みを介護者がひとりで抱え込み、高齢者だけでなく介護者も社会から孤立したりしがちであるように感じる。介護者が近所の人に気軽に話が

できるような、また、近所の人が介護者に対しても「最近、姿を見ないけど・・・」や「介護が大変でしょう」などといった声かけができるような関係づくりを行っていく必要がある。相談窓口体制の整備も必要である。家族と高齢者の思いや考えが異なるため、たとえば、介護サービスの利用に関してもなかなか話が進まない場合がある。家族、高齢者それぞれが気軽に愚痴を言える場、相談できる場が必要であると思われる。

- ・ 一部ではあるが、家族のなかで高齢者が孤立しているようにみえる。家族で何か行動する場合でも、ひとり残されているという高齢者のことをよく聞く。また、高齢を理由に家庭内のことを何もさせない家庭も多いのではないだろうか。高齢者自身にも理由はあると思うが、孤立させないためにも、家庭内で何か役割を持たせるなどの方策が必要ではないだろうか。小さなことでも自分が行うべき役割があることで、家庭内での孤立もなくなり、高齢者自身の生きがいにもつながるのではと思う。
- ・ 家族の高齢者に対する理解（身体面、病気など）が少なく、支援方法も分かっていない。介護者の勉強の場を増やす。
- ・ 仕事等により、見守りができない時間帯にひとりでどう過ごしているのか（デイサービス等利用以外）。緊急時の対処について。介護について相談する相手がいない。
- ・ 親の認知症の判断ができておらず、年相応と勘違いしているケースが多い（家族のかかわりがうすく、本人任せになっている）。認知症の症状等を伝える場を多くもつ。
- ・ 高齢者とその家族が仲良く暮らせるため、お互いがストレスを発散できることのひとつとして、話を聴いてもらえるボランティアの第三者の介入や、親子で年に1~2回参加する行事（近場の温泉ツアーやビュフェ食事会等）を計画し交流を図る。
- ・ 家族支援があるところは問題がないが、支援がない場合の対応に困ることが多い（家族については、同居、遠距離よりも支援の有無が大切）。
- ・ 家のなかで問題が起きた時に、家のなかで解決ができない。たとえば、転倒した時、動けなくなった時の緊急時や、認知症がひどくなっているのに、家族が問題に感じていない、感じてもしらいいのか分からない。
- ・ 同居家族の福祉課題（障害のある人、無収入、閉じこもり）などで、なおかつ、声なき声に対し、社会資源がどの程度かかわれるのか。（解決策）地域住民とのかかわりのなかで、課題を発見できる手段をもつこと。そして、包括的な課題を解決できる連携を構築すること。

### **ひとり暮らしの高齢者の皆さんは、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。**

- ・ 連絡が一方的。買い物。救急の対応。
- ・ 生活面はもちろん、病気などの身体面。身近に相談する相手がおらず、不安な気持ちをもっている。
- ・ 食事や買い物、掃除、話し相手がいない、通院。
- ・ 緊急通報システムなどを導入しても、病気で倒れたり、火災、訪問販売などで、不安な気持ちを抱えている。
- ・ 24時間ひとり暮らししていることの苦労は本人にしか分からない。認知症が進んだり、夜中にひとりで転んだりした時に誰がかけつけるのか。心細い思いをしていると思うし、誰

にも弱音を言えない人も多いと思う。

- ・ 自分の自由意思で（弱った体で、交通手段もなく）動きまわることがなかなかできないこと。近くに友人がいない、ちょっと離れたところにはいるが・・・。
- ・ 家のなかで倒れた時、誰も来てくれない不安や恐怖感。バランスのとれた食事ができていない。災害に対する不安。
- ・ 家族の支援を望んでいるが、家族に対し遠慮しているケースや、家族が同居などを勧めていても自宅や地域を離れたくないとの思いのはざまにいる人が多いように感じる。
- ・ 買い物や病院等への外出手段に不便を感じているようだ（家族が車をもっているが、親（高齢者）を乗せない）。
- ・ 急に体調が悪くなった時、どうしようかと不安に思われている。
- ・ 日常的には細かなことでも自分でできないことが多い。たとえば、電球や電池が切れた時、交換できない。季節に応じてエアコンや暖房器具等の取り扱いが難しい（視力低下で文字が見えず、リモコンでの温度調整等ができないなど）。台風や大雨などの時、家族や知人が近くにおらず、不安な気持ちになる。
- ・ 今は特に問題なく生活できても、いざ病気となった時、どうしていいか分からない、お金もどれくらい必要になるのか不安。
- ・ 本当に困った時に、すぐに相談できる人が近くにいない。また、逆にちょっとした修理や、行政・銀行等への届出書類が分からないのでそのままにしまう。
- ・ ひとりで外出できない。買い物に行けても荷物が持てない。家事、特に食事の準備が大変であるが、配食サービスは高額になる。
- ・ 買い物に出かけたいが、移動手段、交通手段がないこと。困った時にどこに相談したらよいか分からない。
- ・ 家事全般。家事を行いたいと思うようにできない。買い物に行きたくても行けない。家族が遠方であったり、身内がいなかったりした時に、体調を崩してしまったらどうしようという不安がある。
- ・ 誰に頼っていいのかが分からない。その情報を得ることも難しい。
- ・ 近くに身寄りの家族がいない場合、何かあった時が不安。
- ・ 歩行困難や思考力低下になり、買い物、調理が難しい人が多い。まわりに店などがなく、ヘルパーに頼んでも思うものが手に入らず、言いたくても言えない人がいる（自分で見て、買い物したい人が多い）。配食サービスもあるが、同じようなメニューだったり、冷たかったりしているようだ。地域で月に一回くらい公民館などで、心のこもった食事会などは楽しみのようだ。
- ・ 移動手段が限られ、買い物や病院受診が困難になっている。悪徳セールスを怖がり、地域の人でも信用しなくなってきた。移動手段は、玄関までの送り迎えが必要であるが、個別送迎サービスが自立支援のひとつでもある。
- ・ 日常生活上の食事・買い物・身のまわりの全般的なこと、特に心身の不自由な人は外出（病院・銀行・買い物等）など、生活する上で不可欠なことが自由にできない。一部の企業や商店単位で対応しているが・・・。難しいことであるが、重要なことであると思われる。

- ・ 病院や買い物に行けない。相談する相手がいない。高齢者 2 人暮らしで、今にも倒れそう。家事が困難なため、栄養バランスが悪い。外出困難なため、タクシーを利用せざるを得ないが、タクシー代が病院代より高く、困っている。災害時など、逃げ遅れないか心配。銀行の預け出しができなくなっている。
- ・ さびしさもみられ、いつまでこの生活を続けるのか不安が大きい。体が動かなくなってくると、家事、買い物に不便を感じる。緊急時の対応。
- ・ 身体状態の悪化の時、自分で病院や救急車、家族等に連絡が取れるだろうか・・家族や身内は来てくれるだろうか。
- ・ 身体レベルの低下や物忘れから、自分でできないことが増えている。食料品、日用品の買い物に行くことができない、調理や掃除などの家事ができなくなってきた・・など。
- ・ 外出手段が不足しているため、買い物が思うようにできない。家族が遠くにいと、日常的な相談ができにくい。
- ・ 病気や体が不自由になり、ひとりでは生活できなくなった時、どうしたらいいのか不安が大きい。
- ・ 自分で生活できている時はいいが、認知症が進行し、物忘れ、どこにしまったか分からず、押入れやタンスのなかのものを出したり、部屋のなかを整理できない。火の不始末（昔の習慣でやかんでお湯を沸かす、新しい電気器具が使えない、また、火にかけたことを忘れてしまう）、ヘルパーがガスを止めると不穏症状が出現する。悪徳商法に引っかかって高額なものを買わされてしまう。転倒、体調不良時の対応が困っている。また、もし遠方にいる子どもたちの家に来るようにいわれても、本人はやはり住み慣れた家でないと落ち着かず、いつまで家でできるだけ過ごせるか、また、家で過ごせなくなった場合、だれも身内がない時の自分の生末を悩んでいる。
- ・ 台風や大雨の情報が入っても、それに対する備えが急にはできないこと。ヘルパーの業務でもできないため、お金、人を使わないと古くなった家に対する備えが難しい。ひとりでは避難場所にも行けない。
- ・ 孤独感または孤独死。災害時の対応。
- ・ 買い物など行きたくても重いものが持てない。交通手段がないなどで買い物に行けず困っている。家のちょっとしたこと（高いところの作業。重い物の移動、庭のお手入れ等）がしたくてもできなくて困っている。ちょっとした話を聞いてくれる人がいなくて困っている。
- ・ 多くのひとり暮らしの高齢者は、急に具合が悪くなった時にどうすればよいか心配している。その他、体力の低下から高所の植木の剪定や草取り、重い物を運ぶこと、遠方への買い物、食事の準備など。また、クーラーなどの家電製品の取り扱いが分からなくて適切に使えていないというケースも、ひとり暮らしの高齢者の世帯も多いようだ。
- ・ 体が動く（丈夫）な間は、日常生活も大丈夫と思うが、体力が弱ったり、病気になった場合は、不安を感じていると思う。
- ・ 今の生活がこれからもできるのか、先の不安。疾患を持っている人など、突然何かあった時に誰も気づいてくれないのではないかという孤独感。家にひとりだけでいて、話す相手もお

- らず、悪いことばかりを考え、閉じこもりがちになってしまう(下肢筋力の低下にもよる)。
- ・ ひとり暮らしの人で、家族等が遠方の方は、転倒や病気等で急に生活ができなくなった際、どうしたらいいか悩んでいる人も多い。また、入院の際の手続きや荷物の準備等も困っていることが多い。
  - ・ ひとりでのいることの不安感が強い。誰もいない時に転んだり、体調不良になった時、心配している。
  - ・ 健康管理や孤独死、社会からの孤立や相談者がいない、身のまわりのお世話等の問題で不安視していると思う。
  - ・ その場で悩みを解決することができない。
  - ・ 外出時(病院受診、買い物など)の移動手段。
  - ・ 孤独死。病気になった場合。施設入所後の家のこと。
  - ・ ひとりでさびしい。掃除や片付けなど、億劫になり、家が片付かない。家族にもっと訪ねてきてほしい。物忘れが進んで心配といった話を耳にする。
  - ・ 何があってもひとりなので心配。緊急時、誰が助けてくれるのか心配。病気になると住み慣れた家で過ごせなくなる。訪問販売、オレオレ詐欺などの被害にあうのではないかと。
  - ・ 話し相手(日常のコミュニケーション)。緊急時(病気や事故、天災時)の対応。日常の買い物や、通院、趣味のための外出の手段。
  - ・ 何よりもさびしさがつらいと思う。食事、買い物、掃除等は、誰かの手助けがないと大変だと思う。
  - ・ 話し相手がいなかったことがさびしいのではないかと。
  - ・ 掃除などの家事。大掃除、草取り、家の補修など。金銭管理、先行きの選択。相談相手。
  - ・ 社会参加がない。目標がなく、生きがいのない人が多い。何かあった時の連絡、対応。細かい家事。コミュニケーションを図る人がいない。
  - ・ 日常生活全般。緊急時の対応。
  - ・ 家事生活全般に不自由さを感じ、できないことが多くなる。身体能力低下、体力低下、意欲低下を感じている。体調不良や病気になった時の不安がある。
  - ・ 災害が発生した場合や台風が近づいている場合などにどうすればいいのかわからず不安に感じている。病気の時に世話してくれる人がいない。身体が弱り、トイレや食事がひとりではできない。ひとりで遠くのお店に買い物に行けないのに、お店が近くにない。
  - ・ 配食サービスがおいしくないといって、すぐにとめられる人が多いように思います。
  - ・ 体調が悪くなった時、何か問題が起きた時の対応。買い物、食事の準備(栄養バランス)、掃除など、家事全般またはその一部。相談する人がいない、相談する場所が分からない、頼む人がいない。近所の人だけでなく、家族(子)に対しても遠慮して、頼みごとができない。話し相手がいらない。
  - ・ 他人と話すこともなく、ひとりで過ごす時間が多いと考えられる。日中は何とか耐えるにしても、夜間等、緊急なことが起きた場合など、どうしたらよいか不安が大きいと思う。また、自分から外に出て、他人のなかに入るのも戸惑いがあるのではないだろうか。
  - ・ 生活の不安。体調の不安。生きがいがみつけれない。精神面(他人との交流、とりたく

ない、わずらわしい)。

- ・ 閉じこもりで、近隣との交流がない。買い物に行けない等。
- ・ 緊急時の対処（誰に連絡するか、連絡が取れない時にどうするのか）。通院、買い物時、交通手段がない（バス停が遠い、タクシーは料金が安い）、転倒、体調の不安があり、外出がままならない。話し相手がおらず、さびしく生活している。地域の行事があっても送迎までしてもらわないとなかなか参加できない。体調管理、食事管理、服薬管理など。
- ・ 自分の判断に自信がもてず、不安が大きい。子どもや親類に負担をかけないよう相談もしない。
- ・ 話し相手がない。洗剤など重たい日用品や食材を購入するための交通手段がない。石油ストーブの灯油入れや購入。体調を崩したり、転倒したりした時の病院受診を判断ができない人がある。台風や地震時の避難がひとりでは不安。このような意見を聞く。
- ・ 病気等で動けなくなった時のこと（買い物、掃除、受診等）。
- ・ 買い物。長歩きができない、重い物を持ってない。
- ・ 入退院時の準備。緊急時の対応。金銭の管理。庭の管理。交通手段がない。全般的に物事の先行きなど。情報を得にくい。理解できない。状況の判断がにぶくなっている。
- ・ 健康問題。孤独感。情報難民。住み慣れた場所でいつまでも暮らしたという願い。

#### **高齢者夫婦のみで暮らす皆さんは、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか。**

- ・ 介護の程度にもよるけれども、必要なことがみえているのかどうか、本人たちが理解されているのか。
- ・ 身体面に不安があり、生活していく上で不便なこともある。同居家族がいると生活援助も受けられない。どちらかが入院になると一時的に生活援助を利用し、在宅になると利用できなくなる。そのために混乱される人もいる。
- ・ 病気や転倒、買い物。同居家族がいることで生活支援が受けられない。
- ・ 介護者側の腰痛や疾患をもっている場合が多く、身体的な介護に不安を感じている。金銭的な面でも低所得の世帯も多い。
- ・ 老老介護であっても同居家族とみなされ、生活援助サービスが受けられないと不便な生活を強いられることが多くある。同居者がいても積極的に生活支援サービスが導入されると解決する。現在ではほとんど却下される。
- ・ 夫婦のみで助け合うことはできるが、夫婦対近所という、仲間やつきあいが少なくなっていくと思う。
- ・ どちらかが病気になったり、亡くなったらどうしよう。将来の生活設計の意見が違う（夫はこのまま家で暮らしたいが、妻は早めに高齢者マンションやケアハウスに移りたい等）。
- ・ ひとりになることを考え、ひとりになった時の生活を想像できずに困っているケースや、夫は自宅で生活したいと思っているが妻は入所することを望んでいる等の意向の相違が問題となり、大抵の場合、夫の意向に従い、お互いの負担が大きくなるケースも多いように感じる。
- ・ 交通の不便を悩んでいる。足腰も悪いので歩行ができない夫婦。
- ・ どちらか一方に介護が必要な人がいる場合は、介護負担が大きくストレスを感じている。

- ・ 車の運転等ができたり、近くに家族がいる人は良いが、日常的な買い物や病院に行ったりする交通手段がない。夫婦のどちらか一方が病気になったり、倒れたりした時、どうすればよいのか対応が分からない。
- ・ 今は特に問題なく生活できても、いざ病気となった時、どうしていいか分からない、お金もどれくらい必要になるのか不安。
- ・ 配偶者に何かあったら、この土地で生活していけるのか、どのような支援が受けられるのか。
- ・ どちらかに認知症があったり、障害がある時、主介護者（健常者）が倒れたり、負傷した際、救急車を呼べない（呼ぶ方法が分からない）ことがあり、誰も気がつかず2人ともそのまま放置。
- ・ 老老介護なので、どちらかが倒れたらどうしようと不安に思っている人は多いと思う。
- ・ 訪問介護・生活援助の規制が強い。
- ・ 老老介護。介護をしなければ、自分が支えなければという強迫観念を持たれている人も多い。
- ・ 高齢者の実態として妻が家事をすることが多く、妻が家事をできない場合、日常生活に困る。
- ・ お互いに思い合っている夫婦は、コミュニケーションが取れていてよいのだが、別居状態の人たちは個別に対応が必要なようだ。高齢になると移動などが難しく、できないことが多くなり、あきらめ、うつ状態になっていることが多くある。
- ・ 移動手段が限られ、買い物や病院受診が困難になっている。悪徳セールスを怖がり、地域の人でも信用しなくなってきた。移動手段は、玄関までの送り迎えが必要であるが、個別送迎サービスが自立支援のひとつでもある。
- ・ 日常生活上の食事・買い物・身のまわりの全般的なこと、特に心身の不自由な人は外出（病院・銀行・買い物等）など、生活する上で不可欠なことが自由にできない。一部の企業や商店単位で対応しているが・・・。難しいことであるが、重要なことであると思われる。
- ・ 病院や買い物に行けない。相談する相手がいない。高齢者2人暮らしで、今にも倒れそう。家事が困難なため、栄養バランスが悪い。外出困難なため、タクシーを利用せざるを得ないが、タクシー代が病院代より高く、困っている。災害時など、逃げ遅れないか心配。銀行の預け出しができなくなっている。
- ・ いつまで在宅生活を自分たちで続けていけるのだろうか、できるだけ自分たちでとは思っているようだが・・・。
- ・ 体が不自由でも夫婦で暮らしている間は、互いに支え合う姿勢が強く感じられる。その分、ひとりになった時の落胆が大きくなり、認知症や身体の不調で、周りに迷惑をかけるのではないか・・・との声がある。
- ・ 身体レベルの低下や物忘れから、自分でできないことが増えている。食料品、日用品の買い物に行くことができない、調理や掃除などの家事ができなくなってきた・・・など。
- ・ 夫婦のどちらかが病気や介護状態になったら、在宅生活が難しくなること。新しい情報や理解が難しくなっていて、選択する方法が限られてくる。

- ・ 元気な時は心配ないと思うが、どちらかが病気になったり、介護問題が起きた時、どうしらいのか不安。どこに相談したらいいのか分からない。
- ・ ひとりが認知症や疾患（脳梗塞等）で介護が必要になった場合、介護者も病気をもっていたり、介護量が多いと身体的精神的負担が多く困っている。また、2人とも介護が必要になった場合、年金生活のなかでの経済的なこと（生活費、サービス利用費など）や、家で過ごせなくなった場合の施設のことで心配している。
- ・ 何かあった時にすぐ受診できないこと。救急車を呼ぶほどではないため、ついガマンしてしまう傾向にある。
- ・ パートナーの人に身体的異常があった時の対応。災害にあった時の対応。年金等を含めた今後の生活。
- ・ 買い物など行きたくても重いものが持てない。交通手段がないなどで買い物に行けず困っている。家のちょっとしたこと（高いところの作業。重い物の移動、庭のお手入れ等）がしたくてもできなくて困っている。ちょっとした話を聞いてくれる人がいなくて困っている。
- ・ 夫婦のうち、どちらかが介護が必要な状態になった場合にどのように介護をして、どこに相談して、どのようなサービスや制度を利用すればよいかという点が心配であったり、近くに協力できる子どもや親類がいない場合、介護者が介護できない状況が発生した場合が困るのではないかと思う。また、実際にどちらかが介護を行っている高齢者夫婦のみの世帯では、サービス利用のない場合、四六時中介護にかかりきりで、自分自身の時間をつくれなくて困ると思われる。
- ・ 2人とも元気なうちはよいと思うが、病気や介護状態になった時に生活への不安が出てくると思う。
- ・ どちらかが亡くなった時のことを不安に感じている。老老介護への疲れや、在宅で一緒に暮らしたいが介護ができないなどの悩み。
- ・ 夫婦ともに元気なうちはよいが、一方が介護を必要になった際の負担が大きいことも多く、介護する側が介護できない状態になった際の不安を多く聞く。
- ・ 介護者も高齢の場合、急に介護ができない状況になった時、要介護者がひとりになり、生活できなくなる。
- ・ 老老介護や将来への不安。社会参加への減少。住宅での環境整備。
- ・ 身近に話ができる人がおらず、夫婦間の悩みごとなどを話す人がいない。
- ・ 夫婦どちらかが、病気また介護が必要になること。夫婦で、夫の年金が高い場合、夫他界後の年金。
- ・ 奥さんやご主人の介護をする人の側が、負担があっても相手に言えなかったり、人に頼むことを遠慮して、ひとりで背負うため、困っている。施設に入ってほしいが、入れるところがない。本人が反対、子どもが反対などで入れないで困っている。
- ・ どちらかに何があれば、ひとりになって、このまま生活することができるのか。
- ・ 老老介護の世帯の人たちの将来への不安。新しい住宅地では、孤立している家族もいるように思う。

- ・ どちらかひとりが病気になったり、体調不良の時のお世話が、自分ひとり以上に困るのでは。
- ・ 食事。買い物に行くのがなかなか難しい。免許証返納後、まとめ買いや重い米など購入しても、自宅まで持って帰るのが重くて大変。献立を立てられない。認知症になると、どういうメニューをつくれればいいのかわからなくなる。調理するのに時間がかかったり、苦痛になったりする。日常生活に支障をきたしたりすると困っていると思うが、どうしていいか分からないで悩んでいると思う。
- ・ 介護をしている人も腰、膝、体調が悪く、介護を必要としている人の変化を受容する力も落ちることもあり。体力的精神的に疲れている人が多い。
- ・ 会話がな（耳がとおく、お互いに聞こえない）。身体的レベルが低く、自宅内が散乱している。お互いの健康状態に不安がある。買い物に行かない、銀行などの活動範囲も移動できない。どちらかに何かあった時、残されたつれあいのこと。介護保険を利用したくても申請に行けない。
- ・ お互い難聴で会話にならない。
- ・ どちらかが病気や認知症等で介護が必要になると、高齢での介護負担は大きい。移動や外出が困難となり、生活全般に支障が増え、ストレスや不安になる。
- ・ 介護疲れ。または、介護疲れなどで介護する側が倒れた時にどうしたらいいだろうかと不安に感じている。介護を受ける側が、サービスの導入を拒否する。または逆の場合もある。ひとりで遠くのお店に買い物に行けないのに、お店が近くに無い。
- ・ 急に体調が悪くなったり、普段と様子がおかしい時に、どうしたらよいか不安になること。
- ・ 近所の人だけでなく、家族（子）にも遠慮して、なかなか頼みごとができない。老老介護や認認介護が増加しており、思うような介護ができない、十分な介護ができない。一方が公的サービスを利用したいと思っても、一方が拒むといった夫婦間での意見の相違が生じ、思うようなサービスの利用につながらない場合がある。
- ・ 高齢であればあるほど、お互いの体の調子が悪くなったらどうしようかと考えていると思う。いざという時について、どうしたらよいかという思いを抱えて生活しているのではないだろうか。
- ・ 妻は、家事全般が自分の務めと考え、できない自分に対して、申し訳ない思いを抱いている。夫は、介護や家事ができない妻に対して理解できない。
- ・ 受診や買い物に行けない。
- ・ お互いに役割分担をしながら生活している場合が多いので、片方が欠けた場合の身の振り方、緊急時の対処。
- ・ 病気や高齢による家事負担。老老介護。
- ・ 三度三度の食事支度や洗濯、掃除、買い物等、また、依存が強い夫のお世話をしている妻が頑張って暮らしている。地域へ支援を依頼できるサービスの活用や情報が乏しい。
- ・ 病気等で動けなくなった時のこと（買い物、掃除、受診等）。老老介護になった場合。
- ・ 移動手段。車に乗れない夫婦など、いつもタクシーだとお金がかかる。

- ・ 入退院時の準備。緊急時の対応。金銭の管理。庭の管理。交通手段がない。一般的に物事の先行きなど。情報を得にくい。理解できない。状況の判断がにぶくなっている。相方の介護が行えない。自分ひとりのことで精一杯。
- ・ 健康問題。孤独感。情報難民。住み慣れた場所でいつまでも暮らしたという願い。

**高齢者やその家族を支援する行政サービスについて、どのようなことが問題や課題だと思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。**

- ・ 介護保険のしほり。
- ・ 生活援助サービスの規制緩和。高齢者夫婦世帯だけではなく、若い世代の同居家族がいても、ほとんどが仕事をしている場合が多い。特に食事の面では家族で対応できない場合がある。配食サービスも利用するが、すぐにやめる人も多い（口に合わない等の理由）。
- ・ 生活援助サービスの緩和。特に食事の面で同居家族がいる場合、支援できないことが多く、配食サービスを利用するが、喜んで食べられている利用者は少ない。シルバー人材サービスの定期利用は、金銭的に厳しい場合が多い。手作りの家庭料理を食べてもらいたい。
- ・ そのケースによって行政の指示をあおぐことを面倒に思うケアマネがいるので、必要なサービスが行われていないことがある。現場を見に行くことが解決策につながる。
- ・ 時には高齢者を、時には家族を連れ出していきたい。お楽しみの会や、家族同士が心を解放されるミニ旅行等があると、それが楽しみで励みになる。熊本市がそのようなことを行っていて、それに父を介護していた母が参加し、苦労を共有し合うことができ、喜んでいた。翌日からまた介護に頑張れた。
- ・ 支援する行政サービスを把握できていない（行政に頼りたくない思いも然り）→行政だけではなく、地域の人々を巻き込み、サテライトのような場所を地域ごとに設け、サービス等の情報提供や相談を受ける（だれでも気軽に行きやすい雰囲気を作る）。
- ・ 多種多様な価値観、生活スタイルの現在において、サービスの画一化では、対応できないのが本当のところであると思われる。生活スタイルや小郡は新興住宅地であることを踏まえ、サービスの柔軟化を検討していく必要があると思われる。
- ・ 高齢者への連絡や話し相手をしてやることだ（地域の福祉関係者がどんな活動をして援助しているのか、一般の人は何も分からないので、活動情報を知らせたらどうだろう・・・？）
- ・ 相談したい時に、どこに行けばよいのか迷われていたり、説明を受けてもよく分からない人が多い。校区単位で相談員を置き、顔見知りの関係づくりを行い、各家庭へ訪問してほしい。
- ・ 配食弁当など家族がいると提供していただけない。家族がいても日中独居で支援が必要なところもある。利用対象者の枠を広げることも大切だと思う。
- ・ 行政サービスではできないことも多く、対応できていない部分もある。相談窓口を知らない人も多くいるので、まず地域でサービス等の知識を持った人に協力してもらい、身近で対応できるようにする。
- ・ 利用する側の意向もあるので、どのサービスがいいのか分からないが、行政が情報を発信しているが、思いのほか、伝わっていない、知らないことが多いようだ。
- ・ 問題が起きてからではなく、問題が起きる前に動いたり、支援できる体制づくり。

- ・ 縦割りではなく、横のつながりで事前に情報をキャッチし、支援する視点が必要だと思います。たとえば、税金滞納の場合：税務課→介護保険課、受診状況の場合：国保係→介護保険課。
- ・ 行政サービスについては、特に問題はないと思うが、高齢者や家族に対しての認知度が低い。もう少し分かりやすく、大々的にアピールしてはどうだろうか。
- ・ 利用するまでの手続きの多々、遅々。代行業務を行う上での手続き等の簡略化。いろいろな点から難しい面はあると思うが。
- ・ 申請主義であるため、利用者が申請できないなどの事由がある場合、利用が難しい。サービスの周知をどのようにするのか。
- ・ 介護保険がよく分かっていない人が多くいる。行政に問い合わせると、そのことだけに答えが返り、それに付随すること(先のこと)は教えてもらえないことが多いと聞いている。その部分だけでなく(なぜ、そういうことを聞いているのか)、トータル的に問題解決が必要ではないかと思う。
- ・ バス停までも移動することが困難な高齢者も多く、市のバスを利用できない現状がある。玄関までの送り迎えが必要であり、個別送迎サービスが自立支援のひとつになるのでは？行政サービスを高齢者や家族が理解していない。介護予防に対し、もっと積極的に行政は啓発活動をすべき。
- ・ 十分に内容を理解してもらうことが重要(知らない、理解不足の人が多い)である。事実を説明するだけでは満足を与えられないケースがある。
- ・ 高齢者福祉サービスや介護保険のことを知らない人、家族にもっと知ってもらい、介護負担を軽減してもらおう。
- ・ 各家庭で、それぞれの問題があり、どうしてもヘルパーが必要だという例もあり、入りやすいヘルパーの導入が可能になればと思う。
- ・ 家族の同居ということで利用できないサービスもある。働き盛りの介護者が仕事と介護が両立できるよう、見守り、介助が必要だが、介護度が低く、必要なサービスが受けられず困っている人もいる。自立や要支援状態の人の臨機応変のサービスを検討してはどうかと思う。
- ・ 経済的に余裕がないために、必要なサービスを受けられない高齢者に対する支援を充実させてほしい。たとえば、所得に応じたサービスの自己負担額を段階的に設定し、低所得者の負担額を減らすなど。
- ・ さまざまな支援が考えられるので、相談窓口がまず必要。高齢者に分かりやすいパンフレットの配布。
- ・ 地域包括支援センターや居宅支援等は、相談の電話があってから相談を受けている。行政からの情報発信をもっと強める必要があると思う。市広報紙だけでは見ない人が多い。小冊子を作成するなどが必要では。直接地域に対し、相談窓口としての情報発信は行っていない。
- ・ 地域密着型サービスはあるが、利用者は使っているサービスを変えたくないとの思いが強く、家族が外出、介護負担の軽減のため、ショートステイを利用してほしいと思うが、シ

ョートの拒否が強く、利用できず家族の負担軽減ができない場合がある。できれば、地域密着型サービスでなくても、今利用しているデイサービス、デイケアで泊まりサービスができれば、利用者も環境を変えず、安心して家族の負担軽減ができると思う。

- ・ 介護サービスの規制がもう少し緩やかになるとよいと思う。また、定期巡回サービスが支援（予防）の人にも利用できるるとよいと考える。
- ・ 行政サービスには、限度があるため想定外を含めた限度以上のサービスを要求された時に対応できないことが問題である。行政以外にサービスを行ってくれるところへ依頼する。ただし、ボランティア以外は予算面の問題も生じている。
- ・ 介護認定や介護サービスのことなど、介護保険に対する内容を分かっている人は少ないと思う。
- ・ 介護用品給付サービスの業者をひとつではなく、選べたら方がよい。薬局などで好きなものと券で引き換えられるなど。
- ・ 土日の対応ができず、サービス事業所やケアマネジャー、在宅介護支援センター、施設等に任せきりになる。土日も電話だけでも対応できるようにしてほしい。
- ・ 介護保険や生活保護などの必要な行政サービスを受けず、また、家族や地域社会との接触もほとんどない場合の社会的孤立の存在が挙げられると思う。また、認知症などにより、サービスを拒否する高齢者への継続的な取り組みや支援がなされているかも問題だと考える。行政の体制整備と民生委員、ボランティア、民間事業者との連携による地域づくりの推進が重要だと思う。
- ・ 行政サービスの説明がなされているか。
- ・ 問題のある高齢者や家族への支援。地域包括支援センターの強化。
- ・ 知ってもらえる機会、伝える機会を公の場にたくさんつくとよい。
- ・ 緊急なショートステイが必要な場合、すぐに対応できない。ショートステイ専門の施設をつくり、必要時はすぐに対応できるようにする。
- ・ プライバシーを考慮した上、個々の状態を把握し、コミュニケーションを取ることで、それぞれの解決策を考え、行動していく人のさらなる育成。
- ・ 共倒れにならないよう、介護する家族にも、ゆとりのある時間をもてるよう、デイサービス、デイケア、ショートステイ等、とても助かっている。
- ・ 親の様子がおかしいと気づいても、まずどこに相談すればいいのか分からずに悩んだ。行政の相談窓口を誰でも分かるように、もっと PR してほしい。高齢者 2 人またはひとり暮らしの家に、月に一度くらい定期的に訪問していくと生活の様子がある程度分かるし、高齢者の人も安心すると思う。
- ・ ヘルパー事業は、大掃除なども、ケース会議を開いて検討するので、柔軟に対応してもらいたい。こじれた家族や遠方などのケースもあり、考慮してもらいたい。
- ・ ほとんどの人が知らない（入院してからソーシャルワーカー、スタッフの説明で認知する）。周知活動をするしかない。
- ・ 介護負担の軽減を介護サービスで調整するが、空白となる部分もあり、不安なところも感じる。

- ・ どのようなサービスがあるのか分からない。認定結果が要支援になっても、どのようにサービスを利用したらいいのか分からない。
- ・ 介護サービスの種類や内容が複雑で分かりにくく、どのサービスを使ったらいいのか分からないとの声がある。市広報誌への掲載や施設見学ツアー等の実施。
- ・ 法令等に基づき事業が行われており、柔軟な対応が困難である。利用者ニーズの把握や見直しが重要である。画一的なサービスだけでなく、地域の実情に応じたサービスの展開が必要である。
- ・ 高齢者やその家族が何かに対して声をあげれば対応できているが、声なき声に対してどの程度対応できているだろうか。また、行政サービスにおいても横の連携が機能しているのだろうか。家族が追いつめられる前に手を差し伸べられる体制を確立することが必要と思う。
- ・ 緊急時の対応。相談窓口。
- ・ 高齢者や家族を支援している行政サービスの活動内容や情報の提供。また、小郡市で自費等でもサービス利用できる事項（囲碁、お花、パソコン、習字など）などを幅広く分かりやすく広報。また、昼間家族が仕事等で高齢者のみになる場合の配食サービスや受診の送迎サービス（自費での提供を含め）。さらに、昼間だけ憩いの場所（あすてらす等）まで利用できる格安送迎車など。巡回バスは自宅前まで来てもらえないので、バス停まで行くのが大変で不便だという声を聞く。
- ・ サービスを受ける場合には、申請が必要であること。サービスを受けるための制度の基準が世帯単位であること。
- ・ まず、どこに相談したらいいのかという声をよく聞く。総合相談窓口といってもそれすら分からない場合もあり、関係機関の連携は必要だと思う。

**高齢者やその家族を取り巻く地域の様子をみていて、どのようなことが問題や課題だと思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。**

- ・ 以前に比べると地域の人の協力もあると思います。
- ・ 地域とのつながりが弱い。
- ・ 近所同士でもつきあいが希薄な場合が多く、見守りの依頼などが難しい。市の広報などでも協力体制の呼びかけをしてほしい。
- ・ 皆働いており、地域のつながりが薄い。地域の活性化や地域を元気にすることが大切だと思う。地域活性化のためのシンポジウムの開催等。
- ・ 自分の自由意思で、買い物、病院、用事・・・と足が元気なうちは動きたいだろうが、交通手段がないので、人に頼んだり、タクシーとなる。市バスもあるが、網羅していないので、各地区に自治会バスができると理想。自分で買い物ができるというのは、本当に心が豊かになると思う。自尊感情も保つことができると思う（ある人が「自治会バスのおかげで、不自由になった体だったが、寝たきりにならなくて済んだ。心から感謝している」と言われた）。
- ・ 認知症高齢者の徘徊を例にとると、頭のなかでは、支え合いということは理解できているが、1回でも徘徊等の事故があると「施設に入れた方がいいのでは？」と家族に近隣の人

や警察が勧めるケースが多い。特に認知症の高齢者に対しては「火事でも起こされては困る」ということで、近隣の人から施設への勧めが強いように感じられる。現状でどのような対策を講じ、自宅で安全に生活することができるように取り組みを行っているのかをみてもらい、納得し協力してもらえるように取り組みを行う必要がある。

- ・ 福祉担当者がどのくらい手を差し伸べてやっているのか分かっていない。
- ・ 近所とのつきあいが少なく、家族のみの支援が多い。近所の人に見守ってもらったり、ゴミ出しや買い物などの手伝いをしていただけるような関係づくりができるとういと思う。
- ・ どうしても外との交流が少なくなるので、地域の人や家の様子やその人のことがあまりよく分かっていないこともある。地域の行事に誘ったり、定期訪問をすることにより、信頼関係を築いていながら、その人の悩みや相談を聴いてあげられるようになれば理想的だ。
- ・ 日頃から、近所の人たちとの交流がある世帯は、ちょっとしたこと（雨戸がずっと閉じているなど）でも気にとめて、訪問や電話をしてくれる。地域のなかで孤立させないこと。自治会の支援。
- ・ 高齢者が住み慣れた地域で生活できるような協力体制を整えたり、サービスを増やし、安心して生活できる環境、ネットワークづくり。
- ・ 高価な高齢者施設は増加してきているので、利用料金を抑えた低額な高齢者支援ハウスの設立の検討をしてもらいたい。
- ・ 地域のかかわりが少なくなっている。若い世代の協力を得る。
- ・ 同世代同士でしかつきあいがいいことにより、近所の人と会ってもどこの誰か分からないような状態。そのことにより、いろいろなうわさがまわってしまうこともある。
- ・ 地域との交流がない高齢者の把握が難しい。
- ・ 自分が住んでいるところの民生委員やボランティアの人の名前（家）を知らない人が多いようだ。そして社協の活動もまだ浸透していない。まずは地域で解決できることはしていきたいと思う。
- ・ 地域での高齢化が進み、高齢化地域限定のサービスも必要。空き家対策として、介護予防や介護サービスの拠点を行政に対し提案したい。
- ・ 地域の重層的な組織づくりが必要と思われる。
- ・ 高齢者福祉サービスや介護保険のことを知らない人、家族にもっと知ってもらい、介護負担を軽減してもらおう。
- ・ 民生委員を含め、地域の輪が確立することが（ボランティアを含めて）必要かと思う。
- ・ 老老介護に目が行きがちだが、幼い子どもの世話、同居以外の親の世話等でなかなか介護に手が届かない人もいる。また、老老介護と違い、若い同居者がいることで、地域も援助に対して消極的な状況を感じる。長期で過度の介護は、どこか弱いところにしわ寄せがくる不安もあり、高齢者のみではなく育成の必要な子どもたちにも目を配っていくのがよいと思う。
- ・ 地域によって、高齢者の見守り体制ができているところと、できていないところがあるように感じる。独居の高齢者だけでなく、同居家族のいる高齢者に対しても民生委員等が訪問し、生活状況を把握することで事故を未然に防ぐことにつながるのではないかと思う。

- ・ 地域によっては、自分の親は家族だけでみるものといった偏見があるのでは。介護サービスを利用すると変な目で見られる。
- ・ 近隣とのかかわりが少ない。日頃、地域の交流の機会を増やすことが解決策になると思う。
- ・ 老人クラブなどの行事に参加しない、引きこもりになっている高齢者への支援が困難。安否確認の「旗」を玄関前に出したりできるとよいと思う。民生委員だけでは大変だと感じる。
- ・ 高齢者に家族が居ると、それだけで安心と思ひ込み、地域の支援対象から外されている。家族がいても、状況によっては高齢者のみになってしまうので、日頃からのコミュニケーションを取っておくことが大切。
- ・ 地域のなかで孤立している高齢者が多いと思うので、地域の人と接する機会・場所をもつてつくることができればよいと思う。
- ・ 地域の様子をみると、要介護者および認知症高齢者に対する理解が不足しているケースがあるので、要介護者を抱える世帯が近隣住民と疎遠になり、地域から孤立している。地域で要介護者をささえていくことが、これからの在宅介護では必要になってくると思われるので、もっと認知症や介護についての理解を求める啓発活動を進めていくべきだと思う。
- ・ 高齢者も一緒に集えるような機会があれば、世代間の交流も深まると思う。
- ・ 家族が遠方にいること。
- ・ 地域の人も安心できるようにネットワークづくりが必要だと思う。
- ・ コミュニティの薄さ。
- ・ 民生委員や福祉職などが気軽に話せるような機会があれば、多方面から問題を見守ることができる。民生委員が個人情報面で、どこまで介入していいのかわからないと聞いたことがある。市で目安をつくれればよいのでは。
- ・ 訪問してもドアを開けてくれない高齢者がいる。家族が介護放棄だったり、連絡が取れない。必要なサービスを拒否する。見守りの体制が整っていない。
- ・ 悩みや情報を共有したりできる場や機会があればどうかと思う。
- ・ 敬老会の時など、入り口のところには車がいっぱい、駐車場から歩かなければいけないので、行きたくない、行けないなど、ちょっとした配慮がほしいと思っている様子。
- ・ 若い世代の家族は地域との交流が希薄となりつつあるので、高齢者の介護は、やや抱え込む形になってしまうのではないかと。
- ・ 地域として認知症の人に対する対応がわからない。身体が弱ることにより、地域との交流が少なくなる。
- ・ 認知症に関しての知識が薄いため、それに伴う症状に対して介護者が受容、共感できずストレスをためていたり、感情的になったりして、状況が悪化することもある。認知症とはどういうものなのか、若いうちからでも強制的に学べる環境ができたらと思う。
- ・ 家庭のなかだけでなく、社会においても高齢者は孤立しがち、閉じこもりがちであるため、高齢者が気軽に話ができるようなご近所との関係づくりや高齢者の居場所づくりが必要と思われる。また、高齢者だけの交流の場だけでなく、世代間交流の機会を設けることが必要であると思う。世代間交流のなかで、高齢者がそれまで培ってきた知識や技能を発揮

することができ、それがやりがいや生きがいにつながるのではないだろうか。

- ・ 何か問題が起こると、阻害しようとする状況となることが少なからずみられる。他人のことにはかかわりたくないということでしょう。プライバシーの問題等あると思うが、地域の出来事に少しでも関心をもつことから始める必要があるのではないだろうか。そして、人に起きたことはいつか自分にも起きる可能性もあることを認識し、それぞれを思いやる「もやいの心」を育てることも必要ではないだろうか。人ごとではなく、我がこととして、さらに人様のこととしてつくりあげる、お互い様の世の中であればと願います。
- ・ 高齢者は、困ったことがあっても家族や地域に相談できない。いつも申し訳ないとの思いを抱えている。
- ・ 近隣との交流がうすい地域がある。振興住宅地に住む高齢者など・・・。
- ・ 民生委員とケアマネの情報交換がない。独居や問題がある利用者に対して連携を取りやすい関係をつくっておく。
- ・ 高齢者や子どもたちが触れ合う場が少ないように思う。お互いが敬う気持ちを持てるような教育の場を地域の行事に取り入れていく。
- ・ 高齢者への理解。老いていくなかでも住み慣れたまちで暮らすためには、周囲の声かけやちょっとした手伝い（買い物や差し入れ等）が必要。子どもの頃からの教育が大切。
- ・ 高齢者が集まれる場所を地域につくり、交流を深め、いきいきとした生活が送れるようになれば、介護保険でのデイサービス利用者も減るのではないだろうか。

### **災害時、高齢者に対する避難などの支援活動を円滑に実施するため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ 普段より、どのようになったらどうするといいのか、段取りをよく打ち合わせしておくといいのでは。
- ・ 防災マップや高齢者世帯の把握。行政から区長、住民だけでなく、事業所への呼びかけや対応方法について日頃より連携する。
- ・ 日頃からの避難訓練と、避難場所が一目で分かるよう表示する。
- ・ 各区の区長や民生委員からの声かけだけでなく、介護保険事業所とも連携して、災害時の対応方法についての話し合いが必要。
- ・ 防災マップ。小さい単位の集まりを大切に。
- ・ 同じ班であっても顔見知りではない。班ごとに役割分担を決める話し合いが必要かもしれない。トップや一部の人たちだけが動くのではなく、全員参加が望ましいと思う。意識の高まりにかなうものはない。災害に、これまで縁がない地域でも、どんなことに備えなければならないか、アンケート等から、はじめておいた方がよい。災害でなくても、いろんな場面で、そのチームが活躍できそう（異年齢間で）。
- ・ 向こう3軒両隣間隔で居住する高齢者把握の徹底（隣保班の絆を深める）。地区別の避難箇所や経路シート（大き目）を作成・配布し、家族全員が分かるようなところに貼付してもらう。
- ・ どのような災害がどのような規模で起こるのか分からない。災害対策の基本は「自助、共助、公助」であり、地域での助け合いしかないのではないかと思う。

- ・ 気象状況や避難場所を電子情報（メール）等で知らせしているが、高齢者は取り扱いを知らないなので、地域の担当者が訪問して説明することが大事だ。
- ・ 町区の班単位でのネットワークづくりが大切であると思われる。緊急時に誰がどのように声かけし、支援するかを班で決めておくことが大事だと思う。
- ・ 高齢者の把握（性別、年齢、身体状況（歩行状態等））を調査してリストアップする。独居の人の緊急連絡先等も地域で把握しておく。回覧板などで日頃から災害時の避難場所や避難時の対応等を知らせ、意識づけをする。
- ・ 各家庭の生活・家族状況を正確に把握し、地域の支援者がどのように動いていくのかしっかり決めておく。
- ・ 自衛の防災組織をつくることや、どこに高齢者が住んでいるかを把握しておくこと。第一番目に誰が声をかけるかを決めておくこと。
- ・ 常日頃から防災意識を高めるため、避難場所の把握、どのようなルートで誰が助けが必要なのか、区ごとに把握したり（台帳作成）、訓練を行う。
- ・ 地域力がとれくらいあるか、だと思う。
- ・ 地域ごとの避難訓練を大々的に行う。
- ・ 避難指示や勧告が出る基準の明確化。地域活動を行っている団体のネットワーク化。災害時に基幹病院として活動できる病院、施設の指定等。
- ・ 避難場所の周知や災害が発生した時の体制づくりが必要。寝たきりの人や体が不自由な人の把握。
- ・ 日頃の地域でのコミュニケーションが大切である。携帯電話の活用（高齢者はもっている人が多い）。避難する場所の掲示や案内板を、日頃より分かりやすく提示してほしい（看板を立てるなど）。
- ・ 民生委員・老人クラブや地域と行政・消防関係との話し合いの場が必要。またこれら機関の情報共有も必要では。
- ・ 県・市・校区・隣組等のなかで防災に関する支援体制づくりが必要。また、（災害時の）見守りが必要な人を事前に特定し、上記組織で具体的な活動を決めておくべきである。
- ・ ふれあいネットワーク等を活用し、見守りを強化していく。災害時の対策を地域のサロン等を通して、日頃から知ってもらう。
- ・ 高齢者（独居者）の緊急時のシステム（連絡体制）を確実にする。
- ・ 避難場所が小中高校等、年齢的にめったに行かない場所となっており、避難の時の場所の不安もあるかと思う。避難場所での集まりなどを催してはどうかと思う。
- ・ 高齢者のいる世帯の状況、本人の身体レベルや連絡先を把握しておく。
- ・ 移動時の手段を把握する（自力移動が可能か、車椅子、ストレッチャー等）。常薬保管場所を決める。排せつ状況の把握。
- ・ 市として災害時の対応マニュアルを作成し、各地域で小規模単位での日頃の訓練が大事なのでは、規模が大きいと身近に感じないのでは、また、具体的に分かりにくいのでは。
- ・ 緊急システム、連絡体制を確保する必要がある。
- ・ 災害時支援ネットワーク。必要不可欠な物資。支援してくれる人材。緊急避難場所。

- ・ 日頃からのコミュニケーション。
- ・ どの家に高齢者が住んでいるのか、どの家庭に高齢者がいるのか知らない人も多いと思うので、地域の人たちがもっと触れ合う場所・機会をつくり、地域の人たちのつながりをつくれれば、災害時に気にかけることができると思う。
- ・ 各地域でひとり暮らし高齢者や要介護者のいる世帯を把握して、災害が発生した場合、誰が、どこに、どのような方法で避難支援を行うのかを明確にしておき、定期的に避難訓練を行って意識を高める取り組みが大切だと思われる。また、避難場所がすぐに分かるように、ハザードマップを作成して、地域住民に周知してもらうことも必要だと思う。
- ・ 個人情報保護法のため、なかなか情報が分かりづらくなっているのが、高齢者も含めた避難訓練を行っては、と思う。
- ・ 地区で災害時の隊長を複数決めて、身体が悪い人、歩行ができない人をあらかじめ把握して、支援が必要な人から誘導する。
- ・ 高齢者の実態把握が必要だと思う。訓練等の実施。
- ・ 普段からの見守り活動や声かけ、近隣住民による取り組み支援、行政や自治会等による災害発生時の避難支援の強化、防災啓発活動や広域的な対応の調整が必要だと思う。
- ・ 避難体制の具体化とシミュレーション。
- ・ 避難場所の周知を図るため、地域をあげて避難訓練を実施する。
- ・ ひとりで避難できるか否かの把握。地域住民が隣に高齢者がいるということを認識される。
- ・ 訓練を行う。高齢者が住んでいる場所を把握しておく。必要な避難体制や連絡網をつくって、定期的に避難訓練を行う。
- ・ 普段から定期的に避難訓練を行い、スムーズに動けるように避難場所の確認等を行っておく。
- ・ 行政のみでなく、地域での連絡網。
- ・ 高齢者マップ、ひとり暮らしマップを用意し、いざという時、誰がどこに行き、救助するかを決めておく。
- ・ 高齢者のみの家庭をリストアップしておく。支援活動をする方法を具体的に決めておく。
- ・ 両隣二軒活動。自分の家と隣への声かけ、支援。
- ・ 地区単位での避難訓練（高齢者の参加を促す）。現状の取り組み自体がよく分からない。地図などの資料を配る。
- ・ 避難場所等をしっかり知らせる。
- ・ 高齢者世帯や支援を必要とする世帯の把握が必要。支援が必要な世帯は、さらに登録性などを検討することや、地域のネットワーク強化が大切ではないか。
- ・ 定期的な避難訓練。
- ・ 細かく災害時の避難場所を決め、回覧板や区長、班長等の訪問等で知らせるようにする。
- ・ 誰が支援を必要としているのか、誰に支援が必要かといった状況の把握が必要。その上で、連絡網の整備や誰が誰の避難支援を行うかといった支援体制づくりが必要である。地域の支援を拒んでいる人、地域から孤立している人の支援を、どのように行うかについても検討が必要と思われる。

- ・ 高齢者一人ひとり、避難方法が違うため、地域での訓練を何回も行う必要がある。
- ・ 実際に高齢者を交えて、避難訓練を定期的に行う。マップを配布する。
- ・ どこに、どのような状態の高齢者が暮らしているのかを把握し、誰が援助に向かうのか等、役割分担をはっきりさせる。連絡網、連絡の手段等、あらゆる場面を想定して確認しておく必要があると思う。
- ・ 支援の優先順位をある程度決めておく。各ケアマネが担当者の支援順番の名簿をつくっておく（民生委員も同様）。
- ・ 避難時は、高齢者ひとりにひとりの支援者が付き添える体制が必要。地域で、区長や民生委員を中心に声かけして、高齢者への支援に地域ごとに取り組む体制づくりを行い、日頃から心がけて助け合うことが大切だと思う。
- ・ 日頃からの顔のみえるつきあい。
- ・ 大きな文字で書かれ、分かりやすい避難場所や電話番号が記載されたマップの配布。
- ・ 日頃から高齢者がどこに住み、どんな状況（家族の様子など）なのか、地域の人たちが知っておく必要があると思う。
- ・ 隣近所の顔のみえる関係づくり。地域全体の防災意識の向上。情報伝達手段の構築。

### **認知症等の高齢者が行方不明になるなどの事故を未然に防止するため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ 顔見知りになっておく。特徴をつかんでおく。
- ・ 大牟田市での認知症への取り組みは住民と住民、また住民と地域、行政等とのつながりにもなってよいと思う。
- ・ 徘徊しそうな認知症高齢者を把握し、GPS 機能付きのものを身につけておく。大牟田市のような取り組みを小郡市でも実施する。
- ・ 以前、徘徊の相談をしたら、徘徊してからの相談対応になるといわれた。急な発生になる場合が多く、発生してからの相談では遅すぎる。事前に可能性のある利用者を登録し、相談をさせてほしい。
- ・ 大牟田の認知症への取り組みは大いに参考になる。
- ・ 自己開示（我が家に〇〇がいます）できるように、認知症の知識や対策をどんどん広めていくことが大切だと思う（自己開示しても、恥ずかしいことではなく、地域の力でお互いに守り合うのだという意識がほしい）。
- ・ 認知症サポーター養成講座の活用（まだ知らない人も多い）、また拡大するためのキャラバンメイトの養成を定期的実施する（学校や会社、病院等への出張講座の実施）。事例の活用（大牟田市の認知症シュミレーションの実施）。
- ・ まず、家族が徘徊のリスクが高いことを認識し、自宅でどのように対応することで徘徊を予防することができるのかを実践していく必要があると思われる。家族に徘徊のリスクを説明し、対策を提案してもなかなか提案を受け入れることができない（徘徊の前歴があっても、つぎに起こることがないと思う家族が多い）。大牟田市が取り組む「徘徊 SOS ネットワーク模擬訓練」のような行政や事業者等が主体に行う取り組みも重要であるが、家族や地域に対するさらなる働きかけが重要と思われる。

- ・ プライバシーがあるかもしれないけれど、認知症者は、隣近所の人には教えてもよいのではないか（了解を得て）。知らないと気にならずにいてしまう。
- ・ 認知症サポーターを利用し、より多くの人（子どもから高齢者まで）に認知症を知ってもらい、近隣で見守ることが大切だと思う。
- ・ 日頃から認知症の人に対する意識をもち、そういう人を見かけたりした時は、すぐに警察等に連絡を入れる。何度も行方不明になられる人は、顔写真等を公表し、その人を見つけたら、どこへ連絡を入れるのかなど、事前に地域の人をお願いしておく。
- ・ 民生委員をはじめ、子どもも含め地域住民全体で見守り、声かけなどを行う。見守りや声かけの方法について、各地域で誰がどういう形で何ができるのか、細かい支援方法を話し合っておく。
- ・ 地域の人たちが認知症の理解を深めること。そうしないと地域での取り組みはできない。その家族も抱え込まないで、近所の人たちに知ってもらうことが必要。
- ・ 地域の人認知症について学習する機会をつくる。模擬認知症高齢者が地域を回り、その対応策を学び、常日頃からひとりで行動している高齢者に声かけを行ったり、お互いが助け合う。同居家族がいると、民生委員が家に入らないという考えを改め、家族同居でも地域住民が互いに助け合えるようにする必要があると思う。
- ・ 顔見知りの地域性と、行政や介護保険の専門性が融合すること。
- ・ 認知症の症状や対応等の理解を深める。行政、警察、消防といった協力機関の連携を図り、徘徊が起きた時にすぐに動ける体制強化を図る。
- ・ 介護保険を利用しないで活用できるサービスをつくる。事故が発生しても全責任を家族に押し付けない。
- ・ 携帯を持っている人はGPSをオンにする。財布などの普段持ち歩いているものに名前と住所を書いておく。民生委員等との連携（普段からの把握）。
- ・ 動かれる認知症の人は、地域の役員の人に知らせておくなど、早めの対応が必要。
- ・ 地域高齢者の情報共有も状況により必要。
- ・ 見守りが必要な人を事前に特定し、市・校区・隣組等の組織で具体的な活動を決めておくべきである。
- ・ 地域の人を見守り（民生委員・老人クラブ・在宅介護支援センターなど）、また、家族と接する機会が多い地元商店、薬局、郵便局、新聞配達員等の協力が必要。
- ・ 個人情報といわれるかもしれないが、民生委員を中心に認知症の人を認識し、声かけを行う（顔を知っておく）。
- ・ 一概には言えないが、認知症の人でも目的があつての徘徊もある。買い物へ行く、家に帰る（生家のことが多い）、〇〇さんに会いに行く等々、理由はいろいろあるが、行方不明時の手がかりとして、皆で活用できるよう、本人の言動を書き留めておくことも一案かと思う。
- ・ 地域での見守りや声かけを充実させる。
- ・ 徘徊の問題行動がある人は、民生委員を通して把握し、地域の交番へ届けておく。
- ・ 認知症に対する理解を深め、地域の人たちに家族が相談しやすい環境をつくる。

- ・ 地域で徘徊している人のことを理解し合い、声かけ、異常があれば、民生委員と家族が連携できる取り組みが必要。
- ・ 未然に防止が必要だが、起きてしまった時のマニュアルづくりも必要と思われる。
- ・ まずは、認知症等を把握すること。その上で日頃からのコミュニケーションを含めた連絡体制の強化。
- ・ 日頃から地域の人たちがかかわることがあれば、高齢の人がひとりで歩いていたりしたら声をかけ、行方不明になるのも未然に防げると思う。
- ・ 日頃から地域で対象の高齢者を見守り、支えていく取り組みが必要だと思う。具体的には、徘徊が発生した場合、地域住民が発見して保護できるように、対象者の顔と名前が分かる資料を配布して理解や周知を求める必要があると思う。また、対象の高齢者の家族は、本人の名前や連絡先が分かるように名札等を携行させておくことなどの事故防止策が必要だと思う。
- ・ 認知症の人への理解を持ってもらい、認知症サポーターなどに見守りをしてもらおうとよいと思う。
- ・ 徘徊している人など、以前に連絡や警察に保護された人などを定期的に訪問する。GPSをつける。
- ・ 地域でのつながり、ネットワークが必要と思う。地域の人たちが見かけた時に通報できれば、早急に発見でき、事故防止ができる。
- ・ 地域住民や自治体、地域の生活関連団体でのネットワーク、協力体制が大切だと思う。常日頃からの見守り体制（安否確認、電話連絡）。
- ・ 認知症の高齢者を地域の人が把握する。認知症家族が地域の人たちに向けて情報を発信する。
- ・ 地域の行事に認知症の人でも積極的に参加できる環境をつくり、隣近所の人とも普段から話ができるような関係をつくっていると外に出た時に気づいてもらいやすくなるのではないかな。
- ・ GPSの活用。
- ・ 徘徊する高齢者を地域が見守る体制をつくる。徘徊する高齢者をもつ家族へのアドバイスができる手立てを考える。
- ・ 行政区ごとに認知症の高齢者の把握を行い、近隣者や民生委員にも協力を求める。
- ・ 地域のなかでの連絡先（窓口）を設けること。家族：高齢者が行方不明になった時、地域の人たち：大丈夫かなあ？という人を見かけた時。
- ・ 有線放送、車のスピーカーで、地域の人たちに呼びかけ、一人ひとりが自分の家の周りを探す。
- ・ （小郡市もあるかもしれないが）見守り隊などをつくって、メンバーの人には地域の認知症の人の情報を伝えておく。
- ・ 行方不明になる人は配慮していても出ていったりするので、赤外線感知や、おしゃれなベストで、見つけて報告してもらおう。
- ・ 安否確認を行う。

- ・ 隣近所の見守り。
- ・ 社会の多くの人が認知症に対する知識や理解を深める。様子がおかしい人には注意して、見守りや声かけが自然に行えるようにしていく。認知症の介護をしている家族は抱え込まず、近隣に理解や協力を発信しておくことが大切。警察やタクシー会社などに協力体制を依頼しておく。
- ・ 小学生も授業のひとつに、認知症サポーター講習みたいなものを受けてもらう。
- ・ 行方不明者が出た際に、一本の連絡で行方不明者に関しての情報が、福祉施設やタクシー会社、警察、消防、区長等に迅速にいきわたるようなシステムができればいいと思う。
- ・ 認知症サポーター養成講座や徘徊高齢者模擬訓練等を通じて、多くの人が認知症についての理解を深めていくことが必要である。家族だけでは認知症の徘徊を防止することは難しい。認知症の人が外出しているのを見かけたら声かけ等の対応で未然に防止することが必要であるが、そのためには近所同士で顔馴染みの関係、認知症であることを近所に話すことができるような関係の構築、開かれた地域づくりが必要である。地域の取り組みだけでなく、行政としては、認知症高齢者の見守りネットワーク構築も必要であると思われる。
- ・ 認知症と思われる高齢者と察知できる地域社会である必要があると思う。そのためには、地域で生活する人々が認知症を正しく理解し、いつでも手を差し伸べることができることが重要と思う。また、家族が認知症であることを隠さなければならないような地域社会としない取り組みが必要と考える。
- ・ 地域の人と、認知症の人との交流が必要である。ある程度の情報を、家族の理解が得られれば共有する。
- ・ 自由に外出できる高齢者の事故を未然に防ぐのは難しい。行方不明になった時に早急に見つけるシステムをつくる。
- ・ どこに認知症高齢者がいるのかの把握が必要だと思う。大牟田市の取り組みを参考にしてはどうだろうか。
- ・ 常に地域の見守り体制があればよい。いつもと違った行動があれば、声かけしたり、家族への連絡。
- ・ 認知症で徘徊の既往がある人は、GPS を無償で貸出を行い、家族や地域で見守る体制づくりをする。さらに、認知症の病気のことを地域全体で理解することも大事（認知症についての幅広い周知徹底する）。
- ・ 認知症に関する理解と、日頃からの顔がみえるつきあい。
- ・ 日頃から高齢者がどこに住み、どんな状況（家族の様子など）なのか、地域の人たちが知っておく必要があると思う。
- ・ 大牟田市の取り組み。

#### **高齢者虐待を防止していくため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ なんらかの形で人が入っていく（民生委員の方や介護、医療等の訪問）。
- ・ 相談窓口を増やしたり、広報等でもっと周知する。
- ・ 高齢者虐待は、同居家族のケースが多く、もう少し同居家族への生活援助サービスを緩和してほしい。

- ・ 介護者が高齢の場合、市役所まで行くことが難しいため、各区の公民館で介護相談ができるようにしてほしい。近所（地域）の人たちにも、通報窓口があることをもっと知ってもらおう。
- ・ 啓発につきる。
- ・ 高齢者が助けを求められるような環境づくり（隣近所と日ごろから信頼関係を築く）。地域住民が高齢者虐待の知識や重大さを理解するための勉強会や事例などの報告会を行う。
- ・ 地域住民が「虐待」とはどういうことを指すのか（身体的虐待、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待、ネグレクト）を認識する必要があると思われる。介護サービスを利用している人であればサービス事業者の目があるが、そうではない人は民生委員等が協力し高齢者世帯の生活状況の把握を行い、虐待のサインを見落とさないように観察を持続していく。また、個人情報保護法があるために民生委員やソーシャルワーカーが個々の状況を把握しにくい状況にあるので、行政として、どのような対策ができるのかを検討してほしい。
- ・ 隣近所の交流が必要だ（区内の催し物などに参加することだ）。
- ・ 虐待と思われる事例をためらうことなく相談すること。
- ・ 周りの人が本人に傷などがなく、さりげなく観察し、時々その家庭を抜き打ち訪問する。早期発見、早期対応が望まれると思う。
- ・ 虐待を行う側のサポートや支援をしっかりと行いながら経過をみていき、改善がみられない場合は一旦引き離してみるなどの措置を取る。
- ・ 普段からの近所づきあい。顔が分かる環境・関係づくり。そうすると、小さな気づきでもできるのかと思う。
- ・ 隣近所とかかわりをもつ機会を増やす。相談できる場、人を配置し、気軽に相談できる工夫をする。
- ・ 顔見知りの地域性と、行政や会議保険の専門性が融合すること。
- ・ 早期発見。被害者の安全確保および加害者の精神的ケア。
- ・ 正しい知識の周知。相談しやすい窓口。対策のためのネットワーク構築。
- ・ 虐待を起ささないためにも地域の交流を密にし、する側、される側も虐待が起きにくい環境づくり。
- ・ 虐待をしている人のフォローも大切なので（特にそれを分からずにしている人）、担当のケアマネ、地域、近所の人の見守りが大切。気づいたら早めの機関への連絡が必要。
- ・ 虐待情報は地域からの通報が不可欠と、回覧板等を利用し、地域住民へ啓発していく。
- ・ 隣組での寄合等のコミュニケーションづくり、民生委員、老人クラブ等の組織等、幅の広い情報交換が必要。このようなケースでは個人情報保護法が足かせになっていることもあり。
- ・ 地域の人の見守り（民生委員・老人クラブ・在宅介護支援センターなど）、また、家族と接する機会が多い地元商店、薬局、郵便局、新聞配達員等の協力が必要。
- ・ 通報（ちょっとしたこと、気にかかること）を確実にしてもらうため、どこに相談しているかの窓口をはっきり提示する（知らせる）。
- ・ 地域での見守りや声かけを充実させる。日頃から、高齢者のいる世帯の生活状況が確認で

きるように定期的な訪問を行っていく。

- ・ 介護状況を地域でおおまかにも知る方法をもっておく（誰を誰が介護して、誰に相談できているかなど）
- ・ 高齢者虐待防止の理解を深める必要がある。地域社会の小規模単位で、啓発活動が重要だと思う。
- ・ なぜ虐待が起こるのか？を、まず理解する勉強会の開催。「虐待」と認識していないケースがあるため、「在宅介護」の人への定期的なアプローチを行う。ネットワークづくり。
- ・ 虐待は暴力ということを理解し、地域から排除していく運動等。
- ・ 家族・介護者の介護疲れから虐待につながると思うので、介護者のストレス・負担の軽減ができる取り組みがあれば虐待を防止できると思う。介護者の話を聞いたり、介護者がゆっくりできる時間をつくるために、高齢者・要介護者に施設（デイサービス・ショートなど）を利用してもらい、介護者がゆっくりできる時間をつくるのが大切だと思う。
- ・ 地域社会で要介護者のいる世帯を支援していくことで、介護者の孤立を防ぎ、負担を軽減することが虐待防止につながるのではないかと思う。また、介護者側からは認知症に対する正しい理解や知識を習得できる機会を増すとともに、介護者がストレスを抱え込まないように、悩みや苦勞を相談できる窓口の増加も必要であると思う。
- ・ 普段からの声かけや見守りが大事かと思う。
- ・ 近隣住民でおかしいと思った時は連絡し、行政で訪問してもらうようにする。地域の人たちにも分かりやすくする。
- ・ 介護負担に増加で、虐待につながるケースも多く、近隣住民、民生委員やケアマネジャー等による相談、見守り等は不可欠だが、行政の介入も必要だと思う。何か起きてからではなく、起こるリスクが認められる際は、早期対応を行政が主体となって取り組むべきと思う。
- ・ 通報しやすいような窓口にするため、担当部署を地域の人に分かるようにする。
- ・ 行政からの相談窓口の積極的な啓発活動、相談支援体制の整備。高齢者と接する関係者、住民からの早急連絡の周知。地域住民のネットワークづくり、勉強会。行政からの業務委託などの事業。
- ・ 民生委員、ケアマネジャー等が各家庭で、様子観察を行う。
- ・ 虐待をしているのかなと思ったら、関係機関にすぐ連絡をしてもらうようにする。
- ・ 民生委員は独居または高齢世帯のみが対象なので、誰かが家族と同居の高齢者と月 1 回くらい会う。
- ・ 疑わしい時は、市に連絡するだけで、いいということを知らせる。間違ってもいいから、通報するということができるように広く知ってもらう。
- ・ 小さなことでもよいので、気がいたら民生委員を通じて報告できる体制をつくる。
- ・ 介護をしている人へのさらなるサポート。傾聴。周りとのコミュニケーションの場。
- ・ 介護している家族の悩みを相談できる窓口をつくり、PR する。
- ・ 介護はじめてさん教室：介護技術、アイデアを教える。介護ひと息さん教室：介護上の相談を受ける（経済的なことや権利擁護なども含め）。いきいきサロンなどの単発ではなく、

いつもと時々を実施。

- ・ 何らかの形で家族以外のものが定期訪問を行う。行政の介入。
- ・ 何が虐待にあたるのかという認識を十分に深め、「虐待にあたるのでは」という疑問をもって、周囲に注意を配る。高齢者虐待に啓発活動が必要。
- ・ 定期的な自宅訪問。地域内の交流を増やす。参加しないことが続く人に対しては地域の人たちが訪問する。
- ・ 認知症に関しての知識が薄いため、それに伴う症状に対して介護者が受容、共感できずストレスをためていたり、感情的になったりして、状況が悪化することもある。認知症とはどういうものなのか、若いうちからでも強制的に学べる環境ができたらと思う。
- ・ 虐待＝身体的虐待と捉えがちで、心理的虐待、性的虐待、経済的虐待等についてはあまり理解されていない。研修会等の実施により、多くの人が虐待について、早期発見・早期対応の重要性について理解を深める必要がある。介護に絡む虐待については、介護者に虐待に認識がなかったり、介護に対する義務感が強かったりするので、家族がひとりで抱え込まずに周りに相談できるような関係づくり、体制づくりが必要である。
- ・ 家族ががんばっていればいるほど、虐待の可能性は大きくなる。いろいろな課題はあると思うが、家族を支えていける取り組みが大切と思う。家族が「助けて」といえる地域社会の構築が必要ではないだろうか。
- ・ 日頃から、地域での交流を深める場所をつくる（年齢にとらわれず）。
- ・ 隣近所とのかかわり。
- ・ 高齢者の変化に気づけるよう常に状態を把握している人（民生委員、主治医、デイサービス等施設職員など）。独居の高齢者や夫婦のみだけでなく、高齢者がいる家庭の把握。本人家族が相談できる場の確保。
- ・ 介護をひとりで抱え込まない、相談できる場が必要。
- ・ 日頃より隣近所や民生委員、主治医などの医療機関等から情報を得る。また、気兼ねなく相談できる窓口（地域包括支援センター）を設置していることを広報等で広く知らせる。
- ・ 虐待について周知を行っていくこと。介護をしている家族への声かけ等（孤立しないように）。
- ・ 地域（この場合、小さいエリアを示す）で相談できる人や場所づくり。たとえば、地域で行われているサロンや健康づくり、介護予防等のつどいの場で悩みを聞けるような体制づくり。民生委員等の地域の相談窓口の有効利用。監視体制と思われないような地域の見守り。

#### **小郡市地域福祉活動計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書き下さい**

- ・ 皆それぞれに一生懸命に生きているが、人とのつながりが失われないように、年に1回でも班の集まりのようなものがあるといいと思う。
- ・ 虐待等で精神疾患の高齢者など担当課が複数になる場合の対応を明確に知りたい。虐待の場合、時間が重要になるケースがあるため。フローチャートなどあれば助かります。
- ・ 市職員自ら、地域に出かけ、市民の皆さんの声を聞くのもいいと思う（公民館などに集まってもらう）。

- ・ 小郡市は他市町村に比べ、地域福祉に関し、柔軟な対応をしていると思う。今後もモデル事業にも積極的な参加を望む。
- ・ コストのバランス配分が望まれる。
- ・ 高齢者からの **SOS** がいち早く対応できる体制づくりを望む。
- ・ 計画には直接関係ないことですが、市役所の相談窓口で、プライバシーが守れる環境で相談できる場所をつくってほしいと思う。あまりにもオープンしすぎて、隣の人の話が全部聞こえており、顔が見えるので相談しにくいと思う。
- ・ 地域の福祉課題は、高齢者や障害のある人だけではない。当然両者に関わる複合問題もあるし、閉じこもり、貧困家庭などもある。関係機関のいろんな事例をもとに、計画づくりにあたる必要があると思う。

## 2. 児童福祉・子育て支援分野関係

---

子どもたちの様子を見ていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか

- ・ 乳幼児健診で子ども達の様子をみていると、グレーゾーン（発達障害等の診断がつくまではいかないが、社会性、対人関係がうまくできない等）の子どもが気になる。小学校に入ってクリアできる子もいれば、やっぱり苦手なまま成長して、トラブルを起こし、または学校生活でストレスを負い、不登校になったり授業についていけなかったり・・・鳥栖市で実施されている「超早期療育」や発達障害（情緒障害）専門の相談窓口、通所機関があるといいなあと思う。
- ・ 乳幼児健診などの時に、近所に同じ年頃の遊び友達がいないという子どもがいる。幼稚園などに行けばかかわりをもつこともできるが、もっと小さなころから、友達とのかかわり方など体験して学ぶ機会が必要なのでは・・・？と思う。（解決策）サロンなどの充実。年少からそれ以下の子どもへの保育料の補助。
- ・ 思っていることを親に表現したくてもできない子ども。攻撃的になってしまう（構ってほしい様子でもある）。それでも親は無関心のまま。（解決策）親子のコミュニケーションが取れているか？親が無関心でいる。原因を探り、子どもの接し方を提案してみる。子どもができたことをほめたり、評価することをできるように導く？
- ・ 生活リズムが乱れている子どもが増えてきているように感じる。夜寝る時間が遅く、朝も遅く起きる。子どもとかわる時間が少なく、テレビなどを長く見せる影響。子どもの言葉の発達が遅くなっているように感じる。
- ・ 親が干渉する機会が多い（汚れるから、遊ばせないなど）。子どもの成長・発達の過程で、子どもたちにどんな経験が必要かを親が理解できていないので、きちんと伝え、子どもたちにはさまざまな経験をする場を提供する。
- ・ 働く母親が増えてきたので、甘えたい時に甘えられず、我慢している子どもが多いと思います（でも、母親も一緒にいられず、つらく思っていると思います）。交通量が多く、事故の危険もあるため、外で遊ぶ子どもが減ってきたように思います。家でビデオやテレビを長時間見せている保護者も多いと思います。遊び方が分からない人も多いと思います。安心して外で遊べる場所をつくる（公園や散歩道など）。（解決策）外遊びの教室やグループづくり。
- ・ 食生活、生活習慣の乱れ。（解決策）安定した生活が送れるような国の政策が必要だと思う。
- ・ 家庭環境（家庭教育力）の差が子ども達の教育課題に大きく影響する面がある。保護者の生活リズムによって、子ども達の生活習慣（早寝・早起き・朝食・夕食）の確立ができていない。家庭の経済力の差が子どもの学力や進路選択に影響を及ぼす。携帯電話の普及とSNSの発展があまりにも商業ベースで進んでいるため、子ども達への教育的な配慮が追いついていない。携帯メール、LINE、悪質サイトなどによるトラブルが急増している。

- ・ 子どもの生活は、周りの環境によって大きく左右されます。そのなかで一番ともいえる家庭（親の子育てへの意識など）に大きな差があり、時には子どもの成長の方向性を変えることもあります。そのために私たちは、さらに充実した子育て支援を細やかにしていく重要性を感じます。
- ・ 話をしている人の話を聞けなかったり、ひとつのことに集中して取り組むことが難しいことなどが増えてきていると思う。解決策としては、今はテレビやゲームなど、すぐできる環境にあるので、家族との会話や人とのかかわりを増やすなど、親も意識を変えていくことだと思う。
- ・ 人とのかかわりが少なく、体験不足を感じる。遊びを通しての友達とのトラブルなどの経験をすることがないまま育つ子も多い。
- ・ 外で遊ばず家でゲームをしたり、人とかかわって遊ばない。習いごと等で時間があわず、なかなか遊べない。難しい問題だと思う。
- ・ 家庭での教育やしつけがあまりできていないと感じる。問題として親と子どもが接触する機会が少ないことと、子ども同士のつながりが少ないと思われる。その原因は、親の仕事、無関心、学校・クラブ活動の指導者任せ、子どもは塾、テレビゲーム、携帯電話メール、他人との接触がうまくできない、面倒くさい等が考えられる。地域と大人が子どもに関心を持つことが必要ではないかと思う。自分の子どもではないからとか、親とのトラブルを避けたいとか、とにかく面倒なことは関わりたくない風潮が今の世の中である。これは親同士の交流が必要ではないかと思われる。
- ・ 塾やスポーツクラブに通う時間以外はテレビやゲームに依存しすぎて、地域の友だちとの交流がなくなり、遊ぶ時間もなくなって、協調性が失われているような気がする。（解決策）いろんな地域でのイベントに参加して、体験し、友だちの輪を広げていく。
- ・ 子どもは子どもなりに考えていると思う。よく聞くことが大事だと思う。
- ・ 子どもたちの学力向上について、自宅学習や塾などに費やす時間が多くなっている。（解決策）学校は土曜日も午前中授業を復活させるべきだ。
- ・ きょうだいが多く、異学年同士の遊び集団をつくるのが少ない。不登校や不登校気味の児童生徒が減らない。地域や学校での仲間意識を育てる。異学年の遊びのなかでいろいろなことを学ぶことができる。
- ・ 母子家庭・父子家庭の子供が増えてきている。経済的支援、ヘルパー等の家事支援。小学校の下校後に遊ぶ公園等がない（道路で遊んでいる）。
- ・ 学校から帰ってからひとりで部屋にこもり、テレビやゲームをするなど、メディア漬けの子どもが多い。そのため、友だちとうまく遊べない、コミュニケーションがうまくできない。学校の施設（空教室）や、公民館等の施設を放課後や土日曜日に開放し、子どもたちの遊び場を提供する。
- ・ 親の貧困が子どもに影響しているのではないか。どの子も平等に希望の勉強ができるようにしてやりたい。政府はもっと子育て（大学を含めた教育費）に金をかけるべきではないか（日本の教育予算は少ない）。市としても、積極的に子育て支援、教育予算の増額、政府への働きかけ等してほしい。

- ・ 親の前での態度（親の前ではよい子）と、外での態度、行動が違う子どもがいる。親も子どもも広く地域活動などに参加する。
- ・ 学校、軍隊のように子どもを枠にはめて、均一化しようとする制度が諸悪の根源。幼児期から、学校基準で何でも進められる。
- ・ 子どもだけで安全に遊べる場が少ない。療育が必要なことに親が気がつかない、また、その受け皿がない。障害に対する周囲の理解が得られず、親だけで抱え込んでいる。
- ・ （問題・課題）**ゆう**に来る子どもたちは、それぞれに個性を持っているので、一概にこれが課題であると答えること難しい。子どもたち全般という視点からみれば、やはり持っている個性ゆえに、子ども同士のかかわりのなかで育つという経験が少ないことは、課題として挙げられると思う。勇気をもって公園などに連れて行ってもうまくコミュニケーションがとれないため、他の保護者の人から「乱暴な子」と敬遠され、また、心無いことをいわれ、連れて行くことができなくなったという声を聞く。（解決策）地域の子育てサロンなどに、障害のある子どもも来て、楽しむことができるような配慮のある集まりなどを実施し、小さいうちから、子ども同士の経験が積めるような取り組みが効果を奏すると思われる。
- ・ 保護者は子育て等に不安があるが、どこに相談してよいか分からない場合がある→乳幼児健診等での相談、保護者への情報提供、市の療育事業等。保護者が利用できる福祉サービスを知らない場合が多い→健診や子育て中の保護者への情報提供。
- ・ 近隣に療育機関が少ないので、保護者は不安を抱き続け、子どもには早期に療育が開始できない→療育機関が増える（児童発達支援、放課後等デイサービス）、市の療育事業の充実。
- ・ 危ないこと、人に迷惑をかけないこと、今していいこと、してはいけないことなどの判断を小さい時から態度で示し、言葉で伝えていない家庭が多いように感じる。
- ・ 核家族が多い現代のため、親が子どもにしっかりとかかわる時間に制限があるため、子どもたちだけの時間が増え、メディアやその他の情報を正しいと勘違いして、育てている子どもが多いように思う。もっとかかわる時間が増えるとよいと思うが、実際には難しい気がする。
- ・ 中学2、3年生くらいから、ソーシャルネットワークにのめり込む子が、少人数ではあるが、いるようだ（依存症にならないか心配）。使い始めに時間制限や閲覧範囲の制限を必ずするよう親子に危機感を持たせる（親自身がよく分かっていないことがある）。両親の不仲や離婚等で心が不安定になり、不登校になる子もいる。早い段階での心のケア。
- ・ 子どもたちが外でのびのびと遊べないこと。
- ・ 10年ぶりに子どもたちに接するようになり、一言でいうなら大変落ち着き、明るくなっているように思える（小郡中学生徒）。まずびっくりしたことが、小郡中に行った時、校庭にごみがまったく落ちていなかったこと、草もなく、花瓶が整理され、たくさんの花をみたことである。校内で会う見知らぬ私に、ほとんどの子どもが笑顔であいさつしたことである。掃除の時は、私語もなく、黙々と先生たちといっしょにがんばっている姿にびっくりした。集会で校長先生の見本を示すあいさつ、掃除の時の教師が率先する様子、学校生

活の場で、大人の態度が子どもによい影響を与えているのではないだろうか。学校と校区民児協との懇談会では、不登校を中心に個人に課題があるとのこと、個人としては残念である。子どもの責任ではなく、保護者（大人）等の責任である。

- ・ 不登校や不登校気味の生徒が減らない。上級生が下級生を指導する機会が少ない。元気ではつらつとした子どもが少ない。学校や地域で仲間意識を育て生活しやすい集団をつくる。学校や地域で異学年での集団行動を増やす。早寝早起き朝ごはんを各家庭で徹底する。
- ・ 保護者の仕事が忙しく、ゆっくり子どもとかかわる時間が持てないためか、落ち着かずスムーズな友だちとのかかわりができないことがある。乳幼児の親子の過ごし方がその後の子どもの考え方や行動に大きく影響があることを知らせる講演会などを繰り返し行い、保護者に知らせていく。
- ・ 仕事中心の子育てを考えている親が多く、欲求を満たされていない子どもが増えてきている。しっかり話を聞くことができない。自分でよく考え判断する力が弱いと感じる。夜 9、10 時でも居酒屋やイオンにいる子どもの姿をみかける。自分で考え、どうすべきなのかということを保護者や保育士が日々繰り返し伝えていく。
- ・ ゲームやネットなどをする時間が多い。遊ぶ時間、遊ぶ空間、遊ぶ仲間が少ないので、友だちとのかかわり方等がじょうずではない→学校の昼休み等にしっかり外遊びをさせる工夫。コミュニケーション能力を身につけるような社会性と情動の学習（SEL-8S）などの教育課程への位置づけと実践。家庭での約束事（ゲームやネットをする時間等）の徹底。
- ・ 群れ遊びや体験の不足で、人間関係づくりのトレーニングが不足していること。社会性がみについていない子どもが増えていること。感情をコントロールすることが苦手な子どもが増えていること。自尊感情を豊かにする取り組みや、コミュニケーション能力、社会性（ルールやマナーを守る）を高める取り組みを推進すること。いろいろな機会を通じて、家庭でのしつけが大切であることを知らせる。就学前教育と学校教育の段差を少なくしていくこと。
- ・ 子どもたちに忍耐力がなく、あきらめるのが早い。がまんをする場面の設定が必要。
- ・ 活動時、遊ぶ時のメリハリがついていない→あらかじめ、次にすることを伝えたり、時計を使って「この時間から～」と目安を持てるようにする。子どもが素直に親に甘えていない。
- ・ 特に未満児で朝食を取って来ない子がいる。母親にお願いするしかない。
- ・ 子どもたちが安心安全の生活を送ってほしいと願っている。しかしながら、家庭生活をみると就学援助率 35%を本校では超えており、保護者の就労保障や経済的な自立を実現する社会を構築してほしいと思う。また、子育てに悩む保護者も増えており、その子育て相談や支援等が急務と考える。
- ・ 自分に自信がもてない子が多く、さまざまなことに落ち着いて取り組むことができない子、対人関係がうまく築けない子など、課題を抱える子どもが増えてきている。解決策としては、家族を含めて、なるべく多くの大人とかかわる場を増やしていくとともに、さまざまな体験を積み、機会を捉えて自信をつけていけるようなプラスの声かけをしていくこと。ゲームや携帯など、メディアの低年齢化が進むなか、仮想現実にとさらされていることにより、

直接体験が薄れ、特にコミュニケーション能力に欠けてきている。そのことで、ラインなどによるネットいじめに巻き込まれたりしている。解決策としては、直接体験の機会を増やし、現実世界のなかで子どもを育てていく努力をしていくことや、多くの人と直接触れ合う場を多く設定すること。小学校に上がるまでに身につけておくべき基本的生活習慣の習得ができていない。さらに、学習に入る際の基本的な体験が不足し、学習のレディネス（準備）・土台が不足しているまま小学校に入学してくるため、小1プロブレムなどの状況が起きやすくなっている。解決策としては、乳幼児期の子どもや保護者や教育機関に対するきめ細やかな支援が必要。家庭背景や家庭状況の厳しさが年々高まっていったなか、家庭状況が直接子どもたちに影響を与えている。朝、食事をしてこない子や家庭で当然してもらわなければならない世話を受けられない子などが学校で落ち着いて学習に向かえない事例は後を絶たず、学力向上に対して、大きな障害となっている。解決策としては、学校からの家庭訪問などの強化に加え、行政的にもソーシャルワーカーなどを充実させ、家庭支援を強化する必要がある。

- ・ 保護者の育児体験や子ども・子育てに向き合う姿勢、また経済的理由等の生活環境によって、子どもの育ちに差が出てきていると思う。育児相談や家庭訪問の機会をつくる。
- ・ 子どもが落ち着かない、集中して取り組むことが苦手、気持ちをコントロールが苦手は、つながっているように思われる。保護者の子育てに対する思いや、経済的状況の差が広がってきていることで、子どもの育ちにも差が出てきている。
- ・ 子ども自身の発達の度合いが著しいが、目と目を合わせてくれない子。子どもなりにでも、あいさつできない子が多いように思う。集団のなかで生活をする・・・という機会が減ってきているため、親子のみの狭い時間、空間での暮らしになっているのでは。
- ・ ひとりっ子や少子化家族が増え、友達とじょうずに遊べない。おもちゃのひとり占めなど。遊べる場の提供が大切。
- ・ 子ども同士のかかわりが薄い。異年齢とのかかわり（特にひとりっ子には大切）。子育て支援センターのように、自分の好きな遊びをじっくりと遊べる環境のなかでかかわりが育つよう援助していく。
- ・ 独占欲が強かったり、片付けないで次の遊びに行ってしまう姿が気になる。ひとりっ子だったり、集団での遊びの経験が乏しいためにまだ身につけてないだけなのかなあと思う。なので、ここで身につけていくよう声かけ、かかわりを大切にし、手本となって示していきたい。また、ルールのある遊びを取り組みの一環として取り入れるなど、遊びの工夫もしたい。子どもだけでなく、親への手本となる存在でいられるよう、自分自身が知識を身につけていく努力をしなければと思う。
- ・ ここ数年、母子家庭の増加に驚きます。
- ・ 身体の動き、ジャンプやスキップ、なわとびなどの動作がスムーズでない子が多くなった。幼い頃からの外遊びの経験が少なくなっているのかなあと感じている。
- ・ 話を聞けない子が増えた→親が子どもの話をじっくり聞いていない。落ち着きのない子が増えた→言い聞かせたり、けじめのない生活をしている子がいる。「～を買ってあげるからがんばって」と何でも物を使って子どもをしつける親がいるため、ご褒美がないとがん

ばらない子が増えた。すぐ友だちを叩いたり、噛みついたりする→親が叩いて子どもを敷つける家庭がある。何でも人のせいにする→親が人のせいにする家庭がある。自分で考えて行動できない→すぐ教師に言いに来て、自分で解決しようとする子が減っている。転んで手をつけない子が多い→運動能力の低下、転んでも手をつけない子が増えた。

- ・ コミュニケーション能力の低下（トラブルの解消ができない、人間関係づくりができない等）。解決策：幼児期からの集団での遊び。子ども同士接する場面多くもつ。携帯電話等を持たせない。
- ・ 基本的な生活習慣や言葉遣い（相手を尊重する言葉遣い）に課題のある子どもがいる。家庭・親の教育力の向上が必要かと思う。学校の指導も重要と考える。
- ・ 朝から元気（やる気）なく登校する児童が年々増えてきている。保護者のネグレクト。夜中PC（ゲーム）にはまり、睡眠時間が足りてない。子育て支援課、各教育相談機関の活用。
- ・ 最近の子どもたちは素直さが足りない。だが、田舎に行くと、実に自然に初対面の人でもあいさつをすることに驚く。やはり親やジイちゃん、バアちゃん、教育者の問題か。
- ・ ほとんどの子どもが同年齢との交流しかしていないため、社会性を身につけていない。地域の行事に積極的に参加させる。
- ・ 小さい頃からあまりよその子とかかわることがなく、幼稚園や保育園、小学校に通うようになる子が多いように思える。そこで問題が発生して通園できなくなったり、障害が発覚したりして戸惑うこともあるようなことも。幼稚園などの集団に入る前に、つどいの広場のような子どもの集まる場所で、いろんな経験をさせてあげることが必要ではないだろうか。
- ・ 他人から見ていて首をかしげたくなる場面でも、その家族の価値観がどこにあるかで、子どもの置かれた状況に問題ありと一概に言えるのか迷う。よって、解決策は難しい。
- ・ 集中力が短く、落ち着いて座れない、すぐに手が出る。配慮のいる子が増えている（たとえば、多動の子、人と目が合わない子、言葉数が少ない子、自分の気持ちをコントロールできずパニックになる子など）。子どもと1対1で、ゆっくりとかかわりを持つと落ち着く様子がみられる。家庭においても、いろいろなかかわりをもってもらいながら、ひとつのことに集中できる時間を設けてもらうとよい。その子に合った丁寧なかかわりをしていくことが必要である。そのためには、保育士の配置が必要になると思う。
- ・ 落ち着きがなく、遊びや活動に喜んで参加する姿がみられない子が増えている。じっくり座って遊びが持続しない、遊びを次々変えていく、ひとつの遊びが長続きしない子が増えた。小さい頃、親子でふれあつての楽しさ、うれしさ、心地よさをたくさん体験してほしい。保護者が子どもとゆっくり過ごせる、かかわる時間をつくってほしい。乳幼児期にどんなことを、大切に子育てをしていったらよいのか・・・ミニ講演会、パンフ等。
- ・ 子どもを育てている親（両親）に問題があることをよく感じる。解決策として、子育ては「伝承」であることを伝えていく。「楽だから、簡単だから・・・」という方に逃げるのではなく、手間暇かけて育てていくことを分かりやすく、また、伝え方に工夫をしながら支援していく。

- ・ 親が家庭外で働いていることが多くなり、日々の生活では、親子のふれあいや、家族団らんが少なくなってきたように思う。
- ・ (課題)主に中学生をみていて、①基本的な生活習慣が身につかない子どもが多くみられる。課題から派生するもの：生活リズムの乱れ。生活の乱れ。怠学。不登校。提出物を忘れる、出さない。宿題を忘れる、してこない。学力不足。授業についてこない、授業がおもしろくない。家庭学習をしない。対人関係の不成立。先を見通す力がない。課題が起きる要因：生活リズム等、個々の子どもに対する家庭でのしつけの不十分さ→集団でのしつけが難しい、対人関係の成立が困難。ゲーム等の過度の使用による仮想世界と現実世界との境界が不明瞭になっている。②自己中心的で、自分の感情をうまくコントロールできない子ども、相手の気持ちを考えることができない子どもが多くみられる。課題から派生するもの：他人の気持ちを押し量れない。対人関係や人間関係を構築できない。いじめ、暴力。引きこもり、不登校。課題の起きる要因：生活リズム等、個々の子どもに対する家庭でのしつけの不十分さ。ゲーム等の過度の使用による仮想世界と現実世界との境界が不明瞭になっている。③家庭や地域での体験不足。課題から派生するもの：体験から得られる「先を見通す力」。他人の気持ちを押し量れない。課題の起きる要因：単親家庭の増加、兄弟姉妹の減少、近所づきあいや地域交流の減少が、子どもたちの体験に基づいた力の育成を阻害している。(解決策)①地域を活用した基本的な生活習慣の大切さを再認識させる啓発(学習)・取り組み→大人を変える：子ども・保護者への啓発は、学校がもっとも行っていると推測する。②子どもに対するゲーム・携帯・スマホ等の利用制限・利用マナー・危険性の地域啓発→大人を変える：所持制限は難しい(高校生の所持率は全国的に95%以上)。③実体験を重視した地域交流。
- ・ 自分の気持ちを言葉で相手に伝えるように話したり、言葉から相手の気持ち察したりすることができない子どもが増えてきた→学校では、学級活動や道徳、日常の指導でコミュニケーション力を積み上げていく。家庭では、子どもの話を取り上げないで最後まで聞く、話をさせる。大人の話を中心に聞いて聞くことができない。BGMとして聞き流す子が増えてきた→学校では、ねらいを絞って簡潔に分かりやすく話す。聞くルールを徹底させる。家庭では、無駄な声かけやめて、指示したことができていないのか見届ける。家庭の教育力が低下している。忘れ物や宿題をしない、早寝早起き朝ごはんやあいさつができない等、保護者のひと手間が抜け落ちて、その状態が当たり前だと思って育っている→家庭教育宣言やねるちゃんけすちゃんの取り組みを徹底する。
- ・ 自分の良さを見出せない、自尊心が低い子どもが多い、自分に自信が持てないでいる。将来の夢や展望を見出しにくい社会になってきていて、将来への希望や夢が持てない子どもが多い。人間関係づくりが難しい子どもが増えてきている。粘り強く取り組みこと、忍耐力が弱くなってきている。(解決策)身近なところから、目標を持たせ成功体験、失敗体験を味わわせる。自分が人の役に立つという経験をさせる。同学年、異学年、地域の人とのかかわりを増やす場をもつ。大人が子どもの行いの良さを認め、価値づける言葉かけを行う。
- ・ 子どもたちが時間に追われ、余裕をなくして、人との関係が希薄になっているように思う。

心を感じ合うことに乏しさは、これからのまちづくりに大きな支障になるのではないかと危惧する。その様子は親の姿を映したものではないだろうか。

- ・ 子ども同士のつながりの希薄化。インターネットの普及により、多くの情報がすぐに入ること（年齢的に知らせない方がよいと考える情報まで簡単に知ることができる）。地域では子どもたちにつながりを持たせ、深める取り組みを工夫しながら、進めているので継続していくことがひとつの解決策と考える。
- ・ 愛情不足を感じます。親子のかかわりの大切さを親の側がどれほど認識と実行が伴っているのだろうかと思う。物などでその場しのぎのような感があると思われる。もっと時間を子どものためにつくって、かかわりを深めることが必要かと思う。
- ・ 年齢に相応しい成長がなく、そのために心も体も育ちが弱い。0歳～3歳までの発達（経験が見逃されている）と認識、その成長に合わせた家庭でのかかわりの不足が、子どもの弱さにつながっている。保育所から入園してくる子どもも同様で、安全な生活を配慮していると思うが、心の、心身の育ちが配慮されていないように感じる。一人ひとりの成長の認識がなされているかどうか。心身の発達で問題を感じることもある。
- ・ 自然体験、外での遊び、集団・異年齢の子たちとのコミュニケーションが足りないように思う。今は遊ぶ場所も少なく、子どもの人数も少ないため、保護者も容易に外に出せないのかも。学校や幼稚園、保育園、市で行っているのびのび教室？のなかでの取り組みを増やす。
- ・ 子育てのなかで感じるのが、甘やかしや過保護といった、少しちょっと変、と感じることが増えている。少子化または高年齢での出産などがその一因ではないかとも思う。子を育てるということはどういうことなのか、出産育児を通じてもっとしっかり教育していく必要があると思う。小郡市ではかなり生涯学習センターを通してやっている方だと思うが、まだまだ不足かなと思う。
- ・ 発達段階にあった体験が不足していることによる基本的な生活習慣、基本的な心得、規範意識等の形成不足。
- ・ 中学校の場合、学力不足、人間関係をうまくつけれない等が、学校生活をうまく送れない主な原因となっているように思う。これらが原因となって、不登校や怠学、暴力、いじめ等の事象が表面化していると分析している。学力不足は、当然勉強が分からない、授業がつまらない、宿題をしてこない、授業中にちょっかいを出す、自分の行動の見通しがつかない、対人関係における自分の状況を考えられないなどにつながる。知識としての学力の不足もあるのだが、生活体験に結びついた学力（気づき、考え、行動＝応用する力）も明らかに乏しくなっている。また、学習や友人、仲間を必要としないという生徒も増えている。ゲーム依存による不登校などが、その例だ。メールやLINEによる関係も生活リズム、関係づくり等で課題だ。解決策は、教えることしかないように思う。個人を変えられないなら、周りを変えることで取り組むことだと考えている。
- ・ 核家族化、電子媒体の増加により、コミュニケーション能力（あいさつや返事、自分のことを他に説明する等）が極端に低下していること。個人の種々の能力が国・数といった一部の「学力」のみに限定されて評価をうけており、一部に偏りのある見方、考え方が強く

なっている。

- ・ 幼少の時期に、どのように育ってきたかが、その後の子どもたちに大きな影響を与えているので、就学前の子育て支援を充実すること。何かあるとガラス玉のように割れてしまう。ゴムまりのような弾力がなくなってきている。
- ・ (問題や課題) 基本的な生活習慣が定着していない生徒や対人関係でトラブルを起こす要因をつくりやすい生徒が多い(人間関係力やコミュニケーション力の欠如)。他人の立場に立っての想像力が弱い。道徳的規範が曖昧な面がある。(解決策として考えられること) 基礎基本の確実な定着と「自ら学ぶ力」「習得した知識や技能を活用する力」の育成。中心にすえる子の悩みや願いが学級全体で共有できる取り組み。自己表現力・コミュニケーション能力が身につく学習指導。自他の人権を大切にす態度と実践力を培うための系統的な取り組み。
- ・ (問題や課題) 人権尊重の人間関係づくりがうまくできない: 互いの良さや可能性を認め合ったりすることがあまりできない(表現力の不足)。自己存在感や自己肯定感が低い。問題解決力が弱い。社会性や社会的スキルが弱い。自学自習の不足。(解決策として考えられること) 他者を思いやる心豊かな集団づくり(小さなサインを逃さない、校内教育相談体制の機能化、道徳の時間の確実な実施と人権学習の深化)。言語活動が機能した授業づくり(わから授業、家庭学習の習慣化)。学校、家庭、地域が連携する環境づくり(よい習慣づくり、地域行事参加)。

**子育て家族の様子をみていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 双胎のママを支援する事業があるといい(平成25年度3つ子の出生あり)。シルバーママは高齢なので、双胎以上に家庭には補助あり等支援が必要に感じます。「産後うつ」や「初めての子育てで戸惑い」「子どもとの暮らしが不安で里帰り先から帰れない」等、訴えるママさんたちもいる。出産した病院から退院したら、2~3週間泊まれる助産院があるといいと思う。他県では、国のモデル事業で実施されたところもあるし、関東方面では、産後うつのリスクの高い(エジンバラで高得点)褥婦が入所できる助産院(自治体からの補助金あり)等あるそうだ。小郡市でもあるといいと思います。その後の女性のメンタルや児童虐待等の予防につながる事業だと思う。
- ・ 子育てに関しての相談者が少ないように思う。母親などで、近くに友達や家族がいなくて、昼間はずっと家に子どもと閉じこもっているという人もたまにいる。(解決策) サロンなどの充実。相談窓口について、もっと広く周知する。
- ・ スマートフォンを見せっぱなしで、ほったらかしている親をよく見る。子どものコミュニケーション能力への影響、親子のスキンの低下。テレビやスマホを子守りの道具としない。子どもとの時間を取れるような生活の見直し。忙しい時の子どもへの対応と一緒に考える。子どものひとり遊びを促す(積木やお絵かき等)。
- ・ 両親ともに仕事が忙しく子どもにかかわれていない。子どもにも大人の時間での生活をさせている。
- ・ 親が干渉するケースが多い(汚れるから、遊ばせないなど)。子どもの成長・発達の過程で、

子どもたちにどんな経験が必要かを親が理解できていないので、きちんと伝え、子どもたちにはさまざまな経験をする場を提供する。

- ・ 実家が遠い等、近くに子育てに協力してくれる人がいない。配偶者の仕事の帰りが遅い、子どもとのかかわり方が分からない等でストレスを抱えている保護者が多いと思う。(解決策) 子育てについて気軽に相談できる仲間づくり。育児サポートシステム。子どもの成長、発達、かかわり方についての情報提供。
- ・ 地域コミュニティが希薄で孤立し、不安を抱え込んでいる人が多いように感じる。10代の妊娠も増加しており、未熟なまま親になっている。(解決策) 共助ともいえる協働のまちづくりを全市的に展開し、地域コミュニティをつくっていくこと。相談窓口の充実。命の大切さについての教育。
- ・ 子育て・教育に対する家庭の経済負担が大きい。保育料負担があまりに大きい。義務教育段階でも、経済的に厳しい家庭にとってはかなりの負担である。義務教育段階においても、日本社会では習いごとや塾などは家庭の経済負担によるところが大きく、経済格差が教育力格差となる。中等教育、高等教育においては、家庭の経済負担は非常に大きい。教育・福祉政策において、子育て、教育に関する経済負担が個人負担から公的負担に転換していく政策が必要である。保育に対する公的負担を多くする。中等教育においては、公立・私立にかかわらず、個人負担を減らし、経済力にかかわらず自由な進路選択ができるようにする。奨学金制度を充実し、貸与型から給付型に転換する。
- ・ 「子どもの最善の利益のため」と私たち保育者は、すべての基本をここにもっているが、保護者においても子育ての基本を親の思いを中心にではなく、社会のなかでの子どもの姿が考えられるよう保護者にかかわり、ともに育てていくことが大切だと思う。
- ・ 園に来ている保護者は、皆仕事を持っているので、毎日仕事と子育てに追われ、時間に余裕がないように思う。解決策としては、子育てを負担に感じないように、話を聞いたり、リフレッシュの時間を持ったりするための協力が必要だと思う。
- ・ 核家族化や少子化で、幼いころから小さな子どもと接する機会がなかったまま、親になってしまった世代が、自分の子育てに戸惑っていると思う。地域の方とのかかわりも少なく、親子だけで1日を過ごすことも多い。その結果、自分たちだけ良ければそれで良いと思う家庭も増えているように思う。
- ・ 核家族化しており、親も仕事等で家にはいない。子どものみで留守番をしている。公民館等を活用し、子どもが来られるよう、工夫しているところも多いが、まだまだできていないように思われる。
- ・ 子育ては母親が大部分であると思う。ついで祖父母であろう。父親は仕事の関係、慣習等でほとんど関わっていないと思う。母親としては父親も積極的に協力してほしいと思っているのではないか。これは父親の意識改革が最大の問題である。そして一番の問題は、子育ての経験のない母親の不安である。その母親の悩みを聞く態勢、同様な母親同士の交流の場の設定。乳幼児健診等の場で悩みを聞く。ひとりで子育てに悩む母親を皆無にする取り組みをする。順調に生育しない子どもへの対応を早期に把握し、必要な対応ができる体制づくりも必要であろう。仕事と子育ての両立が強いられる現状においては、働く環境改

- 善のための企業への働きかけと、乳幼児を安心して預けられる託児所の確保も重要と思う。
- ・ 現代の親世代はインターネットや携帯に依存し、それが一番正しいことのように、子育てしてしまって、人との会話のなかで学ぶことを忘れてしまっている。(解決策) 子ども会や自治会活動に参加してみる。
  - ・ 価値観が多様化し、自由な風潮のなかで、どういう子育てをするか、それぞれの家族の考え方があって難しいのだが、大人の時間ばかりを優先せず、子どもに基本的な生活習慣をきちんと身につけさせ、子どもの時間と大人の時間を区別して、子どもではできないこと、大人になってからできることをきちんと教えてほしい。
  - ・ 核家族化のなかで子育てを行うための必要な知恵や生活感を親の世代から受け継ぎにくくなっている。
  - ・ 経済的余力がなく、非正規雇用で勤務が不規となり、親子のふれあう時間が不足？
  - ・ 仕事上、子どもとゆっくり接することができてない。子ども同士や親同士での仲間づくり。
  - ・ 習いごとが多く、子どもたちは自由に遊べていないのではないかな。また、手伝いはじめ、働く経験が減っているのではないかな。親も仕事に追われ、子どもと向き合う時間が少ないかもしれない。全体的にゆとりのなさが感じられる(昔と比べて)。働き方の改善(個人よりも社会全体の問題)。
  - ・ 学校の勉強も含め、子どもに対して詰め込みすぎ(塾やスポーツなど)のところがあるように思う。毎日が忙しすぎるように感じる。
  - ・ 家族によるので一般化できない。
  - ・ 小さな子どもを連れて遊びに行く場所が少なく、親も子どもも社会との接点をもちにくい。近くに協力者がおらず、母親だけが負担を強いられる。
  - ・ (問題・課題) 一部の家庭の話になるが、大人のスケジュールや時間で、子どもたちが生活していることは、子どもが育っていく上での問題点のひとつであると思われる。夜遅くまでテレビがついている環境のなかで「夜、なかなか寝ません」と相談されることもある。また、身のまわりのことに、保護者が介入しすぎて、子どもたちのなかに「自分ですること」の意識が育ちにくいことも、課題と考えられると思う。(解決策) 子どもがどういう生活時間のなかで育つのが望ましいかを、妊娠中の母親に学習会などのなかで話をし、意識を持ってもらうようにする。ゆうでは、毎日の学習会のなかに、子どもたちの基本的な生活について、話をしていくようにしている。
  - ・ 核家族化等のため、子どもを預けるところや相談する人がなく、保護者にかかる養育負担が大きい→子育ての相談事業の充実、保護者レスパイトも含め、保育所等の一時預かり等の支援を行う事業の増加。子どもたちが集まる場が少なく、子どもの状況を把握できない保護者がみられる→保育所等の一時預かり等で子どもの状況把握や集団の経験、親子で遊び、子どもの発達状況把握や人とのかかわり等を経験する集団の経験の場の提供、保育所等の一時預かり等で集団の経験を行う。
  - ・ 障害のある子どもを抱えるなかで、保護者の養育負担軽減のために預ける場所が少ない→日中一時支援などを行う事業所が増えるといい。
  - ・ ネット社会で情報があふれていて、子育てにプラスな面、マイナス面があると思う。地域

や近所の人と話をすることやふれあうことが少なく、親子だけの行動が多く、親も子どもの反応をみて機嫌をとり、子どもも親の顔色をうかがっているように感じる。自分だけ、自分の家族がよければよいという考えが多いように思う。

- ・ いろいろな情報が飛び交う現代で、子どもの機嫌をとる大人が増えていて、間違いを教わらない、注意されない子が多いと感じる。また、親に対しても、それを教えてくれる存在が身近にいない。お互いに顔色をうかがっているように感じる。もっと外に目を向けやすい、地域、近所とのかかわりをもちやすい場所の提供などが必要だと思う。
- ・ 子どもの問題は親の問題である場合がよくみられる。親への支援（時には指導）できる組織があるといいと思う（早寝早起き朝ごはん、風呂に入る、片付けをする、親がゲーム依存など）。
- ・ 自転車の乗り方が話題となるが、両親、地域で取り組めば、子どもたちは素直によくなるだろう。核家族が多くなり、子育てのできない保護者が多くなっているように思える。仕事が忙しい、勉強勉強と勉強面にだけ口うるさい親。自分たちは顧みず、他と比べ、批判ばかりする親が多いのではないか。三世代家庭では両親の力が強く、年配の子育ての知恵が、発揮できていない面がみられる。保護者が学習できる機会で、保護者が育てられる。地域社会づくりが必要だ。
- ・ 勉強さえできれば、という意識が強く、家事等の手伝いが不十分。各家庭が子どもに甘く、厳しく育てることが難しい。それぞれが多忙で、一緒に食事をする機会が少ない。各家庭でひとり一役の家事分担を徹底する。学校や地域での保護者の研修会を持ち、厳しく育てることを徹底する。各家庭においてみんなで食事をする取り組みを増やしていく。
- ・ 保護者の仕事の時間に合わせた生活に、子どもの生活を合わせなければならない現状がある。保護者に子どもの成長には早寝早起きの大切さを十分に知らせ、少しでも工夫して子どもの生活にあった時間に合わせるように知らせていく。
- ・ 親が子どもの言いなりになりすぎて自分中心の子どもが増えている（父親の存在が薄い）。丁寧に子どもの行動や発言に対応し、うまく伝えていくように努力する。
- ・ 子どもの自立ができていない。過保護ではないかと感じる→就学前段階での読み聞かせや親子での遊びなどのかかわりを増やす。3歳までのスキンシップの必要性。
- ・ 核家族で、周囲とのつきあいが少なく孤立していて、子育てが未熟な家庭がある。子どもの基本的な生活習慣・生活リズムがつくれていない家庭がある。早寝・早起き・朝ご飯（食育）を推進すること。寝る時間、ゲームや携帯電話の使用等について、家庭でルールを作り、守らせること。
- ・ 妊娠の段階から、強制的に家族のあり方や子育ての仕方など、研修義務付けをする。
- ・ 仕事と子育ての両立で、子どもの生活リズムの乱れがみられる。大人に合わせたリズムになっている場合もあること→園での呼びかけ、生活リズムの大切さを伝え、意識してもらう。
- ・ 両親または家族が他にいれば、みんなが協力しないとできない。
- ・ 子育てに悩んでいる保護者が多くなったことを感じる。また、入学前に「しつけ」等が十分でないことを感じる。対策としては、子育て相談等の充実や就学前における保護者の支

援が必要と思う（実態把握と具体的な対策）。

- ・ 子どもと親がゆったりと接していくことが大事というような感覚が薄れている。しつけということで必要以上に怒られることで、親の言動にびくつき、落ち着かない子が多い。毎日子どもといることが楽しいというより、ストレスだという声もよく聞く。指示的な言葉かけしかできていない親も多く、家庭で受容されているという感覚が育っていない。解決策として、就学前教育機関で保育士たちは、よく子どもや子育ての課題をつかんでいる。その時点での的確なアドバイスが受けられるような仕組みがなく、そのままになっている。親が子育てに悩んだり不安をもつこの時期、子どももまだまだ素直に親に頼る時期でもある。乳幼児の子育て支援の仕組みづくりが大事かと思う。
- ・ 核家族化が進み、地域や身近に育児に関する相談等ができる環境がない。
- ・ 保護者の生活面での優先順位が子ども中心よりも大人中心になりがち。仕事中心であったり、自分（保護者）の楽しみが中心であったりする。家庭訪問やクラス懇談会などで、子育て情報交換や子どもの育ちについての話をしている。
- ・ 共働きの家庭が増えており、日中の子どもの様子をあまり把握していない親。帰宅後も子どもと十分向き合うことのできていない親が多いように思う。働かなければならない状況であることも理解できるが、上手に手を抜いたり、何らかのサービスを利用すること、可能であれば、子どもが幼いうちは、就業体制を再検討するなどができればと思う。
- ・ 子育て支援に来る家族で多くみられるのは、母親同士のおしゃべりに夢中になり、我が子をみていない親がいる。友人同士トラブルになることもある。保育士が十分安全面に配慮しつつ、母親たちにも我が子をみてもらうように声かけをする。
- ・ 親が子どもへのかかわり方が分からず、厳しすぎたり、甘かったりする。近頃は、してはいけないことをいけないといわない親が多い。専門職として、きちんと子どもの発達段階やかかわり方を伝えていく。
- ・ 過保護だったり、放任だったり、両極端な人が気になる。そのため、子どもたちは基本的な生活習慣を身につけられていないように思う（片付けなど）。また、ネットなどで情報があふれすぎていて、何を育児手本としていいのか悩んでいると感じる。他者と比較するのではなく、その子をその子なりの成長を少しずつでも感じ育児し自信を持ってもらうよう努めていくようにする。
- ・ 両親とも働いている家族が増えて、夕方、保育所に迎えに行き、家事を済ませている。母親にはゆとりがないように見受けられる。
- ・ 子育て前に子どもに触れ合ったことも少なく、身内や周囲の人からの子育てのアドバイスを聞く機会もなく、雑誌やネット情報にやや振り回され気味に育児をしているように思う。
- ・ 自分の子のことしか考えない親が増えている。自分の子のことしか信じず、子どもが泣いて帰ったりしたら、すぐ幼稚園へ苦情を伝えにくる。早寝早起きの習慣が身につけておらず、登園時間に間に合わない→親の生活の流れに子どもを合わせてしまっている。お箸や水筒等をきれいに洗えていない家庭がある→親の意識が薄い。
- ・ 子どもが大人超えをする時期になって、指導が入らない。解決策：急に親らしきことをしても、子どもには通用しない。幼児期から子どもと大人のけじめをつける（言葉遣い、会

話の内容、時間、テレビの内容等)。

- きょうだいの多いところは、「しつけ」が不十分なところが本校では見受けられる(祖母等が子育てにかかわっている家庭が多いので、親がかかわっての「しつけ」が不足していると思われる)。保護者(祖父母も含む)の家庭教育の向上のための社会教育の充実(学童保育の充実)。
- 子育ての仕方が分からず、ただ「怒る、怒鳴る、叩く」の繰り返し。どのように子どもに諭していけばいいのか悩んでいる人もいるようだ。20時以降にコンビニやドラッグストアなど、子連れでいつまでも明るいとことをうろうろ。脳のため成長のためには、よくないことだと強く知らせたい。保護者がコミュニケーションを取れず、孤立している人もいるようだ。
- 子育て中の家庭は、核家族化で孤立している(経済的に働かざるを得ない)。子育て家族同士が連携できる場を提供する。
- インターネットの普及によって、便利なことも増えたが、振り回されることも多いようである。身近に相談する相手がいればよいのだが、転勤で実家が県外に人などは、特に難しいようである。親子で交流できる場所がもっともっと充実すればよいと思う。
- 子育て中の親たちは、一生懸命手探りで頑張っている様子がみられる。しかしメディアやネットで惑わされ、時にはどうしてよいか分からなくなるようだ。子育て家族が集えて、何でも話して「私のやり方、これでいいんだ」と思えるような場があれば、子育て中の親が自信を持って子育てができると思う。
- 夕食時間(一般的)帯に、スーパーで幼い子を伴って買い物。子どもは走り回っている。後方から歩いてくる我が子には、注意するでもなく、手元の携帯に夢中。学校で使用する必需品がまったくない、または不足している等、親が子どもにかかわっていない様子(学校での支援員の折)がうかがわれる状況を度々見る機会があった。
- 仕事に追われ、ゆっくりと子どもとかかわることが少ない。子どものわがままに言いなり(注意をしない、言葉で伝えない)になってしまったり、見て見ぬふりをしている。子育て方針に対して「うちでは・・・」と各家庭のルールがあるが、社会的ルールではないところに問題がある。言葉できちんと伝えることの大切さ、また家庭でのルールが社会的ルールからかけ離れないように保護者との連携を図る。
- 保護者(母親)が人とかかわり(接すること)が苦手な人が増えている。甘やかしとしつけの見極めが難しく、自己中心的な考えの人がいる。地域で子育て家族を見守る。あいさつ、声かけで話すきっかけを増やしては。
- 休日の過ごし方。両親が行きたいところに子どもを連れて行く、または一日中遊んで休み明け(月曜日)に、朝からあくびをする疲れた様子の子どもの姿がある。解決策として、どこに行くか、ではなく、誰とどのように過ごしたか、ということが子どもにとって大切であることを伝えていく。
- 毎日忙しく、子どもにゆっくり接することができない。子育てをどうしたらいいのか分からないようだ。
- (課題)①保護者の「子育て」に対する価値観の多様化があると思う。家族構成等の状況

もさまざまだし、家庭の経済状況もさまざまである。そのようななかで、子どもの成長を考え、ていねいにかかわりながら育てている家庭、逆に過干渉や不干渉の家庭もある。また、行政区等に入らず、地域とのかかわり（結構大変な部分もある？）を持たずに生活している家庭もあり、地域で孤立化している実態もあるのではと思う。子どもの様子を見て、ネグレクトに近い状況（汚れた服を着ている、弁当がコンビニ弁当等）の子どもも少数だがいるように思う。子どもや保護者は、「昔からこうです」という感じで問題意識がないようなところがある。課題から派生するもの：基本的な生活習慣という考えが成り立っていない（失礼な表現だと思うが）。仲間はずし？ 劣等感。課題の起きる要因：親の生育歴？ 子育てに対する手抜き（失礼な表現だと思うが）、ネグレクト？ 地域のかかわりの希薄さ。他人にかかわることに対する遠慮、人間関係の希薄さ・・・「要らぬお世話」といわれるのを嫌う。（解決策）行政のかかわり。地域のかかわり：かなり以前から難しくなっているが、要らぬお世話→地域のかかわりがなくなる。子どもに本気で向き合う体制づくり：行政・家庭・地域・学校。

- ・ 生活が夜型になっていて、学力、体力、生活習慣に影響が出ている。原因としては、保護者が働いており、夕食の時間がずれ込んでいる。遅い時間まで社会体育や習いごとをしている→指導者を交えて話し合いを持つ。テレビやゲームを長時間している→ノーテレビ・ノーゲームデーを設ける。家庭の主役が子どもになっており、子どもにわがままや忍耐力、つまずき経験が不足している。大人がお膳立てし過ぎて、子どもが受け身になっている→克服体験をさせる。お手伝いや仕事を継続的にさせる。新家庭教育宣言の取り組みを徹底する。
- ・ 保護者の共働きが多く、帰宅が遅いところもあり、社会全体が夜型の生活になり、子どもも就寝時間が遅くなり、生活リズムが乱れているところも多い。子どもが日常、テレビ・ゲーム・携帯などの時間が多くなっているが、家庭でのルールがあまり決められていないところが問題。あいさつ、学校への提出物、家庭学習など、家庭でのしつけができていない家庭が増えてきている。（解決策）社会全体で残業を減らし、夜型生活を見直す啓発活動を行う。メディア依存の弊害を保護者が危機感をもって考えるような広報活動をあらゆる場、機会に行っていく。
- ・ 親の生育歴や生まれ持った性格、何らかの障害などにより、子育ての仕方がさまざま、それにより子どもたちは大きな影響を受けている。三度の食事もなく、給食で栄養をまかなっている、親子で遅くまでテレビやゲームなどで時間を費やし朝起きれず、生活リズムが乱れ生活意欲も失くし不登校になったりと、さまざまな問題が出てくる。親からの愛情が見出せたら少しの改善はみられると思うが、親が愛情を受けて育っていないと子どもに愛情を感じない親に「子どもは、産んでくれたお母さんを愛している」ことについて時間をかけて伝えていき、子どもに愛情を注いでもらえたらと思う。
- ・ 2つの問題。ひとつは発達障害を含め、何らかの大きな課題を抱えて生きることを余儀なくされている人たちの増加。もうひとつには、家族あるいは個人の孤立化、それらの改善には、人とのつながり、何を人は望んでいるのか求めているのか、が分かる人間づくりが求められる。

- ・ 共働き家族の増加にともない、親子で顔を合わせゆっくり話す時間が少なくなっている。親が子どもの今の状況を子どもの言葉で聞くことや自分の思いを伝える機会をもっと大切にする必要があると思う。また、同じ子育て世代に親同士の日常的な会話も少ないため、客観的な子どもの状況の把握が希薄になってきていると思う。もっと子どもと向き合う時間や他の親からの情報を得る工夫が必要と考える。
- ・ 私たちの幼稚園では、結構子どもとかかわっており、意識は高い方ではあると思う。食事の時にテレビを消すこと、早寝早起きの励行等、協力的です。これを持続することも大切だが、子どものために何が大切で、何が必要か、子ども優先で考え、行動することが望ましいと思う。親の都合であったりと、親優先で、子どもの方に合わせるようにしている感が一般的と思われる。
- ・ 核家族のため、どのように育てたらよいか分かっていない。素朴に子どもを育てること、どのようにかかわったらよいか、あやし方を含め、食事、トイレトレーニング、基本的な生活の仕方が分かっていないと思われることが多々ある。親と子が楽しんで遊ぶ機会、育児体験の豊かな人とともに過ごすことだと思う。
- ・ 親と子だけのつながりしかない。外との交流の場が少ない。
- ・ これからの社会では、益々女性が仕事をしていくことが求められている。子育てをしながら働くということはとても大変である。そのなかで出産して最初に困るのが保育所の問題だ。4月からだと入りやすいが、途中からは入れないと、よく聞く。また遠くの保育所を紹介されて家から保育所まで車で行き、また、自宅に戻り、今度は自転車や歩いて駅まで行き、福岡市内や久留米まで行くとよく聞く。その人の仕事や背景まで考えて保育所を選んでほしいし、対応してほしい。もっともっと人口動態に応じて増加させるなどしてほしいと思う。
- ・ 保護者の子どもに対するかかわり方がさまざま。家族の状況（大家族、核家族、ひとり親家族など、家族の形態や経済状況など）によって、そのかかわり方も違ってくことは当然だが、子どもの成長を第一に考えてくれたら、と思ってしまう。保護者の一生懸命なかかわりが、子どもを大事に育てることだと思し、その姿を子どもは見て育っていくと思う。子育てに手抜き（大変失礼な表現だが）をしていることはないだろうか。子どもは、家庭という環境だけで育つのではない。だから、保護者が懸命にやっても、周りの環境によって（保護者や教師、地域が）望むようには育たないこともあるだろうから、課題の原因を家庭と子どもにすべて向けてはいけなさと考える。解決策は、大人（家庭、学校、地域）が子どもたちに真摯に向き合うことにつきて思う。どんな取り組みをしても、やっている者がしっかりしないとっしょだ。最近の事件・事故をみても、人為的なミスが原因になっている事例がほとんどだから。
- ・ 多くの家庭はきちんとした育児、子育てをされていて、学校にも協力的だが、ほんの一部ではあるが、子育てに無関心や超過保護の保護者がいる。そのことに気がついていない。
- ・ 親が自分のことに忙しく、子にかかわる時間が少ない家庭、反対に、子どもにかかわり過ぎて、子どもが自分で判断できなく、親に聞く、親は子どもに代わって答えるなどがある。
- ・ 子どもの数が少なくなって、過保護な家庭が多くなったように思う。また、子どもの言っ

たことだけを信じてクレームを学校に言ってくる家庭もある。解決策としては、学校と家庭が密に連絡をとり、学校からも情報を発信し続けることが大切さと思う。

- ・（問題や課題）経済的に苦しい家庭が多く、保護者も仕事を中心に、子どもにかかわる時間が少なくなっている。「早寝・早起き・朝ご飯」の定着が難しい。携帯電話を与える。子どもとじっくり向き合えず、学校に責任転嫁してくることも多くなってきた。（解決策として考えらるること）積極的な家庭訪問と丁寧な話し込む。子どもの育ちと学びを支援する保護者啓発の学習会の充実。「人権のまちづくり」と連携した教育実践や「総合的な学習の時間」の取り組みを中心とした家庭や地域、そして学校のネットワークづくり（各関係機関等との連携）

### **両親と子どもだけの家族では、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか**

- ・ 両親が仕事や用事のときに子どもを預けることができない。身近に相談相手がいない。どうしても他人とかかわる機会が少なく、閉じこもりがちになってしまう。
- ・ 共働きの場合、仕事の都合で保育園の迎えができない、子どもの成長を肌で感じる機会が少ない（子どもができることを知らないことが多い）。
- ・ 子育てに疲れても、ちょっと預けたり、息抜きをする時間が持てない。一時保育など料金が高かったり、事前予約が必要だったり、急な時に子どもみてもらえない。
- ・ 両親が急に用事ができた時などに預ける場所がない。
- ・ 子どもとのかかわり方が分からない。用事がある時に子どもを預けるところがない。保護者がストレス解消する時がない。祖父母からの学びを受けにくい。
- ・ 子育てを手伝ってほしい時に、お願いできる人がいない。子どもとの接し方がよく分からない親も多い。
- ・ 核家族が一般的になり、両親ともに働いている場合が多くなっているため、子育ての負担が大きい。乳幼児期の保育所の不足、入所できても保育料の負担が大きい。子どもが病気になった時に仕事との両立が難しい。子育ての悩みを相談できにくい。日本社会では、父親が子育てに積極的にかかわることができにくく、母親の負担を大きくしている。雇用形態、社会意識などが、父親の子育て参加を難しくしている。男性自身が社会通念に寄りかかっているため、子育てに参加しようとする意識が低い。
- ・ 両親共働き（フルタイム）の場合、子どもの病気への対応が難しい場合がある（特に長期の場合）。
- ・ 子育てに悩んだ時や、子どもの急な病気の時など、身近に頼れる人がいないと困ると思う。
- ・ 親が体調を崩した時など、すこしの間、子どもを預かってくれる場所が少ない。子どもと一対一での生活で、育児に不安やストレスを感じた時など、話を聞いてくれたり、相談する相手がなくて、孤独を感じることもあると思う。
- ・ 子どもたちのみの留守番。
- ・ 両親とも共働きの場合、子どもと過ごす時間が少ないこと。したがって、子どものことは心配だが、どうしても生活上、仕事優先になる傾向にある。現在小郡市で、幼稚園、保育園で待機児童がどのくらいいるのか、把握しているわけではないが、いるとすれば、親は仕事との関係で悩んでいると思う。また、保育料の問題で困っている家庭もあると思う。

送迎等の問題もあるが、入園地域枠があるとすれば、拡大あるいは廃止して、均衡化を図る検討も必要。子どもの将来が心配だが、話を聞いてあげる時間がない。親と子どもの行事に参加してやれない、子どもは肩身が狭い。それでも子どもが負い目を感じない工夫が必要と思う。

- ・ 普段の生活のなかで「なぜこうなるのか?」「どうしたら解決するのか?」教えてくれる人、相談に乗ってくれる人がいないことと、助けてくれる人がいないこと。いじめによる不登校。学力低下。
- ・ 仕事と子育ての両立。子どもの病気の時の対応、しつけの仕方。
- ・ 共働きの場合、育児や子どもの生活面に行き届かない悩みがあると思う。特に母親。地域における子どもたちの居場所が失われつつある。
- ・ 育メンが増えてきていると思われるが、乳児期幼児期の急な病変対応に戸惑いや不安が多い。家庭で子どもに教育指導する時間がない (BB クラブ拡大、チューター拡大)。子どもが病気の時、休暇がとりづらい。母親が病気や入院時、食事の準備ができない (コンビニ弁当で・・)。
- ・ 両親共働きに行っている家庭が多く、子どもを朝早くと夜遅くまでみてもらえる施設があれば安心して働くことができる。
- ・ いろんな家庭があるので、一概には言えない。いわゆる核家族は増えているが、それはそれなりの良さがあるからと思う。今は老親も子どもと別々に住むことを望む人が多いと聞く。子どもにとっては、両親、祖父母と一緒に暮らすのが、成長にプラスになると思う。
- ・ 行きたいのに就園できない、だから働けないとか、親の責任で自由にできるようになるといい。
- ・ 子どもを預けられず、自分の病院にも行けない。両親が仕事をしていると、放課後の子どもに目が届かない。子どもが病気をするたびに仕事を休まなければならない。
- ・ 子どもを預けて、息抜きをするということが難しいため、子育てのストレスがたまるのが考えられると思う。また、母親が体調が悪い時などに、安心して頼ることのできる人が近くにいないことで悩んでいる人もいる。子育てについては、最近の母親は、ネットなどでたくさんの人と交流したり、情報を得ているので、分からないことがあっても、聞く人がいないという悩みは、あまり聞かないように思う。
- ・ 第一子の場合、子育てや子どもとのかかわり方が分からない場合がみられる→子どもが集まる場の提供、健診での子どもの把握や子育て相談の充実。子育て、子どものことについての相談する人がいない、少ない→子育て等の相談機関の充実、乳幼児健診等のフォローの充実。親が病気になり、子供の面倒を見る人がいないとき→病児託児の充実等。
- ・ 共働き子どもに障害があり療育が必要な場合、療育に連れて行きたいが連れて行く人がいない。
- ・ 核家族世帯は、いざという時に子どもを預けることができず、困っているという声を聞く。育児のストレス、家庭内でのストレス、子育ての不安や悩みなどを気軽に話し、相談できる場を求めている人も多いのではないかと思う。
- ・ 子育てに関する不安や悩みを相談する相手もなく、また、突然のことに対してもすぐに頼

れる存在があれば、自分たちで動きがとれ、問題を早く解決できる場合もあるが、時間や人手、情報（子育ての先輩の意見）の不足になりがちで困っていると思う。

- ・ 特に共稼ぎの場合、子どもが行き渋りや病気になった時、仕事の方も気かけながら子どもとかかわらないといけないので、精神的に疲れると思う。仕事に追われている家庭では、宿題をみてあげたり、子どもの話を余裕をもってじっくり聴いてあげられず、子どものサインを見逃す可能性もある。BBクラブのような放課後、子どもの勉強をみたり、友だちと遊んだりする場があるのはとてもいいと思う。親との連携が少しでも取れるとなおいいと思う。時間を持て余している高齢者と子どもがふれあう場もあるといいと思う。
- ・ 共働きをしていると、とっさに起きた子どもの悩みや困ったことに対応できない。放課後などの子どもことが心配、安全を気遣う。
- ・ 「生活するのに精一杯で、子どもに向き合う時間がない」とよく聞くが、そうではないと考える。まず、親のあり方としての成長を、あらゆる機関を通して行うべきである。直接向き合う時間は少なくとも、親としての言動ができていれば、子は育つはずである。親が親としての教育がなされていない面もあるが。自分たち（親子だけの家庭）だけの家庭では、特に多くのところに参加し、地域にも出やすい地域づくりができれば、家族だけで悩まず、まず、両親が元気になり、子どもたちも育っていくのではないか。現在は、家族だけで、という傾向が多くなっているのではないか、PTA への参加状況、地域行事への参加状況はどんな感じだろうか。
- ・ 子どもの体調が悪い時、両親が仕事の関係で休めない時（病児保育を活用する等方策はあるが）、どのように解決するか非常に困っていると思われる。
- ・ 父親は仕事一途、母親が子育ての責任を負い悩んでいる。特に共稼ぎの場合、子育てにいき届かないことがある。両親ともに厳しい家庭では、祖父母に頼る手立てがない。PTA 活動のなかに父親部会や親の会等を通して父親の子育て力を高める。学校の授業参観等の学校行事には優先して有給休暇がとれるようにする。学校や地域で高齢者と子どもたちが交流する機会を増やす。
- ・ 何度も通院しなければならないような病気の場合（耳鼻科・眼科等）、時間が取りにくい職場の保護者は困っている。
- ・ 子どもが病気になった時、感染症で幾日も会社を休まなければならない時、困っている。両親のどちらかの就業時間が長いと、子どもと長い時間を過ごす親は、ひとりで子育てをしているような気になり、自分の時間がほしいと思っていると思う。
- ・ 共働きの場合、子どもが病気になった時にどちらが職場を休むか、学童に預けるか。
- ・ 両親働いている家庭では、放課後、夏季休業・冬季休業中など、親がいない時間の子どもの過ごし方。子どもの発育の状況への不安、病気への対応、しつけ等の家庭教育等。
- ・ 子育てのストレスや相談など。子育て世代の交流。
- ・ 子育てに対する不安や悩みをひとりで抱え込んでいるように思う。
- ・ 病気の時。
- ・ 保護者自身が子育てに自信が持てていないことや、保護者同士のネットワークやコミュニケーションが十分ではないと思う。

- ・ 子育てのロールモデルが身近になく、孤立して母親が抱え込んでいる状態があり、子育てのちょっとしたことをその場で解決することが難しい。急な対応ができず、子どもを預けたりすることも難しく、両親の都合に子どもたちはすべて合わせざるを得ないというようなことが多いようだ。大人のリズムに合わせるため、夜更かしや食生活における課題なども出てきている。
- ・ 生活リズム、食事等、うまくいかない時。急病の時、親の就労時間によるが、仕事、家事に追われ、子どもとかかわる時間が取れない。
- ・ 生活習慣を身につける上でのかわり方（生活リズム、食事、着脱など）。急病の時の対応。
- ・ 親2人で子どもを世話するという事は、大家族に比べ、世話する人の数、小さな変化に気づいてあげるチャンスが違うと思う。些細なことでも、誰かに話したり、経験者と気持ちを共有できるだけでも、心の負担や身体的負担は軽減されるのではないか。
- ・ 離乳食や言葉の発達、歩行など、身近な子育てのこと。用事の時などに預かってくれる場所。
- ・ 子どもの発達段階が分からず、他の子どもと比べて遅れているのではないかと悩むことが多い。
- ・ 母親自身の急な病気の時。第2子を出産し、上の子が暇を持て余しているが、連れ出せない時など。
- ・ 近くにサポートする、どちらかの親が住んでいて、困った時手を差し伸べてくれる場合はゆとりがあるが、そうでない場合、両親だけでは、ぎりぎりの生活のように見受けられる。
- ・ 父親が仕事の忙しい年代が多く、母親と子どもだけでほとんど一日中過ごしており、母親は相談相手がなく、不安や心配を強く感じていることが多いように思う。また、母親の用事や母親の体調不良時に、子どもを預かってもらうのが難しいので困っているようだ。
- ・ 子どもが病気になった際、みてもらえるところがない（両親共働きしている家庭）。父親が忙しく母親の話を聞いてくれず、ストレスがたまったり、うつになりかけている家庭がある。子育ての悩みを真剣に聞いてくれる人がいない。
- ・ 両親と子どもだけの家族だからといって、困っていることはないと思う。
- ・ 共働きのところは、放課後の子どもの世話をどのようにみているのか、ということと思う。
- ・ 両親が時間に追われ、子どもに「早くしなさい」の連発。余裕をもって子どもと接することができていない。
- ・ 父親や母親の親が同居していない場合は、経験等を直接聞くことができず、判断を自分たちでしなくてはならず、間違っって子どもたちに教えてしまう。
- ・ 子どものしつけや教育について、経験不足のため悩んでいる。情報源としてインターネットを利用することも多く、情報過多になって、かえって混乱しているケースもあるのでは。
- ・ 保育園や子育て支援センター等で、一時預かりはしているが、事前予約も必要。そのようなことから、急なことでもすぐに預かってくれる場所があれば。
- ・ 核家族での子育ては、自分たちのやり方の子育てがあり、人にとやかく言われずにやりやすいだろうが、いざという時に、子どもを預かってくれる人がいなくなったり、施設が無か

ったりして困ることもあるのでは。また、両親だけで解決できないことがあった時に相談する人がそばにいないので、悩んでしまうこともあるので、近所の人とでも仲良くなれる場があればよいのでは。

- ・ 両親が協力し合って子育てをするのが理想だが、毎日父親は仕事をしているため、母親の負担が体力的にも、精神的にも大きいように感じる。特に子どもが0歳～3歳くらいまでは、子どもから目が離せず、ストレスを感じている人が多い。分からないことを聞いてもらう相手がいらない。ひとりの時間が持てない（後追いをする時期はトイレにもゆっくり行けない。母親が病気をした時が大変。
- ・ 子育ての仕方についての知識を十分に得られない。頼るところがなく、相談する人がいない。急な病気の時、休みが取れず、みる人もいない。
- ・ 子育て、離乳食、熱・病気の時の看護の仕方。離乳食：お金を出せば買える品物が多く、子どもの成長をみて、食材、味付けを工夫できる。小さい時こそ、手間ひまをかけて、子育てをする楽しさを体験してほしい。病気：発熱、感染症の時の対応ができない。パートで働く親は、休みが長くなると、仕事を失う場合もある。送迎の手助け。
- ・ 共働き家庭が多いので、子どもの病気時の対応が大変のようだ。
- ・ 子どもが病気の時、会社を早退したり、休んだりしなければならない場合。「なかなか休むことができない」という声を聞く。また、熱さまし（座薬）で、一時的に熱を下げ、「もう下がったから・・・」とあって、登園させたところ、再び熱が上がるケースがよくある。子どもに無理をさせているように感じる時がある。
- ・ 子どもの成長に合わせた接し方や食事などの与え方。しつけやマナーをどう教えればよいか。病気に子どもがなった時、仕事を休めない。親が病気やケガの時に育児ができない。
- ・ 核家族化・少子化等で、子育ての経験不足にもかかわらず、子育ての情報交換ができずにいる家庭が多いように思う。両親がいても昨今の経済状況のなかで、リストラ等による経済的に厳しい家庭もあり、精神的に子育てに向いていないところもあるように感じる。離婚・再婚等による家庭内の人間関係の不成立？等。以上のような状況のなかで余裕がなく、家族・家庭の将来像、ひいては子どもの進路や将来像を描けないのでは。
- ・ 核家族で専業主婦の家庭はほとんどなく、パートや農業等に従事している母親がほとんどである。そのために核家族では、生活に時間的な余裕がない。家庭での子どもとゆっくりと接する余裕がない。子育てで相談する相手が身近におらず、不安なまま子育てをしている。テレビやメディアの情報に頼りがち。
- ・ 核家族で周りとのつながりが薄い家庭は、相談したり、話したりすることが少なく、不安を抱えているところもある。（解決策）地域のコミュニティに参加できるような場の工夫を行う。子育てを支援する地域の人材の確保。
- ・ 家族によっては、悩みもあろうが、逆に動きやすさから、いい家族に育つこともある。人それぞれであり、親が持つ家族イメージと人生観に困ることが大きい。
- ・ 親の子ども理解が十分できていないことや、自分の思いをしっかり伝える機会が少ないと思う。そのため、子どもの考えや気持ちを理解した上での親の指導ができていない面がある。

- ・ 両親も人間であるから、いつも調子がよいとも限らない。また、子育ての苦労も多々あると思う。時に相談できる人であったり、場所であったり、時には預かってくれる人、場所も必要としているのではと思われる。
- ・ 子育てが分かっていないこと。子どものことを考えて対応することのできる友人がいないこと。
- ・ 仕事と子育ての両立の難しさに困っていると思う。仕事をするにしても子どもを預けるところ、保育所などの開園時間を考えながら仕事を選んでいる状況だと思う。トラブル時、病気の時など、どう対応するか、誰かの助けなしでは難しい。
- ・ 病気の子どもを預かってくれる人がいない→小郡ではこぐま学園の病児保育所がありますが。母親のリフレッシュのために一時預かりなど利用する場合でも、金銭的な面などでなかなか利用できない人や、利用しても早く迎えに来いと言われてたり、いやな顔をされたなど、いろいろな理由で利用しない人も多い。
- ・ 育児、しつけ、教育等に悩み。
- ・ 「子育て」と「生活」が一番だと思う。ただし、こんな子に育ててほしいという願いを持って子育てができる環境が整わなくなってきたのではないだろうか。その余裕がない家庭が増えているのだと思う。家族の形態（両親がいても、実の親ではない場合もある）がどんなであろうが、保護者が（働く意欲を持って）安心して働ける環境を整えば、保護者も子どもに目がいく余裕が生まれると思う。
- ・ 多くの家庭が核家族なので、特に困ったというのは分からない。
- ・ 子育てに関する悩みが一番多いのではないだろうか。昔の子育てがすべて正しいのかという論議もあるが、やはり子育て（育児）に関する古い知識の伝達というものがないためにどう対応していいのか？どう処理したらいいのか？に困っているような気がする。親がいてくれたら経験や知識をもって子育ての方法を教えてくれたり、手助けをしてくれる大きな存在だが。特に父親が仕事で忙しいため、母親が子育てや家族の問題、教育問題などをひとりで抱えているのではないかと思う。しかし、それが当たり前になり、もしかしたら「これが当たり前」で済ませ、悩みになっていない気もする。

### **母子家庭や父子家庭では、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか**

- ・ 仕事をなかなか休むことができないため、子どもの学校行事に参加できなかつたり、子どもが病気の時に、そばにいてやれないことが、両親ともにいる家庭に比べると多いと思う。一緒に子育てに悩んだり、話し合ったりする相手がない。
- ・ 家にいる時間が少ないため、スキンシップ、コミュニケーションが減ってしまう。子どもをみてる人がいない。子どもの生活リズムが崩れやすい。子どもがさびしさから、異常行動をしばしば取ることがある。
- ・ 世帯収入が少ないかもしれないため、その分働きに出る時間が長くなり、子どもとかかわる時間が取れない。
- ・ 金銭的に余裕がない。ひとりで子育てをしなければならず大変、仕事と子育ての両立が難しい。母親または父親がいないことで、子どもにつらい思いをさせていないか（学校でのいじめ、さみしい思い）。母または父的役割をひとりで行わないといけない。

- ・ 子育てについて相談する人がいない。
- ・ 単親家庭（父子家庭・母子家庭）が増加している。母子家庭は、経済的に厳しい状況になることが多い。父子家庭は、家庭教育の面で行き届かなくなることが多い。また、公的支援を受けにくい。子どもが病気のとくに困る。学校への保護者としての参加がしにくい。地域社会から孤立しやすい面がある。
- ・ さまざまなパターンがあるので、その時の家庭の状況（経済面、生活面、保護者の精神状態等）によって違うと思う。
- ・ 身近なところに相談相手がいないと、ひとりで何でもしていかないといけないので大変だと思う。
- ・ ひとりで「仕事」「育児」を両立していかなければいけないという精神的負担が大きいと思う。特に、核家族化が進むなか、仕事をしなければ生活できない環境では、子どもを長時間託せる場所もなく、地域から孤立することも多い。
- ・ 経済的なことから、働かないといけない。子どもと接する時間がなくなる。
- ・ 経済的な問題で子どものことより、生活のために働かざるを得ない家庭が大部分だと思う。したがって、子どもと接する時間は少なく、会話もなく、子どもが何をして、何を悩んでいるのか分からない。親は子どものことは気になるが、構ってやる時間がない。子どもはいつもさびしい思いをしている。家族の会話、団らんがなく、何時もひとりぼっち。その結果非行に向かうか、閉じこもりになる傾向がある。母子家庭、父子家庭が子どもと接触する機会が増える職場環境、企業・経営者等の理解と意識改革による働く環境の改善が必要である。そのような家庭のバックアップとして、行政から企業への働きかけが必要である。つぎは進学の問題であると思う。経済的な理由で進学を断念することは、子どもにとっては非常に辛いことと思う。家庭の状況に応じた進学校の受け入れと、経済的に援助が必要であろう。
- ・ 助成金制度。子どもの身のまわりのこと（食事やしつけなど）。子どもの心のケア。
- ・ ひとりだけで仕事と子育ての両立は大変だと思う。何かあったり、落ち込んだりした時に話ができる人や相談できる人がいればと思う。
- ・ 父子家庭、母子家庭は子育て、生計と二つの役割。父子家庭は職場、地域、子育てと、あらゆる場面で問題を抱えている。母子家庭は収入面、雇用条件等により、経済的な自立が難しい家庭もある。
- ・ パパ友、ママ友がおらず、生活と育児に追われている（悩み相談）。まだ若いため、自分が遊ぶための時間がない。経済力が弱く、雇用も不安定（特に母親）。
- ・ 子どもを朝早くと夜遅くまでみてもらえる施設があれば安心して働くことができる。
- ・ 家族間の協力、経済的なこと、子育てに関する悩み事などが多いと思う。親が忙しく働いていると、子どもにかかわれる時間の確保も難しいのではないかと。親が気楽に相談できる人、場所、支援体制があるとよい。
- ・ 家庭によるので、一般化できない。
- ・ 時間にもお金にも余裕がなく、親の負担が大きい。何をするにもひとりで決めたり、解決していかなければいけない。責任が重い。

- ・ やはり、体調の悪い時、仕事でどうしても都合がつかない時に、安心して子どもを預ける場所を持っているか、そうでないかは、大きな課題と思う。
- ・ 仕事（生活）と子育ての両立→生活するために仕事に行かなければならないため、子育てを保育所に任せてしまう、子どもが病気等で休み等があるが、職場の理解が難しいところがある、保育所の時間と仕事の時間が合わない。親が病気の時、子どものお世話が難しい→近くに子どもを一時的に預けられるところがあるとよいのでは・・・。
- ・ 仕事と療育の両立。療育は継続していきたいが、生活のためには仕事をしなければならぬ。子どもの障害や療育を理解してくれる職場を探すのが難しい。休みが取りにくいので、療育に行けない。休みが取れても、その日に療育をしてもらえない（事業所側の療育枠の制限がある）。
- ・ ひとり親家庭は、仕事、子育て、家事などの役割をひとりで担うことになり、精神的にも肉体的にもきついのではないかと。
- ・ 急なことに對してや、自分の動きがとれない時など、協力を頼める人がいない。また、子どもだけでいる時間が多い。ひとり親ということの、母、父として立場、それを子どもから求められた時の対応（たとえば、母親でしかできないこと、いえないこと・・・などを相談された時など）。
- ・ 経済的問題。子どもに手が届かない。「小郡市母子寡婦福祉会」「小郡父子会」の人が積極的に活動しており、そのつながりのなかで、いろいろな問題を解決しているようだし、親子で楽しくふれあう場もあるようだ。でも厳しい環境にいるのに、会の存在をあまり知らない母子・父子家庭の人もあるようだ。主任児童委員という立場からは知らせにくい。学校は学校組織（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー）のなかだけで解決しようとして、あまり地域や社会の組織に頼ろうとしない。せっきくの支援、サービスが本当に困っている家庭に行き届くような方策を。
- ・ 母子家庭では経済的なこと、働く場合の子どもの安全。父子家庭では食事づくり。
- ・ 忙しい、迷惑をかけられない・・・、自分の家庭だけで生活している面が多いのでは。何でも相談できる、笑いあえる、保護者の友だちづくり、地域づくりの場の設定ができないか。
- ・ 子育ての過程で、子どもを中心にした相談できる存在が必要であるが、相談相手不在（ゼロでなくても）を、カバーする力を求めていると思う。経済的な問題。
- ・ 母子家庭は収入が少なく、生活の苦しい家庭が多い。母子家庭の母親は地域では世帯主としての活動が求められ、負担が大きい。父子家庭で家事の細かいところ（たとえば、料理のメニュー等）がいき届いていない家庭が多い。
- ・ 経済的に苦しい。父子家庭の場合、残業なしの仕事を探すことが難しく、正職につきにくい。
- ・ 父子家庭で女の子を育てている家庭では、母親の存在が必要な時期が来た時、どのように対応すればよいか。育児の協力や経済的なこと（2人分をひとりでやらなければならない）。相談相手がおらず、悩みなど、ひとりで抱え込んでしまう。
- ・ 子どもだけで過ごす時間をどのように過ごさせるか。子どもにかかわる時間の確保や、ゆとりをもって接する心の持ち方。

- ・ 母子家庭では、特に収入。父子家庭では、家庭生活（特に、衣・食）。学校の家庭学習。PTA 活動。
- ・ 仕事のため、ネグレクト（食事や洗濯など）。夜にほったらかしになっている。
- ・ 子どもの心のケア。母親は父親としての役割をどのようにかかわっていくか、また、父親は母親としての役割をどのように子どもにしていくのかを悩んでいると思う。
- ・ 送迎等、急に仕事が入り、迎えができなくなるなど。
- ・ 生活を優先すると子どもたちだけで朝食や夕食を食べている場合がある。また、生活リズムも定着しにくい傾向がある。もちろん、生活を維持しながら、きちんとしている保護者も多くいる。
- ・ ひとり分の収入ではなかなか暮らしが成り立っていかない現実があり、まずは金銭的な悩みが大きい。ひとり親家庭の増加と就学援助費の申請は同時に増加していている。仕事と子育ての両立は難しく、夜や夕方遅くまで子どもたちだけで過ごしている家庭というのが増えてきている。学童の時間帯ではお迎えが間に合わないということも聞く。そのような状況を補い合うような地域のつながりをつくる時間もとれないという。いまだに、ひとり親家庭に対する地域の目は厳しい。子どもの言動に対する保護者同士の目の厳しさに孤独感を強められることもある。
- ・ ひとりでの子育てで、家事、育児の両立が時間的に大変である。悩んだり、困ったりした時、ひとりで判断していかなくてはいけない。親が病気等で育児ができない時。
- ・ 家事、子育て、常にひとりであるために、時間的にも気持ちの上でも、負担が大きい。悩みや困ったことがあっても、ひとりで判断したり、対応したりしなければならない。
- ・ 子どもにかけてあげられる根本的な時間の不足や、精神的な余裕がないのではないか。
- ・ 急に病気になった時の子どもの世話。保育園への送迎も困ることがある。
- ・ 経済的な問題。
- ・ 経済的に余裕のない家庭が多い。親類など、育児支援がある時はいいのだが、支援者がいないケースもある。親が仕事と育児を一手に引き受けるので、両立は大変な様子だ。弟や妹が病気で、母親は仕事を休めず、兄や姉が看病するために学校に行けなくなることもあるようだ。
- ・ 相談できる相手がない。母子家庭だから子どもがかわいそうと思いこんでいる母親がいる（親自身）。経済的に苦しい。仕事をしている分、子どもとのかかわる時間が少なくて、かわいそうと悩んでいる。
- ・ どうしても、父親、母親の見解、接し方等があった方が子どもにとってはよい。
- ・ 経済面のきつさと、子どもの「しつけ」などの家庭教育が行届かないことだろうと思う。
- ・ 経済的負担が大きい。子育ての仕方が分からない。生活するのが精一杯で、子どものことを考える余裕がない。
- ・ 生活するために働かなければならず、子どもたちに家庭でじっくり教育してあげることができていないと思う。
- ・ 親の体調が悪くなったり、子どもの体調が悪くなった時に助けてくれる夫や妻がいないために、ストレスも人一倍かかっているのではないか。何かあった時に子どもを預かってく

れるシステムがもっと充実できたら気持ちも軽くなり、子育てがやりやすくなるのではないだろうか。

- ・ 行事や役員等、子どものためにやらなくては、と思うが、実際は出席するのが大変なことがあるとの話を聞いたことがある。離婚している場合は、そういう時に自分を責めてしまう、とのこと。
- ・ 生活費。時間的余裕。
- ・ 我が子のこの時期に、どうかかわっていけばよいか、子育ての悩み、不安を相談する人がいない。ひとりで生活のすべてを担うのだから、心も体も疲れている（ストレスを発散する場がない）。
- ・ 身近に子育てを相談する人がいない。子どもと接しようとしても、毎日仕事で疲れていて、時間にゆとりがもてない。料理が苦手、家事が苦手。
- ・ 両親そろって育てるのが一番だと思うが、やはり、経済的にも精神的にも大変だと思う。近所に頼れる両親がいれば、乗り越えられるのでは。子どもが成長するにつれ、悩みごとは大きくなると思う。
- ・ 祖父母、または親戚のサポートが欠かせないと感じる。経済的に安定させるために、母親でもフルタイムで働くことが前提となる場合も少なくない。子どもとかかわる時間が減る等といった部分で悩んでいると思われる。
- ・ 母子家庭では、仕事（経済状況を含む）と子育ての両立、父子家庭では、仕事と子育て（家事を含む）の両立が大きな課題になっているように思う。両親がいる家庭でもそうだが、「子どもが登校する（家を出る）前に仕事に出なければならない。子どもが帰宅する時間に家にいない」「子どもが病気でも仕事を休みにくい」「自分が病気になったら」等の状況は、ひとり親家庭では精神的にも、より厳しいものがあると思う。このような家庭は実際にある。
- ・ 低所得の家庭が多く、経済的に子どもに十分な教育環境をつくることができない。母子家庭や父子家庭では、ひとりの親に子育ての負担がかかり、親が疲れ切っている。子育てについて相談する相手がいない。
- ・ 働きながらひとりで子育てをしている家庭は、子育てに余裕がなく、ひとりで抱え込んでいる。子どもの進路に関し、経済的な不安があるのではないか。（解決策）子育てを支援する、相談できる人がいること。将来を見据えた子育て、進路に関する情報提供を行う。
- ・ 親の収入に応じて違いはあると思うが、ひとりだけで仕事をして収入を得ていても経済的不安や何かの問題で仕事ができなくなる、子育てできなることへの不安、他に誰が子どもをみってくれるのかの不安など、無数にあるように感じる。
- ・ 経済的な余裕のなさ、パートナーがいないことによる家庭運営の余裕のなさを生んでいる。そのことは、子育てという台本にはない臨機応変の対応を要求されるところに集中的に問題として表れている。
- ・ 子どもと接する時間が、両親がいる場合よりもさらに少なくなり、子ども理解が不十分なため、子どもの気持ちによりそえない。
- ・ 仕事と育児の両立の困難さと厳しさを感じているのではと思われる。頭で知識として分か

っていても、時間を子どものためになかなかつくれなかったり、と苦労しているのではと思う。

- ・ 当園にはいないので分からないが、いずれにせよ、一方的な観点でのみ対応しているのではないかと思う。
- ・ 両親と子の家庭以上に助けてくれる人がいなければ生活できないと思う。経済的にも体力的にも大変だと思う。子どもへの援助、家庭への援助があれば教えてほしい。
- ・ 月収不足。子育て支援関係の情報不足。
- ・ 仕事と子育ての両立が、一番の課題ではないだろうか。子どもが登校する前に仕事に出なければならぬ、子どもが帰宅する時間に家にいることができないなど、子どもだけを家に置いていなければならない状況がある。しかし、家族を食べさせていかねばならないから、心配しながら仕事に行かれているのではないだろうか。子どもが小さければ小さいほど、心配は大きいと思う。ただし、この状況に悩んでいない保護者も実際にはいるが。経済状況は、子どもの成長に大きく関わる。中学校では進路に関するところで、その問題に直面する。安心して夢や進路に向かえるように、より負担が軽く、また夢や目標に近づくことができるよう日常の学習や奨学金制度の話などはいしているところだ。
- ・ 経済的な部分（母子）や、広がりや優しさの一步が不足したところ（父子）。親としてはいない親の分のカバーが大変だろうと思う。たとえば、父がいない→厳しさや強さ、母がいない→優しさや温かさ。
- ・ 就学費等の支援が必要。
- ・ 経済的に苦しかったり、なかなか子どもの教育や世話が十分でなかったりしていると思う。特に母子家庭や父子家庭の場合、仕事が忙しいのでなかなか子どものことに眼が行き届かないところが悩みではないだろうか。
- ・ 子育て（育児）と就労の両立が一番困っているのではないかと思う。経済的に厳しい、だから精神的にも不安定になり、子育てに眼が向いていないという悪循環を生み出しているような気がする。女性（母子家庭）は正社員雇用が難しく、パート等が多いようであり、生活費に困っていると思う。一方、男性（父子家庭）はつい仕事中心となり、子育てに苦慮し、子育てはもちろん、地域コミュニティ、行政支援等から孤立しているのではないだろうか。特に、子どもが急に体調を崩した、では誰が面倒をみるのか？など困っていることや悩んでいることはたくさんあると思う。

**子どもや子育て家族を支援する行政サービスについて、どのようなことが問題や課題であるとだと思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 民間委託可能なサービスだと思います。双胎、多胎児支援は、ぜひほしいです。既存サービスを拡充するだけなので。シルバーママ等。市から補助を出して自己負担を少なくしてほしいです。超早期療育、発達障害等専門機関。助産院（産後2～3週入所可）。NPO等で立ち上げてもらって、ハイリスク妊産婦への補助を行う。
- ・ 十分に周知ができていないように思う。知らない人が多い。（解決策）もっといろいろな方法を考えて周知徹底する。
- ・ 多様化している現状に対応できていない印象がある。解決策は分かりません（緩和して認

めていくことしか思いつきませんでした)。

- ・ 発達がゆっくり目なお子さんの見守りの場(必要であれば療育につなげられる)がない(診断がつかないが。日常の生活でお友達とトラブルになったり、育てにくさがあるお子さんなど)。療育できる施設が少ない。なかなか予約が取れない。
- ・ 子どもにとっての成長・発達の過程をきちんと伝え、支援が必要であれば、的確に対象者を探し出し支援する体制。
- ・ 人・物・金不足。タイムリーに対応しにくい。(対策案) 予算をつける。業者委託。協働のまちづくり。自助グループをつくる。先輩ママ・パパの協力。
- ・ 住民のニーズがあれば、何でも公助での介入をしようとしているのではないか。(解決策) 自助、共助、公助の視点で住民との協働を進めるべきだと思う。
- ・ 教育行政と福祉行政、地域行政とが相互に関連し総合的に政策や事業を推進する必要がある。地域のなかに子育て支援をするセンターがあり、そのことが、広く市民に共有化されていること。子育て相談(教育行政)、病児保育・経済支援(福祉行政)、地域ボランティアの活用(地域行政)などの子育てに関する支援センターが身近なところにある。支援センターでは、行政的な縦割りでなく、総合的に行政サービスが提供される。
- ・ いろんな課や場所で、たくさんの取り組みが行われているが、すべての子育て家庭に届いていない部分も多く、必要に応じて園からも情報伝達しているが、子育て支援ガイドなどの全園児配布などもあってよいと思う。
- ・ 課題としては、依然として待機児童がいることや、職場優先で子育てを優先できないところがまだ多いように感じる。子育て家庭が必要な時に、必要なサービスが利用できると思う。
- ・ 少子化世代の親をサポートするために大切なことは、子どもの育ちを認めるだけでなく、親の不安を解消できる場を保障していくことが必要。歩いて行ける地域の公民館等で、相談や遊びの場があると利用しやすいと思う。
- ・ 利用できる人が限られているような気がする。幼稚園や保育園等、みんなが利用するところでの何かしらの援助があれば、みんなが平等に受けられるかと思う(小郡はやっているとは思いますが・・・)。
- ・ 祖父母のいない夫婦共働きの家庭では、子どもが家に帰っても、誰もいないでひとりぼっちでさびしい思いをしている。ひとりぼっちですることは、テレビを観るかゲームをしているか、これでは子どもの社会に適応できる健全な成長は期待できない。学校が終わっても、子ども同士が交流できる場の確保と、見守ることができる体制の整備が必要と思う。学校の放課後の解放、公共施設を子どもが軽易に利用しやすいような工夫等が考えられる。子どもは監視されることなく、自由に遊べる、あるいは好きなことをできる場所が必要である。特に、公共施設の利用は大人、高齢者中心にものごとが決められている感じがする。意見をいえない子どもの施設は、どのようなものが必要か、真剣に考えるべきである。
- ・ 仕事と育児が両立できるよう、保育所の充実とサービスをよくする(子どもが病気になっても、預かってもらえる体制)。学童保育の充実(時間延長など)。
- ・ よく知られていないことと、そこに相談していいのか迷うこと(名前を出さなければいけ

ないか、他の人に知られないか)。

- ・ 組織化によって、子育てや子どもの生活を支えていくところが必要。育児に戸惑いや悩みを抱える親に対する心配事や不安を聴くところ。
- ・ お泊り保育ができる施設が各小学校区に一つ以上あったら・・・。養育見守りとして、家庭訪問をするのが、なかなかドアも開けてもらえない。幼稚園も幼児預かり支援を（働く親の支援）。
- ・ 子育てに関して、小都市の支援はかなり良くなってきていると感じているが、まだまだ要求に応えられていない。アンケートをとり、できるだけ、困っている問題から解決に向けて取り組んでほしい（病児保育等）。昨今は、公務員に非正規雇用も多いが、福祉分野では特に、それらの解消に努めてほしい。
- ・ 相談サービスの充実と対応。
- ・ あまりにも模範的で現実感がなく、具体例に対応できないこと。
- ・ 障害児教育について、学校や先生により差が大きい。就園や就学について、柔軟な対応ができない。療育が必要なお子さんがいるにも関わらず、きょうだいを預けられず、療育を受けることができない。
- ・ （問題・課題）こぐまに来る子どもたちの視点からいえば、一般の保育園や幼稚園に就園したいと望まれても、加配の先生が見つからないとか、園の人数的に車いすの子どもは受け入れられないなど、さまざまな事情で就園をあきらめている人もいる。また、一時預かりなどの場が少なくとも課題であると思う。（解決策）子どもの状況、保護者の希望にそった保育サービスの提供をしていくこと。
- ・ 各個人にあったサービスの提供が難しい→ニーズにあったサービスになるとありがたい、できない場合は「他にこのサービスがある」という他の案を教えてほしい（保護者は知らない場合が多いため）。保育所等に入所後や学童期の子どもの相談する場が少ない→保育所や学校には直接相談しづらいこと、発達のことなどを気軽に相談できる行政サービスがあるといい。
- ・ 学童期の子どもの相談する場が少ない。学校には直接相談しづらいこと、発達のことなどを気軽に相談できる行政サービスがあるといい。
- ・ 小都市子育て支援センターでは、いろいろな情報提供、相談事業、親子の仲間づくり、交流の場の提供などを行っている。しかし、車がなく、遠くに行けないという声も聞かれる。また、本当に支援が必要な親子にはサービスが行き届いていないという問題もある。地域の公民館など歩いて行ける場での相談、遊びの場がもっと増えると利用者は便利だと思う。
- ・ 難しいことだと思うが、いろいろな方向からの情報を共有し、連携をとることが必要だと思う。
- ・ 保健課で新生児訪問や子どもの成長段階での健診等で気になる子どもや家庭に対して、個々に応じて、支援体制が取られていると思う。手に負えない時は子育て支援課等と連携を取っており、いいと思う。福祉課や教育委員会との連携も密にとり、気になる子どもを縦割りで見ず、一緒にかかわってみていけるのでいいと思う。家庭児童相談員の人の負担が大きいうように思える。もっとケース会議で地域の主任児童委員や民生委員を入れて、地

域でも支援を要する家庭にかかわっていただけたいと思う。主任児童委員の未就学児に対するかかわりが薄い。健康課とも連携して見守っていただけたいと思う。

- ・ 以前にも増して、行政主催、行政が主導した行事、施設等が多くなっている。課題を抱えていない、参加しなくてもいい子どもが多く、参加する行事等が多いように思える。参加しない人、課題を抱えていた人たちが参加できるよう、何かないだろうか。
- ・ ひとり親家庭の保護者の集まり等、開催されているだろうか。同じ悩みをもつ親の会の場や交流があってもいい。または、相談場所として、行政が間口を開けていると相談しやすいと思う。土日祝日の窓口開口など（親、保護者が休みの時に）。
- ・ 通学路の安全確保等、まだまだ不十分である。子育てについて、気軽に相談できる体制ができていない。以前にくらべて家庭教育学級等の学習活動が縮小している。通学路を安全確保の面から見直し、設備の改善をする。校区公民館等を活用し、子育て相談を増やす。家庭教育学級を増やす。
- ・ 病気で保育園に預けられない時、こぐまの家に病児保育を頼むことができるが、小郡市に1か所ではすべてのニーズに答えるのは難しい。病児病後児保育を低価格で利用できる施設を市内各所に設置する。
- ・ 1歳半や3歳健診の後、経過観察の場合、もう少し細やかに見守る必要がある。3歳後は就学前健診まで期間が開いてしまい不安を感じる。3歳児健診から就学前健診の間にもう一度必要である。
- ・ 支援を必要とする人たちに本当にサービスが届いているのか。行政サービス、地域でのボランティア活動・PTA活動・青少年育成会等、いろいろ行われている子育てに関する取り組みをできるだけ一元化すること。
- ・ 行政が専門家を通して検査してもらい、障害（ADHDなど）を早期発見と対処をしてほしい。
- ・ 待機児童対策。
- ・ 各園を行政でまわり、問題点などをアドバイスしてもらいたい。
- ・ 乳幼児からの保護者への支援策の充実を願っている。たとえば、子育て支援に係る給付等に子育て講演会（子どもの発達段階に応じた）を必ず受講することなど、義務的な研修を位置付けてほしいと思う。その際、研修を土曜日曜や夜間での開催等、受講する環境を配慮してほしいと思う。また、その際にアンケートを取り、実態把握や個別の支援策を講じてほしいと思う。
- ・ さまざまなサービスがあって、広報などでのお知らせはされているし、参加している人やサービスを受けている人は増えていると思う。しかし、サービスの届かないところからの問題や課題が多すぎて、子どもたちの状況が厳しくなり続けているというのが現状だろうか。自己申告のサービスや対応に合わせて、行政や教育機関が連携を強め、現実に多くの課題や問題が出ている現場同士で解決策を講じていけるような仕組みづくりをすべきではないか。きつい家庭背景を抱える子どもたちや親たちは自己申告する余裕さえなくしているように思える。子育ての悩み相談など、デリケートな問題が多く、知らない場や急に参加しても、本質的な相談にはいたらずに終わる。学校や就業前教育機関など、保護者

が参加しやすい環境と人を整えて、決め細やかな相談機関の充実が求められている。教育機関がつかんでいる子どもの家庭状況は非常に厳しく、すでにでも対応してほしいことが多い。しかしソーシャルワーカーなどの配置が少なく、家庭にまで入った支援がほとんどできていない。子どもたちの抱える状況は待っていてはくれない。教育機関からの情報提供にすぐに答えてもらえれば多くのことが未然に防げたり、改善に進んだりしていくと考える。教育委員会などの機関との連携がとても重要ではないかと思う。現場が抱えている課題は大きく四苦八苦している。ぜひ連携してもらって支援してもらいたい。

- ・ サービスの内容等の情報提供が不十分。地域や就学前教育機関と連携し、必要な家庭に必要なサービスが届くようなシステムづくりをする。
- ・ 経済的に厳しい家庭への支援。分かりやすい情報提供。
- ・ 日中は、親も就業しており、行政サービスを平日昼間に受けられることは少ないと思う。「仕事を休んでまで、受けたいサービス」を行うか、夕方～夜間帯、土日祝日などにも対応したサービスができればよいと思う。
- ・ 子育て支援では、子どもより母親のリフレッシュの場を提供すること。保育園に預けたいけど入れないという保護者の意見がよく聞かれる。一時保育の場を増やすなど、待機児童を少しでも減らしていく。
- ・ 市役所に保護者が来られてからの相談だけではなく、行政からいろんなところ（子育て支援センター、公民館等）へ出向き、行政サイドの子育ての相談等を行っていくと、より相談しやすく、身近になる。
- ・ 保育所入所の希望が保護者の人たちからあり、入所申し込みをするが、断られ入れなかった人が多い。一軒家で自宅を使って保育する人たちを増やし支援していくなど、待機児童を減らしていくようにする。
- ・ 働くための受け皿である保育所が便利なところに十分にあること。また、第2子出生の場合の第1子が、保育所を利用できることで、母親のストレスを軽減できると思う（自宅で保育したい場合は、希望すればよいと思う）。
- ・ 行政サービスでは昼間の時間帯中心の受付・対応が多く、「いつでも」が難しいので、子育て家族が本当に必要な時に対応できるシステムがあればと思う。母親の就業形態や家族の状況、経済状況、また、身体的精神的な問題など、生後まもなくから、保育が必要なケースや病児保育の受け皿がもっとあればと思う。
- ・ 虐待児家族への気づきや素早い対応。不審者等が増えているので、安全に日々を過ごせるよう地域の見回りの強化。
- ・ 大人になりきれしていない親が子どもを育てている（子どもが子どもを育てている状態等）。解決策：育児時期に保健師等が頻繁に講習会（内容の見直し等）や家庭訪問等を行うことで、親を育成していく。
- ・ 現在ある行政サービスの充実を図る。子育て支援課の人員増強。スクールソーシャルワーカーの学校常駐。学童保育の指導員の資質向上と人員増強。
- ・ 「相談できますよ～」といった宣伝（広報）。～支援を誰でも活用できますよといった宣伝（広報）。

- ・ 民生委員等の人員数を増やし、各家庭の状況を行政側で十分把握する必要がある。
- ・ 市民の意見や要望が十分に反映されていないように思う。行政、学校、地域社会の連携がもっと必要なのでは。
- ・ 結局、もっともほしい情報は、課が違うから、という理由で、提供できないことも多い。たとえば、子育て支援センターなどに遊びに来る親子は保育園ではなく、幼稚園を考えている人が多いが、情報提供できない。
- ・ 核家族や転勤族などで近くに相談できたり助けてくれる肉親がいない人が多いので、相談しやすい場所を提供してあげることが必要だと思うし、また、それがあつことを分かりやすくする必要があるのではないか。小郡には子育て支援センターが3つ、つどいの広場が1つあるので、そこに行けば、解決策の手助けがあるのではないかと思ってもらえるように、子育て家族の人たちに浸透できるとよい。
- ・ さまざまな行政サービスがあつが、まったく知らずに過ごしている人も多いと感じる。子育て世帯だけでなく、もっと広く市民にPRすると、子育てで困っている人に情報が伝わりやすくなるのではないだろうか。
- ・ 人格形成の過程で、今、この時に、この子に何が一番大切かを、親が認識することが必須と考える。が、家族のあり方は多様である。アプローチにも細かな配慮と根気がいると考える。具体的な解決策は私にはない。
- ・ 行政サービスには、どんなサービスがあり、どこに行けば情報が得られるのか、分かっている人が少ないと思う。保育所への入所待ちが多いのでは・・・保育士不足のなか、入所希望が多い。乳幼児の健康診断等の充実（気になる子が多く入所するため、専門職の人にじっくりと診察してもらい指導をしてほしい）。各家庭で求めているサービスがあると思うので、アンケート等を取って見たらどうだろうか。
- ・ 子育ての相談の場所（各校区に）。時間の拡大。電話相談設置。
- ・ 子育て世代に考えられるトラブルや困りごとを想定して、「こんな時は」→「こうしましょう」といったQ&A的なサービスや対応ができればいい。
- ・ （課題）学校では、子どもにかかわる支援や動きを保護者に対して行う時は、ほとんどが勤務時間外である。保護者を呼んで支援や相談・指導等を行うのは、家庭や保護者の仕事、子どもの実態等を考えて、ほとんどが19時や19時半からである。これに対する振替等もほとんど取れない。これが実情である。行政サービスにおいては、本当に支援が必要な家庭に対する支援体制が不十分ではないかを感じる。母子家庭や父子家庭では、仕事を休んで何度も役所に足を運ぶことは困難である。（解決策）さまざまな家庭の状況にあつた相談体制の整備：相談可能な時間帯の整備・・・時間外、土曜・日曜等の休日。相談窓口の人的整備・・・分野、男女、年齢構成。相談に出やすい体制の整備・・・乳幼児・子どもの一時預かり的な場の設置など。
- ・ 乳幼児期の子育て支援が一部にしか行き渡っていない。現在も市主催での子育て講座が開催されているが、参加者をもっと増やし家庭での子育てのあり方を学ぶ機会を増やす。校区公民館や、保育園、幼稚園で定期的な保護者学習会を開催するための支援を行う。核家族の産後の不安やうつ等を防止するための、祖父母や周りに頼れない母親の孤立や不安を

抱えている母親に対しての一時宿泊施設を整備し、看護師や助産師、先輩母親等で支援できるようにする。

- 基本的にサービスを受けたいという家庭からの申請主義で、サービス内容を知らない人は、かなり多くいるように感じる。乳幼児を持つ保護者や子どもについては、手厚く子育て支援ができていると思うが小学校へ上がると同時に、遊び場や保護者への支援が減少していると思う。枠を低学年くらいまで広げていくと小学校を持つ親や小学校などもスムーズに学童期を過ごせるのではないかと感じる。
- 行政サービスの要諦は、人に尽くすことではない。経済状態や本人の発達状況に応じた適切なかわりをタイミングよくすること。つまり、自立（精神的、経済的）に向けたものであり、それを助長するものでなければならない。
- 子育て世代の親の声をしっかり聴くことがスタートであると考えているのか、行政に何を望むのか、など。
- 親のニーズに応えるのも大切だが、本当に子どもに必要なことをどれほど本気でやっているかが問われていると思う。親の悩みも問題だ。本気度を大切にしてほしい。子育て支援は親支援のみではない。親が働くやすくするための支援ではなく、専業主婦等も見逃すことなく、子どものための子育て支援をお願いしたい。
- 子どもの育ちを大切にすることを中心に考えてほしい。ただ、母親の負担を軽くするためだけでなく、子どもの育ちのための環境として考えてほしい。子どもがよく育てば、親としても喜びとなるから、誰かが代って子どもをみるのではなく、親自身が子どもにかかわることを大切にできるように。
- 小郡市のホームページをみると、行政もたくさんの取り組みをやっているように思うが、必要な人にちゃんと伝わっているのだろうか？たぶん、こちらが聞いたら答えてくれるだろうが、行政の方からのアプローチが弱い気がする。子育てに関することはここに行けば、すぐ分かるという窓口を決めてほしい。子育て支援に関するすべてのことに対して、情報提供できるような人を育成してほしい（いると思うが、ゆっくりその人のためのサービスが何かを一緒に考えてくれるといいと思う）。小学校、中学校など学校で、市役所はどこなところか、どんな仕事をしているか、大人になって困った時は（子どもの今でも）、助けてくれる人がいるし、多くのサービス（支援）があることを教えてほしい。
- 子育ては家族だけでやるのではなく、地域の皆さんみんなで育てていく必要があると思う。そのためには、お年寄りの知恵や知識を利用することが必要だ。老人ホームと保育所を一緒にすることや、さまざまな場所で流行させることが大切ではないだろうか。
- 教育、子育てに関わる大部分を無償化すること。
- 行政であるならば、家庭や保護者、子どもの実態に沿う形でのサービスでなければならないだろう。難しいこととは思いますが、17 時までの行政の勤務時間のなかで、保護者等が窓口に来てくれることには無理があると思う。行政が市民の要望をより取り入れたサービスが行えるようにしてほしい。たとえば、家庭の状況にあった時間帯に相談できる場であること。経験のある年配の人から保護者と同年代、子どもに年齢の近い若者まで相談員として育て、気軽に相談できるようにすること。学童や BB クラブのような子どもが保護者の

帰宅まで安心して過ごせる取り組みや場所があり、さらに充実させること。中学生の学び場支援事業が学校外で平日、遅い時間までできる（学びの場）ように拡大する・・・など、今考えられることだ。

- ・ 行政サービスの問題点よりも、国家全体が福祉や教育に対することよりも、経済再生にのみスタンスが向いているような気がしている。
- ・ 若い人の子育てを支援すること。スクールソーシャルワーカーのさらなる充実。支援のネットワークづくり。個別の支援方法の具体例を関係機関へ伝える。
- ・ 行政サービスについての知識がないので何とも言えない。
- ・ それぞれの家庭や親のニーズにあった行政サービスがないところが課題かもしれない。解決策としては、行政サービスに関わる職員を増やすしかないのでは、と思う。

**子どもや子育て家族を取り巻く地域の様子をみていて、どのようなことが問題や課題だと思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 地域によって差はあるが、地域のかかわりが密なところと希薄なところとあると思う。（解決策）地域によって人口構造が違うため、市全体で統一しての取り組みは難しいと思う。地域ごとの取り組みが必要だと思う。
- ・ 核家族化が進み、子どもをみんなで育てるという意識がないように感じる。一方で、他人に注意されたり、声をかけられると過敏に反応して、親が他を寄せつけないようにしている。（解決策）コミュニティ、子ども会、隣組など、親子で参加し、近所の住人とも親しんでいく。信頼関係を築く。
- ・ 近所づきあいがないので、近くに相談できる人がいない。近隣ママさんネットワークの構築。
- ・ 隣近所との交流の場がなく、誰が住んでいるのか分からない（特に最近引っ越してきた人）。育児協力が得られにくい。（対策案）地域行事への参加。
- ・ 子育ての中心となるのは親・家族であると思うが、家族形態のあり方、女性の社会進出など、子育てを取り巻く環境が大きく変化し、親の負担が大きくなってきている。昔はそこを補ってきたのは共助だったが、そこが機能しないままに、公助が介入する環境がつくられてきているのではないか。（解決策）協働のまちづくりを進め、共助ができる体制をつくっていく必要がある。
- ・ 地域社会による子育てという環境が力を発揮しにくくなってきている。地域における人間関係を疎んじる意識がある。地域社会における人間関係が希薄化している。地域社会のなかで孤立する家庭が増加している。ある意味自然にできていた地域による子育てを、見直すための何らかの施策が必要。地域社会における市民の参画意識を育む施策。地域社会において、地域住民と子どもたちを結びつける施策。住民参加による高齢者福祉や子育て支援を行政がサポートするような地域行政のあり方。
- ・ 地域とのかかわりの希薄さは、日々感じている。本当に必要な時に「頼り」「頼られる」関係づくりのために、話し合える機会となる場の提供が必要だと思う。
- ・ ママ友など、自分の気の合う人との交流はあっても、近所の方など、地域の方とのかかわりはあまりないように感じる。解決策としては、地域の行事に参加したりして、交流を持

ったりし、皆で見守り合える関係ができたらと思う。

- ・ 核家族化や共働き家庭が多くなり、親の育児の負担が増え、地域とのかかわりの希薄さが目立つ。地域のなかで子育てネットワークづくりを通して、地域で子どもを育てていこうという取り組みが大切だと思う。
- ・ 各家庭、生活スタイルが多様化しており、なかなか難しいと思う。
- ・ 通学路の安全と遊び場の確保が不十分と思う。登校時は父兄、ボランティアで安全確保が図られているが、十分とは言えないと思う。危ないのは自転車通学である。学校での子どもに対する安全教育や、広報、回覧、集会などの場を活用した安全意識の高揚が必要だ。カーブミラーの設置、歩道、自転車道の設置・拡充、道路標示も有効な対策と思う。団地内の公園は、2、3 か所くらいで、利用は近くの子どものに限られる。遊休地も地主の了解を得て遊び場として確保するのもひとつの方法と思う。狭くても小さな子どもの遊び場として利用できる。その代わりに市とボランティアで協力して、遊休地の草刈りをする。
- ・ 昔は三世同居の家庭が多く、地域とのかかわりのなかで人と人とのふれあいがたくさんあったが、少子化にともない、核家族が増え、両親が共働きだったりすると、家族間の会話さえも薄れていっている状況と思われる。塾やスポーツクラブに行かせることで安心し、地域とのかかわりには無関心になっているような気がする。(解決策) 子育てを終えた人も地域皆で話し合いの場を設け、子どもたちを見守っていくことだと思う。
- ・ 地域の人と子どもたちの交流が少ない。大人だけでなく、子どもたちも地域で活動する姿がみられるようになってほしいと思う。
- ・ 習いごとが多く、地域の行事への参加が難しくなっている。地域の行事よりも家庭の行事が優先し、地域での行事に参加させない。家族や地域のつながりの希薄化を抱えている。
- ・ 子育て家族に無関心(干渉しない?)。高齢者が外出しないために、子どもと接触する機会がない。地元の祭りや催し物に高齢者と子どもの参加を促す。積極的に関わる区長と、まったく無関心な区長もおり、地域トップの意識改革が必要。
- ・ 昔は人間のつながりができていた。現在は日曜日でも親同士が会ったり、話したりすることがない。人間がつながらなくなった。学校行事や地域の行事に参加してもらえよう、地域のみんなが協力する必要がある。
- ・ 地域に子育て家族が少ない(高齢化)。遊び場所が少ないし、楽しくのびのび遊べるところは、特に少ない。子どもの遊びも貧困化し、ゲームで遊んでいる子もよくみかける。大人ももっと積極的に子どもたちに声をかけてあげたらよいのと思うことが多い。遊び場の提供等も。子どもと高齢者の一緒の行事を行うなど、ふれあいを増やす。
- ・ 公園。行政の責任になるからといって、ちょっとでも危なそうな遊具を撤去すること。
- ・ 子育て家族以外の世代の人たちの理解や協力があると、より過ごしやすくなるのでは。困っても誰に助けを求めたらよいのか分からなかったり、わざわざ相談に行くにも大変。すぐ近くにも子育ての先輩たちがたくさんいるはずだ。
- ・ (問題・課題) それぞれの地域で、取り組まれていることが、周りに広がっていていないと思われることが課題と言えらると思う。(解決策) 地域の行事などに、他の地区の子どもたちも参加できるような情報の発信をしていくこと。

- ・ 幼稚園や保育園、学校の先生等が、子どものことについて相談できる場が少ない→子どもの発達に関することや、対応の仕方などを気軽に相談できる場があるといい。
- ・ 幼稚園や保育園などで相談できる場が少ない。子どもの発達に関することや、対応の仕方などを気軽に相談できる場があるといい。
- ・ 地域の人たちと交流することは、ほぼないように感じる。地域の公民館を解放し、親子が集い、情報交換ができたりする場をボランティアで行うなど、地域の人とふれあう場があるとよいのでは。
- ・ 地域や行政として、さまざまな活動に取り組まれているが、本当に必要な家族にまで手が届いていないのが現状だと思う。また、その届きにくい家族が、少しでもかかわりやすい、身近な細かな支援をしていく必要があると思う。
- ・ 子ども会や隣組に入らない家庭がある。登校班の編成に困るし、区の行事に参加しないのでつながりが希薄になる。通学路に危ない道がある。でも地域の人や親が交代で登下校の見守りをよくしていると思う。
- ・ 昔とくらべ、子どもたちが忙しくなっている現実、地域において集団で遊んでいる様子がほとんどみられない。大人が仲良し、よくつきあっているところの子ども同士は、友だちになりやすいようだ。子どもの問題は、大人の問題である。大人同士が何でも相談できる、言い合える地域づくりを模索できないだろうか。個人主義が多くなっている現実。「できないはずはない」と思えるが・・・
- ・ 小学生は高学年になるとクラブや習いごとが増え、地域の行事への参加が難しくなっている。自分の家庭の行事を優先するなか、地域の行事に参加してくれない。年間2~3の行事を決めて地区の子どもたち全員が集える地域行事を行う。地域での子どもたちの行事を増やし、年間3回以上は参加すべきというような取り組みを行う。
- ・ 現在、「あすてらす」で行われているような、子育てや悩みについて話を聞いてもらったり、アドバイスをしてもらえそうな場所が身近にあり、日時・時間も十分に準備されていると利用しやすく安心。
- ・ 公園の清掃、トイレの整備（十分に遊ばせることができない）。子どもだけで安心して、外で遊ばせられない（不審者の問題）。公園などに監視員としてシルバー人材の利用。
- ・ 地域の教育力の低下。「向かう三軒両隣」の言葉のような地域のつながりの低下により、お隣が子育てで悩んでいる家庭なのか把握できていなかったり、あるいは、子育ての悩みを隣に相談できるような関係が築けなかったりするのではないかと→子ども会、自治会等の活動への指導、助言。
- ・ 地域の子どもは地域の大人みんなでみていこうという意識が薄れてきている。逆に、自分の子どもは地域の人たちみんなにお世話になっている、ということを理解していない親もいる。子どもを通して、親・大人のつながりをつくる取り組みを広げていく。
- ・ 問題を抱える家族は、孤立しがちである。相談体制を充実させ、孤立化を防ぐ必要がある。
- ・ 核家族が増えてきたことにより、地域の人、近所の人との交流が減っていること。
- ・ 地域との交流がないため、行政で手助けし、交流を深めてもらいたい。
- ・ 子育てに対する自信のなさ、ネットの情報を鵜呑みにする、就労保障（特にひとり親）、

親としての意識と責任、孤立化している保護者等の問題や課題を抱えている保護者が一部にはいる。地域関係では、協働のまちづくりのなかにも子育て関係の部会を位置付けてほしいと思う。

- ・ 厳しい家庭状況を抱えている家族に対する地域の見方は固定した見方やうわさ話を信じた見方などもみられ、学校での子ども間の関係づくりに影響することもある。両親が外国の人で習慣の違いなどが子どもに影響している場合などもあったが、違いに対する子どもたちの見方の厳しさは、地域の見方の厳しさとも重なっている。校区に特別支援学校があり、交流を行っているが、できないことや違いに対する子どもたちの意識のあり方で気になる言動がある。大人から聞かない限りは子どもには思いつかないような内容のこともあり、びっくりさせられる。人権・差別という課題に対して地域啓発の必要性を感じる。人権のまちづくりに事業内容で地域の子育てに対する意識は、大きく向上してきていると考える。自分の子も人の子も一緒に育てていこうという意識をさらに広げていく必要がある。子育てに関する保護者の悩みに親身になって耳を傾けてもらえる人が地域にひとりでもいれば、大きな支えとなるのではないだろうか。地域に同和地区があることを住民のほとんどの人が知っているという。しかし、日常的にはそのことには触れず障らずという姿勢が貫かれている。年間に一度、学校で人権学習の参観分会を行っているが、分会で同和問題に関しての話について、あまり口が開かれない、というのが実態だ。上記のことと同様、地域啓発の課題だと考えている。
- ・ 小郡市が進めている人権のまちづくりネットワーク等をさらに進め、地域の人々のつながりを広めたり深めたりしていく。出会える機会、集える機会を行政が提供していく。
- ・ 社会的に孤立してしまう（人権という視点からみて、排除されてしまう立場）家庭や人々が安心して地域に出られる（つながっていける、安心して子育てができる）ような取り組みをする。
- ・ 子どもの発達、発育において、指摘や助言ができる専門の人がいる環境。そのことで、相談や話ができる場を提供する。
- ・ 孤立している子育て家族の掘り起し。民生委員等との連携。
- ・ 地域によっては、近所に同世代の子どもが住んでいないところもあり、交流を持ててない人もいる。友だちづくりの手伝いをしていく。公園が少なく気軽に自然体験できるところが少ない。
- ・ 隣近所と交流なく過ごす世帯が多くなっているように思う。子どもが小さいうちは、集合住宅に住むケースが多いが、子どもの泣き声や足音などでトラブルになり、悩まれていることもよくある。
- ・ 子育ての仕方が分からないまま子育てをしている（不安なまま子育てしている）。子どもたちのほめ方、子どもの叱り方、友だちの作り方等々、身近な題材の研修会をするとよいのではないか。幼稚園でも常に子どもたちの様子を常に伝えたり、保護者の相談に常に応じる姿勢をもって日々接している。
- ・ 地域のとつながりの欠如。解決策：地域行事の復活。子ども会の活性化。
- ・ 祖父母と親との価値観の違いが子どもに影響が出ていると思う。その結果、子どもは都合

のよいことのみを求める傾向が出ていると思う。祖父母を含めた子育てのあり方の学習の場が必要ではないか。

- ・ 地域で地域の宝を育てよう、という呼びかけと、住民の意識を高めたい。偏見、決めつけ「あそこの家は～やもんね」といい、うわさなどを信じ、広めていっていることに気づいていない人も多くいる気がする。
- ・ 今の子どもたちはテレビやパソコン、携帯等の情報機器が充実しており、自分で考えて結論を出さずにメディア等に影響されやすい。そのため、親や先輩等に相談することが重要だと思う。
- ・ 地域の夏祭りやスポーツ行事に参加している子どもが少なく、地域社会がかかわっての子育てが希薄になっている（昔は地域におせっかいおばさんや怖いおじさんがいた）。
- ・ 地域での催しや祭りなどで、子育て家族が参加できることがあり、顔見知りになり、子どもを通して話ができるようになる。こんな時はどうすれば？ということも聞ける仲になってほしい。地域の公民館などで子育て家族の集まる場をもっと作ってほしい。
- ・ 傍観ではなく、おせっかいも一助のこともあるのでは。子育て経験の先輩が、完璧な子育てはないことを下に助言でき、それを素直に受け入れ活かす関係が築かれる方法があれば。
- ・ 核家族が増えているなか、地域とのかかわりが減っている。また、かかわろうとしない人も増えている。親が忙しく地域行事に参加しにくい。地域の人たちから、行事があるたび誘ってもらえると行きやすくなると思う。
- ・ 各家庭でアパート住まいの場合、地域とどのようにかかわってよいか分からない様子がみられる。解決策として、保育園が「橋渡し」となる。まずは、保護者同士のかかわり、交流ができるようにする。そのために、行事に参加してもらうよう促すことで、孤立させないように配慮する。
- ・ 同じ地域にしながら、交流がないため、周りに住んでいる人の様子や環境が分からない。かかわりが面倒になり、ますます孤立してしまう。
- ・ （課題）たしかに、かかわりを持ったことで逆恨みをされるなど、いろんな事件等が起きているが、鶏が先か卵が先かのような状況だと思う。長年の日常的なかかわりがないなかで、指導的なかかわりを持っても難しいと思う。その意味で、地域の人々がかかわりを持って生活するという文化が薄れてきている。子どもや高齢者、女性や障害のある人、外国人などの弱者に対する「優しさやいたわり」を持ってかかわる地域の文化を再生することが課題ではないだろうか。（解決策）取り組みのひとつが「人権のまちづくり」ではないだろうか。最近、「協働のまちづくり」とかも考えられているが、地域で困っている家庭を孤立化させないための「かかわりを持てる、かかわりを大切にできる体制づくりの構築」が必要だと思う。そのための大きな課題が、誰がやるかである。キーワードは「かかわり」ではないだろうか。
- ・ 核家族で地域から孤立してしまいがちな家庭がある→プライバシーに配慮すると家庭のなかに立ち入りにくい。段階の世代を中心としたお節介ボランティアを組織し、地域で多様な活動をしていく。
- ・ 放課後や休日、外遊びをする子どもが少なくなっていること、車社会で歩く機会が減って

いることなどから、生活や遊びのなかで身につく体力がついていない子どもが増えている。地域のなかで子どもを注意する、指導することが減ってきている。気になる家庭があっても、個人のプライバシー保護の観点から、立ち入りにくい状況がある。(解決策) 校区公民館や区の公民館などに子どもや大人が気軽に集える場をつくる。退職した人など、地域の元気な人を、子育て支援の人材として活用する。

- 地域によっては登下校の見守りや声かけなど、密なところがあるが、新興住宅地などは小中の保護者 PTA 関係・地区委員などのつながりはあっても、子どもがいない世帯へのつながりが薄いように感じる。
- 人と人とのつながり、加えて地域のなかに活動する場があり、認め評価してくれる人がいる。そのことで自分たちの居場所がここであると実感できること。
- 今は地域の人たちの子どもたちへの目配り、気配り、心配りができてきているように思う。かわりを持とうとしている人は限られている。
- 昔と違って地域全体でという点が弱くなっていると思う。隣近所づきあいがだんだんできなくなっているなかで、地域のつながりや仲間意識が持てるようにすることが必要だが、それをいかにすすか、地域に人たちがそのものの意識の問題でもあると思われる。頑張ってもらいたい。
- 当園の保護者は、子どもに関して成長してほしいという願いを感じていますが、その他の人たちについては、本当の意味の子どもの成長について関心がないように聞く。親としての子どもへの責任等、考えるようであれば解決しないと思う。
- 生まれてから集団生活(幼稚園や保育園)に入るまでは、地域との交流の場がないので、新生児訪問か、地域で助けてくれる人の紹介、サービスの情報提供、何でも手伝いますという(民生委員とか、女性がいいが)姿勢でのぞんでほしい。
- 「知らんぷり」「関係ない」などが課題になると思う。地域で困っている家庭を孤立化させないことが一番だ。気にかけてあげられる地域にならなければ、相談もできないし、「人権のまちづくり」はできないだろう。
- 地域で子どもを育てる、という動きがあるが、これがうまくいけば、親の負担が少し軽くなるような気がする。
- 地域の子育ての先輩に聞くことができない。地域で育てるなどが少なくなっている。
- 子どもを育てるのは家庭が基本であるが、その家庭が機能していないところがあるので、地域で子どもを育てる必要がある。近所の大人や地域の人々がたくさん声をかけ、子どもを温かく見守ることが大切だと思う。
- 若い世代が地域から離れ、地域行事等にも参加できず(参加しようとしなくて)地域への愛情さえ希薄になっているような気がする。若い人たちの地域行事等の参加が増えると地域にも活気が出る。そのことによって、子どもや子育て家族が安心して生活でき、会話しやすい環境になると思う。年配の人たちの声かけや活動も必要だが、若い人たちの動きがもっと必要だと思う。

#### **児童虐待を防止していくため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- 通告の周知。

- ・ 虐待を地域みんなで防止しようという意識をもつことが大切だと思う。子育て世代だけでなく、子ども～高齢者までの虐待防止についての勉強会などの機会があればと思う。
- ・ 周囲に気配り目配りすること。気になったら、声をかけること。知らないふりをしないこと。近所でのつながりを深める（隣組。子ども会等）。相談しやすい仲間・友人を見つけること。
- ・ 子どもを家庭ではなく、地域で育てていくという住民ネットワークの再構築。
- ・ 社会的な不況により親の経済状況が不安定で、そのつけが社会的弱者である子どもや女性に被害を及ぼしているのではないかと思う。国の政策が必要だと思う。
- ・ 地域住民、教育機関からの情報提供が円滑に行えるシステムが必要。地域住民にとって児童相談所や警察は身近な存在とはいええない。孤立しやすい家庭の存在を含めて、地域にある情報が集約しやすいシステムの構築。家庭地域相談員のような存在が、地域のなかに行行政のネットワークとして存在し、そのことが広く市民に周知されていること。行政として、教育機関、児童相談所、警察等との相互のネットワークができていくこと。
- ・ 何でも話せる関係づくりができていくと防ぐことができると思う。「どうかした？」とすぐに声かけできる地域ネットワークが重要。発見→声かけ→報告が戸惑うことなく、スムーズに行える関係づくりの重要性を感じる。
- ・ 子どもや親の様子で気になることがあれば、地域のなかで連携を図り、その家族を見守っていくことが大切だと思う。
- ・ 地域のなかで孤立していかないように周囲の気づきが必要。行政・医療機関・地域の情報交換や、専門的知識をもつ相談員に気軽に情報提供できる機関を設けて、早期発見・対策できるようにする。
- ・ 近所づきあいを密にするのがよいと思うが、なかなか今は難しいように思う。近くにどういいう人がいるのかを把握することが大切だと感じる。
- ・ 家庭の孤立が最大の原因である。近隣住民の関心と通報システムの構築である。家庭環境、子どもの異変等格別の状況は隣人であれば、それとなく感じるはずである。かかわると何をされるか分からないと思う気持ちが知らぬふりをさせている。虐待している親に罪の意識はないと思うが、暴力・育児放棄等は立派な犯罪である。そのような親から子どもを保護するのは、強制的な処置が必要である。市の担当者・学校・区長・弁護士・警察等の連携による実態の把握、虐待している親との話し合い。最終的には強制保護、親に対する罰則等の法的措置が必要と思われる。何の抵抗もできない子どもを守るためには、断固とした対応が必要である。また、一般住民も自分の子ども、孫だけでなく、他人の子どもを守る責任があると自覚できる強い信念を持ちたいものである。この問題はプライバシーに関わることだからと、対応が後手に回り、悲惨な結果を招く。虐待の対応は待ったなしだ。子どもの保護を第一優先に考えるべきである。幼い命を無残に終わらせてはならないという覚悟を持ちたい。
- ・ 早期発見と早期対応のために、地域の人たちの見守りと、日頃のあいさつやちょっとした声かけをする。たとえば、子どもたちが声かけしてもらって安心する言葉などを・・「おはよう・・おはようございます・・」いずれかなどなど。地域で考えてみる。

- ・ あいさつや見守り、子どもたちにあったら、大人からもあいさつし、登下校時は特に、顔見知りになり、親しくなれたらいいと思う。散歩や家の前の掃除を、その時間にしている人もいるそうです。
- ・ 地域社会における子育ての見守り、家庭の孤立化などの防止。地域社会での見守り。早期発見し関係機関に連絡。
- ・ 入所児童（中学、小学、幼稚園、保育所）以外の家庭内養育児童の把握と、見守りや家庭訪問によるヒアリング等の積極的なふれあいを（地区委員、民生委員、隣組長など）。
- ・ 虐待としつけの見分けが難しい。子どもたちの身近にいて、子どもの変化に注意を払うことができる保育園、幼稚園、学校関係と地域が連携し、早期発見に努める。
- ・ すこしでもその兆候に気がつけば、早く公的機関に相談する。日頃の啓発も大切。地域（隣近所）で見守る。声をかける。孤立している親子をなくすような、地域力が問われていると思う。
- ・ 「遠い親戚より近くの他人」というように、隣近所のつきあいや、地域活動を通して声かけ、あいさつなど、小さなことからしていき、仲良くしていく。周りがよく見えるように。
- ・ 他者に感心、関心をもつこと。
- ・ 近所との関係づくり、近所の人と仲良くなれる何かきっかけがほしい。子どもたちが声をあげられるような教育。親の悩みに目を向け、解決しようとする事。
- ・ 地域の住民同士が、つながりあっていけるような、コミュニティづくりが基本だと思う。
- ・ 子どもを受け入れている機関（保育所・病院等）が、常に子どもの状況、親のかかわりについて、虐待につながる要素はないか、気になることは継続的に対応していく。
- ・ 子どもを受け入れている機関が、常に子どもの状況、親のかかわりについて、虐待につながる要素はないか気かけながら見逃さない目を持ち続ける。行政や児童相談所に気になることは連絡を怠らないようにしておく。
- ・ 早期発見が大切だと思う。関連機関の情報交換、相談内容等を共有する会議など行い、専門的な知識を持った担当者や、いくつもの事案を解決、経験した人の話を、関係者が聞く会などを行うことも大切だと思う。地域で発見、気づいたら「ここに通報して」というお知らせを市広報などに載せ、虐待防止の意識を高めるようにするとよいのでは。
- ・ 家にこもらず、外に出て、子どもとの時間を、違った目で感じられる環境や、情報収集の場、気軽に出て来られる身近な遊びの場などを増やす。同時に、子育ての先輩や、身近な環境にいる人たち（地域の人たち）の細かな声かけや接触ができるようなシステムが大切になってくると思う。
- ・ 近所で気になる家庭や子どもがいたら、気をつけて見守り、おかしいと思ったら相談機関に通報する。新生児訪問や〇か月健診等で気になる家庭や子どもの情報を地域の民生委員や主任児童委員にも知らせ、見守りをする。育児ストレスの緩和のため、子育てをしている母親同士の集まる場をつくったり、時には訪問したりする。親がしつけと称して虐待したり、子どもと会わせない等の場合は、強制的に家には入って子どもを保護してもらいたい。
- ・ 子どもの泣き声、大人の怒鳴り声など、近所で見守る。泣き声があまりにひどい時は、主

任児童委員、民生委員・児童委員、警察署へ通報するようにする。警察官になかなか来てもらえない時、代わりに家に入れる権限を持った特殊な人が各区にいるとよいのだが・・・。  
泣き声や怒鳴り声を聞いても女の人は怖くていけないから。

- ・ 子どもに課題があるのではなく、大人に課題がある。しかし、この大人にも、大人として育ってない現実がある。偏見で言わせてもらおうと、閉じこもっている自分があり、相談できる大人がいる。虐待している自分を聞き、相談できる開かれた地域づくりからはじめることだろう。「子どもの問題は、大人の問題であり、大人の問題は地域づくりから」であろう。
- ・ 各家庭だけで解決するのではなく、周りのさまざまな人々のかかわりが大切であると思われる。その中心として、福祉課地域福祉係からのさまざまな情報も必要である。一方通行にならないよう、状況を吸い上げ、適切な形で担当への情報がもたらされることも重要である。個人情報として守ることは前提として。
- ・ 親に対して児童虐待とは何か(事例)、なぜいけないのかを十分に PR する(市広報誌等)。乳幼児健診、保育園、幼稚園の保護者会、小学校の保護者会を通し、児童虐待防止を呼びかける。地域の防犯体制を応用し、地域での児童虐待を見逃さない取り組みを進める。
- ・ 子育てが孤立しないように疑いのあるような家庭には頻繁に声かけや訪問ができるような体制を現在より拡大していく。
- ・ 子育て支援やサークルなどに出向こうとする家族は、悩みも解決できるのだろうが、出向くことを躊躇している家庭は、孤立してしまわないか心配。
- ・ まずは、地域での人のつながり、大人のつながりをつくっていき、多くの目で子どもたちを見守るようにすること。虐待の疑いがあれば、通告することが義務であることを広報すること。
- ・ DV については、啓発が不十分。子どもが成長後の後遺症など伝える必要がある。
- ・ 近所にも目を向ける。互いに声をかけ合う(あいさつから)。不審だと思ったら専門機関への通報。
- ・ 子どもをはじめから虐待しようと思っている保護者はいないと思う。子育てに疲れたり、孤立化したりしている保護者の実態を把握し、子育ての「セーフティネットづくり」を市が進めている協働のまちづくりと連携し、地域で見守る・支援していく組織が必要だと考える。もちろん、個別の公的な支援は必要である。また、児童虐待にとどまらず、校区や地域における「人権のまちづくり」と連携し、一人ひとりが安心・自信・自由な生活が送れるまちづくりの構築も必要である。
- ・ 虐待に至るまでのいろいろなサインに子どもたちが公共の園や学校に通い始めた時点で、いろんな観点から外の目で見えていくことに気づいていくことが基本だと思う。子育てに関する悩みにいち早く気づき、相談できるような行政や地域社会が必要とされているし、子育てについて風通しのよい地域環境をつくっていくことが大事だと考える。そのうえで、住民の気づきを吸い上げる行政機関のほうからの働きかけがないと、家庭の問題に口出ししていいのか？行政に通報していいのか？という意識は根強くある。地域の情報を集めるしか救う方法は今のところなのだから、その方策の強化に努めるべきだろう。

- ・ 地域と子育て家庭をつなぐ取り組みを、行政の関わりを大切にしながら、地域全体で取り組めるよう啓発したり、システムを構築していく。
- ・ 子育て家族が孤立しないように、地域とつなぐ取り組みをつくる。大きなイベントのものより、小さな地域のなかでつながりをつくれるような場の提供
- ・ 健診、子育て支援、幼稚園や保育園に登園しているか等、きちんと把握して、来ていない子には家庭訪問を行う。
- ・ 近隣住民の関心。相談、通報しやすい窓口。
- ・ 母親同士が仲良くなれるような仲間づくりのお手伝い。みんなで子育てしていく姿勢、時には母親たちがリフレッシュし、ストレスをためない日々を送れるような援助。
- ・ 地域のつながりの欠如。解決策：地域行事の復活。子ども会の活性化。
- ・ 近所づきあいが深くなること。お互いの様子が分かり合うと、虐待の防止にもつながると思う。子ども会、地域行事等の充実。自治会の充実（隣組等も含めて）。
- ・ 隣同士、顔見知りになり、お互い声をかけ合いができるような関係をつくるような取り組み。自治会の集まりで、住民みんなで地域の宝を育てるために虐待防止についての講習会（子育てについて）開催。
- ・ 行政側が親の教育等を何とか実習等で根気よく行っていくことが必要と思われる。虐待等を行う親の教育レベルが低く常識がない。
- ・ 子育て家族を孤立させない（地域で見守り）。
- ・ 近所に住んでいる隣人が大声を出して子どもを叱っていたり、いつも泣いていたりにしているのを見かけたら、声かけをして、手を差し伸べてあげる気持ちを持って接してあげる。また、通報する勇気も必要ではないか。
- ・ 表面的ではない、プライバシーが完全に保たれた上での相談ができる場、人（専門的）が必要でしょうか。
- ・ 地域の人たちと顔見知りになり、あいさつや会話ができるようになること。専門機関との連携を密に行うこと。
- ・ 隣近所での関係づくり、つきあいを広げていく。あいさつ、声かけ。地域の人の見守り、人と人とのつながりをさらに広げていく。地域の人たちに協力依頼（民生委員・児童委員、元気なお年寄りなど）。市、地域、専門機関との連携。
- ・ 乳幼児では、集団健診が重要だと思う。未受診者には、家庭訪問が必要だと思う。
- ・ 虐待が疑われる場合、地域の民生委員や警察に相談（通報）する。未然に防止するためには、子育て中の家族に対しての講習を行う。保育園では両親（家庭）の考えや思い、または悩みを聞いていく。職員間でも話し合っ、園全体で取り組んでいく。
- ・ 子育て世代に行政や地域がかかわりを多く持った機会を増やす。
- ・ 「よその家庭だから・・・」ではなく、「子どもの命に関わることだから」の意識で、虐待する保護者をなくすこと。第一段階として、気づいた人（近所の人が多いのでは？）が告発することではないかと思う。意識の変革のための啓発も必要だし、時間はかかると思うが、今も虐待されている子どもがいるわけだから、「子どもの身体と心を守ること」が最優先されるべきである。と同時に、「かかわり」の取り組みを行うことである。プライバ

シーとかかわり方との兼ね合いが難しいのだが、やはり「かかわること、かかわっていくこと」しかないと思う。

- ・ 地域の見守りと情報の共有化→地域の見守りボランティアを育成し、地域の情報を密にして支援していく。
- ・ 児童虐待など、地域の基本になる情報が、区や学校、役所などに伝わりやすくなるような仕組み、情報の共有化が大切。
- ・ 地域のなかにいる、気になる家庭、気になる子ども、大丈夫かなと思ったら声かけしたり、公的な相談窓口で相談したり、それが当たり前の社会になっていくこと、地域の子どもは地域で守ろうとする気持ち。それは行政からの繰り返しの啓発がいつの日か地域の一人ひとりに広がることを願い啓発を続けたい。地域で決められている班ごとのつながりがうまくできているところもあり、子どもへの声かけもスムーズにできているが、賃貸の集合住宅地等では、つながりがまったくなく、どこの部屋にどんな人が住んでいるのかさえ知らない場合があり、転入してきた家庭が孤立する可能性が高い。その関係づくりがうまくできたら少しは児童児童も減少するように感じる。
- ・ 個の意識と知識を深めること。しかし所詮ひとりでは限界があり、周りや友人の援助は必要。つながりを強めて、親身になって聴く人がまわりに1~2人いれば、社会を温かく感じてくれる。
- ・ 小郡市における児童虐待の実情を市民へ知らせることにより、もっと虐待防止に向けた意識を高めることが必要と考える。
- ・ 子どもを皆で見守ること、人ごととしてではなく、我が子と想っての意識が大切。また虐待と思われる際、どこに通報すればよいかの具体的な連絡、相談先を皆に周知していくことからはじめてらと思う。
- ・ 子どもたちをお互いが見守り、育て、声かけ等を常々していくように。子どもの遊び場を含め、大人も交えることができるよう、声かけ等していくように。
- ・ 子育て経験者や大人たちが、今の子育ては大変だという意識をもってほしいし、社会で育てるという流れになってほしい。
- ・ 虐待やDV、ハラスメントなど、地域社会での見守り、声かけなどが大切だと思う。そのためには、学校、保育所、幼稚園、病院などでの気づきに対する相談が必要。また、自治会や子ども会の積極的な参加などを進めていくことで、個人から地域へとつながり、きずなができていくことで、防止にも役立つのではないかと思う。
- ・ 虐待を見逃さないために、民生委員・児童委員による日常の見守り、家庭訪問（日常的観察による疑わしい家庭への、幼・保・小・中との連携による情報による疑わしい家庭への）
- ・ 虐待する保護者をなくすこと。時間はかかるが、今の子どもたちが虐待をされずに育つ環境を整えることが一番よいと思う。ただし、たった今も虐待されている子どもがいるわけだから、それに対しては、子どもの身体・精神を守ることを最優先されるべきだろう。地域社会がどうするのか、かかわるしかないだろう！プライバシーと近所づきあい・かかわりとの兼ね合いが難しいが、かかわることしかないと思う。行政のサービスでどうこうすることではなく、「人権のまちづくり」がどれだけ地域に浸透したかの結果として、児童

虐待（虐待だけでなく、高齢者や障害のある人、女性、外国人などすべてにわたって）に気づき、防止する地域社会になると考える。

- ・ 虐待の多くは、経済面との正の相関関係があると思う。経済的な自立がまずは防止の第一歩と考える。地域では隣組的な家族的環境があればと思うが、現状ではかなり難しいと思う（自治会やPTAに入らない、等の人もある）。
- ・ 気になる家庭には学校の職員、市の職員の家庭訪問を行う。地域でもいろいろと気にかけて行動をともにしたり、地域行事で一緒に活動したりして風通しをよくすることが必要だと思う。
- ・ 住民に気づかれながら潜在している問題を発見することが必要である。民生委員・児童委員、主任児童委員に情報や相談が寄せられるように、地域住民に徹底する取り組みが必要である。また、広報紙等への掲載などを活用して積極的に呼びかける必要がある。ただ、民生委員・児童委員、主任児童委員の年齢層をもっと若くしていけない気がする。

#### **小郡市地域福祉活動計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書き下さい**

- ・ 自助、共助、公助の視点で計画化していただきたいと思います。
- ・ 行政（国・地方）、政治家は地域の現状把握と住民の声をよく聞き、地域住民は関心を持ち、積極的に参画・意見を述べる必要がある。いっても何も変わらない、してくれないと思う住民が大多数のように思う。また行政サイドは通り一遍の回答でことを済ませようとしている、誠意が感じられなと感じている。大人は気がついたら意見をいう、協力する、我慢するとの気持ちが重要である。意見箱はほとんど活用されていないのではないか。出した意見と回答は広報誌に載せる。あいさつ・声かけ運動の推進、まず自分から実行する、住民の意識改革の推進が必要である。あらゆる機会、手段を講じてこの運動を定着させる、この身近な運動からはじめよう。あきらめることなく辛抱強く、そして地域住民の絆の輪を広げることも、ひとつの方法である。金もかからず、誰でもやろうと思えばできることである。方法・手段は考えればいくらでも出てくるはずである。要は本気でやる気があるか、ないかの話である。第一の問題は、これに対応できる人と金の確保である。ことをなすのはすべて人である、必要な人員を確保して組織をつくり、その組織が有機的に機能してはじめて成果が出るものである。一担当者に負担と責任を押し付けてはとうてい実行は不可能である。また、金の問題はそう簡単ではないが、手段・方法がないだろうか。国・県からの補助金、税、予算、寄付金、募金等、それぞれの立場に応じた人が、必死になって活動すれば道は開けると思う。全国一安全で、住みよいモデル市をアピールし、実行すれば自ずと問題解決の糸口はみえてくると思う。行政、議員、市民との意見交換の機会も随時多くして、市民の率直な意見を気軽に聞く場を増やすのもひとつの方法であると思う。ほとんどの住民は税金の使い方に無知で、無関心である。市の広報等で事業の目的と必要性、予算配分等、分かりやすく説明してほしい。
- ・ 保育士の経済的支援（あまりにも賃金が低すぎ）。幼稚園の養護保育支援（働く母親父親の育児支援、朝7時～夕方7時）、託児。国際結婚家庭およびその子どもたちの支援。
- ・ 身近に駆け込んで相談できるところを。

- ・ 子どもたちがいつでも自由に遊べる場所が、屋内にあるといいなあとと思う。小さなお子さんと一緒でも子どもだけでも過ごせて、家に閉じこまらなくてもよい環境、そして、子どもたちを地域で育てていくという姿勢。
- ・ 小郡市とこぐまが、手を取りあい、たくさんの子どもたちの成長の手助けになるような取り組みをしていけたらいいなあとと思う。
- ・ 乳幼児健診からのフォロー体制の充実、幼稚園、保育園、学校など、相談できる機関の充実。福祉サービス受給者証の支給期間を統一するのではなく、利用者のニーズに合わせた支給期間にしてほしい。
- ・ 市の民生委員・児童委員の活動が民生委員の活動に片寄りがちなので、児童委員としての活動をもっと徹底するような取り組みを進めてほしい。一般的に民生委員という呼称を改め、民生委員・児童委員と正式名称で表現するように改めたい。児童委員という役職を市民にもっと理解させるよう、努めてほしい。高齢者福祉、生活困窮者福祉、母子父子家庭福祉も大切であるが、未来を担う児童たちの福祉計画をもっと充実してほしい。
- ・ いろいろな支援活動がなされているが、市民の多様なニーズに十分こたえられるだけの受け皿が足りていないと思う（回数・時間）。
- ・ 3歳児健診の次が就学前健診で、期間が長いので、3歳児健診で問題点が指摘されず、問題が見逃されることがあるのでは。4歳半から5歳ごろに追加健診を行う。
- ・ 現在、スクールソーシャルワーカーも配置されているが、学校でなかなかできない課題のある保護者・家庭への対応・指導について、今後も行政の支援をお願いしたい。
- ・ 今後充実してほしいものとして、①保護者の実態把握（全員のアンケート実施）、②子育てに悩んでいる保護者の実態把握や個別支援の充実、③配慮を要する保護者・家庭の把握、④幼稚園・保育所と小学校・中学校の連携、⑤幼稚園・保育所と教育関係機関との連携（発達障害等）、⑥幼稚園・保育所・小中学校における子育て支援の講演会の充実（専門家や退職教職員等の活用）、⑦保護者同士のネットワークづくり、⑧就学前における図書館教育の推進（乳幼児および保護者対象）、⑨協働のまちづくりのなかでの「子育て」部会の設置、できれば、就学前は独立して設置してほしい、⑩虐待防止につながる人権のまちづくりの推進、⑪子育てアドバイザーやボランティアの育成。
- ・ 児童福祉に関しては、子ども支援と同時に保護者に対しての支援の必要性が大きく、今の課題のほとんどは子育ての課題とつながっている。ぜひ課題をつかんでいる教育機関との連携を十分考慮しながら地域福祉計画が推進されることをお願いしたい。そうすれば、多くの子どもたちが救われることがまだまだたくさんあるはずと思う。このことは、教育委員会が進めている学力向上の取り組みとも大きく連動している。連動どころか根幹に関わることでもある。家庭教育が立て直しを図られれば、学力への影響は大きいと思う。子どもたちにまで影響が出てきて対応に迫られるまでになった時点では多くの場合、対応が非常に難しい状態になっているというのが現状である。さまざまな課題が起きてくる原因を追究していき、ぜひ予防的な施策に力を注ぐべきだと思う。保護者の悩みを聞いていると本当にこんな細かいことでも悩むのかと思うことが多いので、早急な対応が必要なのではと思う。子育て相談会の充実や親子のかかわり方を学ぶ場の充実を参加困難な家庭にまで

広げるには、学校や園などに出て来られる機会に合わせて行うということが一番効果的なので学校との連携の下、できるのではないかと思います。

- ・ 同じ小郡市でも、それぞれの地域で福祉のニーズは違っていると思う。行政の人から地域に出向き、ニーズを把握し、福祉サービスの充実を図ってもらいたい。地域丸投げにならないよう、中心は行政であってほしいと願っている。
- ・ 学童保育の充実を図ることが、本校区では重要と考える。学童保育の指導員の研修等も必要ではないだろうか。
- ・ 思いついたらすぐに実行に移す。
- ・ 乳幼児期に「健康な身体づくり」、健康に対する意識を高めるための手立てを。乳幼児健診の年齢を増やす。医師会と連携して。乳幼児期、学童期～大人まで、虫歯ゼロをめざす取り組みを。食育、「食」で心と身体をつくる（育む）。小郡市在住の子どもたちが、心も豊かで身体も健康（病気知らず）、薬に頼らず免疫力アップ、好奇心旺盛な子に育ててほしい。
- ・ 既に検討されたのかもしれないが、難しいかもしれないが、行政各部の構想初期段階（アンケート検討段階など）から、横の連携の取れた取り組みを・・・と現状から感じている。構想を練ってから、できてからの検討・突合せになると、子どもに関わる部分では学校へのアンケートなどがバラバラに依頼されることになるのでは。各部・各課で取り組みの内容・視点・ポイントは異なるかもしれないが。ボトムアップも大切だが、マスタープランを作成してから、各部・各課で何ができるのか、担当する分野・内容を決めていく方がよいのでは。各部・各課・各分野の代表者で、基本的な議論をしたのだろうか。イメージは、各部・各課・各分野の代表者で基本的な議論→各課・各分野別に議論、だろうか。
- ・ 小郡市は高齢化が進むと思うが、元気なお年寄りも多い。元気であり続けるために、シニアスポーツの大会を開催し健康なまちづくりを推進する。社会貢献するようなシニアのサークルを育てる（子育て応援、ひとり家庭見守り、お年寄りが集まってのおしゃべり、地域の公園や広場での朝のラジオ体操）等、時間と体力のあるお年寄りを活用してはどうだろうか。
- ・ 小郡市は本当によくやっていると思う。しかし、本物になるには、今が精一杯と感じている現時点から、それぞれが勇気を奮って一歩前に踏み出す必要がある。それしかない。
- ・ 子育てが本当に子どもの育ちに、知育だけでなく、心の育ちにつながるように頑張ってもらいたい。
- ・ 本当の福祉とは、どんなことか素朴に考えてほしい。
- ・ 子育てに関することはここに行けば、すぐ分かるという窓口を決めてほしい。子育て支援に関するすべてのことに対して、情報提供できるような人を育成してほしい（いると思うが、ゆっくりその人のためのサービスが何かを一緒に考えてくれるといいと思う）。小学校、中学校など学校で、市役所はどんなところか、どんな仕事をしているか、大人になって困った時は（子どもの今でも）、助けてくれる人がいるし、多くのサービス（支援）があることを教えてほしい。
- ・ 行政各部の連携の取れた取り組みをお願いしたい。

- 地域の人たちに直接意見を聞く場を設けてはどうかと思う。どうしても私たちの意見は「間接的」なものであるので、「直接」が大切ではないかと思う。

### 3. 障害福祉分野関係

---

**障害のある人たちの様子を見ていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 災害時の避難場所や避難する際の支援→緊急時の支援マニュアル等の作成と訓練。公共施設のバリアフリー→学校等にエレベーター（またはリフト）の設置。さまざまな支援やサービス等の情報→市広報誌やチラシの配布。
- ・ 地域に理解者と居場所が少ないと思う。障害のある人たちをサポートする方法も、知らない人がほとんどだと思う。各事業所だけでは限界があると思うので、行政で居場所づくりや預かり事業、それに伴う職員の配置に積極的に取り組んでもらいたい。
- ・ 問題が家庭であったり、地域であったり、本であったりと多岐に及んでいる。支援者の方で気づき、適切な支援の窓口へ渡してあげることが必要と考える。
- ・ どのようにして社会や世間と共存していくか、まだまだ就職への道のりが難しいので、就職へのサポートの充実がほしいと思う。
- ・ 地域で暮らしている人で、移動支援で病院受診ができないなど、サービスの制限が狭く、困っている人がいる。
- ・ 社会資源を活用する際、身体障害のある人たちの配慮はみられるが、それ以外の障害のある人たちへの具体的なアプローチがあるとよいと思う。たとえば、車椅子専用の駐車スペース：知的障害や行動障害の人たちも含めて活用しやすい表現、「障害のある人たちのための、ゆとりスペース」といった風に、多目的な活用のできるスペースの利用方法を、社会資源に指導・助言してほしい。本人の障害特性の行動（大きな声を出す、多動等）が周囲の人たちに受け入れられず、注意やクレームを受けてしまう。公共施設のトイレが和式しかない場合は不便なので、介助者も入室できるスペースのなる洋式トイレを設置した方がよい。
- ・ 課題①：障害受容。障害受容ができていないと支援の介入のタイミングが難しい。受容の問題があり、支援が入りだしても、なかなか前に進んでいけない。本人は困っておらず、周りが困っている状況が多々ある。（解決策）本人の想いによりそいながら支援していくなかで、本人が気づいていくのを待つことしかない・・・。課題②：困ったことがあっても家族には迷惑をかけたくないと相談できなかつたり、また、相談できる人がいないため、問題が大きくなってから支援者が介入することになる。ここには家族の障害に対する理解の乏しさも関係する。（解決策）普段から相談できる、信頼できる誰かとつながることが必要。家族だけではなく家族以外の誰かとつながることが必要。地域にそのような人がいればベストであるが、精神障害のある人の場合はなかなか難しいため、相談窓口の周知が重要になる。相談窓口をHPや市の広報誌などに積極的にPRすることで、電話やメールなどで問題が大きくなる前に支援者につながることができ、問題が起こった時に介入しやすくなる。また、家族教室など家族同士が集まる場をつくり、すでにさまざまな経験をしている家族の話聞くことで、自分たちの無理解に気づかされることも多い。支援

者がいろいろなよりもとでも説得力があり、心に浸みていく。支援者として、そのような場をつくっていくことが必要。各病院でされているところもあるが、どこに通院していてもいくことができる中立的な家族教室は行政主導で行っていくことが必要。しかし、マンパワー不足が現状である。課題③：精神障害に限られてことではないが、生育歴も本人の生活の上での問題や課題に大きな影響を与えている。障害はあるが、問題は本人が何に困っているか。障害だけではなく、育ってきた環境による価値観や社会性なども考慮して支援していける支援者が不足。精神障害の相談のなかでは、訪問や同行など臨機応変に動きながら信頼関係を築き、サービスを導入していくことが多い。これも、本人または家族が困っているがサービスの必要性を認識していないことが挙げられるが、特に精神障害のある人を支援する上では動ける相談員の数はさらに必要である。

- ・ 障害のある4歳の子どもを車いすに乗せた若い母親が「私にとって、この子は生きがいです」と、その言葉にどう答えてよいのか、一瞬戸惑いながら、「本当に可愛らしいお子さんですね」と返すのがやっとでした。まだ20歳代くらいの人ただけに痛々しく感じた。回復できない障害の様子だけに「この人はこの後の人生を自身で励まして生きていかれる」、そう思うと胸がいっぱいになった。医療が進み、障害を持って生まれる人は少なくなっていくと考えられるが、できるだけ障害をもって生まれてくる人を少なくする方策をお願いします。
- ・ 本人もその家族も外出がしづらいと思う。孤立化もあると思う。障害がある人といってもさまざまである。行政やボランティアの支援を受け難い人たちも多くいるのではないだろうか。そのような人たちは、どのように暮らしているのだろうか。
- ・ 地域の行事などの出席が少ない。地区での行事イベントで、ほとんど見かけない。家庭と所属している施設以外に、気楽に安心して出かけられる場所が、もっと複数あるのが理想だと思う。
- ・ ある程度、ボランティアによって支援活動されているが、支援制度や人手不足もあり、まだまだ家族に負担がかかっているし、支えられて生活している感じがする。事業者任せではなく、行政機関も立ち入るべきだ。
- ・ ケアホームで生活している人たちが、生き生きと暮らせるようになることが課題だと思う。たとえば、踊りが好きだったり、唄が好きだったりした人がサークル（地域の）活動に参加できるように、ヘルパーが付く補助があればと思う。
- ・ 障害のある人たちの偏見と障害に対する理解が市民の人たちの大いに不足している。また、悪徳商法などの被害にあっている人が多い。障害のある人たちの理解を求める広報や研修会の開催、当事者や家族の人の話を聞く講座の開催。当事者の金銭管理を公的にしたらどうか。
- ・ 社会や地域の情報等、得にくい状況ではないかと思う。公的な場所や広報等で、分かりやすい情報の継続と地域のマンパワーの育成。
- ・ 障害別によっても異なるが、日常生活のなかにおいて、健常者が普通に行っている事柄（生活全般について）に困難が生じている。これらの困難さに加えて、外出の困難、コミュニケーションの困難さもあり、地域の人たちとの交流、外出等にも影響が出ている。解決策

としては、周囲の障害に対する理解が第一であり、居住環境や生活地域内での環境の整備が進むと、より生活がしやすくなると思われる。また、障害のある人は何かしらのサポートを必要とする人たちであるので、障害や個人について理解し、サポートできる人材の育成、確保も必要と考える。また、社会資源、公的サービスの充実も必要だと思われる。

- 同じ障害名であっても一人ひとり症状が違って、対処の仕方が違ってくること。作業所でのトラブルであれば、職場を変えたり、話し合いで解決させたりし、後は安定するまで見守り支援する。また、精神障害のある人で、個人的もしくは家庭内のことが原因にも関わらず、矛先が事業所によって非難されたりすると、病院にお願いするしかない。
- 障害のある人たちのなかでも、当事業所では主に知的障害のある人たちが主に利用している。その人たちは、自分の意思等を上手に伝えることが得意ではなく、上手に他人とかかわることが難しかったりしている。また、当事業所と家庭の往復だけで、他人とかかわる機会が少ないように思うので、もっと多くの人とかかわる機会が増えるよう、地域のなかにも憩いの場的な場所がもっと増え、気軽に利用できるようになるとよいと思う。
- 障害のある人たちは、現状の環境のなかで精一杯生きていると思うが、実際社会に出て、地域で暮らすことは非常に困難ではないかと感じている。地域の人々が障害に対する知識を身につけることで、障害のある人に対する理解が変わるのではないかと思う。たとえば、学校教育の場で、障害に対する理解を深める場を設定するなど・・・とにかく、地域や社会が彼らを受け入れようとするれば、障害のある人たちも、少しは生きやすさを感じるのではないか？
- 特に問題や課題はない。いろんなことを経験して、いろんな人にかかわる機会を増やす。
- 家族にかかる負担が大きい。体力的、時間的、経済的にも、もっと支援の体制を整えて、家族以外で支援できる仕組みづくりが必要と考える。障害があるために、学校への進学にたくさんの壁（普通学級に受け入れてもらえない、いじめ、支援のために保護者同伴、送迎、他の保護者の無理解等）があるように思う。社会全体で、障害のある人を普通に受け入れる教育、障害のある子（人）を診られる病院、利用できる施設をもっと増やしていく必要があると思う。軽度の障害を持っているために、軽犯罪を犯してしまい刑に服して社会に出た後、支援体制が整っていないため、再び生きるために軽犯罪を犯してしまう人が多いそうだ。障害のある犯罪者の出所後の支援体制（就労、金銭管理、住まい、生活のことなど）をしっかりサポートしていく体制づくりが必要と考える。学校の土曜日、長期休暇、卒業後の預け先や生活の場をいろいろな障害に合わせてつくっていく必要があると思う。日中一時預かりの単価を上げる、重度心身障害の人を預かれる体制を充実していく必要があると思う。
- 個々の特性があり、入所施設での生活や短期入所利用が難しい→入所施設や近隣の施設と連携し、利用者特性を共通理解し、ショートステイを利用していく（その際、リスクを把握した上での対応が必要となる）。活動の場の狭さ、人数の多さが不安材料になっている→外の活動やパーティションを利用してひとりの活動空間をつくる、このことについては、一時的な対応のため、環境整備が必要。自分の意思を伝えたいが上手く表せない→支援者の表情や態度、行動から、何を伝えたいのかを読み取る（支援者の読み取る力が必要）、

意思表示カードを準備するなど、その人に合った意思表示の仕方を模索する。

- 人としての権利を第三者が守らなくてはならない場合が多いにある→既存している福祉事業所での支援の質の強化と社会参加の進めを具体化すること。必要な保障を受けながら地域での生活が営めるよう、地域での態勢を整える必要がある→24 時間体制で見守ることができる社会資源の増加と地域での受け入れ態勢づくり。健常者とされる人たちは、一般的に自分で生活を営んでいるが、障害があることで家族を中心に見守らなくてはならないが、保護しなければならぬ時間や人に制約と制限があり、家族だけでは到底みていけないため、年齢や障害特性等に応じた居場所づくりが今以上に必要である→障害や特性等を啓発するために就業促進の強化。
- 養育について保護者や家族のみがかかわることが多く、療育機関以外の人とのかかわりが少ない→地域への行事等の参加、子育て支援等の遊び場の経験。近くに療育機関が少なく、療育開始が遅くなる場合がある→療育機関の増加、市の療育事業の充実等。障害の特性や介助方法等が分からず、周囲からのかかわりが少ない→障害についての認知、情報等を周囲の人に伝えていく必要性がみられる。同年齢の子どもとかかわる場が少なく、遊びの経験が少ない→一緒に遊べるような場所の提供と保護者への情報の伝達。
- 保護者は子育て・子どもの状況等に不安があるが、どこに相談してよいか分からない場合がある→乳幼児健診等での相談、保護者への情報提供、市の療育事業等。近くに療育機関が少なく、定員等で療育開始ができない場合がある→療育機関の増加、市の療育事業の充実等。障害の特性や行動を理解されづらい→障害についての認知、情報等を周囲の人に伝えていく必要性がみられる。
- 成人の人たちとかかわっているなかで、本人たちの障害受容の形もさまざまであり、課題となる部分の受け止めの難しさを感じる場合が多くある。特に、近年では精神障害の人たちや発達障害の人たちが多く、障害の告知自体も年齢を重ねてからという人が多くいることから、障害の受容と社会参加が同時に行われている経過が多くある。本人たちと直接かかわることが多いため、アセスメントや相談の機会を設けることも多いが、就労という観点を入れながら支援をしていくことが必要なため、提供できるサービスも限られる場合が多い。解決策とは異なるが、本年度より、計画相談を行った上でこちらのサービスを利用する機会も多く、本人たちのニーズを直接相談支援で聞き取ってもらって、課題に対する対応や支援をこちらで行うことができるようになってきている現状は、より本人たちの思いに添うことができていると感じている。
- 変形・拘縮や摂食障害、痛みなど成人期になって出てくる二次障害は、生活する上で大きな問題となってくる。対策としては小児期から、成人期になって出てくる問題を予測し、その予防策を保護者や療育者で検討する。保護者の年齢も高くなり、介助の負担も大きくなっていくため、将来的に過ごす場を悩んでいることが多い。小児期から日中一時やショートステイなどの情報を集め、定期的に利用することで、何か緊急時の対応ができる準備をしておく。
- 地域の受け入れ：就園、就学先の受け入れ、理解。近所の人々の理解。環境：バリアフリー（学校、保育園、幼稚園、歩道、公共交通機関など）。利用しやすい制度。早期発見、早

期療育、発達フォロー。解決策：乳幼児期の場合は、市と児童発達支援センターとの連携。健診を一緒に行っていく（相談に乗る・必要に応じ医療機関や療育を勧める）。

- ・ 母子関係の構築が不完全な状態のまま、思春期を迎え、家庭内で対応できなくなったケースと出会うことがある。家庭内だけでの対応でずっと過ごしていたことが、子どもにとって自立を妨げることにもつながっていたりする。ほどよく、地域の支援を活用したり、家族だけが抱え込まなくてもよい環境づくりも必要。家庭内でのかかわりが薄く、自己肯定感も母子関係も構築できないまま、大人になったケースであり、幼児期からの親子のかかわりの重要性も感じる。家庭以外の機関の人々が、いかにつながっていくか、縦割りを越えたかかわりが必要。
- ・ 学校卒業後の自宅以外の生活の場所の確保が必要。体が大きくなると、外出等が家族だけでは難しくなるので、余暇の充実のため、まわりの協力が必要。
- ・ 集団適応や社会化を強要され、個性を消されていくようなかかわりがあること。
- ・ 特に働いている人でひとり暮らし、生活面が乱れている（食生活や清潔面等）ため、支援を行うが、住まいが老朽化し、生活の水準が上がらない。そのため、グループホームを考えるが、市内は都市計画のマスタープランがあり、本人が長く住んだ場所を離れなければならない。
- ・ 本人や家族の思いや悩みを話せる人や場所がない→相談員の育成と相談場所の確保。障害種別ごとに理解が得られていない→障害のある人の理解の啓発活動、個別性を大切にす支援が必要。私たち相談員が当事者の思いを代弁できるようになっていきたい。
- ・ 日中活動の場。コミュニケーションがうまくとれない場合。緊急時の対応（体の不調、災害等）。情報伝達方法（特に身体・知的の人）。
- ・ 障害のために、人との交流が少なくなり、情報をタイムリーに入手できなくなること。家族や周囲の人の障害への理解が不足しているために当事者が相談できる相手は、主に施設の職員や相談支援事業所の職員となっている。そのため、地域で障害のある人や家族の見守り、相談が気軽にできること、障害のある人が社会参加しやすい地域づくりが望まれる。
- ・ 難聴者や聴覚障害のある人の場合、障害が外から見えないので、介助やお手伝いも、どの程度必要なのか分からない。
- ・ 交通の不便。余暇の充実、社会参加を図るためには必要不可欠であるが、商業施設等を利用するにあたり、西鉄またはコミュニティバスの利用が考えられる。しかし、休日運行していないことの不便性、バスの路線のなさが困難となっている→休日の運行を開始してもらいたい。また、平日利用できる本数が1本でも増えると交通の円滑な確保ができる。
- ・ 就労の場が少なく賃金が安い。公的助成をしてもらいたい。そのことに対して市民が理解する。
- ・ 特に精神障害のある人は、病院やクリニックでの処方箋をもらい、地域生活を望んでいるところだと思うが、本人の症状の伝え方も難しいだろうが、病院、クリニックと地域福祉のつながりや情報は薄いと感じている。
- ・ 障害をもつ人それぞれにあった生活空間をつくりあげる。
- ・ 作業自体に関しては、問題なくやっているが、利用者同士の間人間関係に少し問題があると

思われる。特に精神障害の人は、その日その日によっての心の具合があるので、その状態に合わせ、利用者同士でももめ事になる前に、話を聞いたり、別々の部屋で作業をしてもらうなど、対処している。

- ・ バリアフリー（心、物）が不十分。
- ・ 支援者が思う問題点と本人が感じていることの相違。生活歴、習慣による感覚の違いを考慮する。支援ではなく、いっしょに困ったことを考えていける、よりそえる関係をつくる。それぞれの視点で問題点を定期的な多機関との情報交換により役割分担する。
- ・ 普段の生活のなかで、障害のある人にあまり出会わないと思う（私が気づかないのか、見ただけでは分からないのかもしれないが・・・）。障害のある人たちは、まだまだ気軽に外出できる状況ではないのかなあと思う。ハード面、ソフト面とも。
- ・ 無関心な人が多い、あるいは触れたくない。学校教育や社会教育を増やす。
- ・ 公的機関が使えることを知らない。幅広くいろいろ不自由なく公共機関を使えばいいのでは。
- ・ 思うように伝えられないところ。
- ・ 障害のある人の家族が高齢の場合、介護負担が重すぎるように思う。
- ・ 障害のある人たちの親が存在しなくなった時以降のこと。医療的支援が必要な子どもたちの受け入れ先。
- ・ 外の世界とのかかわりの機会が少ない。
- ・ まだまだ障害のある人からすれば、ひとり歩きのできないまちだと思う。たとえば、信号、道路の段差等。視覚障害のある者の立場から述べた。
- ・ 障害のある人もない人も、ひとりの人間として認め合っていくことが大事。障害のある人だからといって、特別扱いしない、困った時にはお互いに助け合っていく。子どもの時から、人権教育、人権啓発が大事と思う。
- ・ 公共機関を利用している人が、他の人に迷惑をかけてしまう行動がある（施設では、何度も迷惑をかけることがある場合、送迎車を利用してもらうようにしている）。
- ・ 自力で通所される利用者が電車でやってくるが、パニックや発作などのため、トラブルになることがあった。両親としては社会とのつながりも大切にしたいという思いもあり、家族と支援者、そして社会との協力が必要であると思われる。
- ・ 駐車場など、車いす専用はあるが、ひとつしかなかったり、元気で健康な人が停めている場面を多く見かける。
- ・ ひとりで生活している人などは、なかなか外（社会）へ出る手段が少ないと思う。リハビリができるようなサービス等があると心身ともに元気になると思う。
- ・ 障害のある人の就労の難しさ。まだまだ道を通っていても障害のある人にやさしいまちではないなと思う。車いすに乗って自分が一歩家の外に出て、外出をし、体験してみると、いろいろと見えてくるものがあるのでは。
- ・ 小郡市内で考えると、車いすでの移動時、まだまだ整備されていないと思う。障害のある人たちが暮らしやすいまちは、一般の人たちにも優しいまちだと思う。少しずつでも暮らしやすいまちになるよう、皆で考えていけたらよいと思う。

- ・ 障害は程度や状況に応じてさまざまである。先天性疾患、後天性疾患、中途障害（けが、病気）、精神疾患、発達障害など、対応や状況が少しずつ違う。妊娠・乳幼児期、学童・思春期、青年期、壮年期、高齢期、それぞれ抱える課題がある。妊娠～乳幼児期、健診枠で発達遅滞早期発見→この時期、幼稚園・保育所へ通う子どもは療育を受ける・相談→幼稚園保育所と連携する。育てる過程では、一番手のかかる時期・障害を受け入れる時期・グレーゾーンは育てにくさ→虐待・ネグレクト→育児によるうつ→地域の見守り・民生委員・福祉・子育て関連連携（チームで対応する）が必要。学童期になる就学相談→不登校始まり→いじめ・二次障害中高引きこもり→進路・高校受験→中退・ニート引きこもり・・・中学までだとまだ地域とつながれる手立てがありそうだが、高校以降は、家族が居場所を探していかなければならない現実がある。軽度の知的や障害は日常の生活面はフォローがある（知り合いの子どもはストーカーに間違われ警察が家に来たケースがありました）。連携は少しずつなされているが、いまだ不十分、幼・保育・小・中も連携が必要。段階に応じた相談・トータル的なケアが必要。問題を解決するため、必要な人に情報が届けられるシステム。問題行動が誰に、どこにあるのか？原因を探り、解決のため、それに絡む部署との連携は欠かせない（本人・家族・学校・職場・病院・・・）。
- ・ 日々の生活、日常のなかで私たちが考えているよりも理解できていないことがたくさんあるのではないかと思う。そして、こちらが理解できていないと思っていることが、実はすごく理解していることも。言葉での表現が少ない、上手にできないことから、ゆっくりとした時間のなかで、また長い期間をかけてみていかないと気づきにくいことだ。どうしてもどの障害の人たちも外に出かけること、仕事をするもののハードルが高いので、引きこもりがちになることが多くなると感じる。居場所になるところをつくること、話す相手がいること（本当は話したい人がたくさんいる）。そういう場所で何らかの役割が少しずつできること（掃除、片付け、お茶入れ、コップ洗いだったりと小さなことから）。まずは他者と交流できる場があることが大切だ。

### **障害のある人がいる家族の様子をみていて、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いませんか**

- ・ 将来の社会生活について（就職や介助など）。移動の時の手段。介助と家事・仕事の両立。周りの家族の健康。
- ・ 周囲の理解や手助けが足りず、家族の人の行動がかなり制限されてしまっていると思う。
- ・ 行政サービスに詳しくなかったり、相談窓口につながっていないケースもある。
- ・ 保護者がみていない時など、何か問題があったり、起こったりしたときの対応や、障害のある人が、ひとりで生活しないといけない状況を心配していると思う。
- ・ 家族同士のつながりがある人と、孤立している家族では、余裕や心の持ち方が違うと思う。
- ・ 周囲の目や、将来的なことについて。特に行動障害のある人の家族は、それが強いのではと思われる。夜間や緊急時に障害のある人を受け入れてくれる場所（施設）が周知されていない。冠婚葬祭に出席できない時がある。家族が家でお世話できない時に、障害のある人本人が、病気になった時に受け入れてくれる場所がない。
- ・ 家族や近隣の人が困っているが、本人が困っていないため、問題が何も改善されず、改善

の糸口も見出せず、どうしていいのか分からず困っていることが多い。ここでも、本人の障害受容が大きく関係している。どうしていいのか分からない時に、相談できる人がいれば状況は変わってくると思われるが、知られたくないという葛藤もあり、問題が大きくなってから、福祉課などに相談に行かれ、サポネットを紹介される人が多い。また、家族自身の障害についての理解の乏しさから、本人と感情的にぶつかりこじれてしまうことが多い。それが、障害の特性と分かっていたら許せることも、障害の特性と分からずに、わざとやっているのではないかと思ひ、より本人とぶつかってしまい、どうしていいのか分からなくなってしまう。障害についての理解がある家族でも、同じことがくり返されることで、家族の精神的許容範囲が狭まり、いっぱいいっぱいになっている。本人とちょっと離れてゆっくりすることができればと思っている家族は多いが、逆に、そのように思うことに罪悪感を覚えている家族もいる。

- ・ 80歳近い母親の面倒をみている50歳代の知人から、「時々徘徊の症状があるので困っている」と聞く。「近くの知っている人は知らせてくれるからよいけれど、遠くに行っている時は大変です」といっている。町内会などで「見守り隊」のようなものをつくってはどうか？
- ・ 精神障害のある人がいる家族の話聞いたことがある。緊急時（本人の具合が悪くなった時、家族が家を留守にせざるを得ない時など）に対処できる医療機関や施設があまりにも少なく、家族の負担が多くて困っているとのこと。時間の制約がないサポート体制があれば、安心できるのだが。
- ・ 親が高齢になり、きょうだい家族がみている。きょうだいも歳を重ね、とても疲れている。
- ・ 実際に家族に障害を持っている弟がいるが、就職先がなく、仮にあって本人が社会生活に馴染むには時間がかかり、挫折してしまう。また、親きょうだいが病死、姉や妹が結婚した際には独居できるのか？面倒は誰がみるのか？入所できる施設はあるのか？どこに相談したらいいのかなど、課題がある。
- ・ 発達障害を抱えている人の家族は、そのことをなかなか受け入れ難いようだ。そんな時に手を差しのべる場所があることをもっと情報として知らせることが必要だと思う。
- ・ 知的障害や精神障害のある人の理解不足のため、公の場で一般の人から嫌な目でみられたり、嫌なことを言われたりして苦労している。
- ・ 日常生活や将来に関すること。
- ・ 家族は、介護、介助について、大抵多くの時間を費やしている。日常の買い物もままならない状況の場合もある。仕事もままならない状況になると、生活の困難を抱えてしまう場合もある。サービスを利用することで、いくらか軽減できるが「サービスのすき間」の補いに困っている。また、サービスを利用できている家族はよいが、情報を得ることの難しい家庭もあり、家族自体にサポートが必要な場合もあり、生活困難の悪循環が続いているように感じる。
- ・ 親がいる時は見守れるが、亡くなった時に自立できているか心配であること。
- ・ ほとんどの保護者は、自分たちがいなくなった場合のことを考えると不安に感じているようだ。また、他人に迷惑をかけたくないという思いも強いようで、事業所等に対して、こ

うしてほしいというようなことが、なかなか言えないように感じる。

- ・ 家族は自分たちが亡くなった時の住む場所、生活の場所に不安を抱えているようだ。家族は、ケアホームやグループホームの情報を知りたいと思っているし、私の事業所でもケアホームを作してほしいという声をたくさん聞いている。
- ・ 車いすの移乗。入浴介助。将来の生活場所、基盤。在宅、入所、ケアホームなど。
- ・ 家族にかかる負担が大きい。精神的には、知的障害のある人が人の家に入り込んだり、店で販売しているものを買う前に手づかみで食べてしまったり、大きな声を出してしまったり、人の物を壊してしまったりと、迷惑をかけてしまい謝り放しだったと言われる保護者の話を聞いたことがある。身体障害のある人では、日々の身体的介助（食事・排泄・着脱・入浴・整容等）や医療的処置が24時間続き、本人の成長に伴い、保護者は高齢となり介護負担が重くなっており、重度心身障害の子を持つ保護者の多くの人が腰痛・肩痛などに悩まされ、睡眠不足や慢性疲労状態の人もある。日々のことに加え、将来のこと（障害による二次障害の進行、病状の悪化、子どもの命のこと、親が面倒をみられなくなった時のこと、親亡き後のこと等々）への不安。預け先の少なさ、遠さ、将来の入所先の選択肢の少なさ等。車いすで利用できるレストランやトイレが少なく楽しめる施設が制限されてしまう。
- ・ 将来の生活の場：両親がいなくなった際に、本人はどうやって生活していくのか（生きていくのか）。緊急時に預かってくれる施設がない。安定した施設利用を行うため、支援員に長く勤めてほしい（関係性を築いてほしい）。レスパイトケアが必要。
- ・ 発達過程における子育ての仕方。思春期であったり、情緒が落ち着かなかったりする時の対処方法。解決しにくい特異性、執着性の行動等。学校進学時期と学校を卒業する際の進路決定。既存している社会資源で受けることができるサービスへの不安（変わる法律）。身寄りがない状況で、保護者が倒れた時などの緊急時の支援態勢。親亡き後のこと（生活に必要な衣食住とお金や誰がみてるのか）。
- ・ 核家族化等のため、子どもを預けるところや相談する人が無く、保護者にかかる養育負担が大きい→子育ての相談事業の充実と周囲の障害のある子の特性や理解の向上、保護者レスパイトも含め、日中一時等の支援を行う事業の増加。同年齢の子どもとかわる場が少なく、こどもの状況を把握できない保護者がみられる→健診等で子どもの発達についての情報提供を確実にしておく。きょうだい児等がいる場合、障害のある子のことについていじめられないか不安な保護者が多い→家庭や保育所・幼稚園・学校等で障害のある子のことについて話し合う必要性が高い。保護者が利用できる福祉サービスを知らない場合が多い→健診や保護者への福祉サービス等の情報提供。保護者は子育て・子どもの状況等に不安はあるが、どこに相談してよいか分からない場合がある→乳幼児検診等での相談、保護者への情報提供、市の療育事業等、医療機関からの情報の提供。
- ・ 家族の様子をみていると、本人たちができる社会参加の形はどれが適切であるのかということに悩んでいる人が多いと思う。本人たちの障害や特性を理解しているからこそ、どのような形で社会参加することが望ましいのかということに悩んでいる。また、どのような参加の形があるのか情報を知りたいという人も多くいる。そのため、本人の様子など

と合わせて、よりよい社会参加の形を知らせるよう心がけている。また、私たちの事業所では、就労移行支援事業所でもあるため、就職後の生活の場を考えていることが多くある。親元を離れた際に行うことができるサービスや支援の情報を求める人たちが多くいる。

- ・ 子どもは年齢とともに体格も大きくなっていくが、保護者の体力は低下してくる。子どもが小さい時は、ひとり介助も可能であるが、成人期に近づいてくると、複数での介助が必要になる。親が病気などの緊急時に預かってくれる場所がない。親が亡くなった後、子どもたちがどうなるのだろうかという漠然とした不安。子どもが小さい時には見られなかった二次障害または加齢による新たな問題が生じ、その対応方法が分からない。
- ・ 学校生活がうまくいかない（友だちとトラブル、不登校等）。学童期の子どもたちの長期休暇中の過ごし方。将来、自立が可能なのか不安が大きい。移動手段、移動時の介助。入浴介助。急用、母親が病気の時に預ける場。保護者が年老いた時の対応。
- ・ まだまだ、どこに相談してよいのか分からないといった声をよく聞く。悩んでいる家族こそ、相談する人や場所を知らない（出会えていない）と思われる。親亡き後のことが心配で仕方がない（情報がない、親元を離れての経験が少ない）。情報不足。
- ・ 体が大きくなると、入浴等、生活全般に介護の負担が大きくなる。外出時、身障者トイレでも大きなベッドがなく、オムツ交換が難しい。
- ・ 選択肢が少なくなる感じる事。
- ・ 親が本人の世話を疲れて、グループホームを探すが市内にないため（満杯で入れない）、筑豊地区のケアホームに入所しているケースが2件ほどある。母親ひとりで障害のある人を世話し、本人も疲れている。家族での分担がない。
- ・ 家族の介護だけで頑張っているので、負担が大きい（重度障害者に多い）。家族だけで抱え込み、孤立化しているところもある。
- ・ 介護で家族が疲弊している。親やきょうだいにも障害があり、理解が難しい場合。誰にも相談できず家族で抱え込んでいる。
- ・ 家族も体調不良や高齢、経済的問題を抱え、当事者を支える能力が低下している場合も多くみられる。そのため、家族に対して、相談窓口を周知したり、必要な情報を提供し、周囲が支援していくことが望まれる。
- ・ 行政サービスに何があるのか、よく分からないのではと思う。
- ・ 必要な助けを求められずに孤立している。
- ・ 利用料の負担、本人の行動や考えにどう向き合うべきか。
- ・ 障害がネックとなり、階段の上り下り等が困難に。
- ・ 家庭内での疎外感や、兄弟姉妹がいる人は格差をつけられる点。また、今後生きていく上での将来への不安といった点。身内の障害を認めたくない。
- ・ 将来に不安を持っていると思う。
- ・ 近所への迷惑行為や金銭問題。通院を中断して状態悪化をくり返している。親も高齢になっていくため、ひとりで暮らしていけるのか心配。
- ・ 障害の内容が一人ひとり違うので、困っていることも各家庭違う。共通しているのは「理解してもらえないこと」。

- ・ 毎日のことなので、家族のリフレッシュがいるのでは。
- ・ 買い物等があっても、すぐに外に出られないことや、健常者の子どもいたとしたら、そこまで手がまわらないように思える。
- ・ 介護ができなくなった時の不安。
- ・ 家族で抱え込んでいる。サービスの受け方を知らない。
- ・ パニックを起こした際の対応等。地域社会へのかかわり方。
- ・ パニック時の他傷行為について。パニック時に周りに手を出すのではなく、落ち着いてほしいと思っている。ただ、実際には難しく、その都度声かけが必要である。
- ・ 常に家庭で向き合い介護をしている状態では、家族の心身のリフレッシュになる機会が少ないと思う。
- ・ 介護に携わることにより、自分の就労が難しくなる。介護疲れも大きな問題。
- ・ 親が育てている間は、まだ自分たちで、という気持ちを持っている家族が多いと思う。家庭内に入り込むのではなく、家族外へも、もっと積極的な支援が求められる環境づくりは大切と思う。就労の問題も考えないといけないことと思う。
- ・ 小さい頃は、友達とうまく遊ばない、子育て支援センター等に行ってトラブルを起こす→子育てうつ。重度の場合は思春期以降、体・声・パニック（睡眠障害）も激しくなる。介護する家族のケア・サービスを利用する。地域、見守り等のボランティアの手助けが必要。グレーゾーンや軽度は、見た目が分かりづらい、不審者と間違えられる（不登校・進路・就職・・・の情報が少ない）。きょうだい児の問題。
- ・ 日常生活の細かいことから、さまざまな工夫を考えて、本人を支えているのか家族である。また、将来のことを考えて、不安なことから、本人のペースや思いをくむ余裕なく、進む道を決めてしまう場合も多いと思う。やはり話す場が必要だと思う。情報も必要だ。同じ悩みをもつ家族、少し先に行く（我が子より年上の子どもを持つ）家族と話すことでヒントを得たり、希望を感じたり、自分たちの考えを整理できたりする。困っていること、悩んでいることを発信できることがストレス軽減につながる。助けてくれる人と出会えたり、情報をもらったり、次のステップにつながることもあるかもしれない。

**障害のある子どもたちの様子を見ていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 学校にはエレベーターが必要（階段による事故の回避）。地域住民や地域の子どもの理解。
- ・ 将来の自立への不安。障害の程度によっても違うと思うが、施設に入所したくてもできなかったり、利用できるサービスが足りていないので、充実させることが解決につながるのではと思う。
- ・ 障害特性がそれぞれあるので、ひとくくりで障害と片づけられない。周りの理解と協力を求めたい。
- ・ わがままや、してはいけないことができないため、手に余ることも出てきている。家族の協力と、若い時からの訓練が必要と思う。
- ・ 放課後の居場所も確保されつつあり、保護者の就労（仕事）もしやすくなると思う。

- ・ 障害の特性がまだ周知されていないこと。本人の障害特性を受け入れる活動場所が、学校と施設に限られてしまう。さまざまな場面での地道な啓発活動が必要かと思う。地域や学校などへの指導・助言が不可欠だと思う。
- ・ 課題：通学や通園の移動手段が少ない。シルバー人材センターやボランティアの利用も可能であるが、突発的な利用となると、サポネットおごおりの移送サービスぐらいしかない。  
（解決策）友人や地域の知り合いなどによる支援を受けることができればよいが、難しいときにお互い支援できるような自助グループのつながりを持つておくことが必要。市や福祉サービスに求めるだけでなく、自助の精神も必要。
- ・ いじめの問題はあると思う。健常者も同じであるが・・・いじめられていることを親もなかなか気づけなかったということ、発達障害気味の子どもの親から聞いた。
- ・ 学校と家庭の往復になっていないか。きょうだいたちは、多くの我慢を強いられていないか。きょうだいたちが主役のお楽しみ会、遠足会、プラネタリウム会などはどうだろうか。
- ・ 問題：将来どうやって生きていくのか、ひとりで食べていけるのか、また、出会いがない。  
（解決策）グループホームをつくる（農園付きで地域の人たちに教わりながら、自給自足を行う）；米や野菜等をつくる、ニワトリやヤギ等を飼い、たまご、牛乳等やパン、ケーキ、みそなどをつくり販売する。地域の人たちと交流を図る；収穫時には農業祭やバザー等を通じて、理解者をひとりでも多く増やす、山登りやレクリエーション等を地域の人たちと一緒にいき、理解者をひとりでも多く増やす。
- ・ 障害の内容によっては、同級生や上下級生に理解してもらえず、いじめの対象となったり、よくないことをしている時は叱りたいが、どう叱ればいいのか分からない。特別支援学級もあり、健常の子と一緒に過ごす機会、インテグレーションも増えているので、学校で障害に対し、みんなで学ぶ時間も必要と思う。また、もっとエレベーターの新設や設備を整えてほしい。
- ・ 地域において暮らせるように、学校のなかでの支援員や学習室の充実や先生たちを増やしてほしいと思う。
- ・ 障害のある人たちの偏見と障害に対する理解が市民の人たちの大いに不足している。障害のある人たちの理解を求める広報や研修会の開催、当事者や家族の人の話を聞く講座の開催。
- ・ 自立に向けた支援策や居場所的なところが少ないと思う。療育や訓練もでき、居場所も兼ね備えた施設等の設置。
- ・ 本人を取り巻く環境が多岐に渡っており、さまざまな施設、機関がかかわっている。施設、機関の間での連携が難しく、情報共有が難しいように思う。成長とともに必要な支援をつなげていくコーディネーター的役割が重要と思われる。知的な遅れのない発達障害の子どもたちの支援、受け入れ先が十分でない。地域社会のなかでの居場所や理解も不十分に思う。発達障害に精通したスペシャリストによる啓発活動や居場所の整備が必要。強度行動障害のある子のかかわりについても難しく、受け入れ先も不十分である。こちらも発達障害と同じ解決策であると思う。
- ・ 精神的な部分や発達の部分での障害のある子は、「自分勝手な子」「わがままな子」など

と思われがちなので、もっと理解が必要と思う。未就学の時から、子ども同士のかかわりを持たせて差別をなくす。

- ・ 人とのかかわり方、コミュニケーション能力。社会性や生活性、日常動作。
- ・ 子どもたちが生活・学習する場が少ない、整っていない。地域の理解もほとんどない。もっと国や市町村による援助が充実してほしい。
- ・ 感情を言葉に表すことができなかつたりするため、顔の表情や態度をみて判断したりする。
- ・ 自由にいろいろな体験をする機会が制限されてしまうことが多い。障害がない子であれば普通に進学できる学校に希望しても行けないことがある。共働きの家庭の学童の長期休暇のレスパイト先の不足があると思う。日中一時の単価を上げ、充実した支援体制を取れるよう行政が補助してもらいたいと思う。障害をもつ子が、ぜんそく等で受診した際、診てもらえる小児科医がほとんどない。大学病院や聖マリアなどから、地域に帰るときにもっと個別性に合わせた引き継ぎや連携体制が取れるようになり、地域の小児科医が連携して診察してもらえる体制づくりを進めてほしいと思う。行政や施設、病院、学校、地域、家庭等の連携がもっとスムーズになり、訪問看護、訪問リハ、訪問入浴、保健師の家庭訪問等、必要に応じた支援のコーディネートができるようになるとういと思う。連携の輪を広げていく取り組みを続け、充実させていくことが必要と考える。
- ・ 早めの診断、早めの療育が必要だと思う。
- ・ 発達障害児の増加に伴い、支援状況に変化があっていると思う。また、教育機関での学習指導方法のあり方や特別支援学校への進学を含めた進路決定などは、本人たちにとって苦渋の選択とならないでいような配慮が必要だと考える。家庭の都合による緊急時や災害等での避難場所など、いざという時の障害等の特性に応じた居場所づくりを考えていく必要があると思う。
- ・ 医療機関や療育機関を利用していない場合、適切な対応ができていないことがある→保護者への療育機関への情報提供、さまざまな遊びの経験、子どもが集まる場の提供、健診・発達相談の充実。周囲の理解が難しい→身体状況や行動や特性の理解の向上。保育所・幼稚園等の受け入れに制限がみられることがある→加配や補助の先生等の充実と市からの支援員の増加。第1子の場合、保護者も子どもの発達の遅れに対して気づきが少なく、適切な対応ができていないことがある→子どもが集まる場の提供、健診・発達相談の充実。
- ・ 障害のある子たちの様子をみていると、障害があることでの問題や課題も多くあるが、いわゆる経験をする事の少なさも多く影響していることがあると思う。たしかに障害があるということで、いわゆる健常者の子が普通に生活するなかで獲得できていることが、障害のある子では、獲得できるまでに時間がかかることがある。そのことで獲得するチャンスにつながりにくいことも多くあるように感じる。徐々にステップアップすることも必要だが、小さいうちから獲得できるまでではなくても、多くの経験をしていることが、成長していく過程で何かのヒントになることが多くあると考えられる。そのため、定着するまでをじっくり細かく行う課題と、定着することを目的ではなく経験するチャンスにつなげる課題や支援を分けて提供する必要があると感じる。
- ・ 重度な障害をもつ子どもは呼吸が苦しかったり、身体を動かしたくても動けなかったり、

痛みがあったりするであろうが、そのことを家族や周りの人へ伝える方法も持っていない→そのような兆候を早期に見つけ、その子どもに合わせた対応を行う。また保護者へ状況を伝え、自宅でする具体的な方法を指導する。発達障害をもつ子どもたちは、健常な人たちのコミュニケーションや世界観の違いが理解できず、どのように対応してよいか分からなかったり、怖かったりすることもある。また自分の伝えたいことを伝える手段が分からない子どもが多い→まずは子どもとかかわる周りの人が障害の特性を理解することが大事であると思う。子ども一人ひとりの状況や環境が違うので、その子に合わせたオーダーメイドの支援が必要になってくる。

- ・ 障害のある子の就園先（保育園・幼稚園）との連携が難しい場合がある。児童発達支援センターの定員がいっぱいで対応が難しい場合、待機する場合が出てくる。解決策：経営的には定員や職員を増やすことは困難、市との連携。療育開始が遅いケースがある。
- ・ 環境がつくっているかもしれないが、居場所を見つけきれず、自分に自信が持てないまま大人になっているケースが多い。幼少期・学童期の時期に、もっと自尊心が育つかかわりや居場所が見つけられないか。体験不足（イメージできない・成功体験が少ない）。
- ・ 楽しい体験ができる場や、みんなといっしょにいろんな経験をする機会がたくさんほしい。学校や公共施設のバリアフリー化を進めてほしい。
- ・ 集団適応や社会化を強要され、個性を消されていくようなかわりがあること（学校、療育機関等）。学校など義務教育に参加しなくてもいいようにすること。不必要な基準を満たさないと学校がつくれないような制度がなくなること。
- ・ 子どもが自由に行ける場所が少ない。日中一時や放課後デイ、移動支援等で使える事業所が少ない。
- ・ 保育・療育・教育と節目で支援が途切れるので、ライフステージに合わせた切れ目のない支援が必要。発達障害や行動障害の子どもたちは早期発見できず、支援が遅れがちになって、後手になる。専門的な援助者も少なく、周囲の理解が得られにくい。
- ・ 医療行為の必要な生徒の対応→現在は家族の負担大なので、看護師等有資格者を常駐できるようにする（学校、児童デイサービス等）。きょうだい児の対応。
- ・ 発達障害など、早期に発見し、適切な療育や教育につなぐことが課題。そのために、乳幼児健診での早期発見、フォロー体制、障害児教育の推進が望まれる。
- ・ 障害があっても、特別支援学校ではなく、一般校に通えるようだが、先生、環境の整備ができていないと思う。毎日、接する先生でさえも、障害を理解できていない。下や黒板の方を向いてしゃべっても、子どもは話を理解できない。
- ・ 周りに理解してもらえず、偏見をもった眼でみられている。いっしょに遊ぶ。
- ・ 問題は、その障害によって異なるが、知的、精神であれば意思疎通、身体障害であれば日常生活におけるさまざまな行動で問題が出てくる。その解決策も、知的障害や精神障害は、何をしたいのか、よく観察しそれに応え、身体障害は、日常生活での行動における補助（手すり等）を行う。
- ・ 障害の程度にもよるが、子どもの頃から伸ばせるところは伸ばしてあげて、親がみて、なにもかもすべてできないと決めつけるのではなく、小さな時に根気強くやってみては、と

個人的には思う。

- ・ 将来を理解して、お節介にならない応援をする。
- ・ どうすれば障害があっても、健常者と同じような生活ができるようになるのか。一人ひとりに対応して、学校・社会が解決していく。
- ・ 人と人との関係が大事（温かさ）。
- ・ 家族が家に引きこもる可能性がある。サポネットへの相談や障害の会等への案内や参加を勧める。
- ・ 医療的支援が必要な子どもたちが通う（医療的ケアが受けられる）施設の数が少ない。
- ・ 言葉で思いを伝えられない。家族の聞き取り、本人の行動パターンをよく観察する。
- ・ 将来について、自立した生活ができるか。支援の内容の充実。
- ・ 障害者用のトイレはあったり、増えてきたが、中が狭かったり、ベッドがなかったりする。リクライニングの車いす使用の人でも、ベッドがあれば、そちらに移乗し、きれいに衣服類等を整えられる気がするし、介助者も楽なのではないだろうか。
- ・ 親が「かわいそうだから」とかの思いが強いと、何でも好きなことをさせてしまい、わがままな子もいると思う。その子のできることまで、摘み取ってしまっていることもあると思うので、その子が生きていくうえで、できることは自分でできるよう、支援していくことは大切と思う。親への教育の方が必要な時もあると思う。
- ・ レクリエーション、余暇の充実。スポーツ基本法が制定されたし、オリンピック・パラリンピックで、余暇のあり方は見直しがされる可能性があるかもしれないが、選択肢の少ない田舎は、地域総合型スポーツ等と連携して、障害のある人もスポーツや体づくりをできる場があると思う。地域スポーツクラブ、社会体育との連携はいると思う。マラソンは比較的一緒にしやすい。本当は「あすてらす」の歩行プールも体づくり等導入程度ならすぐにでもできそうだが、使う施設の目的や決まりで使用できないことがある。障害のある人の健康づくりは、健常者と同じよう必要だが、理解がないのが残念。
- ・ 発達の仕方がゆっくりだが、日々の生活は実際には細かく時間を決められて送っている。支援する大人の方はどうしても時間に追われて、子どもを急かしている。また、大人の都合で子どもの問題行動を抑えたり、予防したりしているが、のびのびとその子どものあるがままについて見守れる時間、場所が必要だ。遊びの形も押しつけられるのではなく、自分の心の欲するまま遊べる空間があることは大切だ。他者が苦手な子どもたちも、そういう空間のなかで、少しずつ遊びが広がっていき、他者との関係性もつながってくると感じる。

### **障害のある子どもたちがいる家族の様子をみていて、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか**

- ・ 将来の社会生活について（就職や介助など）。移動の時の手段。介助と家事・仕事の両立。周りの家族の健康。
- ・ 外出や行動の制限をせざるを得ないこと、それは社会の理解が足りないせいだと思う。また、それにともない、きょうだい児の精神的苦悩。親に訴えたくても言えない、言ってもどうしようもない、甘えたくても甘えられない、親に負担をかけたくないけど、自分も満

たされない。また、将来は障害のあるきょうだいを自分がみななければいけないことへの不安など、計り知れないと思う。

- ・ 周りからの偏見が一番つらいのではと考えている。
- ・ 福祉機関とつながることが難しく、孤立している家庭があるのでは・・・？と思う。
- ・ 本人の障害特性を受け入れる活動場所が、学校と施設に限られてしまう。問題行動において、相手に迷惑をかけたという思い。将来への不安。相談機関・・・どこにいけばいいのか分からない。
- ・ 障害のある子のきょうだいへの影響。障害にある子のきょうだいということで、他の友人にいじめられたり、その子に手がかかり、きょうだいをみてあげる時間が減ってしまうなど。育児や介護、家事などで自分の時間がなく、イライラして余裕がなく、子どもにあたってしまう、さらに子どもの情緒が乱れ、悪循環に。
- ・ 親が元気なうちはよいが、病気になったり、また、先立つようなことがあれば、そのことが一番心配だと聞く。
- ・ 子どもの将来のことについて、非常に不安を持っているようだ。学校、その後、親が高齢化した時・・・。
- ・ 日常的には、保護者が病気その他で障害のある子だけにかかわれない時。将来的には、成人した後の生活や親の高齢化。
- ・ 母親が時間に追われているのではないか。社会全体にゆとりがない。
- ・ 子どもが小さいうちは、手をしっかり握っていれば大丈夫だった。しかし大人になると、体も大きくなり、連れてまわるのも大変。ひとりでいろいろできるようにと努力しても、受け入れてくれるところが少なく、作業所など行き先が限られている。親が安心して働ける保育園や学童保育、病児保育を充実させてほしい。
- ・ 社会に出る場面が増えるためには、たくさんの人の手が必要かと思う。ボランティアや福祉関係で働く人が増えたら、もっと社会に出る場面が増えると思う。
- ・ 障害をもつ家族に対して蔑み、差別、変な同情など、言われなき偏見をもって見られ、差別されること。障害のある子どもの親は障害のある人を、産まれて亡くなるまで養育し、介護し、面倒をみる大変な苦勞と重い負担がある。障害のある人の家族は、その苦勞に耐えかね、家族崩壊（夫婦の離婚）の危機に直面している。
- ・ 知的障害や精神障害のある人の理解不足のため、公の場で一般の人から嫌な目でみられたり、嫌なことを言われたりして苦勞している。
- ・ 親やきょうだい等の行動が制限され、緊急な状況に即対応できない。
- ・ 障害のある子の他にきょうだい児がいる時は、きょうだい児が我慢させられることが多々あるのではないかと思う。たとえば、ショッピングセンターや遊園地、映画館など、外出が制限されるのではないかと思う。また、きょうだい児にはきょうだい児の悩みがあるのではないかと思う。きょうだい児のネットワークづくりが必要だと思う。
- ・ 多施設とのやり取りを親個人で対応しなければならない。生活困難を抱えてのやり取りは困難な場合も多い。また、働く世代でもあるので、生活の維持も考えつつ、介助や施設、学校とのやり取りで余裕がない。また加えて、親の介護、きょうだい児の養育と、さまざま

まな問題を抱えている場合も多い。

- ・ 進学や就職について悩んでいると思う。保護者が亡くなった後の生き場所、生き方。他の子たちとの差別感。自立について。
- ・ 社会に貢献できるのか。自立していけるのか。
- ・ 子どもの将来について。自立して生活していける場所の有無など。お金のこと。親に何かあったときのこと。
- ・ 将来、親が亡くなった時、自分ひとりで生活できるか、きょうだいや親戚が世話をしてくれるか等。
- ・ 保護者の不調時や出産、冠婚葬祭の時、預かってもらえるところが少ない。駅のエレベーターの設置が少なく、車いすやバギーを使用している人が利用しにくい。歩道の幅が狭く、舗装がでこぼこであったりするので、車いすでの通行がしにくく危険。
- ・ 子どもの預け先がなく、母親が就労しにくい。公園で、自力で座れない子が遊べるような遊具が少ない。どんな福祉制度が利用できるのかなど、知識の少なさ。きょうだい児への精神的負担（いじめ、結婚への支援。チックや夜尿等の症状がみられる人もいた）。自閉症児のパニック時の対応や、どのように教育して、社会参加させていくか。医療・療育・子育てにかかる経済的負担、心身への負担の大きさ。進学先の問題（普通校が良いのか、特別支援学校が良いのか）。いつまで親元で暮らせるか。
- ・ どうやって子育てしていいのかわからない（子どもへのかかわり方がわからない）。周りに相談できる人がいない。子育てに悩んでいることを理解してくれない（父親・祖父母・友だちなど）。福祉サービスや社会資源の利用方法。ストレスの発散方法。
- ・ 長期休業中の居場所がない。共働きの世帯も増加傾向になる、祖父母では長時間預かることができない現状もあり、地域で見守る態勢が脆弱である。理解が得にくい発達障害のある子の友だち関係、家庭でのしつけや学校教育など（不登校や学級崩壊の要因とも考える）。学校卒業後の進路（福祉的な社会資源の拡充や企業での雇用拡大など）。本人なりの自立した生活様式と親亡き後の生活保障。
- ・ 子育て、子どものことについて相談する人がいない、少ない→子育て等の相談機関の充実、保育所等での同年齢での集団等の経験の増加。療育を開始したいが、保護者が共働きで療育開始が難しい→療育施設の増加と充実、職場の理解と育児休暇等の何らかの療育に行くための休みを取れるような支援。保育所・幼稚園等の受け入れに制限がみられることがある→加配や補助の先生等の充実と市から支援員の増加。保護者がいない、動けない時の子どもの介助等→日中一時の利用の拡大や移動サポート、生活介護支援等の充実。将来的なことの漠然とした不安→保護者が亡くなった時、施設等の利用についての情報提供やその前にしておくべきこと等を知る。
- ・ 障害のある子どもがいる家族の様子をみると、障害の受容にまだまだ戸惑っている様子が多くあると思う。自分の子どものことをありのまま捉えようという思いはあるのだが、周りの子どもと比較をしてしまうことで悩んでいると思う。保護者の人たちの障害の受容は、本当に時間と経験を要するものであると思う。一つひとつに悩みにしっかりと向き合い、実際の事実を丁寧に話していくことが支援として必要であると思う。

- ・ まず最初に自分の子どもに障害があると知った時のショックと不安は計り知れないものがある→保護者の話に傾聴する。なぜ子どもが今の状況にあるのか（運動が遅い、姿勢がくずれ、パニックになるなど）、理解できない。だから何をしてよいのか分からない→まずは子どもの理解を促す。なぜ今の状況になっているのかを説明し、生活場面でできる具体的な対応方法を伝える。将来に対する漠然とした不安→「今できること」を積み重ねていくことの重要性を説明し、具体的な支援を行う。
- ・ 育児、子育てに対する不安（相談できる環境）。移動手段（医療、福祉を利用する時）。家族の理解、周囲の理解が得られにくい。急用、母親が病気の際に預ける場。母親は自分の時間が取れない。きょうだい児の対応（障害児に手がかかるため）。
- ・ 親が高齢化しているなか、親亡き後のことが心配。後見人探し。きょうだい児へのかかわり不足。長期休みの過ごし方。学校とのやり取りでうまくいかなかった時。かかわり方が分からない時に相談する人がいない。
- ・ レスパイト先が少ない。母親が不調の時、出産、きょうだい児の用事などの時。歩道や道路が狭く、バギーや車いすでの散歩がしにくい。小児科を受診する時、バギーごと入れない、受付をする時子どもを置くところがないなど受診が大変。母親は子どもを中心に生活するため、働かずに幼稚園に就園させたいが、保育園でないので加配がつかないのが困っている。
- ・ 選択肢が少なくなると感じる事。
- ・ 母親ひとりでみていて、いっぱいいっぱいである。他の子どもにかかわれない。
- ・ 主介護者はほとんどが母親。家族の協力も得られず、働きたくても働けない人が多い。保育所や学校と保護者の関係で、受け入れ態勢や保護者の要望等、意見の相違から悩むこともある。
- ・ 相談先が分からない人もいると思う。班長や民生委員が声かけしたり、地域にどんな人がいるのか、知ってもらっておく。
- ・ 周りから理解してもらえず孤立している。
- ・ 親亡き後のこと。安定した生活が送れるのか。
- ・ 何をしても目が離せない。物を投げる。こだわりが激しく、ひとつの行動にかなりの時間がかかる。自分の思うようにいかないと暴れる。将来への不安。
- ・ とともに年を取ることで、将来が不安だと思う。
- ・ 学校を卒業した後の社会で、受け入れてくれる場があるかどうか。
- ・ 家族ではないと対応ができないことが多い。人に任せておくことができない。
- ・ 誰にも相談ができない。他の子どもに手がかけられない。毎日が忙しくて時間が足りない。
- ・ 目が離せず、自分の時間がなかなか取れない。
- ・ サービスの受け方が分からず、抱え込んでいる。任せられずにいることが多い。成長期の対応の仕方。医療的ケアが必要な子どもたちを持つ親は、拘束時間が多い（学校、家庭）。
- ・ 自分だけの自由な時間の確保が難しい。常に子どもの体調管理に気をつけている。
- ・ どのような支援があるのか知らない。子どもの将来。親は先に亡くなるので、残された子どもをどうしようか。

- ・ 今、災害等が多いが、もし、そうなった時の不安が大きいとよく聞く。どうやって避難すればよいか、移動手段等。パニックになった時の対処法など。
- ・ 親が仕事を持っている時の療養の施設が少ないと思う。なので、仕事ができなかったり、仕事を辞めざるを得ない状態なのだと思う。あとは地域の方がもっと優しいまなざしで見守るべきだと思う。
- ・ 将来、親亡き後をどうするのか？これは若い人も、年配の人も同様に悩んでいる。
- ・ 子どもの年齢によって、その悩みも変化していく。乳幼児～大人になってからも障害のある子どもをもつ親の子育てに終わりはないかもしれない。「自分が死んだら、この子はどう生きていくのか」、その思いはどの親ももっていることだ。特に大きく悩むのは、我が子に障害があるということを受容しなくてはならない時期だろう。この時期を早く乗り越えて動きだせるかどうかは、同じ悩みをもつ家族と話すことができる場があるかどうかではないかと感じる。話す場があることは、やはり重要だ。人に話すことは勇気のいることだし、同じ気持ちを理解できる、共有できる人でないと話した時に返ってきた言葉にひどく傷ついて落ち込むことになるので、必ず同じ状況の、もしくは状況であった家族と話せる場を持てるといいなと思う。

**障害のある人や障害のある子ども、またその家族を支援する行政サービスについて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 行政と各家庭との話し合いの場を多く持てたらどうか？地域、時期を分けて相談会のようなことを行う（各家庭の状況は、同じではないので、個別の意見を聞かないと分からない）。
- ・ 利用料の負担が大きく、困っている人が多いのでは。また、ボランティアで何とか支援してもらえないかとの相談を受ける。実際には希望どおりの時間や場所に、ボランティアの人の都合を合わせて派遣することが困難である。
- ・ 行政サービスについて、実際の利用の仕方も分かっていない家庭もあるかもしれないので、パンフレットなどをもっと地域に身近においてほしい。
- ・ 具体的な窓口をはっきりさせておくことかと思う。
- ・ 本人の想いや家族の想いを反映した、本人のサービス利用計画を立てることにより、問題や課題が少しずつ解決の方向に向かっていくと思う。福祉課も本人の立場に立った支給について協力的である。うつ病についての家族教室を福祉課と一緒にやっているが、月1回行うことで精一杯である。うつ病の当事者を対象としたグループや、統合失調症の人の家族を対象とした家族教室など、ニーズはあるが、マンパワーがないのが現状。しかし、啓発や権利擁護のに関する研修会は市が主導で行っていかなくてはならないものだと思うので、今後検討していかなければいけない。特に、権利擁護については、今回市内の事業所で起こった虐待事例を機に、啓発を含めたさまざまな研修等を行っていく必要があった。当事者や家族はもちろん、事業所職員や一般市民にとっても、より深くしみ込む時を逃さないことが大切だと思うが、結局はマンパワー不足を理由に行えない現状が続いている。人員不足のため、かなり難しいところではあるが・・・サポネットおごおりの事業がさらに充実していけば、行政サービスの問題や課題については少なくなるのではないかと個人的には思っている。そのためには・・・。

- ・ 当事者でない私の立場では分からないが、話し合いの場を多く設けて、率直に意見をだしてもらっては・・と思う。
- ・ 高齢者へのサービスのように制度化されていないことも多いのではないか。そのため、相談窓口が分からない、サービスを受けづらい、ということも起こっていると思う。障害はさまざまなゆえに、問題も多岐に渡りすぎて、対処は難しいと思うが、具体的なサービスが明確に分かるようになっているのだろうか？そもそも行政は、地域に住む障害のある人を全員把握しているのだろうか？
- ・ 緊急時に利用できるショートステイ、デイサービスの提供施設があること。また、そのサービス利用についての相談の窓口が、できれば24時間常設されていること。
- ・ 行政サービスについて、くわしいことを知らない。
- ・ 障害のある子どもたちが親の手から離れてひとりで学校に通い、そこで過ごせるような環境を整える。
- ・ 小郡市はボランティアやふれあいの場をしっかりとつくっているが、そのことを知らない人も多いと思う。広報や学校、ポスターなど、アピールをもってして、かかわりを深める必要がある。現在は、市からの補助具の支援制度があるが、デジタル化や医療の進歩により高額になってくる。経済的に厳しい人もいるため、補助金の増額は必要。生涯にわたって1割負担制度などあるとよい。
- ・ どんな行政サービスがあるのか、あまり知らないこともあると思う。きめ細かな対応ができるように情報をもっともっと知らせることと、行政側が知らないことも多いので、エキスパートの人で対応できるようにしてほしい。
- ・ 障害のある本人および家族に対する支援と解決策として、次の事項について優先順位を設けて取り組んでほしい。幼児期（産まれてから6歳くらいまで）から早期の療育や医療の提供は、障害状況の改善や発達の遅れを取り戻せることから、この時期の支援と相談・指導を実施する。障害のある子の小学、中学、高校、特別支援学校の連携をもたせ、障害教育に一貫性をもたせ、パーソナルケアを組織的に実施する。高齢者と同様、障害のある人のパーソナルケアマネジャーの相談部門を設け、障害福祉の専門担当者を養成、福祉事務所内に身分保障のある専門職制度を設け、コンサル・指導を強化する。
- ・ 障害のある子どもは遊ぶ場をほしがっている。一般の子どもも同じであるが、遊具が、あすてらす付近にはあまりない。あすてらすの敷地や周りに遊具を設置してもらいたい。
- ・ ひきこもりやすい状況にあり、支援や行政サービスの情報が行き渡らない。子どもやその家族を知る人を増やし、その人たちに行政と地域のパイプ役になってもらう。
- ・ 市町村によって行政サービスの幅が異なること。たとえば、視覚障害のある人が使用するブレインメモという機器は自立生活用具として、隣の筑紫野市では給付しているが、小郡では給付の対象になっていないなど。解決策としては、隣接する市町村と情報交換して、行政サービスとして同じにしていく。
- ・ 行政サービスは年々充実しているように感じているが、手続き自体が難しく、また、役所へ出向いての手続きになるので、手続き困難者には、出向手続き等があるとありがたいと思う。施設間での情報共有もできると、より充実した支援になると思う。

- ・ 支援サービスにかかる費用の軽減。
- ・ 児童発達支援、放課後等デイサービスの支給日数の増加。
- ・ もっとたくさん利用できるようにしてほしい。職員の育成。
- ・ まずは家族が障害のある人、ある子のことをどこまで考えてくれているか、理解度からまったく違ってくると思う。なので、家庭訪問等をして、個々人から話を聞いてから、支援の方法を考えた方がいいと思う。家族によっては、協力度がまったく違う。
- ・ 行政サービスについてくわしく知らない人が多くいるように感じている。もっといろいろなサービスが受けられるようにするために事業所同士等の連携を増やし、お互いを紹介できるようになるとよいと思う。また、行政サービスについてのセミナー等があるとよいと思う。
- ・ 私自身、家族支援は、短期入所、レスパイト、放課後の一時預かりなど、家族の負担を軽減するサービスだと認識しているが、私の勤務する事業所の利用者と家族は、申請はしているが、サービス利用している人はごくわずかである。家族も人に任せるのが不安なようだが、必要な支援策だと思うので、もっと家族、事業所、行政が密に連携できる仕組みをつくる必要があると思う。
- ・ 在宅支援、相談支援の充実。申請の流れをスムーズに。
- ・ 日中一時等の単価を高くして、レスパイト先を増やし、充実した支援ができるようにしてほしい。障害があっても、加配ができ、幼稚園に就園できるようにしてほしい。オムツを支給してもらって助かるが、決まった業者で決まったオムツを支給させるので、肌に合わない、使いづらいものがあり、本人にあったオムツを自由に購入できるよう、チケットなどでの補助が助かるという保護者がいた。医療的ケアの必要な子が、就園・就学した時の家族の負担が大きい。保育園・幼稚園・学校などへの看護師配置の充実をしてほしい。障害のある子を担当する保育園の保育士や幼稚園の教諭等への研修体制の整備。
- ・ 障害認定区分について、6段階の区分があり、サービス量のベースとなっている。介護時間は自治体によって差があり、各市町村によって異なる。知的障害・精神障害については、コンピューターによる一次判定で低く判定される傾向があり、専門家の審査による二次判定で引き上げられている割合が高く、その特性を反映できないのではないかとということ。愛らんど利用者で、障害認定区分4との判定を受け、納得がいかず、異議申し立てで再度審査を行ったが、結果は変わらなかった。作業も問題なく行うことができ、身辺自立もしている。ただ、情緒面での不安材料がある。それにより、他害、物損などの行為につながっている。支援員がマンツーマンで対応しており、支援量は多いが、現在の認定区分では反映されていない。平成26年4月1日施行の「障害支援区分への名称・定義の改正」で、特性に応じて適切な障害支援区分の認定がされることを期待する。
- ・ 福祉のサービスも市町村事業へと転じている昨今では、地域での格差が生じ、サービス提供の安定した地域を居住区として選択される時代ともなった。事業所設置やサービス内容の選択、サービスの質の向上、人材育成等に重点を置き、福祉サービスが安定して受けることができるまちづくりが必要と考える→自立支援協議会の活動等を強化する。財政確保が不十分だと感じる→社会的弱者とされる人たちへの地域生活の保障をするべき役割が

るので、適切なサービスを公平に利用できるよう、財源の確保を行い、安定した供給をお願いしたい。

- ・ 3歳児健診～就学まで行政の健診がなく、子どもや保護者の状況把握ができていない場合がある→定期的な健診フォロー、行政による情報収集。保育所入所・幼稚園就園等で障害があると加配や補助の先生の状況等で就園しにくいことがある→障害児枠等配慮できることを増やす等。就園等もあるが、3歳児健診後の子どもの状況把握ができていないことが多い。就学前健診までチェック等なく、社会性の発達として3歳以降に広がってくるものもある→4歳6か月か5歳健診等まで、行政のチェックが必要かと思われる。就学前に子どもの状況に気づいても、保護者へ伝えることも難しい場合あり。
- ・ 受給者証の更新のお知らせやサービス手続きの変更があった場合などの知らせが保護者の人たちへ十分に伝わっていない場合が若干ある。本人の年齢が上がってきていることもあり、保護者が高齢になっている人が多くいるのが現実である。郵送などでの通知では、内容を理解されていない場合もあるので、スムーズに手続きが進められるよう、フォローをしてもらえると、保護者の人たちも安心すると思う。
- ・ さまざまな行政サービスについて家族や我々療育スタッフも十分に理解していないことが多い。また地域によってサービスの内容が違うこともあるため、不平等さを感じることもある→まず利用できる行政サービスを家族が理解することが大事であるため、我々療育スタッフも制度も含めた行政サービスについて十分に学び、子どもに必要なサービスを必要な時期・タイミングで家族へ伝えていくことが大事だと思われる→行政もサービス内容について、家族に伝える場をきちんと設ける必要があると思われる。
- ・ 乳幼児健診等で、児童発達支援センターと協力をして早期発見、早期療育につなぐ。センターと市の保健師との連携が必要。市役所内での横の連携をとってほしい。
- ・ 障害がまだ確定していない時期からの支援体制を考えると、障害福祉だけでなく、子育て支援の視点からも支援体制が必要と思われるし、学校教育に上がった時点で、困難な状況が浮き彫りになってくるケースも多いことから、障害＝障害福祉の分野だけではフォローできないと思う。子どもという視点で考え、もっと子育てと学校教育と障害福祉が共同で取り組む機会を増やすべき。健診と子育てと福祉の連携強化。相談窓口の一本化（総合相談窓口の設置など）。
- ・ レスパイト先が少ない→レスパイト先を増やしてほしい。母親は子どもを中心に生活するため、働かずに幼稚園に就園させたいが、保育園でないので加配がつかないのが困っている→障害があっても加配に準じるものがあることで幼稚園に就園できるようにしてほしい。公共施設のエレベーターや、(狭い)スロープが雨に濡れるような遠いところにある→使いやすくしてほしい。医療的ケアのある児が、就園、就学する時、保護者の負担が大きい。障害児保育の育成を計画的にしてほしい（特に保育園の加配の先生などに対して）。
- ・ あまりにも規範的で現実感が少なく、具体例に対応できないこと。
- ・ 障害のある人や子ども、家族が自由にどこへでも行ける、住める、そのためには、いろいろなサービスが地域にあり、そのスペシャリストが何人でもいることが一番と考える。行政は一律にサービスを出すのではなく、障害と成長過程、家族の状況に応じて出すべきと

考える。6~7年前、市財政が苦しいとのことですべての支出に2割カットがあり、障害のある人に対しても同じように2割カットであった。障害のある人は生活していくために必要な項目もカットされた。これは大きな間違いと思う。この件で考えたが、福祉の窓口の担当者が障害のある人の代弁者となり、総務課に報告すべきと考える。

- ・ 障害者施策が自立支援法から障害者総合福祉法へと法律制度がめまぐるしく、数年おきに変化するため、福祉事務所や関係者でさえ、熟知するのが困難であるので、ポイントだけでも市民へ広報を行ってほしい。広報誌掲載のみならず、市内数か所で説明会を行うなど、周知を図ってほしい。障害者差別解消法の施行にあたり、国や自治体は合理的配慮の義務が課せられたので、可能な限り、ハード面、ソフト面の整備をしてもらいたい。個別性を大切に支援していくためには、相談支援専門員の人数が足りない。是非、増員できるような体制を整備してほしい。
- ・ 教師も「聞こえのサポーター」の講座を受けてもらおうと、「聞こえ」の特性や、手助けの程度を理解できると思う。
- ・ 財源が不足していると思う。予算を充てることに対して、市民が理解する。
- ・ 障害を持った人が老後安心して生活できる環境を整える必要があると思われるが、そのためにも、身内の人を一生懸命応援する必要もある。
- ・ 支援、サービスの内容、手続きの方法の周知が不十分ではないか？
- ・ 行政サービスについて、その情報が必要としている人のところにきちんと届いているのかとったりします。
- ・ 介護保険制度では補えないということ。障害のある人と高齢者では条件が違ってくる。障害者支援体制の確立。
- ・ 障害を受け入れる場所を多くする。気安く使えるようにする。
- ・ 家族が必要としていることについて、もっと聞き取り調査を行い、必要な時間を与えてほしい。
- ・ ケアマネ的な存在の人が必要。
- ・ サービスを受けていない人の家庭状況の把握。
- ・ 情報が入らない。自分で問い合わせをしない。
- ・ 障害のある人が利用している家族も、施設や福祉に関わるところが話し合っ、その人に合ったサービスを見つける。
- ・ 個々の障害に対する支援を行うためには、現状として支援者の数が足りないように感じる。
- ・ いろいろな行政サービスがあるが、どれを利用したら一番良いのか分からない。パンフレット等を作成。行政の窓口での聞きやすい体制が必要。
- ・ 利用できるサービスの種類が少なく、利用時間も短いため、なかなか本人も家族も満足していないと思う。
- ・ 聞かなければ教えないという体制はやめてほしい。もっと積極的にかかわりを持つべきと思う。
- ・ サービスを受けることも大切だが、その前にじっくり話を聞く。一緒に考えましょうという姿勢がいると思う（傾聴スタイル）。介護支援・子育ても迷惑をかけられない（世代間

で溝はあるが、特に年配の傾向として)と相談や支援を断れるケースがないだろうか?行政巡回や地域の見守りは欠かせないのではないか?そのなかに適切に必要なサービス提案が思う。小さい頃、おもちゃ図書館を利用していた人が先日ふっと来られ、話したいと言われていた。障害児ですでに市内の施設に3月まで預かりの措置を取られているようで、それでも話をしたいようで…。近く時間を取ります。

- ・ 必要な情報が必要な人たちに届いているかどうか、担当者がさまざまな情報をもっているか、人と人をちゃんとつないでいくことができているか、かかわっている人が障害についての理解がどれだけできているのか、障害のある子やある人の思い、その家族の思いを感じ取ることができるか、言葉かけで相手を傷つけていないか等、支援する側としてはいろいろ考えなくてはならないと思う。できれば希望や元気、安心を感じてもらえればと思う。してあげることばかりが行政の仕事ではないと思う。障害のある人、家族が自分たちで何かやっていく力、強さや知恵をつけてもらう支援のあり方も考えてほしい。家族や本人が話せる場をつくることや相談できる窓口の充実等も。

**障害のある人や障害のある子ども、またその家族を取り巻く地域の様子をみていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 行政と各家庭との話し合いの場を多く持てたらどうか?地域、時期を分けて相談会のようなことを行う(各家庭の状況は、同じではないので、個別の意見を聞かないと分からない)。
- ・ 地域の人たちの理解や協力を得るためには、時間がかかるかもしれないが、講演会や体験型講座などをもっと開催する。また、地域や市の行事などに「行きにくい」と思わせないように、障害のある人やその家族に参加を呼びかけ、同時に、介助者を手配するなどの行政からの配慮があってもいいのではないか。あわせて、家族やきょうだいの精神的ケアや、息抜きの機会を提供する方法も考えてもらいたい。
- ・ 地域でも、どのような障害のある人がいるのか、分からないのが現状。地域の人たちに知ってもらうことが重要だと思うが、保護者の考えもあり、難しいことの方が多い。障害のある人の行動範囲で、よくいる人(公共の人やお店の人など、行動範囲の狭い仕事の人)などから知ってもらえると、フォローもされやすいのではないかと思う。
- ・ 地域社会の障害に対する理解不足。解決策として、イベントを催し、交流の場を増やし理解を深める。地域活動への障害のある人たちの参加が少ない。本人や家族だけでは参加が困難なので、サポートする人を増やしていく。
- ・ 隣近所の干渉がないため、煩わしさなく気楽に生活できるという考え方もあるが、それはある程度自立した生活が可能でなければならない。常に支援が必要である人については、地域の人たちに知ってもらい必要がある。地域の見守り体制の中心となる民生委員に活躍してもらいが必要。現在、民生委員を中心にさまざまな情報をもらい、支援に入ることができる。民生委員も個人によって、そのかわりは大きく異なるため、民生委員の役割を評価し、謝金等を上げていくなど待遇改善が必要では。また、とても重要な役割を担っているという認識をもって行ってもらうため、待遇改善と併せて研修などの充実も必要。地域に知ってもらうことの大切さを受け入れることができている当事者や家族もいるが、まだまだ少ないのが現状。その数が増えて、地域で支えていけるシステムに乗

ってもらえれば、おのずと解決されていくことが増えていくのではと思う。

- ・ 大変難しい設問に感じる。立ち入ったことをいったりしたりすれば「お節介」になりかねない。行政を通してのボランティア活動がよいと思う。
- ・ 自治会は、障害のある人のことを把握しているのだろうか？実際には、近所であっても、プライバシーには踏み込めないで、精神障害のある人の場合など、家族が隠していれば、存在すら分かりかねるし、支援の申し出も家族が遠慮すればしづらい。困った時に頼めるような地域のボランティアがあればよいかもしれないが、自治会はただでさえ用事が多く、ボランティアをつくるのは難しいのでしょう。
- ・ それぞれの障害に対して、どういう対応がいいのか、分からないことが多いのが現状である。子どもたちが小さい頃から交流があれば、子ども同士も親同士も少しは理解ができるのではと思う。学校運営は大変だと思うが、同じ教室で学ぶ機会を増やしていけたらいいと思う。
- ・ 地域に住む障害のある人のことはよく知らない。誰かに聞いていいことかなとも思う。詮索するようではばかられる。
- ・ 地域に障害のある人たちへの理解者は増やす。
- ・ 外に出ている障害のある人は存在が知られているだろうが、かかわることが少ないので、いざという時に声もかからない。対策は難しい。広域になるので。事業者を支援するサービスを新たに増設してほしい。
- ・ どの市町村で、このような支援センターがあり、活用できるとか、また、小郡市にない時はセンターができるような活動を支援していくとか、療育施設の充実が必要かと思う。
- ・ 障害のある人の入所施設、通所施設。障害のある人の高齢化に伴い、「障害のある人が安心して信頼できる『終の棲家』の入所施設を確保してほしい」。福祉障害者の支援センターが小郡市にはないので、近隣の市との拠点を設けて、地域で安心して、共生できる発達障害専門の支援センターを新設してほしい。
- ・ 障害のある人、子どもたちの休日、放課後の過ごす場が少ない。公的なサービスを増やしてほしい。
- ・ 障害に対する偏見をなくすこと。理解を深めること。
- ・ 理解が低いことで孤立しがちである。外出困難でひきこもり気味にある。
- ・ 地域の人たちと交流の場をもつ。
- ・ 虐待、ネグレクト。
- ・ 地域とのかかわりが少ない。ふれあえる場など、もっと多く機会をつくってほしい。
- ・ 小郡は道が狭いため、歩きにくい（車いすや介助しながら二人並んで歩くのが難しい）。西鉄沿いの道路や小郡小から入って端間方面に抜ける道、その他にも歩道の整備が必要と考える。外とのつながりを多くもつ機会を増やせるよう、外出しやすい環境を整えてほしい。
- ・ なかには障害のあることを家族が恥ずかしいと思ひ込み、隠していたりして、非難を受けてしまったりする。解決策としては、学校や地域の人に公表して、理解してもらうようにするなど。

- ・ いろんな人とかかわる機会が少ないように思うので、地域のなかに憩いの場的な場所がもっと増えるとよいと思う。
- ・ 障害のある人、その家族も障害をもっている事例も少なくない。そうになると、地域とのかかわりがもてず孤立したり、地域に出ても人間関係がうまく築けないこともあると思う。民生委員など地域での見守りは現在もあると思うが、地域住民の人たちの理解、協力を深める取り組みがあればと思う。
- ・ 障害のある人と地域を分けてしまったことが課題。子どもの時であったら、地元の小中学校に普通に行けたらよい。何よりも、本人たち、その人自身を知ってもらうことが大事。気を遣わない地域。
- ・ 緊急時に、対応できるような小児科を備えた大きな病院がないため、久留米等へ搬送したことがある。大きな病院があれば、安心して過ごせると思う。障害のある人への関心がまだまだ低いのではないかと思う。民生委員など、地域の見守り体制づくりの強化を図っていくとよいと思う。道路が狭く、線路の踏切も狭いところが多く、バギーや車いすで通ると危険を感じることもある。整備をお願いしたいと思う。「視覚障害のある人は、人に声をかけられると自分が見守られていると感じ、とても安心します。声をかけられて悪く感じる人は、ひとりもいません」という当事者の人の話を聞いたことがある。白杖をついている人をみると、誰もが見守っていても、声をかけた方がいいのか躊躇してしまうと思う。このような、当事者の生の声をたくさんの人たちが聴ける機会をつくってもらえるとよいと思う。
- ・ 障害に対する正しい理解の促進。障害に対する社会的な誤解や偏見は依然として存在している。障害のある人が地域において自立して生活できるよう、さまざまな障害に対する理解を促進し、障害の有無に関わらず、互いに人格と個性を尊重し合う共生社会を築いていくことが大切。
- ・ 教育、福祉の現場では、比較的利用しやすい環境が整備されていると思っている。インフォーマルな部分でも活躍している人たちを身近に感じるので、過ごし易いと思う。人口からしても、大きな市ではないと思うが、そのなかで障害、高齢、医療の分野では、特徴をアピールできることに欠けていると思う。
- ・ 地域的なこともあり、障害のある子に対する理解が低いところがみられる。そのため、その家族等だけで解決しようとする様子がみられる→福祉サービスの充実、地域行事等の参加での障害に対する特性の理解の向上。子どものことをひとりで悩む、抱え込む保護者がみられる→さまざまな相談に乗れるような窓口の拡大と同じような悩みをもつ保護者同士をつなげるパイプ役になる人の調整等。
- ・ 小郡市では、細かい取り組みがされていることなどから、障害については地域の人たちがよく理解していると感じる。そのため、当事者の人たちや家族も住み慣れたこの地域で過ごしていきたいと考えている人が多い。また、活動の場やサービスの場は多く存在しているため、今後は生活をする場を多く提供してもらえるとよいと感じる。
- ・ 比較的、保育所や学校など地域のなかでスムーズに生活できている家族と関係性がうまくいっていない家族が混在している印象を受ける。その理由として地域性もあるが、受け入

れている保育所や学校の園長・校長、または担当の先生の理解がどれくらいあるかによって差が出ている。また家族が学校を選択する際（普通学校が支援学校かなど）に悩まれることも多い→まずは子どもの状況・特性を理解してもらうことが最優先。理解のなさが不適切な対応につながるため、可能な限り他施設との連携を強化していくことが大事であると思われる→家族が学校などの進路を選択する場合、我々はそれぞれのメリット、デメリットを分かりやすく説明し、家族が選択したことに対しては全面的にバックアップしていく。

- ・ 地域の人々の理解。障害児の就園先（保育園・幼稚園）と児童発達支援センターとの連携が難しい場合がある。解決策：保育所等訪問支援事業の市内保育所、幼稚園、小学校等への周知徹底を市から。
- ・ 地域との連絡連携が取れているケースと、まったく連絡が取れていないケースの差が大きい。つながっていないケースの把握は急務（掘り起こしの方法や人材確保などを含む）。民生委員との連携強化。
- ・ 緊急時、すぐ診てもらえる久留米大や聖マリアのような大きな小児科をもつ病院がない。
- ・ 奉仕の心があふれる人々をたくさん育てるか、福祉サービス、医療サービスの報酬の単価が上がること。
- ・ まだまだ、偏見が多いのではと考える。親は偏見があるから引きこもる、その子を外に出せない。
- ・ 障害のある人やその家族だけを特別視するのではなく、地域住民として、当たり前の生活をしている人として、理解する、接することができるよう、心のバリアフリーの充実。環境のバリアフリーができていなくても、心のバリアフリーでカバーできるような世の中にするため、子どもの頃から障害のある子どもたちとも普通に共学する。
- ・ 地域の見守り体制→子どもの顔や特徴を知って声をかけてくれるような人を増やす。
- ・ 障害のある人に対する差別意識が根強くあると思うので、公民館をもっと利用して、さまざまな講演会を開いてほしい。
- ・ 特別なことではなく同じ市民であるという気持ちが薄い。公民館レベルでふれあいの場をつくる。
- ・ 障害をもった人とふれあったことのない人は、偏見な眼でみたり、何でこんなことができないの等、そういったところが見受けられる。仲間内だけの環境ではなく、もっとたくさんの人と接して、話して、障害のある人とふれあってほしいと思う。
- ・ 申請方法の簡素化など。身近で相談できる場所の設置。
- ・ 介護の体力的、金銭的負担が大きいのが、それを助ける手立てがない。各ケースに応じるNPO組織などの育成。
- ・ 周りの人が、障害のある人に対してどうしていいのかわからないことが多いと思うので、普段からふれあう機会があればいいのかなと思う。
- ・ 地域に障害のある人たちが気軽に来られるような場所が必要だと思う。
- ・ 受け入れる施設や緊急時の対応ができるような体制づくり。
- ・ 健常者との交流。社会の理解。

- ・ サービスを利用する人は、地域以外で人とのかかわりをもっているため問題は少ないが、何のサービスも使っていない人は・・・。
- ・ 物に対してこだわりを強く持っている人が、勝手に他の敷地内や車などに触る、入ることがあった（家族の人に付き添ってもらうなどをしてもらっている）。
- ・ 周囲への理解、本人や家族の協力が必要である。
- ・ 障害のある人や障害のある子どもが地域にいないことが分かっていないと思う。地域の人を知ることも大切だが、本人、家族は知られたくないと思っているかもしれない。慎重に行わないといけな思われる。
- ・ 病気にとって見方は違うかもしれないが、同じように皆さん困っていると思う。なので、できるだけ均等に対応してほしい。
- ・ 地域の人に理解してもらい「協力」とまではいなくても、見守ってもらうだけでも、変わるのではないかと思う。
- ・ みんな自分ごとと思っていないし、遠巻きにみているだけなので、好奇の眼で見てしまうのだと思う。もっと普通に歩いて、もっとふれあいの場（特別な催しでなく）を幼い子どもたちの眼で見るといいに、幼い頃から自然に集えたらいいと思う。
- ・ 子育てはずっと続く。地域での居場所づくり、福祉サロン・ふれあいネットワークにも、障害や精神等の手帳があれば参加できる活動、予算枠組みがあるので、厳しいとは思いますが・・・枠組み内でも、企画の内容に幅をもたせる工夫が必要。
- ・ 家族のなかで障害がある我が子を囲い込む場合や周囲に話せない家族もあると思う。子どもが小さければ、地域に出ることも多いので、障害のあることを話す機会もあると思うが。周囲に何か迷惑がかかったりするようなトラブルが発生した時に上手に障害のことを伝えることができないこと、理解してもらえないことがあると思う。そういう時に、地域のなかでパイプ役になってくれる人、相談に乗ってくれる人、支援してくれる人がいるといいのでは。そういう力になってくれる人が、さらに別の人へとつないでいく関係性になってくれて、地域のなかで理解が広がるといいと思う。けれどまず、障害のある人・子どもの家族が地域の活動に積極的に出ていく努力がいると考える。その勇気をつけるには、話せる場に出て行って、仲間をつくるのが第一歩かもしれない。

**災害時、障害のある人や障害のある子どもに対する避難などの支援活動を円滑に実施するため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ 災害時の避難場所や避難する際の支援→緊急時の支援マニュアル等の作成と訓練。
- ・ 日頃からの隣近所との関係づくりが大切だと思う。障害のある人の支援のボランティア団体の人たちは、ファックスやメールなどを活用した避難訓練などを時々自主的に実施しているが、いざという時のために、近所の理解と支援、話し合いの場があるといいと思う。
- ・ まずは、家庭内から地域に向けて情報を発信してほしい。協力的な地域住民も数多くいると思うので、防災マップのような、SOSの声が届きやすい、眼に見えるものがほしい。
- ・ 事前に絵や文字での説明や、避難訓練などを定期的に行い、その行動に慣れてもらう。
- ・ 障害のある人が高齢である場合は、さらに高齢の親と住んでいる人もいるため、そのような家庭を地域で把握してほしい。

- ・ その地域の区長を中心に、その地区での情報をまとめておいて、特に災害時に気をつけな  
いとくいけない家庭の把握と、日頃からの声かけなどが必要と思う。
- ・ 要援護者支援制度を各地域で根付かせる。そのためにも自主防災組織の大切さを当事者や  
家族、市民に知ってもらうこと、広報活動を行っていく必要がある。広報活動が効果的な  
時期を狙って行っていくことも必要。
- ・ 町内で救援の組織をつくる必要があると思う。
- ・ 地域が障害のある人のことを把握しているのかが分からない。把握していれば、対応の準  
備はできるでしょうが、地域の避難訓練もそもそもない。
- ・ 互いに顔を知るには、たとえば地区の行事、イベントに（毎回）出席する。体力的に無理  
であれば、防災訓練の時、家族と一緒に顔をみせてほしい。
- ・ 日頃から障害のある人や障害のある子どもたちだけで避難場所を設け、一緒に避難訓練を  
行う。
- ・ 日頃から訓練をするしかない。作業所や施設で計画し、身体障害者手帳をもとに誘い合う。
- ・ 災害時の避難は、常に訓練と地域の人たちとの連携を図っていくことが大切かと思う。ま  
た、自衛隊との避難計画づくり、そしてそのシミュレーションはどうだろうか。
- ・ 障害のある人（子）の災害時の避難についての取り組み。障害のある人（子）のリスト作  
成（全市）。障害のある人（子）の避難所を事前に本人および家族に通知する。避難指示、  
避難勧告の通知は家族または支援者に連絡し、方法は民生委員または隣組長をネットワー  
クし通知する。避難支援者は原則として、家族またはボランティア支援者とするが、不在  
時には地域ボランティア（事前選定）とする。避難場所には、障害のある人および家族等  
のスペースを設け、サポートする。
- ・ 地域のマップづくりをして、現状を把握できるキーパーソンをたくさん育成する。
- ・ 障害のある子（人）のための防災ハンドブックの作成。障害の種別によって避難の仕方  
や避難場所の環境が異なると思う。そのために障害の種別ごとに明記されたものであること。  
そして、ハンドブックができれば、定期的な避難訓練が必要だと思う。
- ・ 支援者リストの作成。地域での支援を必要とする人の把握。支援サポーターの要請。避難  
経路を日常から確認、周知しておく。当事者に対する講習（避難経路確認、連絡リストづ  
くりなど）。
- ・ 健常者と別で、避難場所を作っておいた方が良いと思う。
- ・ 障害のある人のための避難施設。
- ・ 事前に障害のある人が、どのような状態か把握し、そのための準備をしておくこと。
- ・ 実際、防災訓練に参加したことがあるが、個人情報保護で、障害のある人や障害のある子  
どものいる家が分からなかったため、まず、その情報が分かるような取り組みが必要。支  
援方法、車いすの使い方など、いろいろな方法を練習できるよう、防災訓練などに取り組  
む。
- ・ 地域の公民館、コミュニティセンター等において、障害のある人の認識をしてもらって  
おき、対応をお願いしておくこと等。
- ・ 地域のなかで防災避難訓練があるとよいと思う。また、特に身体、聴覚、視覚障害の人た

ちがスムーズに避難できるよう、地域のなかでそういう人たちを把握できているとよいと思う。

- ・ 私は知的障害のある人以外はあまりかかわったことはないが、あらかじめ彼らに反復して避難ルートや避難場所をみせて、覚えてもらおうとスムーズに行くかも知れない。方法として、地域全体での避難訓練を行うことができればと思う。これは、地域の人たちが彼らの行動や特性を認識できる場となり、障害のある人たちは、避難経路を覚えることができる方法だと思う（事前の打ち合わせ、準備が大変だと思うが・・・）。
- ・ 災害時の情報連絡網の整備（早めの避難指示、的確な誘導）、基本的なマニュアルづくり。避難先での支援体制の整備（医療用具・薬・食事・水分・オムツ・毛布・携帯食に対応できる食品や道具・タオル・消毒用ティッシュ・パーティション・マットなど）。被災時を想定した日頃からの避難訓練（地域の避難場所や避難を想定しての経路や介助者、搬送用具なども含めた）の実施・・・地域住民の協力への意識づくり。どこに要支援者がいるか（自力で避難できない人や世帯）の把握。入所では、家族や主治医などの連絡先等を役所なども把握できていると、孤立した場合に役立つのではないか。
- ・ 消防団や近隣住民との連携体制を構築する。障害のある人や福祉関係等の参加および防災関係部局と福祉関係部局の連携の下での、地域防災計画等の作成、防災訓練の実施等の取り組みを促進し、災害に強い地域づくりを行う。避難所、応急仮設住宅のバリアフリー化を推進するとともに、避難所において障害のある人が、必要な物資を含め、障害特性に応じた支援を得ることができるよう、市町村における必要な体制の整備を図る。災害発生後も継続して福祉・医療サービスを提供することができるよう、障害者支援施設・医療機関における災害対策を推進するとともに、地域内外の他の社会福祉施設・医療機関等との広域的なネットワークに取り組む。
- ・ 国税調査や民生委員等の情報範疇から可能だとされる範囲や必要性が高い住宅に関しては、了承を得てから自治会や地区での見守り態勢や避難、防災予防策を講じてみてはどうだろうか。小地域で構成したものを市が集約しておく。緊急時や災害時での支援が必要かどうかの調査を行う。
- ・ 地域において、障害のある子ども地域の人たちと一緒に避難訓練を行い、災害時での行動等の経験をすることにより、より円滑に対応できるかと思われる。障害のある子の家族だけではなく、なるべく周囲の人も障害の状況や特性を知っていることで、障害のある人への対応を知っていく（食事の形態の把握や介助方法を記入したもの等を準備しておく、介助方法や薬の服薬状況等をまとめておき、誰でも介助等できるようにしておくなど。大声が苦手なので、ヘッドホンを着用する、人の多さが苦手なので、なるべく人を避けて避難する等）。
- ・ まずは、災害時の対策方法について地域全体に公布していくことが必要であると感じる。避難場所の確認、ルートなどはきちんと振り分けをしていくことが必要だと考える。また、障害のある人たちは移動できる範囲等も限られてくる場合が多いため、できるだけ普段住んでいる地域に近い場所の提供、安全なルートの説明や細かい対応方法などをあらかじめ知らせていく必要があると感じる。

- ・ 災害時を想定して普段から定期的な避難訓練を実施していく。保護者に対し、救急救命の訓練などを実施する。消防署への訪問を行い、災害時の話等、聞く機会をつくる。災害時の緊急連絡網の確認を十分にしておく。
- ・ 地域での救急救命講習会の実施。施設による定期的な避難訓練。災害時に避難するとしたら、少し広めの空間（安心できる空間）、障害者用のトイレがある場所、医療的処置ができる場所。
- ・ 日頃からの地域とのかかわりが薄い家庭こそ、災害時の避難には支援が必要になるので、日常的に、校区ごとでも地区ごとでもいいので、支援の必要性の実情を把握しておくような仕組みができないか？
- ・ 家族が許せば、障害があることを伝え、避難する時、援助してくれる協力者を近所につくっておく。
- ・ 障害のある人もない人も、いつでも立ち寄れる安心できる場所をつくる。
- ・ 地域で障害のある人や子ども、高齢者を把握しておく。避難訓練を行う。通所の障害者施設を福祉避難所とする。
- ・ 日頃からの近所づきあい。定期的な地域での避難訓練を行い、防災意識や地域力を高める。平時に緊急時を予測し、役割分担を決めておく。地域住民、家族間での話し合い。
- ・ 実践的な防災訓練。避難所を実際に開設し、何が不足しているか改善点を洗い出し、備える。ご近所サポート。いざという時、サポートできるのは身近にいる人なので、日頃から顔を合わせた関係をつくっておく。たとえば、毎月定期的にお隣さんにごあいさつ。
- ・ 要援護の人を行政が把握し、災害時に具体的にどう避難するのか、対応について訓練を実施しておくことが大切。
- ・ 手助けしてもらおう人を決めておく（責任問題は発生しない程度で）。
- ・ 要援護者の支援に関するマニュアル作成（福祉関係機関と）。防災マップをつくり、施設、グループホーム、ケアホームに設置。福祉避難所の設置、訓練、研修の取り組み。消防署用の台帳作成。要援護者情報を消防の指令システムに入力してもらい、救急出動を含む災害時に、出動隊への支援情報として活用。
- ・ どこにどんな人がいるのか知る。支援者が何人必要かは調べておく。支援者を決めずに、とりあえず空振りでもいいので、近くの人が支援に行く。素人でも分かるように必要な支援方法を書いた用紙を分かるところに貼る（ベッドにかかえ方や、もっていく医療器具など。2人でかかえる、ひとは医療器具をもつなど）。
- ・ 住まいの場においては、基本的に各行政区ごとに要支援者としての把握が必要だと思う。事業所としては、有事の際に事業所と行政区等との連携が必要だと思う。それらのことを想定した要支援者の訓練が必要だと思う。
- ・ 地域の自治会長等は、その地域に住んでいる障害のある人の所在地を把握しておき、その人たちを避難させる。
- ・ 学校や施設等は、年に数回避難訓練、防災訓練を実施されていると思うが、規模を小さく、もっと地域全体で行ってほしい。
- ・ 日頃からのつきあいを大切にする。存在に気づき、お互いを理解し合う。

- ・ 地域の環境を確認するために「福祉・防災マップ」をつくる。認知症、生活に困っている人、困られる人、拒否される人、身体状況の裏マップが必要。よけいなお節介とは思わずに、日頃から行政・地域との関係づくりをしてもらいたい。避難場所までのシュミレーション、身体障害、視覚障害のある人は不安でたまらないようだ。
- ・ 地域で、災害についての学習会をする。行政からの出前講座などを活用したり、話を聞くだけではなく、お互いに意見を出し合うような学習会がいいと思う。
- ・ 教育・訓練。
- ・ 市、町内での連携、どこにどんな人が住んでいて、いざ、どうしていいのか分からないのが本当だと思うので、普段から交流があれば、いいのかなあとと思う。
- ・ 支援できる人を募り、研修を行う。
- ・ ボランティアの育成。医療的ケアが受けられる施設を増やす。
- ・ 障害のある人、障害のある子の行動（日課）、住所等の情報把握と、避難経路のシュミレーションなど日頃から行っておく。
- ・ 普段から対象者を確認しておいて、地域の役割担当を決めておいて、行動するようにしておいてはどうだろう。
- ・ 最近、いろいろな災害が起きてもおかしくないため、1年に2回や3回、いろいろな災害を想定して、避難訓練を実施していく必要があると思う。
- ・ 避難所までの経路を明確にすること。河川が近いので、避難勧告など早めの対応。
- ・ 地域による障害のある人、子どもの正確な把握が重要と思われる。
- ・ 地域や施設等の連携が大切だと思う。
- ・ 自分の地域でどのような人がいるのかのおおまかな情報があると、ずいぶん違うと思う。
- ・ 隣近所に日頃から災害時にどのような動きをしてほしいのか働きかけを行っておく。
- ・ その人たちの障害のことは知るべきだと思う。知らないで適切な対応ができないのだと思う。幼稚園、小学校、中学校の頃から、普通にこの子はこの障害があるけど、個性なんだとの教えをするべきだと思う。今の子どもたちからでも始めないと、ずっと変わらないと思う。
- ・ 個人情報の取り扱い上厳しいかもしれないが、福祉課や社会福祉協議会で把握している情報を共有する。「SOS ファイル」という福岡県西方沖地震をきっかけに福岡市障害児保護者連合会が作成しているサポートブックの書式がある。地域の状況把握、区長・民生委員との連携、情報の共有や当事者が利用している事業所も把握して、自立支援協議会も含め連携する。このような委託の事業は、サポネット中心にはできないのか？自立支援センター・移送や相談業務にとどまらず、自立を支えるセンターとして役割があるのではないだろうか？
- ・ 障害のある人・子どもがどこに住んでいるのか、その情報の共有をどこまでの人たちがやるのか、情報の伝え方にも工夫が必要だと思う。避難先も障害の種類によっては難しいことがあると思うので、災害のある前に十分に考えておかないといけないだろう。日頃から障害があってもなくても訓練をしておくことは必要だ。もしもの時にどうするのかは、家族のなかでも話して、問題点を出しておく。地域でもイベントで避難訓練をすれば、災

害があった時のために話し合いの時間をもっておくなど、できることからやってみたらいいと思う。

### **障害のある人や障害のある子どもが行方不明になるなどの事故を未然に防止するため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ 何かあった時の、家庭・地域・行政（警察、消防も含む）、病院との連絡網の整備。それに伴う訓練。
- ・ 最近では、昔のような地域とのかかわりがなくなってきているので、近所に住んでいる人の顔も知らないことが少なくない。まず、顔をあわせる機会をたくさんつくるのが大事だと思う。顔を知り、何となく状況を知り、言葉をかける関係性が大切。障害のある人だけでなく、子育てにも欠かせないことだと思う。地域のたくさんの人に顔を覚えてもらうことで、声をかけたり、注意しやすくなるので、少しでも防止につながるのではないかと。
- ・ あいさつ、声かけなど、地域のなかで、お節介の芽を育ててほしい。
- ・ 地域の人たちの理解を広げることが必要と思う。ひとりの姿を見たら、すぐに連絡を入れてもらえるようにするなど、可能であれば、GPS 発信器の常備など。
- ・ 声かけ。
- ・ くり返す可能性がある人については、家族や本人の同意を得て、区長、商店街、駅、警察、民生委員、学校、施設等へ、情報を事前に提供し、日頃から見守りを行う体制があればよいと思う。危険箇所のマップをつくり（例 ため池、線路など）、行方不明時の事故を防ぐ必要がある。
- ・ 見守り隊をつくる。
- ・ 地域が障害のある人のことを把握しているのかが分からない。把握していれば、対応の準備はできるでしょうが・・・。
- ・ 顔を知る、障害の状態を知る。友だちになれば、それが一番近道。
- ・ 迷子等になっている様子を見かけたら、何時でもやさしく声かけできるように訓練する。
- ・ 危険な場所には防犯カメラを設置、施錠などする。発信器貸与サービスや連絡カードのようなものを身につけていくよう義務づける。
- ・ GPS 機能を活用したり、通学路に住んでいる地域の人たちにどのような子どもが通っているかとかの情報交換や、シルバーの見守りが各地で盛んだが、シルバーとの連携が大切かと思う。
- ・ 地域のマップづくりをして、現状を把握できるキーパーソンをたくさん育成する。
- ・ 定期的な啓発活動が必要だと思う。障害のある子（人）のみでなく、認知症の高齢者等、行方不明者が実際に起こっていることを地域の人々が認識することが大事だと思う。不安そうに歩いている人を見かけたら時の対処の仕方などを知らせていく。
- ・ 地域で顔を知ってもらおう。見守り支援の強化。行方不明になった時の連絡網の作成。
- ・ 見守りの強化。職員の増加の確保。
- ・ 自分の周りに障害のある人や子どもがいることを知らない人も多いと思う。もっと地域全体で、支援していけるように取り組んでほしい。
- ・ 認知症の人がひとりで外出した時、地域の人が声かけをし、見守っている様子をテレビで

放映していた。地域で事例を出して訓練しているそうだ。声かけができて、何かあった時、次の行動をどうすればよいのか、日頃からの訓練が必要ではないかと思う。

- 地域の自治会に、通学時の子どもたちだけでなく、障害のある人や子どもに対しても、見守り支援をお願いする。
- 警察等と協力し、見回り等強化していくことが大切だと思う。
- 個人情報保護の問題もあると思うが、地域のなかに障害のある人がいると分かっているのであれば、最低限、地域のリーダーには知らせておいた方がいいと思う。緊張の対応がスムーズになるのではと思う。
- もっと、障害のある子やある人に関心をもつための取り組み（障害児・者の映画上映や、施設行事への参加等）。地域の行事へ招待したり、交流会を開いたりして相互理解を進める。子どもは、地域で育てる意識をもち、ひとりで歩いている子どもや不審者がいれば、声をかけるなど、安全への意識を高める。障害児・者の施設を訪れ、障害について学んだり、困っていることについての話を聞く等の活動を行う。保護者や本人の承諾があれば、近所のどこに障害のある人がいて、どんな支援が必要かを地域で把握しておく。迷子札のような、個人情報を保護しながらも、いざというときに役立つような工夫を考える。
- 家族、友人、隣人、地域社会との関係（人間関係・社会関係）の構築。障害のある幼児、児童、生徒と障害のない幼児、児童、生徒との相互理解を深めるための活動を一層促進するとともに、小中学校等の特別活動等における、障害のある人に対する理解と認識を深めるための指導を推進する。さらに、地域社会における障害のある人への理解を促進するため、福祉施設、教育機関等と地域住民との日常的交流の一層の拡大を図る（スポーツや文化芸術活動等を通して）。
- 行方不明になることは前提にして、ことが起きた時の捜索活動や連絡体制を構築しておくことが必要だと思う。また、最悪の事態を想定したリスクマネジメントを考えておくべき。机上の空論より、実践を伴ってつくりあげた策が最大の防止につながると考える。
- 肢体不自由の子どもは少ないと思うが、歩行ができる子どもについて、水（例：用水路）等好きなものを把握しておき、事前に本人に入らないように伝えておく。ひとりで歩いているなど、不審な行動等があった場合、すぐに保護者に連絡できるようにしておく。常に本人にGPSを着用しておく等。
- まずは、配慮が必要な場合には、きちんと近所の人たちへ事前に知らせておくことが必要であると考え。本人のことを深く知っている人がきちんと把握しておくだけでは抜け落ちも多く、予防ということはできていないのではないかと考える。そのため、まずは障害をもっている人がどこにいて、どの機関に通っていて、どのような特性があるのか、そのための配慮点などを、事故が起きる前からきちんと伝えていく必要があると感じる。閉鎖的な環境ではなく、地域という大きな社会できちんと守っていくことが必要ではと感じる。
- 障害を持つ人や子どもの理解を十分に促すことが必要であると思われる。日頃から地域の人たちとかかわる機会を意図的につくり、行方不明になった時に、近隣の人にも協力してもらえ体制を整えておく。またGPS機能のついた機器類の携帯も検討してもらおう。事前に警察署などにも連絡しておき、緊急時に対応しやすい状況をつくっておく。

- ・ 普段からの近所（地域）の人の声かけ、あいさつ。水の事故防止のための、防火用貯水池等の柵の確認。不明時の地域への連絡と協力。不明の可能性のある人に対して GPS をつけることへの補助金。
- ・ 見守りネットワークの強化や仕組みの見直し。
- ・ 家族が許せば、障害があることを伝え、避難する時、援助してくれる協力者を近所につくっておく。
- ・ 地域の人が障害のある子どもを知っておく。行事には障害のある子どもも必ず参加させる。
- ・ 日頃からの近所づきあい。
- ・ 地域で障害のある人や障害のある子どもを日頃から把握し、また、障害のない人たちも、ある人たちもともに、交流の盛んな地域をつくる取り組みが大切だと思う。
- ・ 小さい単位（回覧板回り）で、お互いに声をかけあったり、顔見知りになっておくこと。
- ・ 人間 GPS 体制をつくる。この人がここにいたと分かるように、要支援の人の顔を覚えておけたらいいが、情報を開示した人に限られると思う。
- ・ 名札や携帯電話（GPS 付き）を常に携帯させる。また、福祉施設等のマップの作成。
- ・ 声かけ。
- ・ 他人事ではなく、関心をもつ。
- ・ 障害のある人の行動を、その人の目線で体験したり、心理や適切な対応についての研修を小中高、大人の人たちに行う。町内でおかしな人を見かけたら、気軽に声をかけられる状況が必要だと思う。
- ・ 事故を未然に防止するのは難しいと思うので（どういう事故が起こるのか分からない）、事故が起きた時、被害を最小限にすること、その事故をひとつの事例として、同じような事故の時の対策を考えて、今後にかかして行く。このようなことを積み重ねていって、いろんな事例から、ネットワークも広がっていくといいと思う。
- ・ **GPS の導入。**
- ・ 何らかの連絡網があればいいのでは。かかわりを多くもつ。
- ・ 該当者の把握と状態確認。
- ・ 日頃から地域参加を行わせる。
- ・ 普段から対象者を確認しておいて、地域の役割担当を決めておいて、行動するようにしておいてはどうだろう。
- ・ 障害のある人に対するコミュニケーションを増やし、地域の眼をつくること。
- ・ 日頃からの地域住民による声かけ等により、住民にも知ってもらおう。
- ・ 日頃から地域での声のかけ合いや住民が集える行事があるといいと思う。
- ・ **GPS 機能のついたものを持たせる。**地域の皆が障害のある人たちまたは子どもたちに対して、常日頃から見知っておき、道であった時等、気軽に声かけ等を行えるような雰囲気づくり。
- ・ 昔みたいなつながりが薄いので大変とは思ふ。気になったら、警察やら役場やらに伝えたらというけど、二の足を踏みそう。
- ・ 顔がみえるまちづくり。先日の PTA 新聞によれば、県内の自治体で「認知症徘徊模擬訓

練」の取り組みを小、中学校に呼びかけているとのこと。学校や PTA に呼びかけ、子どもから大人まで取り組むことで、意識づけにはよい。認知症模擬訓練を手本に、身近なところを想定し、日常に置き換えて考えられる内容にしたりする。認知症がある人も、障害のある人も、どこか似た行動や見た目が分かりづらい共通点があるものだ。身近なところから触れ合う、知ってもらふ啓発は大切だと思う。実際行方不明になったら、状況をいち早く広げるため、安全確保にフェイスブック等で情報公開をするのも有効だと思う。

- ・ 日頃から地域活動などに参加して、顔を覚えてもらっておくのも大切だ。そしてサポートブックを障害のある人・子どももひとり 1 冊作っておくといいと思う。行方不明になった時に使える。さまざまな特徴がすぐに理解してもらえるので。地域を顔の見えるまちとして、多くの人に散歩してもらい声かけを互いにするようにしていくことで、防げることも多くあるのではと思う。家族は本人の行動範囲を知っておくことは大切だと思う。

### **障害のある人や障害のある子どもに対する虐待を防止していくため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ 家庭訪問や地域からの情報収集。
- ・ 障害のある人やその家族も、近所に住む人や周囲の人たちも、お互いの立場や家族をもっとオープンにすることが大切だと思う。どんな人かも分からない、顔も知らないなら虐待の事実が近くであっても気がつかずに見過ごしてしまう。なかなか難しい面も多々あるが、もっと地域の行事に行政からの支援を手厚くしてほしいと思う。
- ・ お互いに風通しのよい関係が築かれていることが一番大切だと考えるが、プライバシーの件もあるので、行政の方で定期的に家庭訪問してほしい。
- ・ 障害のある人の家族などと地域との結びつきを強くすることがよいと思う。また、一定期間での訪問をする。状態を目で見て確認する制度が強制できればよいと思う。地域で、「障害者の会」など、集まる場を提供するのもいいかもしれない。
- ・ 保護者のケアをしてほしい。
- ・ 学校や行政、地域との連携で、地域ぐるみで支援する姿勢とアプローチが必要と思う。
- ・ 地道な啓発活動を行っていくしかない。相談窓口も含め、くり返し広報していく。ただ、くり返し行っていくことも大切であるが、タイミングも考え、時期を逃さないことも必要。
- ・ 大きな講演会でなく、地域での小さい会合の機会に啓発できるお話を聞く。
- ・ 私たちは見えていますという日頃からのかわりが大切なのだろう。どうしたら防止につながるのか分からない。
- ・ 近所にそういう子が住んでいる場合、日頃から虐待しているような、あやしい時は民生委員に一言声をかけ、見回ってもらうようにする。
- ・ 施設内の虐待はやはり第三者の眼が必要かと思う。定期的に抜き打ち検査や地域住民や利用者とその家族への聞き取りとか、どうだろうか？
- ・ 声をかけられるような関係づくり。地域のなかに世話役をたくさんつくる。
- ・ 施設に入所している障害のある子（人）の虐待に対しては、第三者の介入が必要であり、施設の社会化に取り組むこと。また、在宅の障害のある子（人）に対しては、世話をする家族の悩みを相談する窓口をつくったり、障害のある子（人）たちがひきこもるのではな

く、社会参加できる場所をつくる。そのための完全なバリアフリー化や居場所づくりが必要である。たとえば、駅周辺はバリアフリーであるが、少し離れると段差や傾斜がたくさんある。

- ・ 介助者を手助けする施設サービス、相談支援の充実。介助者に余裕をもたせる。地域社会の理解。
- ・ 定期的な訪問。
- ・ 障害に対する理解。
- ・ もっと情報を公開してほしいし、地域社会への働きかけを行ってほしい。
- ・ 人権を尊重し、お互いの思いやりを育てる教育（擬似体験などを実施し、相手の気持ちが分かるような教育が必要）。
- ・ 近隣の人が認識をもって行動し、協力をお願いできるよう、回覧板等に載せる。
- ・ 地域のなかで虐待防止法についてのセミナー等を開き、地域の人たちに意識を高めてもらうことが大切だと思う。
- ・ 障害のある人は、大体障害福祉サービスを利用していることが多いので、事業所としては、第三者が自由に入れるような透明性のある事業所づくりが必要だと思う。地域社会においても、障害に対する知識が身につく、人間性を養える場、および機会を提供できる取り組みがあればいいと思う。
- ・ 子どもは、社会全体で育てるという意識づくりやサポート体制の充実（声かけ、見守り、相談に乗る等）。障害のある子やその親への定期訪問（保健師やケースワーカーその他）。親の負担の軽減（レスパイト、相談支援体制の整備、子どもにかかる費用の補助、加配、子育てサロンなど、息抜きのできるスペースづくりなど）。気になる子どもがいれば、児童相談所や役所に知らせる。かかわった病院、施設、学校、職場等の連携や情報共有（保護者・本人の承諾のもと）。託児つきの、保護者や親族向け学習会や地域住民や障害児・者にかかわる人に向けての研修会の開催。
- ・ 地域における虐待防止ネットワークの構築、行政、相談支援事業者、地域自立支援協議会との連携。住民や関係者に対し、障害者虐待防止法の周知、障害者の権利擁護についての啓発、障害者虐待に関する正しい理解の普及を図ることが必要。障害者やその家族などが孤立することがないように、地域における支援ネットワークを構築するとともに、必要な福祉サービスの利用を促進するなど、養護者の負担軽減を図ることが必要。
- ・ 受け入れ事業所等での確認作業。サービス利用計画立案時や聞き取り調査での実態把握。障害について啓発できる人や機会を増やす。また、理解者を増やすのではなく、支援者となれる人たちを増やすといった観点で啓発事業を行う。ある意味、本人には弱者であることを理解してもらい、相談や手助けをいち早く求めることができるよう支援する。
- ・ かかりつけの小児科・健診等で体の傷、体重の変化等を把握していくなど。子どもがひとりである時等、周囲の人から声をかける。
- ・ 障害者虐待の事例では、家族間の虐待が半数を占めていることなどから、閉鎖的な環境をつくるのではなく、関係機関や行政・地域などの多くの人たちが介入していくことが防止へとつながっていくと考えられる。また、現在地域のどこか通っている場所があるのであ

れば、その施設等の人たちが家庭状況などをしっかりと把握し、変化をみていくことが必要であると感じる。

- ・ 家族環境を含め、普段の様子を十分に理解しておくことが必要である。何か少しでも普段と違う状況が起こった場合（顔色や身体の傷など）、虐待の可能性も考慮し、注意深く子どもと家族を観察したり、かかわったりする。未然に防ぐためには、家族が普段から地域のなかで孤立しないように、近隣の人たちとかかわる機会を持つことが必要であると思われる。
- ・ 保護者が虐待の可能性があったら定期的な訪問。地域の人声かけ（民生委員等）。保護者の相談できる体制づくり。
- ・ 子育て中の母親の相談に気軽に乗れる存在に保健師などがなれているか？困った時にどこに相談したらよいか顔の見える関係の人がいるのか？育てにくさを持ち合わせている子どもの発達に関する相談支援体制の充実（関係機関のなかでも、子どもの発達の課題の見極めや保護者へのコメントの心得やつなぎ先の機関の周知など、徹底していく必要を感じる）。
- ・ 家族の負担を減らす。必要な家庭には、保健師が定期的に家庭訪問する。
- ・ 障害の理解。他者への関心を高める取り組み。
- ・ 虐待の講演会を行い、地域の人が虐待を敏感に感じるようになる。障害のある子どもの保護者を集め、虐待の勉強会を行う（知らないうちに虐待をしていることもある）。
- ・ 隣近所のあいさつや近所づきあいで顔見知りになっておく。虐待する心理状況を踏まえ、それに対応できる未然に防止できる方法を考えていく。
- ・ 障害のある人や障害のある子どもを抱える家族が、閉鎖的な環境にならないように、日頃から地域社会とつながりのある関係づくりが大切だと思う。
- ・ 親の会や、家族の会などに出席して、心のストレスを減らす。周囲の人も「何か手伝えることはないかしら？」と声をかける。
- ・ ともかくオープンにと思うが、なかなか。
- ・ できるだけ多くの眼を、その場所に向けられるようにすることが必要だと思う。そこで抱えている不安やストレスが、いろいろな人の意見によって少しでも軽減することが可能になると思う。
- ・ 各自治体に相談窓口の設置。
- ・ いつもと違った点を感じたら声かけ。
- ・ 地域で育て、見守れる環境を整える。
- ・ 障害のある人や子どもにかかわる人や家族が、ストレスをためこまないようにするため、外部に相談できる場や、集まれる場があるといいかなと思う。
- ・ 当事者を含むサークル活動。
- ・ 一日一回でもいいから、第三者にふれあうことが、早期発見になるのかもしれない。
- ・ 第三者の定期的な訪問。
- ・ 気楽に通える場所をつくる。抱え込んでいる家族がいるか、いないか。病院や地域、自治体が連携し、情報交換していく。

- ・ 定期的な訪問を必ず行う。
- ・ 民生委員・児童委員のかかわる問題だと思う。
- ・ 周りの人たちが気づいたら場合、安心して相談ができる環境づくり。
- ・ 障害を抱えている人に対し関心を持ち、交流する場を増やすこと。
- ・ いつもと違うと思ったら、目をつぶらないで、声をあげて、公的機関に連絡することが大事だと思う。
- ・ あれっと感じたら遠慮なく通報する。また、それを受け取る側も、敏速な対応をする。それが空振りであっても、それはそれでよしとする。また、どんな理由付けをして周りが本人に合わせようとしなくても、必ず本人と接見する。
- ・ 顔がみえるまちづくり、ひとりにしない子育て、虐待は障害に限らず起こりうるものだ。一緒になって考える姿勢をもつ、促していく努力をつくる。行政相談窓口の人たちは、質の高い研修と、どのようにしたら改善、解決ができるか、それらに関わる人の間でコミュニケーションを取ることが大切。
- ・ 障害があってもなくても地域に安心して出て来られる雰囲気づくりは大切だ。温かい声かけをしながら、外に出て来られることができれば。場づくりも必要。虐待の影には、さまざまな親の問題があるので、その解決を図ることができなければならないと思うが、まずは子育てをしながら、出ていける場があり、そこで話を聴いてもらえたりすることで、次のステップにいけると考える。誰でも話を聴いてほしいのだ。しゃべり場づくりをしないか？

#### 小郡市地域福祉活動計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書き下さい

- ・ 誰もが安心して住める小郡市になるようにお願いします。
- ・ 福祉関係の仕事の人手不足、労働条件の改善をもっとしてもらえるとありがたい。
- ・ 「障害」と強調してありますが・・・、「障害者」と位置づけられない人、(障害程度区分?)の判定が下りていない人などが、行く場所がなくて困っているのではないかと思う。「障害」と区切りをつけずに集えるような場所があるといいかと思う(サポネットのような・・・)。
- ・ 当事者の意見を集約できる機会があるといいのかなあと思った。
- ・ コミュニティバスが保健福祉対策として設定されているようだが、社会福祉対策としても組み入れてもらえないだろうか。高齢者の交通事故を未然に防止することにも直結すると思う。80歳前後の人が無理?に運転して事故を起こしたり、寝たきりになったりの社会をつくらぬ施策になるのでは。社会福祉対策として利用者が多い路線は回数を多くする、そのような対策を取ってもらいたい。
- ・ 食物アレルギーの子どもを持つ家族の不安や苦労も大きなものがある。子どもたちに遊びに行ったり来たり行動が出てくると、友だちや大人から卵とか乳製品とか、口にしてはいけないものをもらうのではないかと心配する。食物アレルギーについて、知識を広めてもらえればと思う。
- ・ 孤立しがちな障害のある人、家族をこれからも見守ってほしい。とても難しく、課題が多い問題である。災害が少ない小郡であるが、地域のどこに誰がいるのか知っておかないといけないと思った。

- ・ 障害者専用の支援センターを新設してほしい。筑紫野市：障害福祉センター「カミーリア」、春日市：福祉ぱえっと館（H12年建設。鉄筋コンクリート3階建て）。
- ・ もっと障害のある人、ある子どもが必要な支援は何か考えてほしい。地域社会や施設などで働く人への勉強会など、もっと積極的に行ってほしい。
- ・ 当事者や保護者の意見をたくさん聞いてもらい、住みよいまちになるよう、よろしく願いしたい。
- ・ 乳児期、幼児期、学童期、青年期、成人期など、すべての「生涯支援」につながる計画を立ててもらえるとよいと思う。本人や家族、地域の皆さんに密着した福祉計画が進むようによろしく願いしたい。
- ・ 児童、高齢者、障害福祉と、それぞれに区別せず、世代間を越えて集える拠点を市内各所に設置してほしい。介護保険では、要支援の該当者は外され、地域で支えるような仕組みになると言われているので、なおさら、地域力が高まることを期待する。宝満川の左岸と右岸側でもいろんな規制があり、高齢化率が高くなる一方で、現実にはそぐわないようになるため、規制緩和も必要だと思う。誰でも地域で暮らしたいと思っている。是非、対策をお願いしたい。ある自治体では、24時間介護が必要な高齢者の夜間ヘルパー訪問のため、家族に迷惑がかからないよう、訪問専用入り口を設置するための補助金を出したと聞いた。
- ・ 障害のある人の声を反映した実現可能な分かりやすい計画にしてほしい。
- ・ 当事者を入れることが一番大事だと思う。
- ・ 小郡市都市計画の市街化区域について、西鉄や甘鉄等の各駅周辺（各地域）に広めてもらえると、その環境に応じた住まいの確保が可能になると考えるので、検討してもらいたい。
- ・ 私は日頃から障害だ、福祉だとか思わずに、私のような小さな力でも一人ひとりが楽しく一日を送ることができるように協力ができたらと、暮らしてきた。無理なく人様が喜ぶお手伝いからさせてもらえたらと願っている。今後ともよろしくご指導をお願いしたい。
- ・ 民間からの事業提案に関心を持ってもらいたい。アンケートより有識者を集め、責任ある意見を集める方が効果的。
- ・ 行政サービス・当事者・市民が自分たちでできること、お金をかけずにできること、それぞれが具体的なところが取り組めばいいのではないのか？できない理由を並べるのではなく、できる理由を探す。行政は縛りがあるのは分かる。しかし、相談や問い合わせをしても、保守的に身構えられる。そもそも、協働をうたう小郡市の職員は、どのようにしたいのか？力を合わせていくためのメリット・デメリット、市民力を育てるために、部署ごとにラベルワークをするとよいのでは。そこに行政サイドも基盤をつくらないことには厳しいのではないのか？どのようなまちにしたいのか？少し考えるといいのかもしれない。協働推進課も福祉課も意識が同じ方向を向かないとコミュニティ再生は難しい。コミュニティ再生は大きな地域福祉だと思うが、悲しきかなバラバラ感あり。子育ても、障害児だと担うところが違うのか？根底の意識、それに対してクオリティをあげる研修を受けているおもちゃの図書館だが、もう少しこの幅の広さを理解してもらいたい。
- ・ 障害をもった人・子ども、当事者の声もちゃんと拾い上げてください。

## 4. 民生委員・児童委員

### 【高齢者や高齢者がいる家族の様子について】

高齢者やその家族の様子をみていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか

- ・ 高齢者の人が体調を悪くせず元気に過ごしてほしいと思うことから（認知症などの疾病にかからないように）気分転換を含み、家族の自由時間を割いて高齢者と一緒に行動する（ドライブ、買い物など）ことが多い。ゆえに高齢者のいない家族に比べると、大変負担が多いことから、ストレスになっているように感じる。高齢者は人に頼らず、自分自身の生活を楽しみ、家族はあまり手をださないようにすることが大切と思う。
- ・ 高齢者と家族が同居している家族では、共働きで、孫は学校に行っている昼間はひとり暮らし、高齢者夫婦のみで暮らしている人と同じ状態であるところが多い。できるだけ地域の行事や老人クラブなどに参加してもらいたいと思う。
- ・ 親子関係が良好でなく、高齢になった人は、当然ながら子どもたちがひとりで暮らす親のことを気にかけていない。入院等が必要になっても「自分も生活がある」といって連れて行こうとしない。男性のひとり暮らしで、家のなかがごみ屋敷状態でも、片付けようともしない。経済的援助もしない。親がきちんと子育てをしてこなかったつけが回ってきて、生保に委ねているケースがある。
- ・ 買い物、通院などの交通手段がない：家族（娘など）が送迎、友人が手伝い、タクシー利用。日常の買い物は届けてもらう（生協など）。食事の準備が難しい：宅食（勤めても宅食を嫌いだという人もいる。すぐにやめてしまう人がいる）、家族にもってきてもらう、スーパーなどで買う。デイサービスの話をして、なかなか家族、本人との関係もあるので、難しいところもある。
- ・ 息子夫婦と一緒に家庭でも、高齢者の食事がうまいかない家庭もある。何も用意してくれない。昼間若夫婦は仕事、私は何も食べるものがない、だから配食サービスを受けたいとか。でもひとり暮らししか対象者にならないとのこと。
- ・ 悪徳商法に引っかかる高齢者も少しずつ増えているように思う。特にひとり暮らしの場合で、家族が遠方にいる場合、家族との連絡が取りにくく、民生委員としてどこまで支援していいのかわからない問題でもあり、課題であると思う。地域包括支援センターの職員の人と民生委員、そして家族の人たちと話し合う場を持つことが必要だと思う。
- ・ 同居の高齢者が多いが、家族の人たちは朝から夕方ないし夜まで不在という状況で、ほとんどの時間がひとりという人が多い。地域内のサークル等に積極的に参加を呼びかけているが、自宅に引きこもりがちの人が多く。週末等は、家族と過ごしているのでさびしくないとは思いますが。また、デイサービス等、行政サービスを受けている人も多く、地域への参加はない。親しく話せる人を増やすための行事を、さらに考えるしかないのでは。
- ・ （問題や課題）高齢者と若い世代のライフスタイルが異なるため、どうしても高齢者のライフスタイルが乱される場合が多く、ストレスがたまりやすい。（解決策）高齢者だけの

趣味グループやイベントを地域が主導となって実施し、できるだけ家の外での活動を多くする。

- ・同居は、お互いが元気で健康な間はうまく支え合っているように感じる。しかし、弱ってくると家族に何らかの形で迷惑をかける。介護も必要になってくる。まず、家庭内で役割分担をし、行政のサービス等利用していく。解決にはならないかもしれないが、先決だと思う。
- ・その家族によって問題は違うと思う。
- ・高齢者と若い家族は意見の食い違い。どうしても高齢者をそっちのけ。若者ばかりの意見が強くなる。高齢者の意見を聞く耳があってもよい。高齢者の意見も大切。増改築等に対して税金を無料とする。
- ・老老家族や高齢者のみで留守番になった時、万一のことが発生した時、緊急な措置、対応が取れるだろうか（救急車の電話等）。連絡網が作っているが役立つか疑問。金銭詐欺が発生した時の対応ができるか。勉強会をして予防の方法は話している。
- ・同居ではあるが、孤立状態の高齢者対策。嫁姑問題などで不都合の多い家族間の問題。近所で井戸端会議のできる相手が必要。
- ・訪問活動として見守り対象者全員に対して家庭訪問（安否確認）。「あ！大変の時の連絡網」全戸配布、啓発。情報連絡会議開催（1回／月）で情報の共有化（出席者：区長、公民館長、老人会長、民生委員・児童委員）。
- ・93歳の夫、91歳の妻、独身男性（三男）。91歳の母親は2年ほど前から施設に入所。93歳の父親を息子が家で見守り、ヘルパーが11時半ごろやってくる、といった状態が数年になるが、仕事を辞めて両親を見守ってもらっているので、民生委員も声かけだけで助かっている。息子は、両親だから子どもが世話をするのが当たり前だからと言っていた。
- ・介護保険制度や福祉サービスについて、よく理解できていない人もいる。今は元気でも5年後、10年後を考えて学習してほしい。説明会や講座をやっても、参加する人が少ない。
- ・認知症になった時の対策を、その時になって考え始めることになるので、家族に起こりうることとして、事前に知識を得る必要がある。
- ・住宅を買って約40年経過し、子どもたちも遠くに職を求め親元を離れ、2人暮らし、ひとり暮らしが397名で、3人の民生委員で廻っているが、やはり子どもは親をみる社会に戻すよう、教育のやり直しを小郡はやってほしい。財産が親をみる人に半分以上となるようなシステムをお願いしたい。
- ・同居の人の人数が少なく、今のところ問題はない。高齢者ひとり暮らしの人は、反対に、子どもや孫の人が、同居したいと申し出るところが、少しだけ見かけられるようになった。これからいろいろと同居について、問題点が出てくるかと思う。
- ・子どもが働いていて、昼間高齢者がひとりになるところが増加しているが、ふれあいネットワークの対象外でもあり、安全面や精神面でも不安定である。親子もしくは夫婦の考え方が違うため、入所などに苦慮している。
- ・農村地域では、子どもが都会に住居を設け、故郷に住むことがなくなり、高齢者ばかりで、老老介護となっている。住み慣れた自宅を離れて、子どもの住む初めての都会へ行ってい

- る人もいる。そのなかには、生活に慣れることができず、週に何回か帰ってくる人もいる（知らない土地で知らない近所の人とのコミュニティができず、ストレスとなっている）。
- ・ 要介護や要支援の認定が軽くなったり、取り消され、だからといって高齢者本人は自分のことも十分にできないのに、家にひとり残して仕事には行けない。
  - ・ 高齢者世帯（ひとり暮らし）はさびしい。何かしようとしてもなかなか出席できない。参加させることが難しい。
  - ・ 経済的に厳しいところが、家族の関係にも影響している家が多いように感じる。国や県など、行政で対応できるところはサービスなど細かく伝えてほしい。
  - ・ 親子であっても、関係は薄く、どこの家庭でもいろいろな問題に頭を抱えている（お金、財産の処分、体が不自由になった時など）。
  - ・ 認知症や他の病気等があり、また家族に他の問題もあり、その高齢者にかかりきりができない時（デイサービス等拒否される）、その家族へのフォローが不足。介護等も含め、市との連携を多く持つ。
  - ・ 月1回の訪問の際、問題があればできる限り相談に乗り行動する。
  - ・ 小郡市は交通の便が悪い。町内バスについては、走ればよいとの思いだけで、本当に困っている人のことを考えているか疑問である。
  - ・ ふれあいネットワーク会員ではないので意識してみていなかった。近所の人々から情報を得るようにしていた。ふれあいネットワーク会員には助成金が出て、旅行とかしているが、会員外の人は旅行もゲームも参加していない（連絡もしていない）。
  - ・ ふれあいネットワーク会員ではないのであまり意識していなかったが、会員ではない人から言われたことは、同じ校区なのになぜ助成金が出ないのか、ということ。
  - ・ 家庭訪問が民生委員ひとりでの訪問なので、区の協力がなく、高齢者は増加しているし、次の民生委員が大変だと思う。
  - ・ 元気な時は問題ないが、病気、急病時を皆さん心配している。
  - ・ 家族と同居している高齢者は、見守り対象外になっているが、家族が仕事に出かけた後はひとりになるので、公民館活動等に参加したいとのこと。サロン等は予算内で活動している関係で、なかなかうまくいかない。
  - ・ 高齢者でひとり暮らし、2人暮らしで、子どもが近くにいる、いない、で生活環境が違うので、それぞれの対応が必要かと思う。対象者が元気か病気がちにあるかでも、対応が違う。ある家族で、認知症の妻を夫が面倒をみていた。夫は妻の認知症を認めたくない、知られたくない、だった。しかし、妻はひどくなり、近所に迷惑をかけ、夜近所に駆け込むようになった。この時、地域包括支援センターに相談したが、介護認定の申請もしていなくて、介護施設が決まるまで、どう対応すればよいか、近所の人と悩んだ。地域包括支援センターは、土曜日、日曜日は休みで、どこに助けを求めればよいのか、悩んだ。地域で住民と接していると、いつ何時、助けを求められるか分からない。その時、救急車で片付くならいいけれども、相談したい時に土曜日、日曜日でも相談できる部署がほしい。
  - ・ 高齢者の母（81歳）と娘（54歳無職）の2人暮らしで、10年以上前から親子喧嘩が絶えない。解決策を市地域包括支援センター他と検討中。

- ・ 昼間の高齢者の生活。
- ・ 介護した人でないと、その大変さは分からないと聞く。気軽に相談する窓口が必要かと思う。
- ・ せめて子どもが定年を迎えたら、同居するために親元に戻ってきてほしい。子どもは週一度、電話で親の安否を確かめるべき。
- ・ 家族間の交流。疎外感。遺産相続（遺言書を準備しておく）。
- ・ 私自身、高齢者をみてきた。たしかに大変だ。介護等いろんな面で、ひとりで家にいることが本人も家族も大変だった。誰かに相談してデイサービス等、利用することで楽になり、家族も昼間は自由な時間ができた。
- ・ 同じ敷地に子どもの家族がいる。夫婦共働きで、夜遅く帰宅しているようだ。近くに娘がいるので、その人に連絡している。なかなかよその家庭のことは入ることが難しい。
- ・ 高齢者のなかには、家族と同居していても、日中は家のなかで、ひとりで過ごしている人もいると思う。仕事で家族が、留守がちになる状況もあると思うので、休日には家族の絆を深め、高齢者の心身状況を把握してもらいたいと思う。また、遠方に身内の人がいれば、電話や便りを出すなど。安否確認のためにも。地域でも声かけ、見守りが大切ではないかと思う。
- ・ 孤独感。相談相手が身近にいない。両隣とのコミュニケーション。
- ・ 子どもたちと同居することはよいことと思うが、子どものところへの引っ越しは、なかなか難しいと思われる。また、子どもも遠くに居住の場合、なかなか来られず、本人が近所とのつきあいがうまくできないと大変な様子だ。
- ・ 高齢者に介護が必要な場合、そのために職を失ったり、精神的にもゆとりのある生活が送れなくなったりすること。行政によるサービスの充実。情報の提供。
- ・ 健康（心と体）のバランスが取れなくなった時、本人や家族は毎日のことなので大変。できるだけ多くの人々の協力が必要だと思う。
- ・ 独居の人や夫婦2人で住んでいる人は、声かけしやすいのだが、息子や娘と一緒に暮らしている人（昼間は独居に等しい）への声かけがしにくい。ふれあいネットワークでも線引きがされており、対応が難しい。
- ・ 年を取ると着替えが億劫になり、あまり頻繁に下着などを着替えなくなる。私はばあちゃんに着替えんねとあっさり言っていた。
- ・ 家族の事情により、昼間、高齢者がひとりになる家庭があり、その対応が難しい（なかなかそのような家族は把握が難しく、訪問等の活動がしにくい）。まずは把握および家族構成の名簿が必要。
- ・ 日中がひとりになることが多い。できるだけ外出するように、地域の行事に参加できるように、働きかけ（家族のみならず、組長、区の役員、その他の人たちも）をした方がよいのでは。たとえば、健康体操、サロン教室。
- ・ ひとり暮らしの人で、いろいろな行事や催しに出て来られなくて、家にいることが多い人のことがちょっと心配だ。引きこもりではないが、他とのかかわりをあまりこの好まれないので、声かけを度々していくしかないかなと思っている。

- ・ 福祉サービスの利用をお知らせし、その活用を進めていく。

### ひとり暮らしの高齢者の皆さんは、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか

- ・ 常日頃、家のなかで突然容体が悪くなった場合の対応について、大変不安を感じている。風呂場、トイレでの事故などで救急車をお願いできない状態となり、皆さんに迷惑をかけてしまうのでは、と思われている。
- ・ 足や腰が痛いという人が多く、買い物や掃除が大変と話している。いろいろな行事に出席の声かけをするが、出席はしたいが腰が痛くて参加できないという人もいる。
- ・ 話し相手がほしい。訪問すると 20～30 分は話をする。足腰が弱っている人は、自分自身では外出しない。ふれあいネットワーク食事会やバスハイクにも参加しない。「周りに迷惑をかける」と遠慮している。老人クラブには入りたいが、活動のなかで、たとえば草取り作業など、奉仕活動が（足腰が悪くて）できないから、入れない。楽しいことだけ参加するのが申し訳ないと話している。
- ・ 夜はひとりなので、すぐ連絡できるようにしている。子ども（娘が多い）が、週何回か、安否確認をしている（訪問している）。家に一日中いることが多いので、話し相手がいない（テレビばかり観ている）。民生委員が訪問すると、1～2 時間話す人もいる。地区では、福祉委員が隣近所の人なので、日常的にマンツーマンでコミュニケーションが取れている（2 人の人間関係がうまくいっている。福祉委員も長年やっている）。
- ・ 病気したらどうしよう、子どもたちが遠くにいるから、いつどんなことが起きるのだろうか？
- ・ 食事を自分で作って食べることが 80 歳以上のひとり暮らしの人にとっては大変なように思う。健康を考えた高齢者向けの宅配弁当が身近なところで用意されるとよい。持ち家の人は、庭の草取りなどで悩んでいる。シルバー人材センターへの依頼も多いのだが、思うような日時が取れないとの声も聞く。
- ・ 地域内には、3 人しかいない。近くに娘家族がいる人は、ほとんど大丈夫と思う。遠くに家族がいる人は、今のところ健康で、よく出かけている様子なので、友人も多く、特に心配ない。それぞれ元気なうちは、ひとりがよいとっておき、困ったことは、家族内で解決しているようだ。男性のひとり暮らしの人が、食事がやはり心配だ（宅配サービスを受けている人もいるが）。
- ・ （問題や課題）生活上の不安、健康上の不安を抱えやすく、その解決策を見出せないままである。（解決策）民生委員を主体として、定期的に訪問し悩みや不安を聴いてあげて、必要に応じて専門機関への橋渡しをする。
- ・ 地域での当番（家周りでのお世話）がまわってくる。場所によっては「70 歳以上は外す」と決めている地域もあるようだ。デイサービス等利用しても、上手に友だちをつくれぬ人は、外出するのも嫌になるようだ。病院へ通院（シルバーカーで）するのがやっとなで、買い物がつらい。配達利用を勧めるが、「少しでは気の毒だから」。何でも自分がやらなくてはならないから、どうしても人の手が必要になる。
- ・ 病気した時の対応がひとりでは困る。買い物、掃除（特に風呂）、台風等の時の対応。話し相手、ごみ出し、相談相手。それぞれの生活様式が違うので多くのことが分からない。

- ・ ひとりでいても元気で動ける時は何とか暮らせるが、動くことができなくなったり、物忘れがひどくなったりすると困っている（国民年金だけでは病院にもいけない）。
- ・ 話し相手がない。さびしい。万一のことが発生した時の対応の仕方に困る（自信がない）、詐欺。日々の生活（体の具合が悪い、病院通い、買い物等）。経済上の問題。
- ・ 独居でも子ども、親戚等との連携があるところはよし。子ども等から同居の話題はあっても行きたくない。体調が悪い時や台風等の時が心配。車免許を返上し、買い物や外出作業ができない。見守り訪問、話し相手がほしい。
- ・ 一戸建の家が多いため、庭木の剪定および草取りで悩んでいる。毎年、軽度生活援助サービス利用申請をしているが、多くて思うようにはできない。
- ・ 新興住宅地のため、なかなか近所との交流がないことに不安を持たれているように思う。
- ・ 食事や急病の時の対応。地区で行う班長当番への参加ができない。
- ・ ひとりの81歳の男性。電話もなく、連絡しても顔を出さない人である。たまたま会った時には、民生委員や近所には迷惑をかけない、別に生活をしている弟たちが世話してくれるからと話していた。近所も電燈の明かりには気にかけている。一応は身内の人たちだ。
- ・ 一部の人に家に閉じこもって、近所や地域の人たちとの交流がない人がある。
- ・ 急に身体に異変があった場合、どうしたらいいのか？
- ・ 何があっても連絡できるのか。
- ・ 人との会話など、一日も話をしていないこと。日常の食事、風呂などがだんだんしたくなくなる。だんだんボケていくこと。
- ・ ひとり暮らし高齢者は、病気やけがをした時が一番困るなど思っているようだ。その時は、民生委員や地域包括支援センター等に相談するよう教えている。
- ・ 食糧品の買い物。庭の草取りや植木の剪定。通院に伴う交通手段。
- ・ 急な病気や事故の場合の連絡方法。交通が不便な地域であるので、移動手段がタクシーになり、費用がかさむ。
- ・ 元気で自家用車の運転ができる人は、自分で買い物や病院に行くが、車の運転ができない人は困っている。コミュニティバスも1日2回しか来ない。近くに買い物できる店がない。JAみいの食材配達を利用している。調理は自分でしている。
- ・ 入院療養中で、ひとり娘は嫁ぎ、親と同居のため、退院後を嫁ぎ先でみていくのは、とても難しい。今年要支援の認定を取り消され、不満である。精神的な疾患であるため、夜ひとりにしておけない（退院後）。
- ・ 話し相手がいなくてさびしい思いをしている。テレビを観て、相手をしているようだ。
- ・ 日常生活では誰にも頼れないというような不安がある人が多い。
- ・ 男性の場合、食事が作れない。体が不自由の場合、買い物に行けない、また、近くに店がないなど。
- ・ 病気や他の問題が発生しても、家族が遠方で、すぐ対応できない。いろいろな問題があるかもしれないが、相談話は出ない。
- ・ 現在はいない。
- ・ 買い物が不便。ヘルパーを使って買い物をしている人がいるとしたら時間ももったいない、

他にしてほしいこと（家事、掃除等）があると思う。年金なども銀行、郵便局、JA 等に取りに行くにも大変だと思う。

- ・ 病気と終活について情報を得たいと関心を寄せているようだ。
- ・ 病気になったら、買い物に行くのも不自由なところがあると行きにくい。
- ・ 夜中の急病。日用品、買い物。
- ・ 行動を起こすにしても、車、自転車等がないために、少し離れた場所に行くための交通手段がない。コミュニティバスも時間的なことで利用しづらく、便利が悪い。
- ・ 病気になった時の通院手段。認知症になった時に発見が遅れる。買い物など。孤独になること。
- ・ ひとり暮らしの生活状態で違うと思う。何事でも参加され、外出もする人は事故、詐欺、転倒等と思う。外出が少ない人は、問題が多いかなあと思う。悩みを相談してもらえない、会話が少ない。子どもが近所において、食事の世話をしているところは安心だ。食事の用意ができなくなった時に、どのように世話するかが問題と思う。元気な人は、話し相手がほしいとか、相談相手がほしいとかあると思う。買い物はどうしているのか、車を持ち出かける人はいいけれど、車のない人は不自由している、買い物難民の問題もある。
- ・ 高齢者（87 歳）で、力仕事（庭の手入れ）、買い物等に困っていて、時々手伝っているが。
- ・ 地域のいろいろな活動に積極的に参加される人たちについては、仲間の人たちの声かけがあるが、働きかけをしても、家から出て来られない人もいる。近くに家族がいる人については、問題は少ないと思うが、訪問して声かけするくらいしかできない。
- ・ 元気な時はマイペースで、気楽なようだが、やはり、病気になった時が一番不安で、心細いようだ。特に近親者が遠くに住んでいる場合。キットを持っているが、電話通報ができない状況の時。
- ・ 自宅庭の手入れ、剪定等。買い物（日用品）。
- ・ 一番心配なのは老後の病気や食事のことと思う。今日は高齢者にはサービスがあり、行き届いて幸せではないだろうか？年金を持っているので、医療費も 1 割の人が多く、大変暮らしやすいと思っている。自分のことは自分で自立し、食事、運動、友人づきあいなど、出かける機会を多くとってほしいものだ。
- ・ 行動の不自由（買い物、家事、通院）。疎外感（子どもや孫が訪問しない）。子どもたちの世話になりたくない。これから先のことに対する不安、孤独死～葬儀。
- ・ ひとり暮らしで、転倒したり、病気で倒れたりした時、救急車等連絡することができない時もある。マンション等は、隣とのつながり等がないので、救急の時など、不安があるようだ。
- ・ 子どもたちが遠方にいるので、すぐには来られない。週 2～3 回は電話してくれるけど、心配だ。
- ・ だんだん年を重ねることに、体のことや買い物や食事の用意がつかなくなってきたとの声があり、一応、食事の件は宅配や家のなかの掃除、買い物などは相談するところがあると民生委員の方から会話はしている。ただし、親族の連絡が常にあっているようだ。
- ・ 買い物、停電した時（ブレーカーが落ちた時）。

- ・ 独居の人は、常に不安感と緊張感があると思われる（身体的、精神的）。身近に親しい人がいればいいのだが、日常生活において暮らしを守るのは本人だ。暮らしのなかで困ったり、悩んだことがあった時に、気軽に相談できる人がいればと思う。
- ・ 買い物、病院通いがひとりでは行けない時がある。話し相手がいない。
- ・ 相談相手が身近にいない。買い物。
- ・ 災害の時が心配。夜、具合が悪くなった時。
- ・ 病院に通うこと。ごみを出すこと。植木の手入れ。近所とのつきあい。ひとりでのさみしさ。
- ・ 食や住など、日常生活への不安、病気への不安、孤独感。自分で自分のことができにくくなった場合、どのようにして人間らしく、自分らしい生活を送り、終焉を迎えるのか。
- ・ 昼の弁当配達に月～土で、日曜日がないので、日曜日の食事の用意が大変と言っていたので、せめて第1、3か第2、4か毎週日曜日にも食事の配達をしてほしい。
- ・ 健康（心と体）がだんだん弱ってくる心配と、万一の時の心配が一番と思う。毎日の食生活はやはり気がかりと思う。
- ・ 自分がひとり暮らしになった時、訪問者等が怖い気がする。
- ・ 孤独死の不安。緊急時の対応。日用品等の買い物。台風等に備えるための事前準備。
- ・ 他人に迷惑をかけないように心がけている様子。「助けて！！」と言ってくださいと常に声かけをしているが。
- ・ 買い物に困ると言われている。急に具合が悪くなった時にどうしようと言われる。
- ・ 買い物、通院等の方法（タクシーを利用する人は料金が負担になっている。タクシー券等の配布等）。ひとりでいるとさびしい（訪問活動、サロンまたは交流会などへのお誘い、デイケア・デイサービスへの通所）。体調が悪くなった時の対応（救急キット、近所の見守り協力）。
- ・ 買い物、遊び、話し相手（さびしい）。交通手段がないことが多いので、市のバス等を利用してほしいのだが、なかなか外に出る勇気がないのでは？他人様に迷惑をかけないようにと、いつも思っているのでは？
- ・ 急に具合が悪くなったり、倒れたりした時に、どうするかということが一番心配なように思う。自分で連絡できればいいけど、できない時が、とよく言われる。緊急時の連絡の仕方について考えていく必要があるかなと思う。
- ・ 買い物の時、足腰が悪い人が多いので、福祉タクシーみたいな安価で利用できるものがあればと思う。

#### **高齢者夫婦のみで暮らす皆さんは、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか**

- ・ 夫婦のなかで、どちらかが認知症や寝たきりになっている家庭は、いずれかが看病のため行動の自由を奪われる結果、悩んでストレスがたまり、夫婦とも病気になって療養中の家庭が数世帯ある。
- ・ 高齢者夫婦の場合は、どちらかが病気やけがをして、家での世話が大変であっても、周りの人には何も話さないで、ひとりで頑張り過ぎる人もいる。
- ・ 妻が病気あるいは認知症があり、それを夫が支えている夫婦はかなり厳しい状況であった

(現在、妻は入所)。夫は高齢(90歳?)にもかかわらず、家事、炊事、妻の下の世話までやっていた。「家内と一緒に電車で飛び込もう」と何度思ったか分からないと話していた。介護する人のやすらぎの場、時間が必要だと思った。男性は弱さ、つらさを外に出そうとしない傾向があるように思う。

- ・ 高齢者夫婦といっても、80歳はまだ元気で、車に乗って行動している人が多い。友人、子どもなども訪問し、ひとりで孤独という人はいない。ふれあい食事会などに誘っても、ひとりになってからお願いしまう、という人が多い。今の高齢者は、みんなに迷惑をかけたくないという気持ちをしっかり持っている人が多い。
- ・ つれあいが病気したらどうしよう。
- ・ 老老介護の家庭では、女性の負担が大きい。逆に男性の負担が大きい場合もある。どちらかが病気やけがで介護をせざるを得ない家庭が大変だ。デイサービスなどがもっと気軽に受けられたら思う。
- ・ 3世帯ある。2世帯は夫婦ともに元気である。地域活動も含め、活躍している。1組の夫婦の妻が認知症で、夫が介護しており、今のところデイサービス、ショートステイ等、また地域内の手助けもあり、スムーズな生活をしている。夫のストレス解消も趣味等でうまくしている様子だ。3世帯ともに、家族が近いので安心だ。
- ・ (問題や課題) 高齢者夫婦のどちらかが健康を害した場合、大きな負担を強いられ精神的にも大きなストレスとなる。(解決策) 民生委員を主体として、定期的に訪問し悩みや不安を聴いてあげ、必要に応じて専門機関へ橋渡しをする。
- ・ 老老介護で、支えないながらの様子は、外から見るとほほえましく感じる。お互いをいたわり合うあまり、相手が病気すると、どうしたらよいかと不安になってくる。
- ・ 元気の間はよいと思うが、片方が弱られたり、入院されたりした時の心配。生活の心配等、地域のなかでのあり方等。災害が起こった時等の対応。
- ・ 高齢者夫婦で意見がまったく合わない時困る。助け合いができないようになった時。
- ・ 「つれあい」に万一のことが起きた時の対応の仕方。経済上の問題。
- ・ お互いが元気な時はよい。話し相手はいるが、老老介護が心配。
- ・ 新興住宅地のため、なかなか近所との交流がないことに不安を持たれているように思う。
- ・ 子どもたちとの同居の戸惑い(将来)。身寄りのない対象者の場合、不安が多くあるようです。
- ・ いざという時は、子どもたちを呼び寄せる。2人ともに同時に行くことはないだろうから・・81歳夫、79歳の妻の言葉。
- ・ 一部の人に家に閉じこもって、近所や地域の人たちとの交流がない人がある。
- ・ 買い物、掃除、身のまわりのこと等が不自由であり、依頼をしている。また急な病気になった時などにどうしようと心配している。もしひとりになったらどうしようと話ししている。
- ・ 急に倒れた時が心配、ひとりで対応しないといけない。買い物の交通手段がなく、いつまで歩きで駅まで行けるのか。体が悪くなる前に、家の改造をしたいけど。
- ・ どこに行くでも、交通などが不便であること。

- ・ 夫婦が元気で過ごしている時は、私たちも安心してている。しかし、妻が入院した時、夫は大丈夫だろうか、ひとりで生活できるだろうかと心配している。夫は入院した時は、あまり心配していないような感じを受けている。
- ・ 食糧品の買い物。庭の草取りや植木の剪定。通院に伴う交通手段。
- ・ 病気やけがをした時、どの病院が適切な治療をしてもらえるか、情報が入りにくい。一人が病気やけがをした時、配偶者に負担がかかりすぎると思う。
- ・ 妻が元気なところは介護しているが、逆に妻が病気持ちのところは、家事、掃除などができない。男性で介護している人は、大変苦勞している。
- ・ 買い物へ行くのにスーパーが遠い。今はまだ夫が運転できるのでたまに連れて行ってもらい、食材等を買って準備をしているけど、時間がかかるだけで、時にはやけどをする時もある。通院も夫の運転で複数の病院にかかっているが、いつまで運転できるか分からず、不安を抱えている（87歳から90歳）。風呂やトイレが旧式のため、使い勝手が悪い。
- ・ 車が無くて買い物等ができなくて困っている。また病院に行ったりすることなど。
- ・ 2人とも元気なうちはよいのだが、どちらかが病気や体が不自由になった場合、今の状況（自立しての生活）を続けていけるのか。日常の生活を維持するための買い物など、ちょっとしたことを頼んだりできる人が身近にいない。また交通手段がない。
- ・ ほとんどの人が、多少なりの土地（宅地、畑）を持っているが、草取りさえ難しくなり、畑として野菜など作れなくなって、維持管理さえできなくなっている。
- ・ 外出困難（車も運転は難しくなってくると思うので）。
- ・ 病気と終活を気にしているようだ、そして地区、近所の情報も知りたいようだ。
- ・ 病気のことや、夫婦のどちらか病気した時、看病するのも高齢で看病できるか？
- ・ 妻の認知症のため、デイケア、施設に入れている。デイケアのない日は、夫にわがままを言って困らせている。
- ・ 体が動かなくなったり、急病時が心配。
- ・ 老老介護のような形になるので、考え方を变えて、行政のいろんなサービスを受けるようにしたいが、なかなか認定までにはハードルが高いとのこと。緊急時の電話設置等、個人で設置は高額なのでできないとのこと。
- ・ 二人とも認知症の場合。
- ・ 車の運転をいつやめるか、問題。車をやめたら、買い物に不自由する、出かけるのに不自由する。病気がでたらどうする、介護をどうするで悩んでいる。子どもがどこにいるのか、世話をするか、で違うと思う。どちらかが亡くなり、ひとりでの生活をどうするか心配している人が多い。近所づきあいが意外と少ない、友だちが少なくなっていく、心細い。
- ・ 一方が疾病を有している場合、その世話ができない、認知症等になっている場合等、さらに大変だと思う。市バスが出ているが、ルートから離れている。停留所が少ない、そこに行くまでが遠い、途中で乗車できる方法はないのか？
- ・ 話を聞く限り、お互いに助け合っていこうと話し合っている。片方が病気になった時は、何とかできても2人ともが不自由になった時は、日常の生活、その他、非常に不安である。また、施設に入居希望があっても、待機する期間が長い状況であると聞いているので、な

おさら不安であるようだ。

- ・あまり困っていない様子。
- ・2人とも元気で生活できるときはよいのだが、妻が病気になると、夫はとても大変と思う。老老介護する側される側、今は子ども少ないし、自分の生活でさえ大変な時に！！いきなり施設にお願いするのもかわいそうだし、お金もかかるので、在宅支援がスムーズに回ればいいのだが。
- ・相方の介護。日常生活の不自由（通院、買い物、家事）。
- ・夫婦で暮らしていて、妻が病気、けがで入院した時は、ひとり暮らしなので、いろいろな生活面で悩んでいる（買い物等）。不安と、どんな人に相談をしていいのかが分からないそう。
- ・夫婦で元気な時は安心だけど、どちらかが具合でも悪くなれば、どうしようかと思う。子どもが近くにいても、うまくコミュニケーションが取れない。
- ・今現在、困ったことはないようだ。足が悪い、腰が痛いとかで、病院通いが日々の生活だと笑いながら話をうかがっている。
- ・買い物。相手の健康状態。
- ・心身ともに機能低下で、持病があり、コミュニケーションに夫婦間や周りとの関係で悩んだり、外出にも困っている人がいると思う。
- ・片方は病気になったり、介護が必要になったりした時は、買い物、外出に困る。隣近所の人に頼めば気を遣うので、急な時に頼めるボランティア等があれば助かると思う。
- ・老老介護。
- ・ひとり暮らしになった時、住み慣れたこの家で暮らすか、子どもたちの世話になるか考えるとの声がある。妻の方は趣味があるけど、夫はないので、自分が出かける時、小言が出るので出かけづらいとの声も。夫が運転できる間は、行楽等に行ったり、買い物にと不便を感じないが、車の運転ができなくなった時の不安があるとの声がある。
- ・2人なので、さみしさは少し少ないようだが、ひとり暮らしの人と、大きな差はないように思う。
- ・食や住など、日常生活への不安、病気への不安。もしひとりになったら、という精神的な不安。
- ・健康（心と体）が弱ってくると、ひとりだけがそうなっても、共倒れする心配がある。
- ・孤独死の不安。緊急時の対応。日用品等の買い物。台風等に備えるための事前準備。
- ・夫婦間の問題には、なかなか入りにくい。
- ・ともに元気な時はいいけど、いざ一方の具合が悪くなった時のことを心配すると言われる。
- ・2人とも元気であればよいが、どちらかに認知症が出たり、体調が悪くなったりした時の対応（地域包括支援センター、在宅介護支援センターと協力し、本人そして介護者のケアに努める）。
- ・アンケート調査を行ってほしい。
- ・急に具合が悪くなったり、倒れたりした時に、どうするかということが一番心配なように思う。自分で連絡できればいいけど、できない時が、とよく言われる。緊急時の連絡の仕

方について考えていく必要があるかなと思う。

### 【子どもや子育て家族の様子について】

**子どもたちやその家族の様子をみていて、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 子どもたちは塾やサークル活動等に励んでいることはよいことと考えるが、子どもの成長段階では、学校、地域、家庭のなかの地域が忘れられているように思う。なるべく地域の行事には積極的に参加するようにしてもらいたい。また、地域住民を含め、子どもと一緒にできる催し事を考え、つくりあげていくことも必要だと思う。
- ・ 共働きが増え、子どもたちも学校やクラブ活動と忙しく、三世同居が少なくなった今、家に帰っても、大人と一緒に過ごす時間が少なくなっている。また、子どもたち同士のつながり方がインターネットや携帯に代わってきていることが問題のように思う。
- ・ よくは分からない部分だが、ネット社会が進化していくなかで、人と人とのふれあいが薄くなっていくような気がする。言葉が軽く扱われているようにも思う。「言葉は気持ち」と伝えたい。「たいへんなこと」「面倒なこと」は大事なことで、親や親の親が実践していくといいなと思う。
- ・ 外で遊ぶ子どもが少ない（ゲーム、携帯などをしている）。親同士のつながりもあまりないように感じる。子どもも親も忙しい。これらは、両親とも仕事をしていることが多い。家にいる親でも周りに同年齢の子どもがいなかったりするので、家のなかでも狭い範囲での行動しかできない。祖父母と同居のところも多いので、日常のしつけはできると思うが、両親とも忙しく、今の子どもは少しかわいそうだなあ、と思う。
- ・ 子どもに対して、していいことと悪いことのけじめをしっかりと教えること。親自身が一生懸命働いて、一生懸命子どもをハグすること。人に対して思いやりのある子どもに。
- ・ 家内遊びが多い。パソコンや携帯電話などの機器と向かい合っただけの生活が問題。戸外遊びや自然とのふれあいの場を幼い時から親子で体験することと、また、動植物を育てること、野菜を育て、収穫し、食べるなど、空いた畑地田んぼ、農園などを利用し、収穫の喜びなど、親子で体験することなど、市としてこういった環境を提供していくことが求められていると思う。
- ・ 共働き家庭が多いので、余裕のない様子が感じられる。子どもたちも、塾、習いごと等の忙しいスケジュールのため、放課後の遊びができていない子が多いので、コミュニケーションを学ぶチャンスが少ないのでは、と心配している。子ども会、アンビシャス、BBクラブ等々あるが、どこにも入らず、孤立している子がいるのでは、と。民生委員・児童委員の立場では、ほとんど何もできていないのが現状である。
- ・ （問題や課題）共稼ぎ世帯が増え、子どもだけで家にいる時間が多くなり、防犯上問題がある。（解決策）各家庭での防犯意識を高めるような啓発活動に加え、防犯灯の増設、隣近所間での声かけなど、まち全体での防犯意識を高める。
- ・ 祖父母と同居等の家庭で共働きとなると、どうしても両親は祖父母に頼らざるを得ないが、やはり我が子は自分の手で育てたいとの両親の葛藤もある。祖父母と両親の子育ての方針

が異なると、なおさら子どもはどちらのいうことが正しいのか、判断しづらくなる。また、その逆で、祖父母に任せっきりの両親もいる。上手に過ごすには、お互いの立場（役割）で子どもと接するという考えも必要ではないか。

- ・ 安心して外で遊ばせられない。登下校についても同じ。
- ・ 金銭的な問題。市の援助が必要。
- ・ 祖父母と同居の家族はそれなりに面倒をみているが、留守家族は相手がいなくて預けている（または、ひとり遊びをしている）。どうしても祖父母には甘えがちで、基本的な生活習慣がおろそかになりがち。
- ・ 爺婆の口出しで、家族トラブル。
- ・ やはり近所づきあいが希薄であると思う。
- ・ 地域での活動（子ども会、育成会）よりも自分の子どもが好きなこと、家族優先の考え方がいかなものかと思う（野球、サッカーその他の試合が多いのも原因）。社会のなかのひとりとして、上下関係、協調性、発言力、リーダーシップなどに欠ける子どもたちが増えているように思える。親もそれに気づかない。
- ・ 今は生活が苦しくて、両親が働いているので、子どものしつけができておらず、ゲーム機器を与えて、子どもたちの遊びがなくなっているため、道徳が低下している。
- ・ 携帯電話やスマートフォン等の使い方について、少し問題があるように思えた。やはり、親子一緒に話し合い、心を通わせることが一番ではないかと思う。
- ・ 祖父母との同居の子どもは、学校が終わると自宅で祖父母が迎えに来てくれるが、共働きの家庭では、親が帰宅まで遊んでいる（学童保育の利用促進を）。
- ・ 生涯学習科の取り組みについて、家庭教育、学級解説して、親としてのあるべき姿、子どもの教育をすること。
- ・ 家族同士の会話など、時間的にも大人が気持ちにゆとりがないように感じる。
- ・ 近くで子育てしている家庭は非常に少ない。そのため子どもがいたら、目立ち、関心も高く、私のところでは、両親が別居し、子が両方に行ったり来たりして、多くを祖父母宅で過ごすなど、大人がそのような環境をつくって、親子関係を引き裂いている問題があるが、立ち入りはできない。
- ・ 子どもを保育園に預けることができても、病気の時など、特に母親に負担がかかり、職場でも嫌味を言われたり、働きづらいことが多いので、病気の時に預かってくれる施設があるとよい（時間も 20 時くらいまで）。
- ・ 夫婦げんかして、子どもを連れて妻が家を出ているみたい。小中高、成人の子どもたちは、どうしているのか？心配だ。
- ・ 行政からのサービス等を知らない親もいると思われるので、広報や学校等で教えることも大切と思う。
- ・ 直接親に聞いてみたらどうだろうか？聞き取りできる場を設定してはどうだろうか？
- ・ 家庭不和による児童の非行化は多いと思われる。家庭不和は個人の資質に起因することが多いので、解決策は、その個人の生き様で、何ともできない。
- ・ 子どもが小さい頃は、家庭内はスムーズにいくのだが、中学校になれば、ジジババは無用

で、病気でもすれば、すぐ通所や施設に入れるようにしているようだ。

- ・ 家庭によっては、生活に追われ、子どもへの手当が十分にできない。教育（内容と質、学習の機会）。保育制度の欠陥、待機児童。学童保育。
- ・ 核家族や両親が働いている世帯が増え、子どものしつけがおろそかになっていると思う。子どもに問題が起きたりした時、社会が悪い学校が悪いというけど、家庭でのしつけが一番大事と思う。
- ・ 親が親としての務めをしていないように思う。
- ・ 「いじめ」が後を絶たない。「インターネット」等によるトラブルの増加。
- ・ 子どもがだんだん少なくなって、いろいろ体験することが少ないので、行事等で外に出て体験するとよい。
- ・ 核家族化し、共働きの世帯が多く、昼間は保育園等で過ごしている子どもが大半であり、生活時間が大人の都合になっている家庭が多い（夜遅くまで起きている子どもがいるのでは？）。昼間、母親と2人で過ごしている子どもも少数であるが（子育てサロン等への参加。母親たちの情報交換の場、ホッとする場をつくる）。
- ・ 行政、その他の機関のサービス、行事等があるが、活用されていないのでは？また、反対にスポーツ等に熱心で地域とのかかわりを持たなくなっているのでは？市、地域の行事に出やすい魅力的な行事があったとしても乗る気ではない。自己中心的な風潮になっているので（行政の人がアイデアを）。

#### **両親と子どもだけの家族では、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか**

- ・ 子どもがお年寄りの人に対する接し方（話し方）が分からない。高齢者も子どもとどのように接したらよいのか分からず、優しいばかりになる傾向がある。親も子どもも近所の人とのつきあい、お年寄りと多く接してもらいたいと考える（孤立しないためにも）。
- ・ 共働き家族が増加しているため、親子で一緒に過ごす時間が少なくなっていると思う。夜の短い時間のなかで、食事をしたり、勉強をしたりなど、お互いに自分の気持ちを十分に伝え合う時間があるのだろうか。我慢をしたり、すれ違ったりがあったりしているのではないかと思う。
- ・ 親同士子育てについて、日常的に話せる仲間がいない家庭では、母親がひとりで悩んでいるケースがあるように思われる。たとえば、不登校の家庭、親子関係がうまくいかない家庭、「弟（小6）ばかり可愛がる。私（中3女）には愛情を注いでいない」。
- ・ 病気の時（親・子ども）。子どもが下校した後の時間の使い方（親は20時すぎにしか帰ってこないケースもある）。子どもの友人関係が分りにくくなっている（携帯などの関係で）。日常のしつけをする時間が親にない。すべて学校まかせにする。小さい子どもは家庭が第一ということを知ってほしい。
- ・ 子どもが高校生になるけど、入学金が払えない、社協を教えて借り入れてきたのだが、今度は返済ができない。子どもが一度学校を卒業して就職できたけど、事情があり仕事をやめたら、次の仕事がなかなかみつからず、みつかったもパート的な仕事ばかり。
- ・ 子どもが病気になった時、共働きの家庭では仕事を休まなければならない、病児保育をしてくれる保育所や病院などの施設がないところで、どうしたらよいかという悩みがある。学校

では夏休みなど長期休暇での子どもたちの昼間の様子をみてくれる人いない(学童保育に入っていない子など)。

- ・ 悩みがあっても、親（特に母親）が、信頼して相談できるところがあるのか？と。学校の先生に話しても理解してもらえなかったと話す母親の意見が聞こえてくる。主に、友だち関係のトラブルの対処法である。
- ・ 不登校、いじめ問題等があった場合、どのような解決策を取ればいいのか分からない家庭が多い。地域懇談会では小学生、中学生の不登校で悩む保護者が多くみられた。
- ・ ほとんどの家庭は共働きが多いなか、長期休暇（夏休み、冬休み等）や放課後、子どもの居場所を考えなければならない。低学年の間は絶対的である。
- ・ 子どもたちが成長していくうちに、親と子の意見が食い違う。家族で納得するまで話し合う。
- ・ 子どもの面倒を十分にみてやれない。経済的な不安。
- ・ 共稼ぎが多く、子どもの相手、世話ができない。若い母親父親で子育て経験がなく、戸惑っている。婆ちゃん役の子育ての相談相手がほしい。
- ・ 他の家族との交流の場が少ない。
- ・ 友人や勉強面ではないかと思われる。また、学校または家庭内で約束したこと等を守っているのかなあと。親だったらその点が一番心配しているのでは、と感じる。
- ・ 学校が終わって、自宅に帰っても、両親は仕事でいない。親が帰ってくるまでの間の子どものことを心配している。農村地帯は、住宅が点在していて隣近所に住宅がないところもある。
- ・ 親と子どもの家庭ではできるだけ親子で話し合いができる時間がほしいと思われる。
- ・ 両親とも働いている人が多く、子どもが突然病気したり、けがしたりした時、すぐ預けることができる施設がない。
- ・ 母親との血のつながりのない家族で、子へのいじめ問題があり、父親がどう対処すればよいか苦悩している。
- ・ 仕事との両立。
- ・ 夫婦共稼ぎで、子どもたちが病気した時。
- ・ 昼間の時間、子どもと若い母親のみの時、話したり、相談したりする人がいない。
- ・ 小学5、6年～中学3年間のほとんどを不登校（引きこもり）、2年半（10回ほど）子どもに声かけするも、家より外へ出ない。両親もどう考えているか、計り知れない。
- ・ 幼児のころは、経験の少なさから、経験豊富な近隣の高齢者の助言がいる。子どもの元気、子どもの一時預かり。
- ・ 生活のゆとり。子どもの教育（子どもの指導がうまくできない）。
- ・ 親子関係が悩みではないだろうか？子どもの成長に応じての親の接し方が課題では？と思う。核家族化でいろいろ困ったり悩んだりしても、誰にも相談できない親子がいるのでは？と思う。
- ・ 両親共稼ぎの家庭がほとんど。親の帰宅時間までの子どもの留守番。預ける場所がない。
- ・ 子育ての悩み等を相談する経験者がいないこと。

- ・ 母親が仕事をされている家族が増えている。
- ・ 育児に悩んでも相談する相手がいない。
- ・ 保育園や幼稚園や小学校でアンケートを取っては如何か。

### **母子家庭や父子家庭では、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか**

- ・ 子どもと一緒に生活するためには、仕事に労働時間等の条件をつける必要があるため、仕事が決まらない、また、続かないことで困っているとのこと。病気になった時（長期）、面倒をみることができないので、生活が乱れてしまうこと。
- ・ 親がひとりで仕事をしながら、父親役、母親役をしなければいけないので、大変だと思う。子どもが小さい時は、保育園の送迎や、学校の行事などいろいろあるし、相談したいことがあっても、自分で考え、決断しなければならないので、精神的にも大きな負担があると思う。
- ・ 祖父母の支援で何とか生活していつている家庭が多いのではないだろうか。地域行事、公園の草取り、PTA 行事、交通安全、旗振りに立つ、プール当番、学校説明会、制服の注文、ゼッケンの縫い付け、ボタンつけ、服の繕いもの等、病院、塾の送迎。両親がいれば、できることがひとり親では難しいことがある。一つひとつは細かいことだが、どれも手が抜けない。祖父母も生活面での支援は、頑張っても、孫の孤独はうめられない（死別の場合は特に）。孫自身、だれも助けてくれない、乗り越えるしかない孤独があると思う。
- ・ 両親の役目をひとりでしなくてはならない。子どもの成長に合わせて、育てていくのがひとりでは大変。
- ・ 父子家庭の場合は、父親の帰りが仕事で遅くなり、朝晩の食事がうまく取れず、学校も休みがちで、遠くの祖母に電話して、というケースもあった。
- ・ 母子家庭・父子家庭の把握ができていない。知り合いの人から聞く分は、母子家庭は経済問題、父子家庭は祖母と同居で、子どもたちの生活は安定しているが、PTA の役員をしないとかで、陰口を言われる等、悩んでいる。友だちとのコミュニケーションについて、幼い頃、母子一緒に遊ぶので、誘ってもらえないことなども悩みになっているようだ。
- ・ 保護者はひとりでも何役もの仕事をこなさないといけないため、気持ちの余裕が無くなり、精神的な安定が少ない（すぐに感情的になってしまう）と思われる。子どもの気持ちの変化に気づかなくなり、常に後追い対策になってしまう。つまり事案の予防ができなくなる。
- ・ 大人ひとりと子どもの関係では、家庭内で大人が子どもを叱った時に、子どもの逃げ場、掘りどころが確保しづらいのではないかと（家庭外でも信頼できる子どもの居場所づくりが必要）。
- ・ 母、父が元気で働いている時は、それなりのことが子どもにできるが、子どもたちが小さい時、親の病気が一番に悩み。金銭的な悩み。
- ・ 母子家庭が一軒あるが、故郷に帰って両親と同居。特に問題はない。
- ・ 経済的な生活が心配。友だちなど悩みごとの相談相手がほしい。サロン、行事などへの参加もできない。
- ・ 生活水準の向上。

- ・ 母子家庭で育った子どもが、3歳の子どもを連れて現在母子家庭で生活している。困ったり悩んだりではなく、若い人で結婚して4年か5年でのこと、はたからみていると、気楽に楽しんで生活しているように見受けられる。夫が単親赴任だろう思っていたら、違っていた。区だけでも母子家庭の世帯が多いように思う。
- ・ 児童とはあまり深く接しないので分からない。
- ・ 母子家庭では、働くことと子どもの世話で大変だが、生活していくための収入が少ない。
- ・ 小さい時は親の愛情でいいと思うが、成長すると母親もしくは父親ひとりでは難しいと思う。
- ・ 経済的に厳しいところが多く、親の経済力が子どもの教育や習いごとにも影響している。また、子どもに習いごとをさせるには、送り迎えなども必要となり、時間的にもさせてやれない。
- ・ このような家庭は、私のところにはないが、民生委員相互で話した時、両親がいればそんなに問題はない、と聞く。両親が別れ、どちらか一方の親の家庭では、やはり経済的にも困るところが多く、女性の場合、私の知るところ、夜（スナック等）に簡単に勤め、その間、子どもの世話ができず、本当に子どもは大丈夫だろうかと考えてしまう。
- ・ 母子家庭は数世帯あるが、現在は祖父母と同居していて、特に大きな問題は無いようにみえる（母子家庭ということでのいじめ等はある様子）が、経済面では悩みがあるかもしれない。
- ・ 学校行事への参加。平日だと仕事を休まないといけない。職場は理解がない。職場への直接理解をお願いする（官公庁の業務として）。母、父だけではできない子どもたちの悩み相談の場所。
- ・ 仕事と家庭と子どもの教育やしつけのことを気にしている様子。
- ・ 子どもが急病になった時に親がすぐに帰って来られないことが心配。学校が終わり、子どもは自宅に帰るが、親がいない時間が心配。
- ・ 保育園、小学校等との懇談会では、子どもたちの家庭環境等、聞いているが、私たち（民生委員・児童委員）ではどうにもならない。行政も積極的に園や学校との懇談会等を計画したらどうだろうか。
- ・ 金銭問題（仕事）。自分が病気とか入院した時の子どもの面倒。
- ・ 経済問題。親が働いていることが多いので、下校後の子どもの生活にかかわれない。分からない！！
- ・ 母子家庭では経済、父子家庭では生活全般、要するに死別離婚等がなければ、不自由しないようだ。
- ・ まず生活するのにお金と労力ではないだろうか？
- ・ 経済的な問題（衣食住）。教育。父親母親の二役をこなさなければならない。
- ・ 母子家庭や父子家庭に相談を受けたことがないので分からない。勤務（留守）の時間、特に子どものことが気になると思う。隣人の気配り、地域の皆さんたちの協力、見守りが必要と思う。
- ・ 親子関係、経済面、社会的な立ち位置？、地域（社会）とのかかわり。誰にも相談できず

に、「うつ」の人もいるのではないかと思う。ひとり親家庭の子どもの貧困率が増えているようだ（就学援助対象者も年々増加しているとか）。気になる。

- ・ 親の帰宅時間までの子どもの留守番。預ける場所がない。
- ・ 母子家庭：経済的にとても厳しいと思われる。そのため、母親は体力的にも無理をして働かざるを得ない。経済的に余裕があれば、子どもとの時間も持てるし、塾にも行かせることが可能かと思う。父子家庭：食事の面で、できたものが多くなり、父親の帰りも遅くなることが多いので、子どもたちのみの食事で、温かさが必要と思っているのでは。
- ・ 経済面での不安。子どもたちと接する時間の少なさ。両方の親の役割をひとりで果たさなくてはならないことへの精神的不安、負担。
- ・ やはり経済的に大変だと思う。
- ・ 経済的なこと。片親ということで、しつけ面が十分でない。子どもの将来への不安。
- ・ 母子家庭では母親が、父親の役目までしないといけないので、それは大変と思う。父子家庭はもっと大変と思う。
- ・ 母子家庭の場合：経済。父子家庭の場合：養育。
- ・ 仕事等で子どもとのコミュニケーションが取れていないのでは？子どもが保育園、小学校で急に発熱等をすると迎えに行けないといけないので、仕事を休むことができないつらさ等があるのでは？

#### 【障害のある人やその家族の様子について】

**障害のある人や障害のある子どもの様子を見て、どのようなことが問題や課題であると思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。**

- ・ 日頃、障害のある人に接した時は見守り、時には心配りが必要と思うが、必要以上に手を差し伸べることはないと考えている。健常者と同様が良いと考える。精神的に障害を有する人は分かりにくいので、対応に苦慮する。
- ・ 地域のなかで障害のある人や子どもが、どこにいるのか情報がなかなか入ってこない。知っていても会う機会がほとんどないという状況だ。
- ・ 身近にいないので、直接的には分からないが、さまざまなネットワーク、市の福祉などを使って、少しでもよい方向に解決していく。ただ、親切だけではすまない問題があると思う。
- ・ 学校や地域で安心して生活できる環境をみんなで作っていくことだと思う。特に災害が起きた場合、障害のある人をどうやって避難させるか、どこに避難したらいいか、不安な人もいる。隣近所や各区で、どこに障害をもった人がいるのか把握する必要があると思う。特にひとり暮らしの高齢者や障害をもった人の対応を細かく把握する必要がある。
- ・ ハード面は、学校施設等、手を打ってあるので大丈夫かと。ソフト面でも、助け合う心を先生が子どもたちに教えてもらっている。かかわっている子やクラスは、意識が高まるが、関係のない子どもたちへは、なかなか・・・全体としての教育も必要だし、地域も心がけたいと思う。運動会の時、大きな拍手で応援している。いつもそうありがたい。
- ・ （問題や課題）障害のある人に対する物的な支援もさることながら、障害のある人が抱え

やすい精神的な問題への支援が少ないように思われる。(解決策) まず、障害のある人が抱えやすい精神的な問題が何であるのか。専門家の講演等で地域が理解することからはじめ、その対策を地域と行政が一体となって推進していく。

- ・ 障害のある子どもの放課後、日中一時預かり等、受け入れ施設が非常に少ない。受け入れ可能な施設ができれば、家族に余裕ができ(時間等)、本人を見つめ直すことができるのではないかと。
- ・ 障害のある子の学校選択に苦慮。周りへの相談などが少ない。周りから口出しはしにくい。
- ・ ひとりで抱え込んでいる様子がある。地区のかかわりがないと分からないのが実情だ。
- ・ どの人が障害を持っているのか不明のため、問題も課題もみえない。
- ・ 一般的にはあまり見かけないが、もしいたら、一緒に遊ばせるようにした方がいいと思う。
- ・ 昔に比べ、差別は少なくなってきていると思うが、まだ家族や、その人だけの問題になっていると思う。市としての解決策としては、地道な人権教育の推進、施設設備のバリアフリー化、本人や家族へのケア。
- ・ 現在は、自分の親でも体の一部が不自由になるなどしたら、家庭で世話するなど、多くの人が考えておらず、そのようになったら、すぐに施設などへの入院(所)のことしか頭にないと思う。
- ・ 生活費の確保の問題。雇用の問題(障害者雇用は、謳っているが、実際には厳しい現実だ)。地元企業の理解。子どもたちへの教育。
- ・ 役所からの積極的な声かけ。保健師、ケースワーカー、福祉関係者・・・。
- ・ 障害のある人を接見させないようにしており、当方もプライバシーのこともあり、かかわらない。
- ・ 自立(生活と収入)。生活力。
- ・ 障害の立場になって、親身になって考えてくれる人や偏見な見方をする人たち、人の心は分からない。ただし、障害のある人の身内の前では言わなくても、分からないところでは、障害に偏見な見方をする人も無きにしも非ずだ。障害のある人の施設を見学し、楽しく頑張っている皆さん同士で生活している。
- ・ 「障害は個性である」という認識が地域のなかで不足していると思う。そのためには啓発活動で、私たちの物と心の両面のバリアをなくしていくことが重要であり、健常者と同等に権利、身分保障につながるように権利擁護の運動など、重要ではないかと思う。
- ・ 社会全体でやさしく見守り、手助けできることは、積極的にしてあげたい。障害のある人や家族も遠慮せずってほしい。身近にいる人にできることもあると思う。
- ・ 周りの人たちの理解のなさ。社会参加への機会の少なさ。
- ・ 大人の障害のある人の場合、やはり障害の程度、種類で違いはあると思うが、外出等が思うようにできないのではないかと思う(安心して外出できるような、ハード、ソフトの面での環境を整えることが必要)。子どもの場合は、学習、友だち関係等に問題があると思う(学習支援は当然であるが、心のケアも必要)。
- ・ その家族からのアンケート調査を実施してほしい。民生委員だけの問題としてはよく分からない。広い意味では小郡市全体で考えていく問題だと思うし、また議員等に積極的に取

り入れてもらう問題（考えてもらう）だ。

### **障害のある人や障害のある子どもがいる家族の様子をみていて、どのようなことに困ったり、悩んだりしていると思いますか**

- ・ 家族と接する機会がないので分からない。
- ・ 私が知っている人は、子どもが特別支援学校に行っているが、通学バスに乗っていきることができないので、送迎をしなければならない。家にいる時も、ひとりにしておくことが難しいので、お世話をボランティアの人をお願いしているが、仕事をしているので大変といわれた。
- ・ 夫は若年性認知症で、元気で外歩きが好きで、いつも妻は、周りの人たちを気にしている。
- ・ 高齢者の人もそうであるが、道路や階段などの段差を早めになくすことが必要だ。車いすでの歩行がスムーズな道路づくり、エレベーターの設置などが急務だと思う。
- ・ 一時期、車いすの高校生を学校まで朝だけ送っていた。母親の明るさ、一生懸命さと、本人の感謝する思いに、できる限りの手伝いをした。負担を感じさせないように、とは心がけたが・・・。申し訳なさを感じなくて済むような行政サービスをお願いしたい。ハード面ソフト面両方で支えてほしい。
- ・ 障害のある人の生活支援に家族の負担が多くなり、家族の生活に制限を受けてしまう。障害のある人の将来に対する不安がぬぐい去れないため、精神的なストレスが大きい。どうしても家族間で障害のある人を特別扱いしてしまう。
- ・ とにかく今を子どもと一緒に一生懸命だと思う。やはり、将来、ひとり立ちできるだろうか、いつまでも一緒にいられるわけではないのだからと、子の将来について悩んでいる。
- ・ 体だけの障害だけでなく、メンタル面のケアが必要と感じる。
- ・ 自分が知っている数名の人（家族）では、仕事、パートなどに出られない。子ども優先になっている。
- ・ 親が年を取っていくなかで、子どもは大きく（身体的に）なり、どこまでやれるのか。
- ・ 保護者が高齢のため、将来の子どもの生活の保障が、現在ではみえないので、不安感が強い。
- ・ あまり見かけない。
- ・ 親としては自分が死んだ後、その子が自立して生きていけるか、時に経済的な面とか、他のきょうだい、家族だけに負担がいくのでは。
- ・ 本当に見放された者はおらず、ひとり不自由に暮らしていても、近くに住む親きょうだいが食事の準備（弁当など）をするなどしている。
- ・ 差別。
- ・ 同情はしてほしくないと思う。差別をしてほしくないと思う。
- ・ ありがたいというべきか、周りにこのような家族をみることがないので、分からない。
- ・ おそらくは、近隣住民の好奇心な眼に困惑しているだろう。
- ・ 障害のある人の親が高齢者になり、身のまわりのことができない人たちが増えている。また、障害のある人のきょうだいも生活があり、面倒をみられない家族が増加、障害者施設が必要だと思う。

- ・ 周りとうまくいかない。孤立、自尊心が低い。自分に自信が持てないなど、自助グループに参加し、同じような障害のある人とのかわり、孤立感は幾分和らぐのではと思うが、実生活のなかでは、厳しい現状があるのではないだろうか。障害のある子を持つ家族は、養護する親が高齢になるにつれ、子どもの将来に不安を持っているのではないかと思う。
- ・ 障害のある子どもの将来についての不安。周りの人たちの理解のない言動。
- ・ やはり、ハンディのある人を抱えている家族の心身の負担は、大変なものであると思う。
- ・ 市のサービス等を積極的に使うよう、勧めたいが、失礼にあたるのではとも思う。アンケートなしでは状態がつかめない。

**高齢者や子ども、障害のある人、またその家族を支援する行政サービスについて、どのようなことが問題や課題だと思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか**

- ・ 地域で問題があれば、区長等、家族と相談しながら、市役所、地域包括支援センターなどに行き、今まで一応解決してきた。今は以前に比べ、福祉もさまざまな対策があるので助かる。このサービスを個々人に合った解決策をうまく見つけながら、手助けしていきたいと思っている。
- ・ 市役所が遠い。手続きは仕事のある家族、民生委員でもあり、土日祝日の休みは無しにしてほしい。
- ・ いろんな要望・相談で訪問するが、内容によっては、市（福祉）の担当者も同行するなど、現場をもっと知ってもらいたい。何でも申請、申請主義というが、その書類さえ届けることができない人がいる。市の方から出向くことはできないのか。
- ・ 行政のサービスを知らない人が多いと思う。区単位で広報活動するように形にするとよいと思う。民生委員だけではやりづらい。
- ・ いずれにしても、行政側が地域に出て行っていない！！
- ・ 3者とも過剰なサービスはないように思える。高齢者はデイケアに行っているなら、その施設、児童であれば、学校、幼保、障害の場合は、その施設で、注意を払えば解決できると思う。
- ・ 支援する行政サービスの人員不足はないか？
- ・ 月を振り分けて（高齢者、子ども、障害のある人の日）を設けて、サポートできる人を募る。また、サポートする人はいつも同じ人だと思うので、地域で研修を受けるよう、義務づけるとよいのでは（隣組長の当番の時など）。

**【高齢者】**

- ・ 多くの高齢者は、常にどこかに出向きたい、何かをしたいと思っていると感じる。現在民生委員によるサロン活動を行政区公民館で実施しているが、少々負担に感じている。行政サービスとして専門職員を派遣、対応してもらえないだろうか。
- ・ 高齢者に対する支援サービスについて、その内容を知らない高齢者が多いように思われる。年齢とか費用のことなど、もっと知らせる機会が必要ではないかと思う（公民館で説明するなど）。

- ・ ベレッサ号のおかげで、大分、買い物や病院へのアクセスはできた様子であるが、便数の少なさや、まだ働く世代が多く、ボランティアも大変かと思う。行政の支援がさらに増えてほしい。
- ・ （課題）高齢者が抱えている大きな問題のひとつは、交通手段の確保であり、特にひとり暮らしの高齢者にとっては死活問題である。（解決策）コミュニティバスの本数増、自治会バスの普及など的高齢者が容易に利用できるバスを提供。
- ・ 病院料金等を低額、または無料。
- ・ 緊急連絡が取れるように直通電話等を設置する。
- ・ 行政の支援サービスは準備されていても、内容、利用方法についての的確な指導、伝達できていない。
- ・ 今のところ、安定している体制だと思う。
- ・ 小規模多機能型介護施設の増設。家庭で介護する家族への支援の充実（認知症など）。情報提供。
- ・ これから先、病気等で動けなくなったらどうしよう、また、寝ている時、急に動けなくなったらということが一番心配だと思う。救急車やボタンで知らせることがいいのではないかと思う。しかし反対に、少しのことで、常に救急ボタン押されると、また困る。その判断が難しく思う。しかし、高齢者が安心して、毎日を送ることが大事と、常に私自身心に思って過ごしている。また、毎月高齢者の人には、そのことを念頭に声をかけている。
- ・ 病気で自宅にいる場合、専門的な保健師などの訪問があれば助かる。
- ・ ひとり暮らしの場合の体調が急に悪くなった時の対応：緊急通報システムの利用拡大。日常生活で、同居高齢者も含めて、デイサービスの活用増加（デイサービスに行くことに違和感もある）。
- ・ 地域の人について、もっと声かけなどしてつながる工夫。ボランティアの呼びかけなど。行政としては、そのための費用（予算）も組んでほしい。
- ・ とにかく訪問して、話を聴き、話をしてやるのが喜ばれる。
- ・ 何を求めているのか、温度差があるように思える。
- ・ 区分けしないで、総合的に解決する（関係者、親戚等に連絡）。
- ・ 行政のサービスもよくなってきている。
- ・ 現在の行政サービスで十分と思う。
- ・ 高齢者を支援・サポートする体制は、整いつつあると思うが、施設通所・入所にしても、まだまだ施設不足を感じる（待機数が多い）。行政サービスの周知がまだまだで、利用できる人や家族が知らないでいる。
- ・ 寝たきりにならないための予防は大切だと思う。しかし、中学前区では公民館がなく、健康体操やサロンなどなかなか計画できていない。市や社協の方で進めてもらおうと助かる。

## 【子ども】

- ・ 学校の先生との懇談会を小学校の場合、年3回実施している。子どもの問題は家庭環境にあるようだ。両親の離婚や病気などで、心配りを子どもに向けることを親ができていない。
- ・ 遊べる場所、児童館のような施設がほしい。安心していれる居場所づくり。

- ・（課題）たとえばボール遊びができる場所が極端に少なく、子どもたちが外で遊ぶ場所が少ない。（解決策）公園を子どもたちが自由に遊べるように各種対策を加える。
- ・共働きの家庭が多くなり、学童保育を希望する者も増えている。学童保育上の安全性の充実を（利用者に対しての教諭の数、施設の充実）。
- ・病院料金等を低額、または無料。
- ・もっと地域とかかわる教育を持った方がよい。
- ・集落が点在して、登下校の防犯が心配。コミュニティバスが利用できる時間調整とバスの増加。
- ・放課後の子どもの生活を支える。たとえば学童保育の内容の見直し。
- ・子どもには、声かけから一歩進んだ話しかけをすると、非常に関心を示すようだ。
- ・思いやりのある子が増えてきた。
- ・行政はもう少し目を向けてほしい。
- ・学校の空調設備が必要であると思う。外で思いっきり遊べる環境の整備が必要（ゲーム等にはまり、インドア傾向にある）。ひとり親世帯が増えているため、学習、経済支援が必要。

### 【障害のある人】

- ・数名の障害のある人がいるけど、透析などが必要な人を専門の人がみているので、現在のところあまりかかわることはない。
- ・地域内はバリアフリーであるが、接点が少ないので、一緒に何かできるイベントを考えてほしい。
- ・（課題）障害のある子どもをもつ保護者の経済的、精神的な負担が大きい行政サービスが不足。（解決策）現在の40歳以上からになっている介護サービスの年齢制限を排除し、誰でも受けられるようにする。
- ・重度の障害（1～2級）のある人に対してと、3～4級以下と認定された人が利用できるサービスがかなり違っている。ぎりぎり3級認定者は利用できないサービスが多くなる。補助等の対応ができないか（級に応じて）。
- ・病院料金等を低額、または無料。
- ・情報があまりないと思う。
- ・60歳の女性だが、ポネット等で病院等に連れて行ってくれるので、民生委員は大変助かっている。現在、ヘルパーに来てもらい、日常生活を過ごしているので、見守っている程度だ。
- ・精神的に不安定な人が少しずつ増加しているが、対応の仕方がよく分からない。
- ・障害のある人のタクシー利用サービスの回数（現在5回／月）の増加。
- ・家族や本人だけの問題にしない。作業所などのハード面の充実。差別がなくなるような人権問題への取り組み。
- ・あまり深く話したり、聞いたりすると、反対に取られることがあった。障害のある人とのかかわりは非常に難しい。
- ・まずは家から出ることなどを支援する場所。

- ・ 現在のままでいい。
- ・ 皆が気をつけてみてあげることだと思う。
- ・ 正直、どのような行政サービスがあるのか、ほとんど知らない状況である。サポネットは知っているが、その利用の仕方に限度があり、障害のある人へのフルサポートには程遠い感がある。

**高齢者や子ども、障害のある人、またその家族を取り巻く地域の様子を見ていて、どのようなことが問題や課題だと思いますか。また、その解決策として、どのようなことが考えられますか。**

- ・ 高齢者に関しては、高齢者同士でお互いに助け合ったり、地域の人が声をかけたりしている様子が見受けられるが、子どもや障害のある人に関しては、情報が入ってこないため、地域全体的にはかかわりをもっている人が少ないと思う。
- ・ 担当地区は昔からの顔見知りが多いので、隣近所みんなで見守るという意識ができあがっている（区の行事も多く、協力の意識はできているし、顔も分かるという地域である）。そのため、協力者も多く、助かっている。子どもを持つ親たちには、まだその意識が少ないようなので、地区懇談会、交通指導などの機会に知らせていきたいと思う。これからも地区の人、ひとりでも多く協力者を増やし、意識を変えていこうと思っている。区のみんなを巻き込みながら活動していきたい。
- ・ 高齢者と子どもが互いに、学校やサロンなどに参加していく場をつくるとよい。
- ・ 全般的に自分の家族のことが中心で、周りの人のことまで考えている人は少ない。協働のまちづくり事業を推進するなかで、地域で高齢者等に対する支援策についても具体的なものを示し、助成するシステムを考えてほしい。日頃の地域でのふれあい活動を充実する事業。
- ・ 問題や課題という点を問われているが、なかなか難しいことと思う。その都度、何か問題が起きて、民生委員に相談し、地域包括支援センター等で一緒に解決していくことがよいのではないかと考えている。地域住民も、子どもに会ったら「あいさつ」をすることが、一番心が通じていろいろな問題が起きないのではないかと考える。私たち大人も、知っている人にはあいさつをするが、知らない人にはしない。そのため、子どもにもあいさつをすることが少なく、問題が起きて知らないことが多いのではないかと考える。そのため、朝会っても、大人も子どももあいさつをせず、知らぬ顔をしていることが多く感じる（地域で起きる事件や、泥棒の件も、みんながあいさつをすると無くなると思える）。市役所に出向いた時も、あいさつは知っている人にはしても、一般的に私たちには、または一市民に対して、なかなかあいさつをしていないのではないだろうか（学校の先生たちも、学校の校舎内であっても、あいさつをしない人が多い）。
- ・ 周囲の者がどのような考えで接するか、見方をするかで、ずいぶん解決すると思う。
- ・ 孤立化させない。声かけ、あいさつ。日頃の隣近所との関係が大切。必要な支援を行政につなぐ役割の一端が民生委員にもあるのでは、と思っている。
- ・ 月を振り分けて（高齢者、子ども、障害のある人の日）を設けて、サポートできる人を募る。また、サポートする人はいつも同じ人だと思うので、地域で研修を受けるよう、義務づけするとよいのでは（隣組長の当番の時など）。

## 【高齢者】

- ・ 高齢になると頑固（すべての人ではないけど）になるため、仲良しであった人が険悪な状況になる（他方は病気の場合あり）、また、高齢者が多くなり、近所トラブルが多くなってきたように感じる。
- ・ 高齢者のひとり暮らし、妻とは別れ、経済的にはどうにかというくらいだが、ひとりでの食生活がうまくできないで「うつ」もあり、酒は飲む、生活が乱れて・・・私の方がどうしたらいいのか、問題提起したい。
- ・ 比較的恵まれた高齢者が多いので、問題は少ないと思う。ただ、地域内に親しい人が少ないことで、さびしい思いをしている人が多いかと。民生委員も含め、区としての課題で解決することかと。
- ・ （課題）高齢者のサークルやイベントへの参加者はごく限られた高齢者のみで、多くの高齢者は地域活動が少ない。（解決策）イベントをできるだけ多くの高齢者が参加しやすいような内容にし、できるだけ参加してもらうように本人のみならず、家族からも参加を勧めてもらう。
- ・ 昼間ひとり暮らしの人を対象（70歳以上）に、家に閉じこもりがちな人を少しでも減らせればと、地域でサロン（集い）に取り組んでいるが、まだまだ参加が少ない。月の2～3回でも子どもとふれあえるような場所（空き教室等）の確保。
- ・ 周りが声をかけ合い、困っていたら世話をする。老人クラブやふれあいネットワークで、ある程度実施している。定期的な集まり（行事）を実施している。
- ・ 地域で温かく見守りができる環境づくりが必要。向こう三軒両隣の見守り合いのできる環境づくり。
- ・ 話し相手や相談手を待っている。
- ・ 子どもの仕事の関係で、地元から子どもは離れ、親も独居となっても、地元がいいと子どものところに行かず、独居が増えている。社会環境が変わらないと難しいのでは？
- ・ 情報の共有が必要。地域や近所の人認識しておく。
- ・ 積極的に地域行事に参加し、常に組織の構成員としてほしい。
- ・ バリアフリー、手すりなど、ずいぶんよくなっている。
- ・ 高齢者の人は行動範囲に限りがあり、人と接する機会が少なくなるばかりだ。老人クラブの力はすごいと思う。毎月のお宮掃除、温泉旅行等、協力のつもりもあり出席している。出向くということは、本当によいことだと思う。
- ・ 民生委員が把握できる範囲には限界があり、見落とされている人への対応が問題（区行政と協力し把握に努める）。認知症を発症しても家族が知られたくないと思っている場合もある（認知症の正しい知識を伝える）。

## 【子ども】

- ・ 地域住民と子どもとの交流会がまったくないため、子どもに住民が声をかけた時、子どもが不審者とすぐ思うみたいだ。ボランティアで下校時のパトロールが定着してきているけど、一部の人のみであり、子どもとの交流会等を行う必要を感じている。
- ・ 数が多く、掌握できない。主任児童委員を増やすべきかと。

- ・（課題）たとえば、ボール遊びができる場所が極端に少なく、子どもたちが外で遊ぶ場所が少ない。（解決策）公園を子どもたちが自由に遊べるように各種対策を加える。
- ・ 学童保育所の移転を（学校の敷地内に）。学童保育所が学校の敷地内ではなく、学校から道路、川を隔てた場所にあり、危険である。利用者数に対して非常に狭い（1部屋のみ）。雨の日、外にも出られず、学童を嫌がる声も聞く。
- ・ 話しかけたことから、悪いことを中止したことなど聞く。
- ・ 地域の子ども会やスポーツクラブなどに参加してほしい。
- ・ 割とアパートが多く、若い子育て世代が入居しているが、なかなか地域で把握するのが難しい。家庭の状況がよく分からない（保育園、幼稚園、小学、中学との情報交換を密にする）。

### 【障害のある人】

- ・ 数名の障害のある人がいるけど、透析などが必要な人を専門の人がみているので、現在のところあまりかかわることはない。
- ・ 家族と同居している高齢者などで、障害をもっている人がいると思うが、民生委員活動のなかで把握できていない人がいるようだ。個人情報保護法に基づき、知ることができない件があり、災害時の対応に問題がある。
- ・ 身体的の場合は分かりやすいが、知的障害の人が分かりづらく、対処しづらいのが現状だ。個人情報保護法の点で、なおのこと手を打てずにいる。
- ・（課題）区の行事に参加することが少ない。（解決策）区の行事を計画立案する時に、障害のある人が参加できるような内容とする。
- ・ 重度の障害のある人の家族への休息、時間（自由な）が必要だ。本人の気持ち（意思）を大切にしながら、デイケア、ショートステイ等、すぐに利用できる施設の充実を。
- ・ 外にあまり出ていないのかと思う。私たちも知らないことが多い。
- ・ 何か手助けしたくても、勇気なく過ぎてしまう人が多い。勇気をもって相手に接するようになりたい。
- ・ 周囲の眼が人権教育によって、徐々に理解されてきたように思える。
- ・ バリアフリー、手すりなど、ずいぶんよくなっている。
- ・ 精神的な障害のある人は、本人が地域から孤立し、身内も取り合わないケースが多く、対応が難しい（正しい精神障害の知識をもち、見守り支援をする）。

### 災害時、高齢者や障害のある人などに対する避難の支援活動を円滑に実施するため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか

- ・ 防災組織、規約などの作成は、当然必要とされることであるが、それより大切なことは、日頃の地域活動（サロンなど）、住民の絆を大切にすることが一番と考える。突然の災害時でも見知らぬ人のお世話になるには気が引けると思う。
- ・ 区長を中心にして、各地区で声かけをして一緒に避難をする担当者を決めておくなど、具体的な対応の仕方を決めておく必要があるのではないと思う。
- ・ 小さい単位での日頃の確認。たとえば、向こう三軒両隣、隣組、町内の班単位などで、避

難弱者を把握、家族の協力の有無、近所の協力の体制、避難先を決めておく等。住民が自発的に取り組むことが難しい地域では、区議員、区長等が、一緒に話し合いに加わって考えていく。

- ・ 区でも区長以下、連絡リストなどが作られている。福祉委員にも一応説明などはしている。地区の消防団の人は、地区内に高齢者がどこにいるのか、知らされていないとのことだったが、ある程度は知っておく必要があるのではないかと思う。
- ・ 地域住民の一人ひとりが高齢者、障害のある人に関心をもってもらうことだ。身近な隣組の人たちから。
- ・ 11 月末に防災マップづくりをするので、まずは、掌握することからと思う。平日の昼間、特に高齢者が心配なので、担当を決めることが大切かと思う。
- ・ 災害避難要支援者をしっかりと把握するとともに、具体的に誰が誰を支援するかを明確にしておく。防災意識を高めるための啓発活動、避難訓練等を実施する。
- ・ 地域で災害時避難に対するマニュアルを作り、常に危機感をもって行動する。災害が発生したら連絡網に従い呼びかけをする。
- ・ 連携をスムーズにできるように日頃からのネットワーク等の認識強化が必要(各行政区において)。現在の社会情勢を認識してほしい。
- ・ 地域で避難訓練の実施。
- ・ 避難経路の事前通知や、お世話をする人の確認をしておく。
- ・ 行政で災害対策計画の策定が必要。民生委員のもつ情報の活用。独居、高齢者のみ世帯の早期避難支援。高齢者施設等の活用。
- ・ 該当者だけの訓練の場を設ける必要があると思う。
- ・ 地区、各班の班長にも、自分の班の住民にかかわってほしい。自治会役員、民生委員・児童委員だけでは、支援活動に無理がある。
- ・ 区内での各組長や、向こう三軒両隣の関係で、また、つながりで、声かけ見守りながら「いざ」という時は、避難の場所への誘導などすることだと思う。普段はあいさつ程度でも、何か起これば人情味を出して、お互いに助け合おうと思う。
- ・ 個人情報保護の趣旨は理解できるが、障害のある人などについては、本人の申し出がない限り分からない。地域の自主防災組織には、一定の条件のもとで、個人情報の開示がないと、対応できない場合が多いと思う。
- ・ 避難する場所を前もってよく把握しておく、また、どこに高齢者や障害にある人がいるのか？地域ぐるみで助け合えるような環境づくりが大切だと思う。
- ・ 自治会や民生委員とは別に（重複しないで）組織をつくる方向へ。
- ・ 災害のマニュアルを作って、避難の訓練などを行うこと。
- ・ 災害には2通りあると思う。台風時のように前もって分かる時は、明るい時早目に避難所へ移動してもらう。また、地震はなかなか前もって分からないので、その場の考え方等、または公共の人の指導を待ちたいと思う。
- ・ 高齢者、障害のある人を誰がどこに避難させるのか決める。学校、校区公民館は遠方で、さらに道路が整備されていない。

- ・ 支援が必要な人を抽出し、見守り隊を組織する。
- ・ 特にひとり暮らしの高齢者、障害のある人については、地域のなかで区長や公民館長および民生委員等を含む防災体制の取り組みや訓練が必要。
- ・ 市町村の避難誘導は大切だが、日頃から気軽に声かけや助け合いのできる関係をつくることが大事だと思う。ふれあいネットワークの枠を広げる。地域で安全な避難場所（最も近い）を知っておく。
- ・ 区で高齢者や障害のある人などを調べておく必要がある。
- ・ 日常のかかわりが、災害時にも役立つと思う。隣近所の日頃のつきあいを密にするために、地域のイベントやレクを計画する。
- ・ 私の地区では、防災避難訓練も実施され、対象者には、この人には誰がつくと、担当者を決めて対処している。
- ・ 避難訓練の実施を定期的に行う。区、班等の連携を大切にする。
- ・ 各隣組を1ブロックとし、ブロックごとに内容を把握し、区長を通じ行動する。
- ・ 避難訓練の必要性。
- ・ 行政区の組織のなかに災害時の役割担当者を置くことを強制定着させること、災害がない時は、区議員等と同等の仕事をやってもらい、身分保障する。小郡は災害が少ないので、ほとんどの行政区は危機感が薄いと思う。地区には高齢者やひとり暮らしの社会的弱者が多くなる傾向にあるし、近所とのつながりも年々希薄になり心配している。
- ・ 近所の協力、声かけ。
- ・ つい最近、台風で避難所を開設した、とのメールを受け、場所を確認すると、大原中学校または学習センターであった。台風のなか高齢者をどのようにして避難させるのか、疑問である。私たちの横に大原小学校の避難所があるのに、なぜ開設できないのだろうか。ただ役目で開設するのであれば、大島みたいに非難をあびる。私は今年3回、台風接近で高齢者宅を見回りしたが、被害なく済んで安心した。大島のニュースをみていると、自分に何ができるか心配だ。
- ・ リーダーとして動ける人を育成する。精神的、身体的能力のある人を。リーダーがどれだけ地域の人たちを動かせるか、そのための方策を考えられるか？その仕組みづくりができるか？その前の地域にとって、何が危機か？を感じられるか？
- ・ 高齢者や障害のある人といっても、その人の住所、名前を知っているのは限られた人と思う。個人情報云々があるが、支援する人がどの範囲まで知ることができるかによって、取り組みが違うと思う（支援する体制）。
- ・ 「ひとりも見逃さない対応」を行うべきで、見守り台帳を基本に支援活動を行うべく、気をつけている。
- ・ よそごとではなくなってきた。避難の際は班をつくり、ひとりずつみていけたら円満ではないだろうか？
- ・ 要支援者のリストアップ。緊急連絡網の構築。行政・支援団体・町内会等の連携・連絡方法。避難誘導マニュアルの整備と役割分担の明確化。避難所の整備、施設の構築（現状は不適切・不現実）

- ・ 地域での避難場所等を確実に把握していないので、いろんな面について地区役員等で組みつつある。
- ・ 今現在、区として自主防災会を組織して立ち上げている。
- ・ 今現在、想定外の被害が他県で起きている。区長や区の役員、地域全体のまとまりが必要。そのためには地域全体の災害の時の知識を把握してもらうことだと思う。把握してもらうには、行政区が大変だと思うが、実際に被害を経験したまち（八女、うきは、朝倉など）の行政区の人たちを招いて、話をしてもらった方が地域全体につながると思う。
- ・ どの家に、誰が（高齢者）住んでいるのかを知っていること。
- ・ 災害時を想定し、支援がスムーズに運ぶためには、予測される災害のシミュレーションを実施して、必要な高齢者、障害のある人の個人情報と行政とともに地域でも共有することが必要だと思う（特に移送、移動支援）。また、要援護者の登録もして、避難所も福祉避難所の開設を。これも想定し、実施を。
- ・ 近所の人たちに普段からお願いすることがよいのではないかと思う。
- ・ どのような災害が起こることがあるか考え、それぞれの場合において、当事者が何の支援を望むのかを事前に把握し、そのためにも、誰が何をするのかの役割分担を明らかにしておくことが必要だと思う。
- ・ 日頃からマニュアルを作って確認しておく。
- ・ 地域ごとに定期的な集会を開き、情報を共有し、避難場所、支援活動の要領等について説明する。
- ・ 日頃からのコミュニケーションが大切だと思う。
- ・ 地域のリーダーが常に高齢者、障害のある人を把握していて、災害時のマニュアルをつくっていただきたいと思います。
- ・ まず、行政において防災組織を立ち上げる。メンバーは、区長はともかく、長く務められる者を選ぶ（特に消防OBがいればベスト）。高齢者や障害のある人の所在状況等に詳しい者が必要（民生委員等）。高齢者や障害のある人宅の近所の協力が必要。独自の防災マップが必要。「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）」の徹底。
- ・ 形式的な訓練ではなく、可能な限り実際に近い状況を設定し、訓練を行うようにすればよいと思うのだが？市→地域→隣組に下して、しっかり把握すること、そのためにも隣組にお願いする方法がうまくいくのでは？（近所で一番皆さんのことを知っているの）。
- ・ 地域のなかでの危険箇所を把握しておくことや、近くの皆さんで互いに声をかけ合って避難する体制づくりをすることかなと思う。
- ・ 隣組であらかじめ支援活動の話し合いを持ち、手助けのいる人たちを把握しておく。

**認知症高齢者や障害のある人などが行方不明になる事故を未然に防止するため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ 家族の人より、病気の症状を聞く（事故防止に賛同を受けた場合）。専門家の地域包括支援センター、在宅介護支援センターの職員と地域の皆さんとの話し合い、患者を知ることから始めることが必要（定期的な会合が要）と思う。家族が対応するには無理なことが増えてきている。

- ・ 地域の関係者などに対象者の様子や状況などを知らせることで、日常的に声かけなど気配りをお願いする。
- ・ 家族に了解をもらった上で、近所の人に知らせておく。緊急連絡先を民生委員・児童委員、区議員、区長は知っておく。
- ・ 何年か前、認知症の人の件で、電話があつたりしたが、電話も近所の人がしたり、また、家に連れて帰ったりで、知らないふりをする人はほとんどいないようだ。家族とも相談して解決した。
- ・ 失礼だが、認知症の人、障害のある人で、外に出まわるのが好きな人は、名札を下げたおととか、名札を縫い付けておくといいのかなあと思う。常識の範囲内で何だか行動が変と思ったら、すぐ区長とか、民生委員へ連絡をしてもらうこと。
- ・ 地域（区）、民生委員はもちろん、区長や区の役員、福祉委員はお互いに情報を共有し、交代で見守ることが必要。その人に名札をつけてもらったり（電話番号を記入したもの）して、誰もが声をかけられるように、その家族とよく話し合うこと。ふれあいネットワークの取り組みはとても有効だと思う。
- ・ 以前、中学生を対象に認知症サポーター養成講座を行った。地域内の皆さんを対象に、年に一回でも講習会等をもって、認識することからかと思う。まちづくり協議会でできたらと思う。
- ・ 障害のある人や高齢者の個別情報が分かるようなものを常に携帯してもらうとともに、地域が対象者を確実に把握しておく。
- ・ 個人の状況を隠さずに周りに知ってもらい、地域で温かく見守っていく。
- ・ 周知すること。連絡を取りやすくすること。差別のある眼や言動をしない。丁寧に話を聴く。
- ・ 市が一体となって取り組む。
- ・ 認知症の学習会（ふれあいネットワークで）。ふれあいネットワークだより（広報紙）で知らせる。
- ・ 未然防止の努力は必要であるが、現実的には難しい。認知症の家族認識と近所へのサポート依頼。行方不明、徘徊者探しは広いネットワークづくり。発生後の対策が重要。
- ・ 個人情報等の問題があるかもしれないが、周辺住民への周知（自分の周りにどのような人がいるのか）があると事件の減少につながると思う。
- ・ 隣組の組織づくりがもっとも大切だと思う。
- ・ まずは区民が消防団の人たちに知らせ、同時に警察の人にも。認知症や障害があるからと遠慮しないで、早目の手配が必要かと思う。
- ・ 行方不明者が出た時の家族から警察、市、そして地域への情報の伝達システムの構築がまず必要と思う。
- ・ 不自然な人に出会ったら声をかけてみる。
- ・ 近所の目配りしかない。携帯等は洋服に縫い付けないと忘れて（置いて）いくことは明白である。
- ・ 隣の人々の見守りが必要だ。

- ・ 周りの人に目を光らせてもらったり、また協力を頼んでいる。特に玄関の鍵は、家族に渡しておくように言っている。家の人にはお守り袋を作り、連絡先を記入してもらっている。
- ・ 所在を知らせる用具を携行するような予算と広報の整備。
- ・ 地域社会では高齢化率も高くなり、元気の良い中高年が少なくなった現在、対応不可。市行政や国の施策をもって、地域社会も一緒に考えるべき。
- ・ 区長や民生委員、隣組などで、日頃の状況を知っておく。
- ・ 調査が難しい。
- ・ お互いの家庭のことをいえる関係をつくり、声かけなどの日常の活動を大切にする。
- ・ 知っている人であれば問題ないが、知らない人がいる場合、積極的に声をかけるなど、何か問題があれば、すぐに関係する部署へ通報、連絡する。
- ・ 個人情報等の問題もあるが、情報の共有化を図り、区民全員で見守ることが大切。
- ・ 地域の役員で巡回する。個人情報条例も最小限にして、役員のみ通知する。
- ・ 区長をしっかり教育してもらいたい。区長、区議員、民生委員が協力し合って、常に見守ってもらいたい。
- ・ この件は正直、他人は24時間管理が難しいと思う。家族で行政サービスの専門（デイサービス、ショートステイ）に委ねたらよいと思う。
- ・ 家族だけの問題にしない。近所の人にも相談するようにする。
- ・ 認知症にどう対処するか、認知症患者の環境が問題だ。家族が近くで、面倒みてくれれば一番よいと思われる。家族がなく、2人暮らしでどちらかが、市役所の手続き等もできればよいけど、2人とも具合が悪く、手続きができない時が問題だ。土曜日、日曜日に助けを求められたら大変だ、近所の人に助けてもらうしかない。民生委員としては、駆け込み寺が必要だ。
- ・ 知っている人については、声かけができるが、知らない人については、声かけはしにくい。少し変かな？と思っても、誤解されないとも限らない時代でもあり、難しい。迷子札でもあれば、家族に電話したり、警察や役所にも電話できる。地域のなかでは誰が認知症なのか分からない。
- ・ 小郡市の福祉サービスで行っている徘徊高齢者位置情報検索サービスがあることを知ってもらう。
- ・ 対象者に発信器を取り付けて見守るとよい。
- ・ そこまで行くと本人に名札、電話番号など書いたものを首から下げる、地区ごとに名前をピックアップしておく。
- ・ 近所の人々や、区の世話人、民生委員等に情報提供しておく。名札（氏名、住所、電話番号）を常時身につけさせておく。
- ・ 認知症等、障害のある人は、隣近所、役員に把握してもらって、お互い連携しながら、事故や行方不明にならないよう取り組む。
- ・ 個人情報により、認知症、障害のある人の家族は案外隠したがる人が多い。防止するためには、行政の担当者が地域の皆さん（近隣、区長、役員、民生委員）などと連結し、その家族に行政の人たちがまず説明をし、その家族の理解を得ることが一番必要と思う。その

家族が理解した後、区の役員、近隣、民生委員などの人たちにお願いする（無知の言葉で会話すると誤解を招くことが多い）。

- ・ 認知症は「うつ」と関連がある。日頃から地域でも「うつ」では？と周りも見逃さない、気づきが大変だ。声かけ、温かい（地域の）見守りが事故を未然に防ぐ要因になり、それは障害のある人にも、同じことが必要では、と思う（家族も周りの人に協力を求めてもらいたい）。
- ・ 市で名札（住所、氏名、電話番号）を用意したらどうだろうか。強制はできないと思うけど、必要と思える家族の人は名札をつけるようにしたら連絡もつきやすいと思う。
- ・ 声かけをする。
- ・ 認知症や障害への理解を深め、認知症等の高齢者や障害のある人なども地域の一員であると認め合うこと、つまり関心をもつこと、言葉をかけ合うことが大切だと思う。
- ・ 日頃から家族中心に近所の協力を頼むことが最初だと思う。
- ・ 早く情報をキャッチする。地域住民への周知。関係機関への早々の連絡。民生委員等による日常的な声かけ。
- ・ 日頃からのコミュニケーションが大切だと思う。
- ・ 不自然なひとり歩きの高齢者がいたら声をかけるとか、110番するとか、気をつけていたらいいと思う。
- ・ 障害のある人は、認知症の人より分かりやすいが、認知症の人はその症状を理解していなければ、対応が難しいと思う。やはり研修等が必要。
- ・ 認知症サポーター等の研修を受けてもらおう。家族でいろいろな研修を受けることで、市が「行政ポイント」等を作成し、ポイントを持っている人は、その時が来たら、しっかりサポートされる側になるという約束をするとよいと思う。

### **高齢者や子ども、障害のある人に対する虐待を防止していくため、地域社会では、どのような取り組みが大切だと思いますか**

- ・ 地域の皆さんが虐待防止に関心を持つこと（各行政区公民館等で講演等が必要）。パトロール等を充実させ、目配り声かけ気配りを行うことで、異常を感じた時は、それぞれ関係する行政機関に連絡をし、早急な対応をお願いする。講演実施の時は役員のみでは区民全員に伝わりにくいので、一般区民にも呼びかける。
- ・ 虐待の疑いがある時は、関係機関へ連絡をするという意識が大切だと思う。
- ・ 地区で見守る必要を感じる。区長以下日常的に見守ることが身についているし、コミュニティは一応確立している。まず、新年度の区長会議の時、見守りなどについて説明している。繰り返し実行していきたい。
- ・ まずは隣組の範囲での目配り気配り心配りが大切と思う。せめて自分の組ぐらいいは、どこに高齢者が住んでいて、どこに障害のある人がいるのかくらいは把握してもらい、何か変とか、気になることがあったらすぐ区長、民生委員に連絡してもらおうということになればいいなあと思っている。隣組の班長が福祉委員という形で。
- ・ 市の機関や学校と綿密に情報を交換し、お互いに共通認識をもつこと。区の福祉委員や民生委員の集まりで情報交換すること。

- ・ 「心」の教育が一番大切と思う。学校、PTA はもちろんだが、地域でのイベントを通して、座学だったり、機会を増やすようお願いしたい。
- ・ 子どもが発信する SOS をいかに確実にキャッチできるかが最大の課題であり、そのためには、地域が目配り、子どもが発信する SOS をキャッチするアンテナなどを推進する。たとえば、子どもたちの生の声を聞くことができるような、第三者と子どもの個別面談など、親には言えないことも話せる場をつくる。
- ・ 虐待をしないような人づくり、虐待が起こらないような環境づくり、地域でのいろいろな行事のなかでの人とのふれあい、仲間づくりができる環境づくり、公民館活動。
- ・ 声を出しやすくする（虐待されている）。家族の人がほっとする時間をつくり、心にゆとりを持てるような対策が必要だと思う。
- ・ 定期訪問が必要（地域）。
- ・ 研修会による啓発と、いろいろな相談会。
- ・ 虐待は早期発見、情報の入手が第一。
- ・ 防止のチラシ配布等を多く出す。
- ・ もっと近所づきあいをすることだと思う。自分たちの住んでいるまちづくりに関心を持つことが一番大事だろう。
- ・ 虐待は、あまり表だってみえないため、気にかけてはいるが、見つけにくいので今まではなかったように思う。もしあったら、被害者を助けるためにも、施設などへ緊急入所して引き離し、ゆっくりと相手の話を聴いてあげる、納得いくまで。精神的なものもあるだろうし。聞き取ったところで、対処法を考えればよいのではないだろうか。
- ・ 日頃から近所づきあい、交流が楽しくできる地域づくり。
- ・ 近所の目配り。訪問。
- ・ 隣の人々がその家の状況を知って、対応をする。
- ・ 近所の人々の協力により、なるべく（耳をすませて）物音に気をつけたり、また通りがかりに気をつけてみるとか？になるのではないだろうか。高齢者、子どもと、いろいろな条件の人がいるのだろうが、また、何かにつけて声をかける（家族の様子をうかがう）回数を多くもつことではないだろうか。
- ・ 近隣での日頃の会話や交流を勧める。ケースワーカーなどの専門家の訪問。
- ・ 学習会。
- ・ 何でもひとりで抱え込まないように声かけを大事にする。
- ・ 親子で家庭内のことでもあり、かかわりにくいのが、傷害など、自傷他害の疑いなどあれば、積極的に通報などして、処罰など受けないと解決しないと思う。
- ・ 地区での横のつながりが大切だと思う。区ごと、隣組ごとにあれば、何かと知恵が出てくるので抑制するのでは？
- ・ どこまでが虐待としてみるのか判断が難しい。
- ・ 対象者をどのようにして見つけるのか。近所の眼、見守りで監視する。プライバシーが問題になるので注意が必要となるのでは。
- ・ 虐待があるか否かということは、地域住民にはほとんど分からない。分かったとしても直

接的な対応はできない。福祉事務所に連絡することくらいはできるかもしれないが。

- ・ 地域情報を広く集めるために、福祉員と連絡し合う。
- ・ 区長、民生委員などに連絡し、市の虐待センターへ知らせるようにしよう。気がついたら連絡をもらえると助かる。
- ・ 虐待行為は、人の眼につかないところで行われることが多いため、事前に防止することは難しいが、周りの人々が関心を持ち、気にかけることが抑止力になるのでは。
- ・ その家庭とのつながりを日頃から気にかけていくこと。
- ・ 福岡県だより 11月号に「11月は児童虐待防止推進月間」とあり、これは、高齢者や障害のある人に対する考え方と重なるところがあると思う。虐待のサインかも、と思われる事柄（身体、心理、ネグレクト、性的）があつたら、周り（地域）も目をつぶってはならないと思う。
- ・ それぞれの家庭が孤立しないように、声をかけ合い、話をしていくことが大切だと思う。
- ・ 家のなかの実態は外から分かりにくいので、こもらないように外に出るきっかけがある時（たとえば、行事や冠婚葬祭の時）を利用して、実態をつかみ対応する。
- ・ 日常的に声かけすることで、早期発見につながる。地域住民が情報を共有する。
- ・ 介護する人への対応が必要ではないかと思う（情報を知らない。行政の取り組みを知らない等）。
- ・ 子どもの泣き声がよくする家があれば、民生委員にいつもらったりしたらよいと思う。
- ・ 対象者を把握し、近所への協力をお願いし見守りする。市行政との連携。
- ・ 虐待防止については、近くの者で気づいた人が連絡できるようにし、それはもし違っていたとしても、受け入れてくれるようにしてほしい。
- ・ 隣近所の普段のつながりを持つように。

#### **小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書き下さい**

- ・ 民生委員・児童委員への負担がとても大きいと思う。民生委員・児童委員を支える福祉協力員を制度化し、研修、費用弁償等も定めて設置してほしいと思う。
- ・ 必要な時にしか市役所には行かないが、種々親切に対応してもらってありがたく思っている。しかし、行っても担当者不在で、他に分かる人がいないという時もある。市役所の職員も忙しいとは思いますが、もう少し地域とのコミュニケーションを、互いに取ってあげたらと思う。
- ・ 答えになっていない部分もあるかと思うが、申し訳ない。障害のある人をあまり知らないなので、回答ができない。
- ・ 計画を実施するにあたり、高齢者の多い区は、民生委員の数を増やす必要があると思う。一人ひとりの負担が大きすぎる。
- ・ 各区でのイベント（ふれあいネットワーク等）に、行政職員がまわってきて、一緒に活動をしたら、どうだろうか。ヒントはすべて現場にあると思う。
- ・ 半年に一回程度、地域の対象者と福祉課との意見交換会を行い、高齢者の人たちが今何を悩んでいるか、何に困っているかの生の声を聞いてもらいたい。
- ・ 行政の政策を一本化してほしい。住民に分かりやすい説明を。どの課に行っても事案に対

してスムーズに対応してほしい。健康についても一本化で対応してほしい。

- ・ 「訪問活動」や「ふれあい NW 活動」を通して、民生委員への期待感と感じている。また、お年寄り相互の絆も深まっているが、益々活動の質を高めていかねばならないと思う。民生委員の世代交代の時期にきているが、その要員が見当たらず、大変苦慮している。行政区単位での対応では、やがて制度が行き詰るのでは？
- ・ アパート住まいの母子家庭が多いように思う。
- ・ 昔のように隣の人々の会話が重要だ。
- ・ 味坂校区では、校区で敬老会をしているが、小学校の体育館のトイレが洋式でないため、出席しない人が多いようだ。高齢者や障害のある人が進んで外に出ている環境づくりのひとつとして、早急に洋式トイレの設置をお願いしたい。
- ・ いろいろな要望・相談で訪問するが、内容によっては、市（福祉）の担当者も同行するなど、現場をもっと知ってもらいたい。何でも申請、申請主義というが、その書類さえ届けることができない人がいる。市の方から出向くことはできないのか。
- ・ 見学、研修の内容を検討してほしい。実際に高齢者、子ども、障害のある人に対して、すばらしい支援をしている市町村があるので、そういうのを視察に入れてもよいのではないだろうか。
- ・ 地区ごとに民生委員は男女各 1 名にしてほしい。対象者のところで会話するにも会話が進まない。
- ・ 質問に反することだが、行政区の区長や実行委員の任期が長いとマンネリ化して、進展性がなく、よき改革がなされないので、最長 5 年で交代するように行政指導してほしい。
- ・ 民生委員がどこまで入り込んでいいのかわからない。
- ・ 自分たちから地域のなかに出ていくことを考えたのだろうか？民生委員・児童委員を介さなくてもできるのではないだろうか？バスのことについては、地域の弱者の人たちが利用しやすいように、ぜひ、考えてほしい。空のバスが走っていることが多い、なぜだろうか？
- ・ 無関係だが、生活保護受給者からも医療費の 1%だけでも負担をさせるべき。

## 5. ボランティア団体

---

---

### 【団体の活動について】

#### 貴団体の活動をより充実させるために課題となっていることは、どのようなことですか

- ・ 男性の入会を募ることと、若い人に関心を持ってもらうようにする必要がある。行政の関心度が低いのではないかと感じる。
- ・ セラピーの技術向上と、ボランティアの人数の確保。
- ・ まず会員が指導できるように、いろいろな技能を身につけ、創意工夫をして、資質を高めることが大切ではないかと思う。
- ・ マンネリ（提供するもの）が怖い。常に新しいレク体操を意識している。10/26（土）国際センターで第67回全国レクリエーション大会があり、2か所講座に参加。1か所は私たちの近くの筑紫野市の発表。市全体のレクの取り組みで、力強さがとても感じられた。最後のレク体操、筑紫野市恋歌、わらいヨガがよかった。早速松崎区サロンでわらいヨガが使ってみた。2か所目は一人ひとり根拠をもって支える福祉レクで、片手、片足だけを使ったゲーム。これは真剣にやった。そんなわけで、新しいものに眼を向け、また、自分たちで小郡バージョンリズム体操を作成できたことは大変うれしいことのひとつである。これからもリズム体操を作ろうとっている（来年は福島で全国大会。ちょっと気持ちが動いている）。
- ・ 広報関連のテープがあることを、必要としている人たちに知らせるには、と例会では度々話題になる。
- ・ 会を存続させるためには、後継者の育成が大事。
- ・ 会員減。ノート型パソコンの不足。現在、10年～20年前のパソコンが多く、故障が次々と出てきた。
- ・ 会員の定着が難しい。点字講習会で基礎を学び、入会してもらって、継続して一緒に学びながら活動している。
- ・ 例会（月2回）以外の日程での点訳、その他の依頼に参加できる会員の確保。
- ・ 「脳健康教室」を行う人たちの教材費などの負担と、ボランティア活動を担うスタッフの手当をきちんと出すことができないこと。
- ・ 内容を充実させるためには長期の見通しを持った計画が必要であるが、そのためには、財政面の安定が重要になる。毎年このことに頭を悩ませている。
- ・ 学習に来る人は65歳～93歳という高齢者で、スタッフが40～50代なので、教室を楽しくコミュニケーションが取れるスタッフの確保が、これからの課題だと思う。
- ・ 本来は福祉施設に入所している人だけでなく、健常者でも、人に言えない心の奥の思いを聴くこと（聴かせてもらう）を求めていると思う。傾聴というボランティアを理解してもらうことがあまりにもないことが課題と思う。
- ・ 若いスタッフがほしい。広い場所（集いの家）がほしい。NPO法人化、社会福祉法人化。運営資金がほしい。

- ・ 会員の継続、拡大。
- ・ 手話の獲得は難しく、ろうあ者の理解にもかなりの時間を必要とする。初心者とベテランで求めるものが違うこと、会の中心となる若い会員がなかなか育たない。
- ・ 後継者の育成。
- ・ 「傾聴」についての社会、施設の理解。
- ・ 本来ならば毎日森の保全、再生作業をするマンパワー（人員力）がほしいのだが、会員数が少ないのと、また、平日働いたり、他のボランティア活動をしているため、現在は月2回～3回が限度になっていること。
- ・ 出演者も高齢となり、施設へ出向く交通手段がないこと。また経費（ガス代）がかかること。若い人を募集して、入会させること（若い人は働いているのでなかなか）。
- ・ 以前は10万円あった補助金が減額され（現在4万5千円）、幅広い活動ができなくなった。
- ・ 会員の平均年齢が70歳くらいで、会員の人数も10人も満たない（年々減少している）高齢化と会員数減で団体活動の活性化ができない（行政に視覚障害の人を紹介してほしいとお願いするが、プライバシーの問題で紹介できないとのこと。勧誘が困難）。情報不足。活動資金不足。
- ・ スポーツについて、身体、視力、聴力など障害が異なるので、実施が何事も困難。
- ・ 会員数が増えない。会員の高齢化。
- ・ 聴覚障害のある人（ろうあ者以外）の存在がみえない。後継者の見込みなし。
- ・ 設立して15年になるので、会員の高齢化が進み、病等で退会者が年々増えている。最盛期は約100名いたが、現在67名に減少している。各人の「健康」に留意すること。
- ・ 参加者が増えない。予算不足。
- ・ 自分たちの活動を知ってもらうこと。ビラ、ポスターで努力しているが、知名度が低いままの現状だ。修理技術を高めること。自助努力とともに、学習会等開催の予定。
- ・ 小郡市在住の（おもちゃ病院の）ドクターが少ない。ドクターとしての技術の向上が課題だが、研修等の機会が少ない。
- ・ 人づくり、ボランティアの確保。ネットワークづくり。おもちゃの図書館は子育て支援開始以前から自主運営・活動をしている。子育て中、障害のある子も、ともに遊ぶあそび場で、障害のある子の情報や独自の学習会も開催している。全国連絡会会員であり、ボランティアとして、子育て、遊び、障害、福祉、ボランティアでは毎年質の高い研修を受けている。私自身少なからず、保育士の資格、障害のある子、障害のある人のスポーツを通じた経験を活かし、独自のネットワーク、今まで地域に住む母親たちと開館の他、学習会、イベントも行ってきた。市子育て支援が事業としてすすんでいるものの、障害の枠では連携できるとよい理解が深まるどころや、メリットはあるはず。ネットワークも結べるし、実際、いいモデルもある。子育ての軸は、障害のある子を含め、すべてにアンテナを張り巡らせないといけない。そこにどのような方法で理解してもらえるのか？私たちだけではなく、子どもに関するところがつながることで、楽しい子育て、ひとりぼっちにしない子育てが実現すると願う。今、木曜日の開館日はこぐま学園が療育の一環で来ている。これも

大きな意味がある。居住地が市外であれ、母親たちの仲間づくりの手助けができています。

- ・ 課題：会を立ち上げて 29 年経過、障害のある人の親、ボランティア会員等高齢化が進行、若返りができず、活動の停滞、活性化が懸念される。活動資金が年々積立金を取り崩しているため、減少傾向にある。方策：活動を充実させるため、寄付金を受け易い NPO 法人化等が必要である。
- ・ 当事者家族と支援者と一緒に活動しているため、子どもたちの保護者の負担が大きく、推進していく保護者が年々減っており、会員も減っている。
- ・ 人集め、活動していることをより多くの人に知ってもらい、理解と協力を求めることができれば、と思う。
- ・ 一昨年前まで 34 年間、小さい子から小学生、その両親や祖父母に良い映画を上映していた（映画の感想画や文を募集もしていた）が、TV やゲームにおされ、観に来る人数が減って、昨年より取りやめ、現在は健康福祉教室「あらかると」のなかや公民館等の求めに応じた映画上映などに転換している。対象者が子どもから高齢者に代っているが、映画を観た人は皆さん、とても喜ばれ、人権問題や地域との協力、思いやりの心など、大切なことを伝えることができた。年代に関わらず、上映できるので、たくさんの団体から要望がくるように働きかけなければと思っている。

#### **貴団体の活動をより充実されるため、行政に求めたい支援は何かありますか**

- ・ 特段ないが、関心を持ってもらいたい。
- ・ 原則無償ボランティアなので、年間 5 万円～10 万円くらいの補助金がほしい。
- ・ 社会福祉協議会など、行政面で支援できることがあれば、積極的な指導、支援をお願いしたい。
- ・ 年に一度は講座が受講できるように、それにより、少しでも若い人が会員になって元気のあるレク健康隊をつなげて行ってほしい（社協でも、地域包括支援センターでも開催しているが、何とんでもお金があるので）。年間事業計画に組み込めるように予算がはっきりしていた方がよい。
- ・ 朗読研修の機会を多くしてもらえればと思う。「分かりやすい朗読を読者に届ける」、これが小郡テープの会のモットーである。NHK 日本語センターにお願いし、巡回朗読セミナーを春季 1 回受けている。受講料等の一部を社協援助、会員負担で行っているが、春季、秋季 2 回受けられればと思う。
- ・ 広報テープの録音だけでなく、朗読を聞いてもらう場を設けてほしい。
- ・ 現在小郡市で活動しているボランティア団体数と活動内容、人員等について調査してもらえればと思う。参考にしたい。
- ・ ノート型パソコンの購入費。新品よりよいものはないが、買い替えなどがあったら、中古でも寄贈してもらいたくお願いしたい。視覚障害のある人で、点字が読める人、点訳依頼をもらえれば、できる限り対応する。市福祉課で対象者を把握していたら活用してほしい。
- ・ 現在使用している点字印刷機（2 台）の 1 台が使えなくなり、買い替えが必要だが、高額のため支援してほしい。もう 1 台も時々故障する時があり不安。ここ数年、盲人会への加入がなく、会員の高齢化が進んでいる。市内に、他にも若い人など、視覚障害のある人が

いると思うが、情報が入ってこないなので、広報等の点訳物を送れない。情報がほしい。

- ・ 事務局機能のバックアップと財政面での補助。
- ・ 現在ほとんどの学習者は、市のバスを利用して「あすてらす」まで通っているが、本数が少ないため、不便を感じている。現在、定期的に利用している人、団体の声も聞いてほしい。
- ・ 今現在、助成金を出してもらっている。ありがたいことだ。
- ・ 他自治体では、社会福祉協議会、地域包括支援センター、生涯学習課などに支援をしてもらっている。高齢者の話し相手から出発することからでもいいけど、行政の人たちの「傾聴」という活動の理解と後ろ盾がほしいと思う。孤独な人々の心の安定に、きっと手助けになると思う。力を貸してほしい。
- ・ 資金の支援。建物の支援。NPO 法人化、社会福祉法人化の支援。
- ・ 奉仕員養成講座の開催への支援。奉仕員養成講座講師研修会参加に対する支援。通訳者養成講座の開催への支援。通訳者養成講座・講師研修会参加に対する支援。一般会員向け研修会の開催への支援。
- ・ 今すでに考えてもらっているが、奉仕員養成または通訳者の支援（学習会参加の助成）、または通訳の理解を深めてもらうための行政や手話の会（通訳者）の学習会。
- ・ 行政に携わる人たちにボランティア活動を理解してほしい（自分の空いている時間に、お金もかからなくてできるボランティア活動ばかりではないということも。時間をかけたり、お金をかけるのが嫌なら辞めればいいだけのことだとも思ってほしくない）。
- ・ 市民講座が 2 回で終了したことで、参加人員が少ないこと。継続的な講座があればよいと思う。修了者に対しての質の向上のための研修会を開いてほしい。
- ・ 県や企業の助成金の支払いが、年度末（3 月）一括支払いのところが多いため、私たちの法人のように、金銭的に余裕のない団体には、申請があれば、助成金の範囲内で、つなぎ資金を出してもらえれば助かる。
- ・ 各団体のアピールや活動助成金の援助など、また、活動場所の提供（たとえば、「あすてらす」の温泉休憩室での演技披露など）。
- ・ 補助金を増やしてほしい。
- ・ 活動資金不足のため、補助金でバックアップしてほしい。ガイドヘルパー不足のため、ガイドヘルパーの増員。ガイドヘルパー利用時は、予約が原則だが、緊急時や突発的にも利用したいので、ガイドヘルパーを常駐させてほしい。視覚障害のある人への理解と啓発。歩道の整備。
- ・ 手話通訳、介助等が必要（聴力、視力）。
- ・ 活動を広報してほしい。
- ・ 教育委員会から各小中学校へ、総合的学習の時間に聞こえについての理解をしてもらえるようにしてほしい（聴覚障害のある人＝ろう者＝手話だけではないことを）。
- ・ 会員募集にあたって、月 2 回発行されている小郡市広報紙に掲載を依頼しても断られる。他の市町村では協力的である（参考：67 名の会員中、小郡在住は 13 名である）。
- ・ 協働事業の実施（官企画の事業だけでなく、民間企画の事業にも目を向けてもらいたい）。

- ・ 市報等に開催告知を。広報に応援をお願いしたい。
- ・ まだ、活動期間が短く、認知度が低いため、広報等で告知してほしい。
- ・ よりよい理解のためのネットワークづくり。行政が考える子育てにと、市民目線で子育てエッセンスコラボしてはいかがだろうか？市民活動を応援するような人づくり、広報。
- ・ 行政の各機関の仕事に深く関わって、むしろ、それを助ける働きをしている団体、ボランティアが多くあると思うので、その活動内容を充分に知ってもらいたい。見に来てもらいたい。
- ・ 精神障害の子どもを持っている人の思いだが、作業所、入所施設（グループホーム、ケアホーム）が少なく、将来の不安がある。現在入所＝病院が多く、病院に入れるほどの障害でない人も多い。行政の方でそのへんの問題にも支援をしてほしいとのこと。私も同感だ。
- ・ ボランティアとは？ボランティアのいろいろなグループのあることなど知るきっかけを工夫してもらえれば、と思う。紹介など。
- ・ 行政がなかに入って指導する。社会教育の場などがある時に、そのなかの活動のひとつに良い映画の鑑賞も無料でできることも紹介してもらえるとありがたい。たとえば、子ども会、高齢者ふれあいネットワーク、老人クラブ、公民館活動、地区懇談会、まちづくりの会、保育所、小学校など。

#### **貴団体の活動をより充実されるため、地域の人たちに協力を求めたいことがありますか**

- ・ 地域の業者（企業者等）との連携活動ができればと思う。
- ・ 積極的にいろいろな会へ参加されるように、お互いに声をかけ合うこと。楽しい、自分が好きなことから始められるように。広報活動をする（会合等で）。
- ・ 区で大変忙しい人たちですが、区長、民生委員への協力依頼だと思う。
- ・ 点訳依頼文に対して、人名、住所等にふりがなをお願いしたい。
- ・ 広報等、点訳して思うことは、人名、地名にはふりがながほしい。レイアウトが視覚に頼り過ぎている。
- ・ 私たちの「脳の健康教室」は、ボケた人が行くところと誤解されている人が多いようだ。認知症にならないため、物忘れがひどくならないために努力している姿を理解してもらいたいと思う。出前教室の場を提供してもらいたいと思う。
- ・ 認知症予防の教室なのだが、認知症の人たちの集まりだと思っている人もいるので、協力というよりも、理解してもらいたいと思う。
- ・ 「傾聴」というボランティアの存在を知ってもらう PR をすることが必要と思う。
- ・ 共生共学に対する理解（障害のある子が健常児と一緒に学ぶことへの理解）。例会への参加。集いの家の運営への協力：リサイクル品の提供と販売への協力。
- ・ 聴覚障害のある人の苦悩を知るためにも、手話講座の受講をすすめ、理解者をひとりでも増やしたい。
- ・ 地域の人には、聞こえない人がいること、また、聞こえない人に必要な支援を考えてもらうこと。
- ・ 一緒に活動してほしい。
- ・ 「傾聴」の理解を深め、広めてほしい。

- ・ 市民がもっと積極的な森づくり活動に取り組んでもらいたい。そのためには、企業や団体、学校等による森づくり活動を通じて、市民や地域住民の一人ひとりが、植樹や保全活動に積極的に参加するなど、森林との関わりを持ち続けてもらいたい。
- ・ 地域の祭り、催し物および敬老会等での出演依頼。
- ・ 障害に対する理解が必要（聴覚障害は見て分からない障害のため）。災害発生時や避難所での情報提供。
- ・ 個人的なことになるが、地域の行事に参加するため、ガイドヘルパーをスムーズに手配してほしい。災害（風水害、火災等）時の通報、避難等で隣近所の人との協力。困った時にすぐ対応できる近所づきあい。
- ・ 数多くある。
- ・ 地域で聞こえのサポーター1 日体験講座を実施しているので、積極的に参加してほしい。
- ・ 当団体に加入してもらい、ともに啓発活動をしてほしい。
- ・ 施設に1か月前から予約するので、施設側の行事計画とズレがあり、なかなか予約が取れない施設がある。
- ・ 他の活動とのコラボレーション。
- ・ 区の集会所、保育所、商店にポスターを貼らせてもらっている。また、種々イベントに参加、開院している。
- ・ 学校で積木をしている。学校（教育委員会）連携が取れるのであれば、学校ボランティアや地域への発信のひとつとして、地域のボランティア、民生委員、学校を体験する場（就学相談の見学の間）を可能にし、遊びでつながる場づくりはできそうと考える。今後学校のなかに、そのような場は必要かもしれない。学校ボランティアの育成担い手、福祉教育の場にもなるので、そこに地域が入る、しかも昼休みで遊びだと、参加する側、子どもが楽しくつながれる。
- ・ 近所の人に障害のある人がいる場合は、気をつけてあげてほしい。
- ・ 外にあまり出ない人、高齢者、障害のある人が自分の生きがい、存在感を味わってもらいのために、得意な分野（元得意）を活かして、より楽しい日々を送れるよう、そして、まわりとの交流を深めてほしいと思う。
- ・ 上映する者は「16 ミリ映写機操作認可」が必要だが、会に3名資格者がいるので大丈夫だが、地域の集まりの時、映画鑑賞を入れてもらうよう計画してもらうのが一番の協力だ。

#### **今後貴団体で取り組んでいきたいと考えている活動は、どのようなことですか**

- ・ 市内、特に「あすてらす」周辺の花壇の整備等を進めながら、多くの人に花のやさしさや心を癒すことを感じてもらいたい。
- ・ 今実施している「サロン」やサークル活動を少しずつ高めていくことも大切ではないか。
- ・ 現在、社協、地域包括支援センター、私たちで、名称レク健康隊として活動。健康課でも同様な目的をもって活動している。これが一緒にできればと考えている。講座を受講する人（市民）も、これほどの、どちらの講座なのかと迷わなくてよい。高齢者のサロン等でも、より広がりのある活動提供ができる。まず、そうなるには、健康課からレクへ講習に来たり、レクからも行くというように、相互的に信頼関係を構築していくことが大事。

- ・ みくにつこアンビシャス運動、お月見会、クリスマス会に紙芝居、パネルシアター等で参加しているが、内容をより充実していきたいと思う。
- ・ 生ものの墨字情報を、より早く点訳して点字情報を提供する。
- ・ 現在のマンパワーでは、現在の活動を維持することが前提。
- ・ 現実としては難しいのだが、時間外でもゆっくりとくつろげる場がほしいと、学習者の人から要望が出されている。サロンのような場ができるといいと思う。夢かもしれないが。
- ・ 医療機関と連携できれば、認知症の予防と早期発見、早期治療につながるのではないかとと思う。
- ・ 一般の人たちに、高齢者や施設のなかだけでなく、心の奥の声を少しでも話すことで、気持ち軽くなったことを知ってもらいたい。スキルアップ。基本の考え方の再確認。
- ・ 現在の活動対象は、老人保健施設等へ赴いて、その利用者と話すことを主としているが、利用者は認知症が進んでいたり、ひとり静かに自分の時間を持ちたい（と思われる）人がほとんどで、話は正直はずまない。今後は施設訪問よりも施設の世話にならないでよいように、元気な人の、特にひとり暮らしで外出をあまりしないような人、あるいは、話し相手をほしがっているような人たちとコミュニケーションをとって、施設へ依存する時期を少しでも遅くしたと考えている。そのため行政にお願いしたいことは、「あすてらす」のボランティア相談室や、各区の公民館の一室を「雑談室」（名称は何でもよい）を設け、誰もが（ひとり暮らしの人、話し相手を求めている人など）気軽に出入りできる場所を提供してほしい。そしてそのこと（目的）を市民に広報してほしい。
- ・ 共生共学の活動。障害のある人の働く場づくり。
- ・ 聴覚障害だけでなく、すべての障害を持つ人の横のつながりを強め、災害の時に手助けができればと考える。障害に対する理解を求めたい。
- ・ 今までとおり、啓発活動をしていきたい。また、災害時の対応について、聴覚障害のある人の自助、共助がうまくいくようにするとともに、公の助けについても意見を述べていきたい。手話の会の会員がどのような活動ができるか、学んでいきたい。
- ・ 養成、通訳活動。
- ・ 独居高齢者の人たちに対しての傾聴を広めていきたい。お話をすることにより、楽しくなり、元気になってほしい。そのための市との連携。
- ・ 市民参加の草刈り作業（年2回）。
- ・ 福祉施設へのアピール（宣伝をどうしていくか？）。演技内容の充実（いろいろな演技）。
- ・ 市が主催するすべての講演会やイベントに通訳をつけてほしい（バリアフリーへ）。公共施設の無料化へ。手話通訳を増やしたい。
- ・ 高齢化と会員減少のため、継続するのが精一杯。
- ・ 当団体も高齢化して会員減少（全国的）で、いかにしたら増員できるか。
- ・ 啓発にさらに力を入れたい。
- ・ 団体等の研修会に「聞こえのサポーター講座」を取り入れてもらう。
- ・ できるだけ近くのイベントにも、演芸として参加したい。
- ・ 高齢者、障害のある人の人たちが定期的に集まり、相互生涯学習的に介護予防事業をボラ

ンティア主体でやること（行政の縦割りをなくした効率的な福祉活動）。

- ・ 一般の人を対象に、故障おもちゃをいっしょに修理する会を開く。
- ・ 市や各種団体が主催するイベントに参加し開院する（コラボ）。
- ・ 遊びやレクリエーションは規定がなく、自由な発想、豊かな想像力を養い、誰でも集える場づくり。NPO 取得も検討しないわけではないが、軸が定まらない。今後コミュニティがどのように再生されるのか？きちんと見極めたい。地域のなかにはあらゆる人がいる。障害と認定されずにいる人、家から出たくても出られない、引きこもりに近い人。本人も、家族も苦しい時があるのだ。中学までは義務教育で何とかつながれたりするが、高校生、思春期以降は他の力がある。支えてもらうばかりではなく、支える側に転じられるような場づくり。
- ・ まだ決まっていない。会員皆でよく話し合っ、方向を決めていきたいと思う。

### 【小郡市でのボランティア活動について】

#### 小郡市で求められているボランティア活動には、どのようなものがあると思いますか

- ・ 老人の日常生活の支援ボランティア。買い物や掃除など。
- ・ 広範囲のたくさんの活動があり、私自身が参加しているボランティア、サークルでは、「七夕・おはなし会」：子育て支援の赤ちゃんから、保育園、幼稚園、小中学校、グループホームまで広く活動。「唱で元気会」（交流センターにて）：歌唱指導を行うなかに、健康体操を加えたりしながら、歌唱を楽しんでいる。「小郡健康レク隊」：ここでは、レクリエーションやストレッチ体操を実施して学んでいる。
- ・ 手話の会。点字の会。花いっぱい運動。国際交流。読み聞かせ（学校）。各校区青少年アンビシャス運動。
- ・ 高齢化とともに、高齢者に対するボランティア活動が必要なのでは。たとえば、買い物、掃除など。
- ・ 小学生の登下校時の見守りと交通整理。高齢者、独居高齢者の安否確認。防犯、防災に関する活動。介護施設へ演芸、手芸、外美化作業の手伝い。障害者就労支援事業所の作業手伝い。人手その他の事情で近隣に迷惑をかけている家の草木の除去作業。福祉を必要としている人の個人情報の収集（プライバシーとの関係あり）。各種イベントの手伝い。
- ・ まちづくり（福祉）活動全般を支援する活動。
- ・ 市で行われている行事等の手伝いが必要なのではないかと思う。
- ・ ボランティアは誰でもできる。他人のためでなく、自分のために働く。気軽に実行できることを市民にアピールすることが、協働のまちづくりにつながるのではないだろうか。介護の現場でも、ごみ出し、雨戸開けなど、向こう三軒両隣の心遣いでも、そんなこともボランティアではないだろうか。
- ・ 災害が起こった時、スムーズな対応ができるようなボランティア組織。小郡市の未来を鑑みて、お見合いサポートボランティア等。
- ・ 多種多様、どんな内容でもあると思うので、まずは子ども、高齢者、障害のある人、若者、すべての人に対応できる窓口（情報センター）で情報を集め、発信していく。

- ・ 独居高齢者や高齢者夫婦の生き方、健康。災害時の助け合い。
- ・ 高齢者や地域の人が楽しまれる環境、場所があること（施設、公民館はあるが、活動がなされていないようだ）。
- ・ 盲ろう者の支援。高齢ろうあ者、認知症に対する見守り活動。
- ・ 手話。読み聞かせ。見守りなど。
- ・ 多種多様。どんな場でも内容でも、求められていると思う。
- ・ 社協のボラ連に加盟している他、登録だけして自分たちで気が向いたときだけ、活動しているようだ。
- ・ 介護保険費を節約できる効果的な予防活動。
- ・ 支えられるばかりではなく、当事者、家族が支える側になれる場。ボランティアを活かすためには具体的に、考えてほしい。他の市町村の取り組み、アンテナをはってほしい。
- ・ 個人ボランティアへの支援と調整や把握：保険なども呼びかけが不足しているし、ボランティアを養成している割には、ただのただ働きで、細かい連絡、配慮が足りない。市の広報などには、障害のある人が生活するためにはたくさんの事業や支援があり、不安がないように書いてあるが、それはまったくくそで、実ははじめからボランティアを充てにした事業で、見通しもないものである。できないなら書くな！
- ・ 公共施設、病院などで案内する人。どこに行けばいいのか分からない人たちが安心して要件をすませることができるように。
- ・ 災害ボランティア。子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などができるよう、手助けするボランティア。社協、シルバーの福祉でできない部分の活動。

### **地域の人たちは、ボランティア活動に対し、どのような意識をお持ちだと思いますか**

- ・ 金銭的に何か団体が動いているような考え方の人もいるので、理解を得られるように。
- ・ その人、その性格等で、なかなか外に出て行かれない人もあると思うので、非常に難しいなあ、とは思う。
- ・ 日常生活に密接なことでないため、あまり関心がないように見受けられる。
- ・ 意識のある人は少ないと思う。
- ・ 自然災害のように身近に困った人がいる場合、地域の人たちが懸命に後片付けを手伝っている姿をみるにつけ、地域で困っている人に支援したいと思っている人は多いと思う。しかし、地域で困っている人がいても、個人情報の関係で誰がどのような支援を希望しているのか、皆目分からない。プライバシーをどう解決すのかが問題。
- ・ あまり深くは考えていないように思う。ボランティアは無償なので、責任も少ないと思っている人もいるように思う。
- ・ ボランティアをしていると、得意そうにみえたのか、自己満足だといわれたことがある。ボランティア活動は、どんなことがあるのか、自分にできることがあるか、ずっと継続的でなければいけないのか、と聞かれたことがある。その時は個人ボランティアがあると答えた。
- ・ ボランティア意識は、高い人と低い人との差が大きいと思う。
- ・ まだまだボランティアをすることは特別なことのようにみられている。「えらいね〜」「関

心だね〜」等々。自分にできることを自然にする、そんなボランティア活動ができるといいと思う。胸を張って「ボランティアしています」といえるまちになるといいと思う。

- ・ お金と時間がある人だけができると思っているのではないだろうか。
- ・ 人の気持ちは考えなくてよいと思う。周りの人のことを考えていては、ボランティアはできない。
- ・ 暇つぶしと思っている人もいるように思われる一方で、積極的に「私にできることで役に立てば」と思っている人もいる。
- ・ よく言われるのは、「すごいねえ」「えらいねえ」。ボランティア活動を大変な活動とされているのかもしれない。
- ・ 時間とお金がある人がやっているという意識だと思う。また、善意ある人が何かをやっているのだろうという意識の人もいると思う。
- ・ あまり意識はないのではないか。
- ・ 私たちの活動だけではなく、現在、行われているボランティア活動が十分理解されていないのが、現状だと思う。
- ・ ボランティアの活動内容が分かっていないと思う（どんなボランティアがあるのか知らない人が多いと思う）。
- ・ ボランティア活動をしたくても、聴覚障害のある人の場合、コミュニケーションの問題がある。
- ・ 機会があれば、参加したいという積極的な意識。
- ・ 時間的、金銭的に余裕のある人たちがやっていると思われると思う。
- ・ 文化協会の〇〇流、●●流の先生たちは、名取りになったらボランティアには出てはだめというプライドを持っているようだ。
- ・ やりやすい活動があれば、多くの人に参加してくれると思う。
- ・ ほとんどの人は関心を持っていないと思う（大災害が発生した時は感じているかも）。
- ・ さまざま。何かできることをしたいと思っている人はいると思う。
- ・ お金があって、暇で、それでも暮らしていける人たちが、自己満足のためにやっていると思われる。
- ・ 自分の生活が精一杯、他人のことなど考える余裕はない。ボランティアはある程度金銭的にも余裕のある人がすること、と直接いう人が結構いる。
- ・ 「ボランティアしている人はいる」と思うが、「どんな団体があり、どんな活動をしているのか」知らないと思う。

### **地域の人たちのボランティア活動に対する意識を高めるため、どのような取り組みが求められていると思いますか**

- ・ 行政と一体となったフェスタを開催できれば、より一層の理解を深められるかと思う。
- ・ 多くの人に参加できるには、その地域の近くの公民館など、集まりやすいところで、実施できることが大切ではないか。
- ・ ボランティア活動の体験談などを聞く機会をつくる。
- ・ ボランティア活動をしている人たちの紹介など、広報で載せるなど。

- ・ 社協のみでなく、市と共催で広報紙「たなばたの里 おごおり」にボランティア活動についてシリーズで詳しく活動内容、体験談等を載せ広報すること。
- ・ チラシの配布。啓発活動のための研修等。
- ・ 点訳のように、団体に所属して連帯して活動した方が良い場合もあるが、日常の些細なことのボランティアも大事だと思う。買い物が不自由になった世帯、人と話をしたい人、庭木をちょっとだけ切りたい人等々。専門家に頼むほどではない用事、頼まれた方も「いいよ」で、気軽に受けられる用事。小さなボランティアの芽が開く時に、いつでも、どこでも、誰でもボランティアをしたり、受けたりが普通のことになると思う。ボランティアをマッチングさせるボランティアがあれば、いいなと思う。
- ・ 市の職員も地域に入り、活動に入り、専門的な知識や事務能力を活かし、活動の敷居を下げることで、気軽に参加できる環境を整える。
- ・ 自分もこの地域住民のひとりであるという意識を高めるような広報活動が必要ではないかと思う。
- ・ ボランティアに参加をためらっている人に対して、まず、あいさつから始めよう。これは立派なボランティアだ！と知らせることからでよいと思う。小都市、市民があいさつをし合うだけでも、心が開かれたボランティアにつながらないだろうか？ボランティアを志す人がいたら、どんなボランティアであっても話をきいてみる、出鼻をくじかない、育てたいと思って取り組むことが次につながると思う。何でもいいよ、みんなで人の役に立ったことであればと、呼びかけが必要。
- ・ 行政がどのようなボランティアを必要としているかを知らしめることが必要。
- ・ ボランティアと一言でいっても、考え方もさまざまであり、何かをしたいと思っている人も多いので、ボランティア紹介のチラシを年度はじめに毎年出したらいいと思う。
- ・ 体験だろうか、体験がきっかけになれば。
- ・ ボランティア活動を知ってもらうための啓発活動。
- ・ 自分が始めるまでは、あまり興味がなかったが、やり始めると、傾聴、見守りを必要としている人は多いと思った。どんな活動があるのかを若いうちから知っておくことが大事なのでPRが必要。
- ・ 福祉特集（広報）で、現在、市内で活動しているボランティア団体を取り上げて、特集をつくってもらいたいと思う。「あすてらす」のボランティアセンターなどで、案内はしてもらっているが、広く市民に知ってもらうためには、それぞれがどのような活動をしているのか、また、どうしたら、それに参加できるのか、案内してもらえれば、もっとボランティア活動に対する意識も高まるのではないだろうか。
- ・ 各ボランティアの活動をアピールすること（市報などに活動状況など紹介すること）。
- ・ 人権啓発活動。お互いに協力し合える気持ちを大切にする。フェスティバル等、たとえばふれあいオリンピックを一般市民も交えて開催する。
- ・ 広報。
- ・ 土日、夜、関係なくボランティア講座を行う。
- ・ 行政が積極的に啓発、広報するべき。

- ・ ボランティア活動を身近なものと感じてもらおうこと。「福祉祭り」的な催し。
- ・ 小さくとも自分のできること、小さな達成感が持てればいい。ボランティア七夕円、地域通貨をつくる。特典として、お茶やコーヒーが飲めたり、ハンドケア（ボランティアグループ 笑顔）に両替してもらいマッサージが受けられる。生活困窮者やサポネットの利用者が、花を作り、苗をもらえたり、コーヒーサービスを担ってもらおうなど、楽しい仕組みを考えたいものだ。施設利用ができるなどなど。講座も大切だが、ちょっとできる、すぐできる啓発や場づくりが必要。ボランティア活動を盛り上げるなら、行政も職員も熱を発してほしい。できる理由を探してほしい。
- ・ 障害のある人に特別な意識を持たない、また何もできないなどの先入観を持たない。ひとりの「人」として接すること（その人に応じた接し方）、ともに行動するという思いで接すること。
- ・ 気軽に交流、見聞できる場をセッティングする。気持ちがあっても、出入りすることに勇気がある、という人もいるので、もっと気楽に話せる受付があればいいのではないかと思う。一生懸命声かけしている職員がいなくなってしまった。
- ・ ボラ連の機関紙「ぼらネット」を各行政区の回覧板に年 1 回は回覧してもらえるよう頼み、ボランティア活動を知ってもらう。

### 【あなた自身や仲間たちのボランティア活動に対する思いについて】

#### どのような目的もしくはきっかけで、貴団体の活動に参加されましたか

- ・ 目的：青少年の健全育成。きっかけ：花が好き。
- ・ 友人の誘いで始めたが、自分で少しでも役に立つことを自分でやれる範囲でやっている。
- ・ やはり自分自身、興味関心があったので、また、自分自身が楽しみたいと思った。自分の持っている技能が活かされるのも、喜びを感じられるから。
- ・ レク健康隊ができる以前、民生委員の最後の年の平成 20 年に講座が始まり、受講したこと。
- ・ 点字図書館で出会った障害のある人たちの明るい真剣な様子に触れ、今私にできることは、必要としているものを読んであげることだと思った。
- ・ 好きなことを通じて、少しでも人の役に立てればとの思いで参加した。
- ・ 退職後何か社会に貢献したいとは思っていたが、社協の紹介により、障害のある人・子を対象としたボランティア活動を通じ、多くのことを学び経験したように思う。ハンディを負いながらも懸命に生きている障害のある人を支援していくことにより、家族、施設の負担を少しでも軽減することができたのではないかと自負している。また、この活動で得た多くの知人、友人とボランティア活動以外の交流で自分の趣味（登山等）を活かすことができたことも大きいものがあった。
- ・ 子育てが一段落したので、何か役に立てればと思い参加した。
- ・ 広報で点字講習会を知り受講。その後、点訳堂の会に入会した。また、子どもが小さく産まれたけど、元気に育ったことに感謝して。
- ・ 2 人の息子の遠視の治療で、眼科通いをしている時に、いろいろ考えさせられ、そんな時、

知人が活動しているのを知り、私にもできることがあるのではと思い、参加した。

- ・ 自分の行動が何かの役に立つという達成感。
- ・ 地域のなかでの課題解決の必要性を感じて。
- ・ 私の父が軽度の認知症になり、5年間の介護の末、亡くなった直後にお誘いを受け、認知症の予防ができるならば素晴らしいことだと思い、参加した。
- ・ 私自身、介護職なので、よりたくさんの高齢の人たちや認知症予防に対するいろんな思いの人たちによりそえたらと思い、参加している。
- ・ たまたま自分の趣味を受けた講座の流れで、今の仕事になった。少しでも地域社会に役立てられることができると日々頑張っている。
- ・ 人の話をよく聴くことのボランティアを10年以上やっている。そのスキルアップのために学習させてもらった。傾聴ボランティアとして、活動することができている。一挙兩得だった。
- ・ ひとり暮らしや高齢の夫婦の人の話し相手となって、施設への依存時期を少しでも遅くしたい。
- ・ 手話で話しているのを見て、自分もおしゃべりをしたいと思ったから。
- ・ 聞こえない人と話をしたいと思って参加した。
- ・ 頑張っている人たちが好きなので。
- ・ 傾聴の講座で勉強したことを役に立てたいと思った。
- ・ 開発などで、市内にある森林が年々少なくなっている。現状では、市全体の面積に占める割合は10%を切っていると思われる。そこで何とか将来の子どもたちのためにも、森林（緑）を残してやりたいという思いと、小郡市に最後に残された三沢遺跡の森を保全・再生するため。
- ・ 自分たちの演芸を観て楽しみ、喜んでもらい元気になること（見る人も演芸をする人も仲良くなること）。
- ・ ろうの先輩たちの活動に興味を持ったから。
- ・ 何かできることをやりたい。社会にかかわりたい。
- ・ 聞こえにくい人たちが、少しでも社会参加できるように。
- ・ 趣味の唄、踊り、楽器等の質が向上すれば、それだけ利用者の反応があるためと、人の噂、友人をとおして参加した。
- ・ 高校3年生の時に、養護学校と知り合ってから。
- ・ 自分が楽しむため。
- ・ 現役リタイヤ後に、地域社会と関わりを持ち、孤立しないため。
- ・ 産後体調を崩し、知らないところでの子育てを強いられていた私。軽いノリが始まった。おもちゃの図書館の存在は、独身時代働いた、障害者スポーツセンターで開館活動を知っていた。子育て学級で企画する際、実際子育てをするようになり、遊び、育ちあう必要性は感じていた。「障害」を同世代ママ、どうのようにとられているのか？知りたかった。それで企画したことがきっかけだ。そもそも私には、障害を障害と思わないみたい（人として対等）な意識があったのと、水泳を通じ、障害者スポーツに出会い、壁がなかったの

だ。当時の障害のある母親たちとの出会いが活動の原点にある。

- ・ 障害を持った子どもがいる家庭が、経済的、精神的に追い詰められているのを見たから。障害のある子どもたちや人たちと地域で一緒に暮らしていくにあたり、自分のできること、やれることを一緒に学んだり、考えたりしたいと思った。
- ・ 昔より障害のある人とのかかわりを持ちたい、何か役に立つこと、手伝いがあればと参加、活動中。
- ・ 自分に何か役に立つことがないだろうか？と思い、どういう活動があるのかを知りたいと思い、講座を受講し、自分の知らない世界だったことに気がつき恥じ入った。
- ・ 子どもたちが優れた良い映画を観ることにより、希望や勇気を持ち、たくましく素直で、やさしい心を持った人に育つよう願って参加した。

### **貴団体の活動に参加されて、よかったなあと思われることは、どのようなことですか**

- ・ 20 数年を経過することにより、よい面、悪い面（マンネリ化）が出てきたが、花いっぱい運動の認識は深まったと思う。
- ・ 小郡市内の多くの人と友だちになれた。今まで全然知らなかった。
- ・ ボランティア活動やサークル活動において、いろいろな面で応用して活用できる。
- ・ あるサロンで体調が悪いからと休んでいた人が、あまりのにぎやかさに「私も 1 回体験させてください」といわれて、最後まで参加されたこと。その人は加わったチームが 1 位になり「アイ、アム、チャンピオン」とそのチームがいえたこと。やった後にアンコールが出た時。足が痛くて歩けない人や、腰痛の人、それぞれゲームやその他夢中になっていると、すいすいと歩いている、また、腰も伸びている。公民館まで押し車で参加している人たちが、帰りには押し車を忘れて、何の支えもなく自力で自宅まで帰っていること。レクを続けている人は、高齢者でも体が柔らかい。このように、応援したり、一緒に笑ったり、私たちが元気をもらっている。また、レク仲間とも少しでもよい方向をめざしてがんばっている。
- ・ 世代がまったく違う人たちと一緒に楽しく活動できることだ。社会観、ファッション感覚等、おもしろく参考になる。
- ・ 忙しくても、充実した活動ができること。声を出すことで、健康も維持されている。仲間ができたこと。
- ・ ボランティアに参加して、喜んでもらった時。
- ・ ボランティアをしようとの思いを持った人の集まりだ。互いに助け合い、少しの無理を出し合いながら、気持ちよく活動できることだ。よい仲間ができたことをうれしく思っている。
- ・ 点訳した本を読んで、喜んでもらったこと。盲人会の人たちと交流会（食事会）で楽しんでもらったこと。同じ志の仲間と出会えたこと。
- ・ よい仲間に出会えたこと。
- ・ 同じ志を持った人との活動が楽しく、また、人のために役に立つ喜びを感じること。
- ・ 高齢者が自宅に閉じこもるのではなく、多くの人の中なかで、その人の持っている知恵や経験を出し合い、生きがいを感じてもらえることが喜びだ。

- ・ 人生の先輩の人たちとふれあえて、いろいろ教わることがいっぱいだ。皆さんの笑顔で、こちらも元気になる。
- ・ 人様のお話を聴かせてもらい、それぞれ人の苦勞、喜びを共感させてもらっている。自分の知らなかった世界もある。世間が広がった。人の話をじっくり聴くことができるようになった。
- ・ 聴覚障害のある人に喜んでもらえた時。おしゃべりができるようになった時。
- ・ 聴覚障害のある人について勉強できたこと。また他の障害や人権などについて深く考えることができた。
- ・ 仲間とともに質を高め合うことができる。いろんな人と知り合える（自分の知らない生き様も知ることができる）。
- ・ 自分自身が助けられていることに気がついたこと。仲間ができたこと。
- ・ 森林やそこで育っている生物（樹木、山野草、小鳥や小動物、昆虫やその他生物等）を何とか守りたいという人々、そして、この森を市民のシンボルとなるような、皆が楽しめる憩いの森にしたいと願っている人々が集まってくれたこと。
- ・ 人が喜んでもらうこと。自分たちも健康になるため、体を動かすこと。カラオケは声を出すことである。
- ・ 全国のいろいろな人たちと交流することができた。ろう運動に参加し、要望して勝ち取るすることができた（運転免許等）。
- ・ 仲間やボランティアとの交流が楽しい。ひとりで家にじっとしていることが多く、外出の機会が少ないので、仲間と会って、日頃の悩みや不安を話すことで、安心感が得られる。
- ・ 異なる障害を持つ人々が相手を理解しようとしていたり、相手の弱点を考えて、助け合っていること。身体、視力、聴覚、自分のことだけでなく、相手の状況を考えてやる点、私たちの団体に入って、特に分かったと思う。
- ・ 人とのつながりが拡大した。
- ・ 知識を得ることができた。現状を知ることができた。
- ・ 1か月前から各人に出席に日程表を渡すので、参加する日時が事前に分かり、目標ができる。活動することによって、健康で会員相互の親睦も図れる。
- ・ 感動が得られる。仲間ができた。
- ・ 修理し終えた時の充実感と人に喜ばれた時に満足感が得られる（自己満足）。
- ・ 辞めたいと思う時ももちろんあった。おもちゃの図書館で子どもが成長、発達する。おもちゃ、遊び、楽しいがもれなくついてくる。それに応じて活動ができる。決して、子どもだけのものではない。子どもから大人、高齢者まで幅が広い。接着剤みたいな役割を感じている。行政や子育て支援からするとつかめないのか？どこにも属さないといわれるが、目的を失うことなく、公的にアメンバーみたいだが、隙間を埋める活動だ。世界にも、アジア各国にもある。永く続けば、奥深さに感動している。素敵な活動が大好きだ。この活動で、小郡でも、それ以外、全国に多くの人に出会っている。私のライフワークだ。
- ・ 障害をもった子がいる家族では、一家族ではなかなか外出やレクリエーションができにくい（社会や周囲の理解がない）ので、皆で一緒に行ったりすることで楽しめる。レクリエー

ション、バザー、学習会等を通して、直接、親や本人と話をしたり、遊ぶことで、親しくなり、「障害」と一言で言っても、それぞれ個性があるので交わっていくことで教わることばかりだ。

- ・ 手伝いに行くことにより、自分自身、力、喜び、元気をもらっていること。心を豊かにしてくれること。何時でも、色々な変化、成長を見られること。
- ・ 高齢者で、あまり外に出たがらない知人に協力してもらうことで「昔とった杵柄」を甦らせて、楽しみを持ってもらっていると思うこと。目的意識が一致し、楽しみを味わえる時。ある講演会の収益金を活動のことについての夢作文で 33 万円、ミシン購入資金を得た時、自分たちの思いが講演関係者に理解を得たことに感謝している。理解してくれる人がいることに感動であった。
- ・ 30 数年間、携わってきて、何千人もの子どもたちやその親がいろんなテーマの映画を観てくれ、毎回感動してくれ、良い子に育ててくれたこと。また、30 年前、子どもの時、この良い映画を観た子が親になり、自分の子を連れて観に来てくれていたことは、とてもうれしかった。良い映画なので、映画を観た人が、皆心やさしくなり、喜んでもらえるのが私の喜びだ。

#### **貴団体の活動に参加されて、困ったなあとと思われることは、どのようなことですか**

- ・ 活動場所の借用代、冷暖房代など、資金的な面でのことは、活動するにおいて頭が痛い。
- ・ 私の個人的なことだが、練習不足の時、自身がないこと。
- ・ 皆さん忙しくて、録音の時間調整が難しいこと。
- ・ ボランティアでも心はプロを心がけているが、たまに保護者の人に厳しい注文をされた時。
- ・ たまに日曜日が活動で拘束されると、家庭との関係を後回しにしなくてはいけないこと。
- ・ 継続的に活動をするためには、日にち、時間を優先的に確保しないとイケない。
- ・ 学習者同士のトラブルには時々頭を悩まされる。
- ・ 手話を知らない人から、ジッと見られた時。最近は随分減ってきたが、まだまだわざと手を動かして真似された時は困った。
- ・ 忙しい。よく「ボランティア活動は自由意志でできる時に」といわれるが、自分だけの都合で動くのは他の仲間迷惑をかける。手話や聴覚障害の人を取り巻く問題は、幅広く、終わりが無い。
- ・ 続けていける人が少ない。どうしても役を持っている人に負担がいつている（全員が主体的に関わっていない）。
- ・ 傾聴についての理解が社会、施設に広がっていないこと。
- ・ まだまだ予算的に余裕がないため、機材（刈払機等）が不足していることと、人員の不足だ。しかし、皆さんはそんななかでも機材を持ち寄り頑張っている。
- ・ ボランティアといっても経費（衣装、化粧、テープ等）、交通費などが各自自腹なので、思ったより経費はかかる。また設備（照明、音響他）も会にて準備なのでかかる。
- ・ 全国のレベルに比べると、地域との格差があること。
- ・ 資金不足で活動が制限される。ほとんどが年金生活者のため、会費が高くなると負担になる。

- ・ 活動する上で、スポーツの場、身体、視覚、聴覚と障害が違うため、同一のことができない点。小郡市の場合、お願いしてふれあいオリンピックを18年実施している。種目を考えて実施していて、定着し、18回。種目については、時間を要するので、9～10種目としている。
- ・ 仕事が片寄り、ウェイトが重くなりすぎている。
- ・ 日本語力がなかったこと。当事者がみえにくい状態で活動を継続するのは難しい。
- ・ 本人および近親者の病気、死亡等によって、欠席者が増えること。
- ・ 動き回るお金が不足する。行政の理解が不十分。
- ・ 活動の内容を行政にはしっかり理解してほしい。広報やボランティアをやる人を作ること、ネットワークなど。あらゆる市民活動を応援してほしい。子どもが関わる場合、多くがつながらなければならない。目的や活動内容、実績を協議してもらうこと。行政機関として協力できることを考えてほしい。活動場所である生涯学習室、研修室1作業台は重くて移動が大変で、7年ほど前、机の脚を担ぐベール移動を軽くするシートを相談し持ち込みで協力して、貼ることができ、改善した。それが劣化したので取り換えをお願いしたが、かまわず自分たちで材料を購入準備し、貼った。施設管理の面では、市担当者に考慮してほしい。このようなことが次回は回避されるように、年度末には文書で担当課にお願いしたい。
- ・ 「障害」を持っているといっても、当然のことながら、一人ひとり状況も違うし、家族も周囲も千差万別で、活動の内容などが合わなかったり、難しかったりすることがある。年齢が60歳にもなってくると、自分の身体の故障が増えてきて、確実にこのボランティアをするという約束がしづらくなってきた（朝起きた時に急に腰がおかしくなったり、手が上がらなかったりすることがある）。行動が伴わない。
- ・ 人それぞれ考え、思いが違い、意見が合わなくなってギクシャクする時。目的が自分自身の欲望、願望を満たしたいと思う人が出てきて、チームワークが壊れる時。
- ・ 良い映画なのに、観てもらおう人が少ないこと。

#### **小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書き下さい**

- ・ 助成を積極的にお願ひしたい。細かいことにでも、少しずつ助成を。
- ・ 私自身、高齢が日々進んでいるのを感じる昨今だ。別に障害がなくても、問題を抱えている人が多くなるのは必然だ。市職員の人たちだけでなく、多くの人たちの意見、要望を取り入れた施策に取り組むよう、願ひしたい。
- ・ 弱者も強者もひとり人間だ。助けてやっている、ではなく、障害のある人もない人も、お互いに助け合っていると思ひ合いながら、を基本にして計画を考えてほしい。
- ・ 福祉なのか人権なのか、さまざまな計画をつくる時に、必ず当事者に聞いてほしい。
- ・ 市の職員、各自の自覚をもって仕事ができるような体制づくりをしてほしい。ひとつのことに対して、上の方に聞かなければいちいち仕事が進まない様子が多く見受けられた。積極性を持ち、市民の役に立とうという気持ちを持ってほしい。
- ・ 小郡市でもボランティア活動に対する助成金制度を設けてもらえれば助かる。
- ・ 年一回ほど、集めて大会でもやったらどうだろう（いろいろなことなど）？

- ・ 電光掲示板の設置。市役所総合案内にも通訳の設置を。情報の格差をなくしてほしい（特に市役所内）。市役所職員の理解もまだ足りないと思う。市長、市議選時に情報保障を。議会等にも情報保障を。
- ・ ボランティア団体の活動を確認するようになっているが、いまだに何のアプローチもない。もっとボランティア団体に対する認知が必要。
- ・ 全国社会福祉協議会の知り合いから、ボランティア情報誌を取り寄せている。何かヒントがあるとよいと思っている。届いたらもっていく。社会資源を本物にしよう。おもちゃの図書館もチラシ1枚から配り、非難も受けた。保守的なところで泣きもした。やはり、たくさんの人から助けられていることが多いし、ノーマライゼーションが実現し、形になってきて、以前よりはよい。しかしどこかで心を置いていかれている感じもないわけではないが、私たちにできること、いつでも協力する。情報もアイデアも必要な時は声をかけてほしい。長崎県佐々町：高齢者のサロンボランティア育成に力を注いでいるとのこと。藤川町社会福祉協議会：引きこもり若者就労支援、地域ブランド、まちおこし。ボランティアと名の付くものは、生涯学習、学校、学びの場支援等福祉以外にもある。最近では謝礼、交通費が出たりする。お弁当など。さまざまな事情や予算で出たり出なかったりと思うが、14年前から私の知る限り、金額に差がある場合があり、ボランティアなのにどうしてだろう、と疑問に感じたことがある。ボランティアの内容もあるとは思いますが、ある程度一律にする、差をなくしてほしいと思う。福祉分野のボランティアは無償の捉え方があるのか？全体で考えてほしい。そろえると節約できるお金を、他に使う工夫した使い方ができるのではないだろうか？検討する価値があると思う。
- ・ 障害のある人専用の支援センターを新設してほしい。障害福祉の拠点施設として、生活支援、就労支援、早期療育等、自立支援のため、交流できる機会と場所を提供する。小郡市は近隣の市と比較して劣っている障害者対策を改善するため、広域市町村と連携を契約締結することが必要。たとえば、旧筑紫郡の筑紫野市、春日市、太宰府市、那珂川町、大野城市の4市1町は広域的な連携と交流を進めている。
- ・ 生涯学習センター、あすてれすも、市役所のそれぞれの課がセクト的で、障害を持った子ども、大人、家族が安心して利用できる施設がどこにもない。障害を持った人たちの相談窓口は、本当にあるといえるだろうか、と思う。小郡市には特別支援学校卒業後の活動の場がない。春日市（福祉ばれっと館）や筑紫野市がうらやましい。勉強に行ってほしい。そして、市の予算で活動の場をつくってほしい。
- ・ 机上論ではなく、携わる職員、ボランティアの人たちが、一人ひとりに声かけするような思いで、理解を求め、深めることが必要ではないかと思う。

## 6. 高齢者福祉・介護分野：本人

---

**あなた自身やご家族の皆様が、困ったり、悩んだりしていることは、どのようなことですか**

- ・ 病気が進み、自分のことも思うようにできなくなってきて悩んでいる。
- ・ 対象者はひとり暮らしのため、夜、急病した時が一番気になっている。
- ・ (本人) 体調が悪く病院に連れて行ってほしい時に、すぐに連れて行ってもらいたい(頭や腰が痛くてたまらない時がある)。自宅にひとりでいるのは怖い、さびしい。自分がだんだん分からなくなっていくのが悲しい。(家族) 仕事の関係で夜遅く帰宅することが多いため、それまで預かってもらえるところが必要であるが、経済的負担が大きくなること。家にいる時は介護中心となり、自分の時間がないこと。
- ・ 困った時は娘に相談。ご近所。悩みは今のところなし。

**あなた自身やご家族の皆様に対する行政サービスについて、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・ 要支援だが、ひとり暮らしなので、不自由でも自分で家事をしている。体が思うように動かないので、一日中家事をして何とか片付いているが、疲れ果ててしまう。ヘルパーにもっと来てもらいたい。
- ・ 夜、急病になった時などに、すぐに連絡できるようなシステムを作してほしいと思っている。
- ・ 一人ひとりのニーズに応じて支援ができるよう、ケアマネジャーについてもらい、ケアプランを立ててくれることに感謝している(よりよいサービスの活用が可能)。関係機関との連携(福祉、医療等)が、より密に取れるような体制ができればありがたい。デイサービス利用中に定期(月1回程度)的に医師が訪問し、診察、助言等をもらえる体制など。
- ・ 今の行政サービスに十分満足しているわけではないが、現状でも仕方がないと思う。困った状況になった際に、相談しやすい体制がよりよくなればと期待する。

**あなた自身が利用されている福祉や介護のサービス事業所について、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・ ヘルパーはよくしてくれる。
- ・ 介護事業所については、十分満足している。
- ・ デイサービス等、大変よくしてもらっている。本人が心理的に不安定になることが多いので、声かけ等大変だと思うが、ヘルパーにしろ、デイサービスの人たちにしろ、本人の人権を大切にしてもらい、温かく接してもらっているので感謝している。
- ・ 今、●●荘を利用しているが、いろいろと企画してもらい、大変感謝している。
- ・ 今のところ(デイサービス事業所)はとても楽しい。今のままで充分。

**あなた自身やご家族の皆様を取り巻く地域の様子について、どのように感じていますか。また、地域の皆さんに求めたいことや期待したいことはどのようなことですか**

- ・ 近所の人が時々声をかけてくれ、助かっている。

- ・ 地域の人たちは、温かく、日頃あまりつきあいはないが、母親（本人）が徘徊等していた時は、声をかけてもらい、家族が帰宅するまで、母親がひとり外で待っている状況があった時には、近所の人が家族の帰宅まで一緒に待ってもらったりした（現在はひとりにしない体制を取っている）。母親（本人）の世代より若い世代が多く、母親の友人となり得る人が近所にいないのが課題である。
- ・ ご近所の人とのつきあいが長いので信頼している。おかげさまで、本当によくしてもらい、ここに住んでいてよかったと思う。

**小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書きください**

- ・ 今よりサービス利用が減らないようにしてほしい。

## 7. 高齢者福祉・介護分野：家族介護者

---

### ご家族の介護や支援にあたって、困ったり、悩んだりしていることは、どのようなことですか

- ・ 私自身も要支援なので、要介護の夫の介護が負担になる。
- ・ 年ごとに筋力低下がみられ、歩行、排便、食事の介助が大変になってきている。サービス事業所のケアマネジャーと相談しながら、できる限り自宅介護を続けたいと思っているが。
- ・ 介助を受けている本人が、自分は何も間違った行動はしていない、自分のしていることは正しいと思っているから、介助する側は余計に振り回される。
- ・ 今のところ困ったり、悩んだりはない。通所のデイサービスに母は喜んで行っている。ヘルパーとも上手につき合っている。ヘルパー同士も母のために最善を尽くしてもらっている。いい配分で生活できている。月・火・木・金：デイサービス、水：カラオケ、土：ヘルパー。
- ・ ひとり暮らしのため、身の回り、食事の準備等ができないので、その点が気になる。
- ・ 現在、比較的介護度の低い家族（2人）が、将来的に体を動かさなくなった時、果たして在宅が続けられるのか（自分の体力的に）という不安。肉親がゆえに、介護の際、自分の感情を出してしまうことがあり、たとえば、デイサービス先のスタッフのように、優しく接することができない場合がある。それにより、介護を受ける家族の言動も、感情的になるというジレンマ。
- ・ 先日、家に帰るといっているとのこと。私の声を聞いて、明日、私が行くからね、といって、翌日行き、安心したようだ。65年以上の生活だったが、現代介護が必要で、このような形での生活で、皆さんのお陰だと感謝している。
- ・ 体は病院で何ともないと言われても、ちょっとしたことで、死を考え、落ち込む。私（嫁）がいないとさびしがる。
- ・ 本人が、昔と違って、思うとおりに体が動かないのと、記憶力が低下していることに、母が大変不安といらだちを感じている。このようなことを相談にのってもらえたらと思う。

### 介護や支援を必要とする方やご家族の皆様に対する行政サービスについて、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか

- ・ 80歳以上の高齢者が3人で暮らしているが、行政サービスは何も受けていない。75歳の2人暮らしには何かと目配りがあっているようだが、その点、もう少し何らかの手が打てるのでは思う。
- ・ 行政は、こちらからたずねて行かないと、そちらから（行政側）の情報を得ることは今のところ難しいと思う。市政だより等はあるが、肝心なところや、私たちが本当に必要とする情報をもっと分かりやすく、短時間でサービス内容が伝わればと思う。今の年寄りや、パソコン等、使えない。何か改善して、いい方法を考えてもらえたらと思う。
- ・ デイサービスを通所で利用している。ここでショートステイの利用ができないため、その時（ショートステイを利用したい時）、どこの事業所を利用したらよいのか迷う。見慣れた人たちがいて泊まるのと、そうではないのとでは、本人の感じる不安は計り知れない。

いろいろと制限はあることを聞くが、ある程度の条件が整っている事業所であれば、許可してもいいのではないだろうか。

- ・今のところ行政に対しては、改善してほしい点はない。
- ・市役所の介護保険課や社協の人たちには、丁寧に接してもらっているとを感じる。ただ、介護サービスの情報伝達がまだ行き届いていない面がある。介護タクシーや訪問看護など、必要になった時に、どこにどのような形で依頼すればよいのか、一覧になったものがあると分かりやすい。また、高齢者の体調の変化により、一時的で入院（短期間）による介護を受け入れてもらえる施設があるとよい。
- ・大変喜んでいる。
- ・現状に満足している訳ではないが、仕方がないかなあと思う。

**介護や支援を必要とする方が利用されている福祉や介護のサービス事業所について、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・よくしてくれている。
- ・ショートステイを利用して感じているのだが、施設では移動はすべて車いす、歩くことができないようなので、現状では仕方ないと思いつつ、長期に利用した場合は確実に歩くことができなくなるのでは、と不安を感じる。
- ・事業所の人たちはよく目配り、気配りができている。
- ・私の地域では、大変協力的で、今まで何度も助けてもらっている。認知症を発症した時点で、近所の人にお話し、迷惑をかけるかもしれないと伝えた。隣の人からは、何か生活で変化があれば連絡してくれるし、何軒かある隣組の皆さんも気をつけてくれている。見守りが成功している。
- ・事業所においては、非常によくしてもらっている。安心してお願いできる事業所だと思う。また、一番うれしく思っているのは、利用している本人が元気になり、考えがしっかりしてきたことだ。
- ・介護を必要とする家族 2 人がそれぞれ別の事業所を利用している。2 つの性格が違うが、スタッフの人たちは丁寧に親身なケアをしてもらって感謝している。ただ、それぞれ特徴がある反面、不足する部分もあり、利用者が別の手段で補っていく必要があるのは事実。
- ・行き届いたサービスを受けている。毎月の行事風景等、事細かく送付してもらい、感謝している。スタッフの人たちには毎日お手数をかけ、申し訳なく思っている。
- ・近くて通いやすく、家庭にいるのと似た感じがよい。
- ・母が毎週、月、金曜にデイサービスを受けているが、さまざまな企画をしてもらい、感謝している。

**介護や支援を必要とする方やご家族の皆様を取り巻く地域の様子について、どのように感じていますか。また、地域の皆さんに求めたいことや期待したいことはどのようなことですか**

- ・夫の病気の関係で、介護付養護（有料？）老人ホームに入居させたいが、月 15 万円は高すぎて負担できない。特養には申し込んでいるが、まだまだ入居できそうにない。
- ・馴染みの人が多いので、声かけ等もあり、力になっている。

- ・ 地域の住民の人たちは、福祉には十分取り組んでいると思う。しかし、動きがなかなかでない人に対しては、手が行き届いていないように思える。やはり、両隣の人が、電気がついているかなどの生活面を通して見守っていただきたいと思う。
- ・ 毎月公民館に来てもらい、体操や血圧測定等をしてもらい、ありがたく思っている。毎月の食生活が基本と思うので、考えて暮らしている。

#### **小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書きください**

- ・ 知人がデイサービス事業を起業しようとしている。さまざまな障害というか、規則のため実現が困難なようだ。小郡の空き家対策、福祉事業に対する立ち遅れを感ぜずにはおれない。志を持っている人を応援してほしい。
- ・ 庭の草取り、植木の剪定等の手伝いをより多く（今では年1回）、年2回ほどしてほしいと思っている。
- ・ 一部の医療機関で、在宅リハビリや訪問看護等が行われているが、個々の活動にとどまらず、そこに行政が入って、より包括的な連携のあるものとし、市全体で機能していくものになれば、利用しやすくなると思う。いかにして在宅介護と介護人の負担が重くなく進めていけるかが課題であるし、今後ますます必要になってくると思われる。

## 8. 児童福祉・子育て支援分野：家族

---

### 子育てにあたって、困ったり、悩んだりしていることは、どのようなことですか

- ・ 核家族であり、両親も自営業で、なかなかリフレッシュできる時がない。子どもがいうことを聞かずに、ひとりでどうしていいのかわからなくなる時がある。毎日を過ごすことが精一杯で、ゆっくり子どもとかかわれず、愛情不足なのかなあと思うことがある。
- ・ 病児保育の利用がしづらかった（前日に予約をしないといけなかったから）。
- ・ 近くに親類がいないこと。
- ・ 日祭日の小児科が開いておらず、困ったことがある。
- ・ 近所に同じくらいの子がいないため、同じ年代の子とあまり遊ばせてあげられない。徒歩で歩いて遊ばせられる公園が近くにない。すべてに車で移動したりで、あまりたくさん歩いたりさせられていないんじゃないかと思う。家の近くの道路は、交通量も多く、手をつないで歩いても危ないので困る。公立の幼稚園が2年保育で、本当は3年保育を希望していたが、私立の幼稚園を見学したが入れたいと思うところがなく（送迎ことなどいろいろ含め）、2年保育にすることにした。公立が3年だったらよかったなと思った。
- ・ 今日は1歩も外に出ていないなあとか、今日は子どもとしか話していないなあとか、孤独を感じることもあり、子どもにも悪い影響が出るんじゃないかと心配になることがある。でも、外出ばかりしていると、家事がおろそかになったり、時間配分が狂ったりして、イライラし、子どもにあたってしまったりするので、やっぱり外出が減ってしまう。また、自分の時間が取れないため、子どもが起きている日中にPCに向かってしまったりしてしまい、自己嫌悪。こんなこと、誰かに相談しても、結局自分が頑張るしかないなので、誰にも言えず、何となくここに書いてしまった。みんな同じなのに私うまくできない。
- ・ 小郡市は子育て支援が充実しているので、子育てがすごくしやすい。ただ、もっと子どもたちがいろんなことを学んだり、新しいスポーツに挑戦したりと楽しみながら自分の個性を出せれば。
- ・ 身近に親、きょうだいなど親類がいない。
- ・ 子どもがのんびり屋さんで、「急ぐ」ということがなかなかできない。それも個性だと理解しようとするものの、つついイライラして怒ってしまう自分も嫌だったり。2歳の娘がまだ卒乳できず。できるだけ自然に卒乳してほしいものの、おっぱいで夜中起きると寝不足にもなるので、早目に卒乳してほしいものですが。
- ・ 夫婦ともに仕事をしており、近くに家族もいないため、長期に子どもが保育所に行けない時（病気など）、預けるところがなくて困っている。
- ・ 仕事をしているため、朝とか、ものすごくバタバタしている。自分が急いでいるために、朝から子どもを怒鳴り散らしている。子どもに対して悪いなあとと思っている。
- ・ 介助や支援が、いつ、どんなことが一番適しているのか、その子のために必要な介護を自分たち親は、ちゃんとできているのか、不安に思うことがある。
- ・ いつもイライラ口調で話してしまう。

**お子様や保護者に皆様に対する行政サービスについて、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・ 乳児医療が3歳までなので、小学校入学まで伸ばしてもらいたい。のびのび教室はよいと思う。
- ・ 医療面について、乳幼児医療の年齢の幅を広げてほしい。または、歯科だけでも。定期的に通うので、歯科だけでもありがたい。
- ・ 医療費が周りの地域では小学校入学前まで無料であるが、小郡市は無料にできないものか。
- ・ 医療費の助成が小学校入学までで、4月まで住んでいたところは、高学年までだったので、大変残念に思った。3歳から600円の負担があるのも正直びっくりした。小学校3、4年くらいまで引き上げてほしい。公共のトイレに幼児用の補助便座を備え付けてほしい。トイレトレーニングの時期にもいろいろと連れて行ってあげたい。
- ・ 私はまだ周りの人たちに恵まれているのでよい方なのだろうが、本当に人の手を必要としているママたちは、行政サービスの場に「出かける」こと自体が難しい人たちが多くいると思う。ママたちが自分で1歩外へ踏み出すことができればよいのだが、踏み出せないママたちの背中を押してあげられる、または手を差し伸べられるサービスがあればいいなあと思う。車がないので徒歩で行けるところにしか出かけられない人、元気すぎる子ども2人を連れて外出すると、十分に目が行き届かない人、友だちはほしいけど人付き合いが苦手なので足が外に向かない人など、私の周りにもいる。どうにか外へ連れ出してあげたい。
- ・ 市役所の場所が不便。駐車場が停めにくい。手続きの待ち時間、子どもが少し遊べる絵本やおもちゃがあれば。キッズルームがあるとすごく助かる。
- ・ 小郡市の子育て支援サービスは充実していると思う。公園の大きさ、遊具、清潔さ、トイレなどをもっと整備してほしい。
- ・ ●歳児健診が集団健診で、健診の結果の記載が少ないと思う。他の市に住んでいた時は戸別に病院で受け、一つひとつ細かく診てもらえたので、少し物足りない気がする。金銭的な面が高い気がする（受診料や保育料）。
- ・ あまり利用しておらず、どんなサービスがあるのかも分からない。
- ・ よくされていると思う。医療費が無料（3才以上も）になれば、なお助かる。
- ・ 行政のサービス内容が分かりにくいところがあったり、いろいろな手続きが煩雑であるところ。一人ひとりに合わせた、いろいろな手続きのスケジュールが分かりやすくなるとうれしいのですが。
- ・ 言葉（書類等）が難しい。

**利用されている保育所(園)や幼稚園、子育て支援センター・つどいの広場等について、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・ 子どもたちに密にかかわってもらって、助かっている。
- ・ 保育所で親身に子育ての悩み等を聞いてもらえて助かっている。保育料を安くしてもらえるとうれしい。または、区分をもっと細かく設定してもいいと思う。「あすてらす」のキッズルームは時々利用しているが、よいと思うが、入りづらいという声をよく耳にするので、入りやすくなるとうれしい。

- ・ 未収園児でも、季節行事など、子育て支援センターなど活用することによって、体験することができ、大変感謝している。毎日通うところがあって、親子ともども、日々充実している。子育て支援、つどいの広場などなかったら、子育てに悩んでばかりいたと思う。
- ・ 未就園の時に連れて行く場所が常にあり、助かっている。
- ・ 利用しているのは、子育て支援センター、つどいの広場だ。ひまわり館東野みたいな（いつでも時間を気にせず遊べる場所）施設が、小郡市内にあと1~2か所あったらいいと思う。
- ・ スタッフの皆さんが気さくに話しかけてくれるので、行きやすい。無理にママ友を作らなくても、スタッフの人とは話ができるし、気負いなく出かけられる。「広場に行ったけど、誰ともしゃべれなかった」なんてことは今まで一度もない。広場が受け入れてくれる雰囲気ってとても大事だと思うので、これからも続けてほしい。
- ・ 子育て支援センター、つどいの広場を利用している。たくさん子どもたちと一緒に遊べるので、子どももいろんな刺激を受けて楽しく参加させてもらっている。すごく助かっている。リフレッシュ講座も楽しくて、いろんな人と会う機会があって、子育てのちょっとした息抜きになっている。
- ・ 閉館時間をもう少し延長してほしい。
- ・ 子どもたちによりそい、一人ひとりのペースで指導してもらっているので、ありがたいと思っている。親が参加する行事や勉強会も多く、負担を感じることもある（仕事を休みづらい時がある）。各保育所のなかに病児保育ができる施設があると助かる。病気で心細くなっている子どもを、その時だけ違う施設へは預けづらいし、仕事も長期になるとなかなか休みづらい。
- ・ 保育所は大変よいのだが、親の参加する行事が多い（保護者会、学習会、卒園式など）。
- ・ 保育所は、とてもよくしてもらっている。床暖房なので、床が暖かいらしいのだが、窓を開けるのため寒い（らしい）。夏もクーラーを入れる時期が遅く、切るのが早いので汗だくだ。親子クッキングに行っているが、子どもはとても楽しそうだ。とてもありがたい。
- ・ 以前よりいくつかの事業所を利用しているが、一長一短それぞれあり、利用する側が、その時々で、うまく活用できるといいのだが。今現在利用しているところは、放課後デイサービス事業所は、利用者本人もよく慣れていて、また、私たちもとても利便性がよく、大変ありがたいよいところだ。

**お子様や保護者の皆様を取り巻く地域の様子について、どのように感じていますか。また、地域の皆さんに求めたいことや期待したいことはどのようなことですか**

- ・ 地域の人とのかかわりは少ないので、行事等に参加しやすいようにしてもらいたい。地元の人に声をかけてもらえると行きやすいが、近所の人とどのように知り合っていけばいいのかわからない。
- ・ 子どもと高齢の人たちとの交流の場がほしい。直接話すことはなくても、同じ空間で過ごす、など。
- ・ 4月に他県から引っ越してきたが、こちらに来て、交通ルールに対してあまり守られていないような感じがする。赤信号でも平気で渡ったり、右折車が渡れなかったり。危なかった。

たことも何度がある。自転車も後ろを確認せずに横断歩道以外で、さっと横断したりと、冷や冷やすることが多い。

- ・ 正直、地域の様子はよく分からない。会えばみなさんあいさつしてくれる程度なので、子どもが園に通うようになれば、また変わってくると思うのだが。
- ・ 子どもたちが遊べる広場がもっとあれば。自然いっぱい公園、スケートパーク、ボルダリング施設など。雨の日でも体を動かして遊べる施設。自然とふれあい、のびのびスポーツできる公園。新しいスポーツも取り入れてほしい。
- ・ 地元以外から来た人にとっては、地域や行事などへはなかなか入りづらい。
- ・ 近所の人たちにはいつも子どもたちに笑顔で声をかけてもらって、とてもありがたいし、心強い存在。「いつも困った時は言いなさい」と言ってくれるので、本当に頼りにしている。自転車で見回りしてもらって、ありがたい。近くに親戚がいないので、地域の人たちともっと交流をしたり、お互いに近況を知って助け合っていきたい。
- ・ 家の周りが高齢者ばかりで、同じ世代がいないため、ママ友ができない（しょうがないかもしれないが）。西鉄の線路があり、踏切も近くにあるため、子どもの安全が心配だ。
- ・ 地域の人も協力的で、とても温かく見守ってもらっている。

#### **小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書きください**

- ・ 小郡運動公園のトイレがもう少しきれいになるとうれしいし、利用したくなる。外灯がもっと設置されると、子どもも安心できる（中学生の自転車等が見えづらい）。また、道路（歩道）が広がるとよい。
- ・ コミュニティバスを子どもと利用しようと思うが、午前中の早い時間にしかなく、結局、利用する機会が少ない。子どもも乗りたいので、午前中の早い時間と少し遅めの時間であったら助かる。
- ・ 子どもの一時的保育について。もっと預かる場所を増やして、値段を下げてほしい。仕事探しに行きたい時など、利用したいと思っていたが、小郡南部に2か所、シルバーママサービスのみのみで、しかもシルバーママは1時間未満が1,000円という高額。お金がないから、働きたいのに、これでは仕事も探せない。筑紫野市などを見習ってほしい、夕食付半日2,000円。
- ・ 未来につながるまちづくりを。小郡の子どもたちが自分の個性ややりたいことができるまちをつくっていったらいいと思う。「あすてらす」に遊具を、キッズルームに空気清浄機。
- ・ 保育園や一時保育をもっと手軽に利用できるような制度、補助を充実してほしい。リフレッシュ講座はとてもよく利用している。

## 9. 障害福祉分野：本人

---

### あなた自身やご家族の皆様が、困ったり、悩んだりしていることは、どのようなことですか

- ・今は元気に仕事をさせてもらっているが、だんだん年を重ねてきて、それもできなくなったらと思うことがある。
- ・本人がウォーキングをしている時、人、車などを立ち止まってジッと見る癖があるので、変な人に思われていないか心配だ。
- ・障害を受け止めて、家族3人で協力しながら生きていっている。
- ・介護が必要になった時、本人ひとりになった時の生活。施設の受け入れ先等の将来の生活について。
- ・ひとりで住んでいるので、時々変な訪問者が見える。家を見てあげますとか、土地は誰のものですかとか言われる。いやな気持ちになる。変な電話がかかったりするが、断るようにと言われているので断っている（相談は社協にしている）。
- ・親が死んでしまった後のことが、今はただ何も考えられないことだ。
- ・私（本人）が悩んでいること、困っていること：人と会ったり話したりするのが一大事となる。私の場合、夕方から夜にかけて、うつ状態になる。きつくなる。疲れやすいので、人と会うのも、働くのも、短時間で、さらに夕方にかからないようにしなければならない。家族が悩んでいること、困っていること：自分の時間が奪われてしまい、仕事に影響する世話が大変。気を遣って、機嫌をうかがってしまう。私の具合が悪いと影響される。思うように動けない。
- ・耳が聞こえないので、電話や緊急時の連絡ができない。呼ばれても分からない（今は、メールで対応している）。病院の時の先生の話や、インフルエンザなどの予防の時、話が伝わらない。話されていても「言葉」が分からない。精神の病気で、なかなか自分のことが理解されていない。フォンウィルブランド病で、なかなか止血しない時困る。
- ・卒業後に「自分の合う場所」が見つかり、毎日行けるだろうか。病院など（薬をもらう、飲ませるも含め。口腔ケアなど）へ、常に誰かが連れて行ってきて、体を守る手助けをしてもらえるだろうか。自分の自由な時間が楽しく過ごせるように（危なくないように）、ずっと誰か見守ってくれるだろうか。親が年を取った時に、自分のことを分かってくれる人がいるだろうか。
- ・近所の人枯葉等を燃やしたりするので、干した洗濯物が煙臭くなって、また洗濯し直していることを、燃やしている人に言えないこと。
- ・兄が42歳の時、脳梗塞で倒れて、右半身が麻痺し、言語障害を起こし、兄とのコミュニケーションが取れない。私は人工透析をしている（私の家族は、90歳になる母に障害があるので、いつ皆がどうなるか分からない）。
- ・外出ができない。友人がいない。
- ・私が妄想で独り言をいってケケッと笑ったり、怒ったり、大きな音や声を立てたりすることで、親が困っている。私自身で言えば、妄想ごとで浮かれたり、落ち込んだり、その悩

みに一喜一憂したり、右往左往していること。

- ・ 時間にはしつこい。～はうざい。
- ・ 粗大ごみをひとりで出すのが困る。
- ・ バスの回数を増やしてほしい。JR も割引してほしい。
- ・ バスの本数が少ない。仕事がない。
- ・ 家族の理解がない。
- ・ 救命救急病院、そういう病院が必要だと思う。

**あなた自身やご家族の皆様に対する行政サービスについて、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・ 行政からのサービスを特に実感していない。
- ・ 行政のサービスは行き届いていない。型どおりのこと、実態を把握していないように思う。
- ・ 将来、ひとりで過ごすことになった時に、手助けしてもらえるといいと思う。ただそれだけだ。
- ・ 小郡に、たとえば、就労支援事業を増やしたり、職種を増やしたりして、活発化してほしい。
- ・ 電話してくれる人がつかまらない（家族にずっと頼るのはイヤ）、電話をしてくれる人がいほしい。聴こえないことを分かってもらえない。字幕（映画とか分からない）がなかなかつかないので、行政でどうにかしてほしい。口頭ですべて説明されても分からない、筆談してほしい。
- ・ いろいろなサービスを使うことができ、たくさんの人とふれあうことができているので、ほぼ楽しく過ごせている。市町村によって、使えるサービス量が違うので（できれば手厚い人に）、合わせていくと、引っ越しても楽に暮らせると思う。
- ・ 行政サービスについては満足している。
- ・ 背中を押してくれる人がほしい（家族以外で）。
- ・ 作業所でいえば、生活する上で生きる目的ができ、張り合いがあるので、そういう場があることは、とても助かっている。
- ・ バスの本数を増やしてほしい。
- ・ ヘルパーと一緒に外出をして、とても楽しみです。
- ・ コミュニティバスの発着を増やしてほしい。バスは回数券を販売してほしい。

**あなた自身が利用されている福祉サービス事業所について、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・ 音楽を聴きながらの作業は楽しい。みんなとも仲良くできている。建物が古いので、トイレなど不便なところもある。
- ・ 仕事とレクリエーションに気を遣ってもらい、本人も喜んでいるので家族としてもうれしく思っている。
- ・ 手話通訳をつけてほしい。
- ・ 送りはしてもらっているが、迎えもしてもらえると助かる。

- ・ 仕事の面で、収入が少ない。もっと仕事を見つけて自立できるようにしてほしい。1か月2,000～3,000円では、成人の1日分の収入しかない。市民税とか、払うことができない。
- ・ 非常によくしてもらっている。
- ・ 何かあったら、社協や警察へ電話して下さいと言われてもらっているので安心している。
- ・ 楽しく通わせてもらっている。今の調子でいい。
- ・ 安心して通い、作業に取り組むことができる。指導員の人たち、所長など、やさしい人が多くて助かっている。作業の内容にとって、きつくなることがあって、その時はどうすればよいか困っている。
- ・ 電話してくれる人を探すのが大変（必ずしてくれる人がいてほしい）。聴こえないことを伝えているので、それに応じてほしい。
- ・ 落ち着けるように、音の出るおもちゃなど用意してもらっているので、くつろげる。でも、調子がよくない時の利用では（家以外の場所で）、困っても分かってもらえないことや、スタッフが他のことで忙しい時もあるので、もっと分かってくれるスタッフが多いといいなと思う。自宅から近いところに対応が丁寧な施設（スタッフ）が多いと助かる。障害のある人という括りだけで捉えるのではなく、ひとりの個性のある人間として受け入れてもらいたい。まだまだ施設が利用者を選ぶ現実がある。利用者がいろんな選択ができるくらいのサービス提供を期待する。取扱注意的な接し方ではなく、こういう支援があればうまくやれるという情報を共有してもらいたい。
- ・ 福祉タクシーを利用しているが、時々利用できないことがあります。いつでも障害のある人が福祉タクシーを利用したい。
- ・ 改善すべきだと思えるところは、作業所がもう少し広く、使い勝手のよいところになればよいと思う。
- ・ 社協のヘルパーを使っている。
- ・ いい。
- ・ ●●で箱の作業をやっている。
- ・ 福祉サービス事業所はいいと思う。
- ・ 改善すべき点はない。

**あなた自身やご家族の皆様を取り巻く地域の様子について、どのように感じていますか。また、地域の皆さんに求めたいことや期待したいことはどのようなことですか**

- ・ 車いすで移動する時、段差がある場所で、声かけしたら誰でも気軽に手助けしてほしい。
- ・ 隣近所の人や知人は、いつもやさしい声かけをしてくれてうれしく思っている。
- ・ 困った時に助けてほしい。
- ・ 近所の人には声をかけてもらっている。
- ・ 隣の人にも気をつけて、見守りをしてもらっている。ふれあいネットワークも楽しみにしている。
- ・ 電話してほしい。家族（家）には居づらいので、障害者向けのアパートを作って、見守ってほしい。

- ・ タイムケアサービスや、長期休暇スクールなど、地域のボランティアがとてもよくかかわってくれて、その人たちが地域に実際に住んでいるのは強みだと思う。生活全般で、見かけた時に声をかけてもらえるから。卒業後も、親しみをもって接してほしいし、そういう空間（居場所）があると心強い。
- ・ 障害のある人の気持ちを分かってほしい。
- ・ 助け合って、とてもよい。
- ・ 普通に暮らしたい。
- ・ 過ごしやすい。
- ・ 地域に期待することはない。
- ・ 求めたいことはない。
- ・ みんな笑顔であいさつ。

### **小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書きください**

- ・ 講演会すべてに手話通訳をつけてほしい。
- ・ 地域に関わる仕事をもっとあるとよい（前は、「あすてらす」の掃除などの仕事があったのだが）。
- ・ 本人自身が自立できるよう。親が高齢になったら、負担が大きすぎる。
- ・ 電話してくれて、筆談してくれる人を必ず各所に2名ぐらいずつ配置してほしい（メール、ファックスは待ちが長い）。
- ・ 「障害のある人に何かをしてやる」という視点でなく、当事者が何を必要としているかに、きちんと耳を傾け、当事者の置かれている状況や気持ちに想いを巡らせることのできる、そんな福祉計画になってほしい。支援の側からいうと、長時間同じ人と向き合うと、やはり疲れるので、たくさんの人で見守り育てる（健常者も同じだが）ことの大切さを思う。周りが疲れると、どうしても本人の問題点が先走るので、周りも良い状態で、本人の良いところを活かせる施策があれば、皆豊かに暮らせると思う（レベルアップのために自助努力も大切だが）。どんな人でも認められる、皆の感性教育と、環境などの工夫が大切と思う。そうすることで、まち全体が明るくなるのではないだろうか。
- ・ 小郡市運動公園のトイレに洋式トイレが1つ2つぐらい設置してあると助かる（車いすの人や妊婦の人のために）。今までタクシーを呼ぶ時は、ファックスで依頼できていたが、いろんな場所から呼ぶ時、メールでやり取りできたら便利だと思う。
- ・ 障害のある人が自由に過ごせる温泉や食事、図書館、プール、少し寝られる部屋・・・そんなドリーミーな施設ができたらうれしい。カラオケなどあってもいい。そうして、友だちがどんどん増えたらうれしい。
- ・ 楽しいこう。

## 10. 障害福祉分野：家族介護者

---

### ご家族の介護や支援にあたって、困ったり、悩んだりしていることは、どのようなことですか

- ・ 夜中に起きて吸引したり、オムツを代えたりなどをすることが大変である。
- ・ どこに、どのような相談を持っていけばよいのかの見当がつかない（専門家の眼でなく、一般人であれば、この程度が普通の人なのだ）。
- ・ 親亡き後のことがどうなるかを心配している。
- ・ 緊急を要する時に、通訳できる者がそばにいない時。市内の各イベントに手話通訳が配置されていないこと。
- ・ 障害のある子どもを持つ親、保護者等は、何といても、子を残し死亡した場合、当該障害のある子どもの行く末、安定した生活が送れるかが最大の懸念で心配事である。ばくとしたものであるが、障害のある人が安心して暮らせるよう、障害者施策の充実を切望する。
- ・ 現在困ったことがない。
- ・ 我が家では、自律（自立）をめざしてがんばっているが、サポネットに行かせてもらった時など、いつも暖かく声をかけてもらい、安心して相談できる場所があるということは、とてもありがたいことだ。
- ・ 親が入院等の時、施設に短期入所を利用しているが、本人は長期になるとストレスがたまったり、病気が出たりする。
- ・ 障害を持った子どもとのかわり。年齢とともに、自我や要求が増え、言葉が出ないのでどかしいからか、四六時中、そばにいてかわわってなければ、大きな声を発している（近所の人は虐待じゃないかのかと思っているのでは？と心配だ）。ずっと子どもに時間を取られてしまい、家のこと、自分のことが、学校に行っている時間以外は、何もできないでいる。けいれんが進行していて、車いすには、1時間程度しか座れない。活動が制限されてしまっている。卒業後、生活介護支援の施設に通所させたが、施設がない。どうしたらいいのか？入浴介助、家族の皆が忙しすぎて、家での入浴が大変だ。

### 介護や支援を必要とする方やご家族の皆様に対する行政サービスについて、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか

- ・ 書類（手続き上の）が多く、何度も何度も署名が必要（支援が必要な人たちなのに）。
- ・ 手帳を持っていたならば、支援をしてほしい（障害程度1級でないと対象にならない）。
- ・ 障害者総合支援法で、市町村は「障害福祉計画」のなかに地域生活支援に関わる施策を盛り込み、実施することになっている。市町村が実施する地域生活支援事業で、相談支援事業の充実、強化と、地域活動支援センター機能強化事業で、委託費の増額を望む。
- ・ 精神障害のある人の集まる場所については、若い年代（20代）の人が気軽に通えるような場所がなく、困っている。「あすてらす」には時々行くが、同年齢の人が少ないようだ。だったら、図書館や生涯学習センター、と思うが、残念ながらそのような学習力ややる気が伴わないのがこの病気なので困っている。よって行く場所がなく、家にこもり、落ち込む結果となる。

- ・ 将来、親亡き後、ひとりで生活していくことになり、生活をしていく場所、支援を子どもにどう話していいものか？
- ・ 短期入所の日にちを伸ばしてもらっているので、年単位での話し合いではなく、固定してほしい。
- ・ できる限りの対応をしてもらっていると思う。来年 18 歳を迎え、制度等が変わってくるので、そちらでの対応も、これまでのようをお願いしたい。福祉についての情報をネットワークを通して、知らせてほしい。

**介護や支援を必要とする方が利用されている福祉サービス事業所について、どのように感じていますか。また、改善すべきところはどのような点ですか**

- ・ 事業所を支援するボランティアの力が求められている。自分たちで事業所を盛り立てようとするエネルギーが不足している（たとえば、家族会）。家族会や NPO への支援（組織化等）、広報が必要。
- ・ 相談支援事業が必要であり、これに取り組むべきだが、プライバシーを守るための相談室（スペース）も確保されていない。地域活動支援センターのなかに専門職が雇用できるような体制がほしい。
- ・ 今作業所へ週 2~3 回出て、楽しく過ごしている。大いに感謝している。改善すべきことは別がない。
- ・ いつも暖かく受け入れてもらい、とても感謝している。
- ・ 施設によって、サービスの温度差があると実感している。人材育成、サービスの質の向上。

**介護や支援を必要とする方やご家族の皆様を取り巻く地域の様子について、どのように感じていますか。また、地域の皆さんに求めたいことや期待したいことはどのようなことですか**

- ・ 地域の皆さんに求めても介護とか期待しません。今までにそのようなことがなかったから。
- ・ 民生委員（専門知識のある）の活動を本来の姿に。諸々の手続きが多い。社協で援助できるような制度をつかってほしい（成年後見制度は、費用が高額な上、不正の報道が多い。信用できない）。
- ・ 地域の皆さんには、いろいろお世話になると思うので、期待どうこうではなく、障害のある子どもがいるということを知ってもらえればいいと思う。
- ・ 今健常な時に、地域福祉について、いろいろ学んでもらい、理解し、助け合ってもらいたい。健常者でも、いつ車いすに乗ったり、聴こえなくなったりするかもしれないので。
- ・ 「ノーマライゼーション」や障害者との「共生」の思想の喚起、啓発を、学校教育、社会教育のなかに取り入れてもらいたい。障害のある人など、弱者への温かい心の対応を期待したい。
- ・ 小中、地域の学校に在籍していたので、子どものことを知る人たちがたくさん近所にいる。ありがたいことだ。災害時に、あそこのお宅に障害のある子がいるという情報を、きちんと把握して、対応してもらおうことを望む。地域の方は、子どものことは知っているが、毎日施設に行っているのだから、地域の人と会うこともなく、かかわりがない。

### 小郡市地域福祉計画に対するご要望がございましたら、ご自由にお書きください

- ・ 買い物難民が出ない対策（車の運転ができない人でも困らない地域福祉計画が先決）。
- ・ 精神障害のある人に対するグループホーム等の計画を早急をお願いしたい。
- ・ 財源のアップ。
- ・ 障害があることで、孤立しないでよい小郡市になってもらいたい。誰もが理解し合い、助け合える福祉サービス事業を求める。
- ・ 関係者のみならず、一般住民の人たちに大いなる関心、理解を得られるような計画書にしてもらいたいと思う。専門福祉用語等は誰にも分かるよう、解説をしてほしい。中学 2 年生にも理解できるような「計画」が望ましい。
- ・ 住み慣れたところで安心して暮らせる地域社会は理想ですが、結局自宅で過ごすには、多くの支援を必要とするが、なかなか時間数や、支援してくれる人たちが人材不足で、結局家族の負担大だ。子どもは大きくなり、親は老いて、特に肢体不自由児（者）は、学校を卒業した後の受け皿が少なく、というよりほとんどなく、卒業後の進路がとても不安でたまらない。支援、今以上によろしくお願いしたい。